

平成30年度 行政評価結果

平成30年度 事業評価シート 目次

第1章 定住の促進

第1節	「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり	P 1～
第2節	社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実	P 33～
第3節	一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援	P 63～
第4節	健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進	P 85～
第5節	外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備	P 109～
第6節	環境に配慮した快適なライフスタイルの確立	P 123～

第2章 にぎわいの促進

第1節	活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出	P 137～
第2節	新旧の魅力が融合する観光の振興	P 167～

第3章 安全・安心の促進

第1節	住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり	P 185～
第2節	災害に備える仕組みづくり	P 203～

第4章 支えあい・協働の促進

第1節	みんなで取り組む連携・協働のまちづくり	P 225～
第2節	多様性を認め合う人権尊重のまちづくり	P 241～

第5章 都市経営の促進

第1節	都市経営の促進	P 251～
-----	---------	--------

第1章 定住の促進

第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり

- 01 結婚・出産の希望をかなえる環境づくり
- 02 子どもたちの健やかな発育の支援
- 03 きめ細やかな子育てサポート体制の充実
- 04 地域で安心して子育てができる仕組みづくり
- 05 子育てと仕事の両立支援体制の充実

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	O1 結婚・出産の希望をかなえる環境づくり											
成果指標 (KPI)	0101	観光カップリングツアーの年間参加者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	30		中間年度の目標値(R2)	87		最終年度の目標値(R7)	120		総合戦略の目標値(R1)	80	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	68	63	31	29							達成状況	
達成率		0.0%	0.0%	0.0%								
備考												
担当課	いずみアピール課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 観光カップリングバスツアー事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	結婚を希望するものの、異性と出会う機会の少ない若者を対象としたカップリングバスツアー及び街歩きツアーを実施し、市内観光スポット等を巡ることで市の魅力を広くアピールする。				(事後評価) 【D】事業実績	第8回目(開催日:平成30年12月23日(日・祝)) テーマ:「クリスマス婚活 手料理とシッティングバレーボールで愛が芽生える」 概要:道の駅「いずみ山愛の里」併設の「和泉市南部リージョンセンター」で、料理体験とシッティングバレーボール体験を開催 参加人数:男14名、女15名 計29名 カップル成立数: 8組				
(事前評価) 【P】事業の内容	市内外の若年層を対象に、市内観光スポットを巡るバスツアー等を実施する。 (対象者)25歳～39歳の男女				(事後評価) 【D】事業実績	①ツアーの企画内容の充実 これまでの参加者の声などから好評であった料理体験とシッティングバレーボール体験を企画内容に組み込んだ。また参加者のアクセスの利便性を考え、和泉かつらぎ観光路線バスが和泉中央駅～道の駅「いずみ山愛の里」を運行している土曜日を選定。 ②周知・PRの充実 ・広報誌、案内チラシ、市内5箇所モニター配信、市HP、市観光HP、その他FB等のSNSを活用しPRを行った。また当日、司会進行を務める市観光大使トモチンにもFB・口コミ等の周知PRをしてもらった。				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①ツアーの企画内容の充実 参加者の関心を高められる企画 ②周知・PRの充実 ホームページ・SNSを通して関心の高いと思われる層に届く情報発信に努める				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	バスツアーの実施回数			回	3	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	180,000				委託料	180,000			
	計			180,000		計			180,000	
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は実施回数は1回となっているが、29名を集客することができた。、前年度の1回あたりの参加者数を上回った。 ・これまで好評であった料理体験やシッティングバレーボール体験を企画に取り入れたことから、1回あたりの集客数向上につながったと考えられる。 ・開催回数については、委託業者のスケジュール調整等が難しく、目標としていた3回に至らず、前年度より参加者数が減少する結果となった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアーの企画内容の充実により、1回あたりの参加者数、カップル成立数ともに前年度を上回ったが、参加者数は減少する結果となった。 ・前年度の課題であった参加者の交通手段の確保については、「和泉かつらぎ観光路線バス」を活用することで対応を図った。 ・参加者アンケートより、和泉市に住んでいても道の駅に来たことがなかった、和泉市内で遊ぶ良い機会となったなどの声があった。 ・2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、シッティングバレーボールを通じた市PRを行っているが、競技体験により、シッティングバレーを身近に感じる事ができた、体験講師が和泉市出身の日本代表候補選手であったことから、さらに和泉市を応援したくなったとの声があった。 ・KPIは前年度と対比し減少しているものの開催回数の減少に起因するものであり、企画内容自体は前年度より魅力的なものとなっており、1回の開催にかかる参加申込者数は増加しており、事後アンケートの結果からも和泉市がシティプロモーションの一環として啓発の取組をすすめているシッティングバレーボールへの関心・認知度向上にも繋がったと考えられる。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、引き続き好評であったシッティングバレーボール体験を組み入れながら、和泉市内観光施設等の認知度向上、来訪促進を目的に事業を展開する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	O1 結婚・出産の希望をかなえる環境づくり											
成果指標 (KPI)	0102	転入を促進するための取組み数							指標の単位	-	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	3		最終年度の目標値(R7)	6		総合戦略の目標値(R1)	3
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	0	1	1	1								達成状況
達成率		16.7%	16.7%	16.7%								
備考												
担当課	政策企画室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 結婚新生活支援事業							地方創生関連交付金事業該当	○	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	経済的理由から結婚に不安を抱えている方を対象に、結婚に伴う新生活を経済的に支援することを目的として、住居費等の一部に対して補助を行うことにより、結婚に伴う経済的不安を解消し、結婚の希望をかなえるとともに、少子化対策の強化を図る。							(事後評価) 【D】事業実績	・公共施設や市広報、市ホームページだけでなく、住替えに関わる事業者を中心に制度周知を図り、30件(年度途中で補助対象件数を15件追加)の交付目標に対して、31件の実績となり、目標を達成できた。	
(事前評価) 【P】事業の内容	・新規に婚姻した世帯(世帯所得が340万円未満の世帯に限る)で、かつ婚姻日時点において夫婦の年齢が共に34歳以下であり、いずれかの親世帯が和泉市に住民登録を行っている方を対象に、1世帯あたり30万円を上限として新規の住宅取得又は賃借にかかる経費に対して補助を行う。 ・なお、本事業は、府の補助制度を活用しており、事業費の2分の1が府費で措置される。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	・制度周知を図るため、結婚や住替えに関わる事業者を中心として広報活動(公共施設や市広報、市ホームページへの掲載、結婚式場案内所や不動産事業者等各種企業の窓口へのパンフレット配架等)を実施する。							(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・制度周知を図るため、住替えに関わる事業者を中心として広報活動を実施した。 ・具体的には、市民室や出張所、市広報、市ホームページ、公共施設や不動産事業者等各種企業の窓口へのパンフレット配架、いずみメール等SNSでの配信を活用して実施した。	
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	交付件数			件	30	H28	H29	H30	R1	R2
						8	15	31		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	負担金補助金及び交付金	9,000,000				負担金補助金及び交付金	8,552,000			
	計		9,000,000			計		8,552,000		
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	<p>・結婚新生活支援事業については、支給世帯数が平成29年度と比較して増加し、目標も達成しており、効果的に事業が実施できたと考えられる。(支給世帯数/平成29年度:15件中15件、平成30年度:30件中31件)また、支給世帯のうち、他市からの転入者が平成29年度と比較して増加しており、定住促進につながっている。(転入者数/平成29年度:12人、平成30年度:18人)</p> <p>・一方、成果指標の「転入を促進するための取組み数」については、新たな施策展開ができておらず、取組み数を増やすことができなかった。</p>
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的ではなかった	<p>・結婚新生活支援事業については、支給世帯へのアンケートの結果(回収率74.2%)、全員から「経済的支援につながった」との回答を得、経済的支援策としては、有効であったと考えられる。</p> <p>・成果指標を向上するためには、新たに転入促進に繋がる施策を展開する必要があるが、移住・定住対象者の行政支援に係るニーズを把握できていない状況である。</p>
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>・結婚新生活支援事業については、定住促進に繋がる事業として継続していくが、新婚世帯に関わらず、新たに転入促進に繋がる施策を展開するため、他部署との連携強化・情報共有を行いながら、適切なニーズの把握に努め、事業を実施していく。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり												
重点施策	O1 結婚・出産の希望をかなえる環境づくり												
成果指標 (KPI)	0103	妊婦健康診査の利用率							指標の単位	%	総合戦略該当	○	
	現状値(H26)	88.0			中間年度の目標値(H32)	90.3		最終年度の目標値(H37)	92.0		総合戦略の目標値(H31)	90.0	
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37		
	87.3	88.5	90.1	84.8								達成状況	
達成率	25.5%		59.8%		0.0%								
備考													
担当課	健康づくり推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 妊婦健康診査費用公費負担事業							地方創生関連交付金事業該当		
								和泉躍進プラン(案)該当	○	
(事前評価) 【P】事業の目的	妊婦健康診査の公費負担を行うことで、妊婦の健康管理の充実をはかるとともに経済的負担を軽減し、健やかな妊娠・出産を迎えることができる環境づくりを進める。				(事後評価)	妊婦届出を提出した妊婦に妊婦健康診査受診券を交付した。 単胎妊娠(上限120,000円) 1,409件 多胎妊娠(上限147,500円) 17件				
(事前評価) 【P】事業の内容	妊婦届出を提出した妊婦に妊婦健康診査受診券を交付し、1妊娠期間につき、妊婦健康診査費120,000円、多胎妊娠の場合27,500円の147,500円を公費負担する。大阪府外で妊婦健康診査を受診した場合は、補助金として、要した妊婦健康診査費を還付する。				【D】事業実績	大阪府外で妊婦健康・乳児健康診査を受診した場合は、補助金として要した妊婦健康診査費を還付した。 妊婦健康診査 83人 429件 2,735,216円 乳児健康診査 54人 54件 197,887円				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①妊婦届出を早期にするように啓発する ②妊婦届出時に妊婦健康診査の必要性について説明する ③未受診妊婦について市内産科医療機関と情報共有し、受診を勧奨する				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①妊婦届出を早期にするように、保健センターのお知らせ、市ホームページによる啓発や医療機関から本人への案内ビラの配布を実施。 ②個別面接において妊婦健康診査の必要性について説明を行った。 ③未受診妊婦について市内参加医療機関と情報共有し受診勧奨した。 ④子育て・健康アプリにより、妊娠期の過ごし方等の情報提供を実施した。登録数1342件				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	11週以内の妊婦届出の割合			%	94.5	H28	H29	H30	H31	H32
						94.3	94.6	94.0		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	145,037,000				委託料	125,482,629			
	補助金	5,053,000				補助金	2,735,261			
	計		150,090,000			計		128,217,890		
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	前年度に比べ、転入妊婦の増加により母数が増加したことが、利用率の低下につながっている。また、活動指標である早期妊娠届出割合も減少していることも利用率の低下の要因であると考えられる。 昨年度は早産児割合が増加した(6.2)ため、母数が減少したため利用率の向上がみられたが、今年度は5.2と例年並みとなったのも一因かもしれない。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	子育て・健康アプリを活用し、情報提供のツールは増えたが、妊婦健診受診促進の効果はえられなかった。妊娠前から早期の妊娠届出の必要性の啓発が必要。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	妊婦健康診査の必要性の啓発を継続し実施。 妊娠期からの切れ目ない支援体制の充実、産科医療機関との連携を継続。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	02 子どもたちの健やかな発育の支援											
成果指標 (KPI)	0201	乳幼児健康診査受診率(4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児健康診査)							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	93.0			中間年度の目標値(R2)	94.2		最終年度の目標値(R7)	95.0		総合戦略の目標値(R1)	94.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	93.7	93.6	94.0	94.6								達成状況
達成率	0.0%		23.1%	69.2%								
備考												
担当課	健康づくり推進室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 乳幼児健康診査事業							地方創生関連交付金事業該当		
								和泉躍進プラン(案)該当		
(事前評価)	【P】事業の目的 妊産婦や乳幼児を対象に、健康診査や育児に関する指導等を実施し、健康の保持及び増進を図る。				(事後評価)	【4か月児健康診査】36回 対象者数 1,276人 受診者数 1,219人 受診率95.5%				
(事前評価)	【P】事業の内容 年齢に応じて、以下のとおり健康診査等を実施する。 【4か月児健康診査】 問診、計測、小児科医による診察 【1歳6か月児健康診査】 問診、計測、歯科医・小児科医による診察、相談、必要に応じて栄養、歯科、発達育児相談 【3歳6か月児健康診査】 問診、計測、歯科医・小児科医による診察、尿検査、相談、必要に応じて栄養、歯科、発達育児相談					【1歳6か月児健康診査】48回 対象者数 1,379人 受診者数 1,332人 受診率96.6%				
(事前評価)	【P】事業の内容 乳幼児健康診査受診につなげるため、以下の取り組みを実施する。 ①乳幼児健康診査の案内を個別に通知する。 ②両親教室を実施する。 ③妊娠届出時に、保健師等の専門職が全数面接し、妊娠期から子育て期の相談機関としての保健(福祉)センターの役割を周知する。 ④乳児家庭全戸訪問事業を実施し、出産後の不安などに対応する。 ⑤母子保健事業に携わる出務者を対象に、乳幼児健康診査従事者研修を開催する。 ⑥子育て支援アプリ登録者に対し、対象健康診査時期に受診を促す通知を行う。				(事後評価)	【D】事業実績 【3歳6か月児健康診査】48回 対象者数 1,553人 受診者数 1,424人 受診率91.7%				
(事前評価)	【P】成果指標向上のための具体的な取組 ①日程案内、必要書類を事前郵送し個別に通知した。指定日に受診しなかった場合は再度個別に通知した。 ②両親教室を実施し、保健(福祉)センターが妊娠中から身近な相談場所であることを伝えるとともに、出産後のこどもの健診や継続した相談場所であることを伝えた。25回 延265人 ③妊娠届出時に全数面接を行い、保健(福祉)センターの役割を伝えるとともに、出産後のこどもの健診や継続した相談場所であることを伝えた。実人数 1,283人 ④乳児家庭全戸訪問事業を実施し、相談対応を行った。1,220家庭、1,236人(97.5%) ⑤乳幼児健康診査の質向上のため、乳幼児健康診査従事者に研修を実施した。(1回) 内容:各事業の目的等の共有・乳幼児健康診査が円滑に実施できるよう支援方法等の意見交換 ⑥子育て支援アプリの登録者に健康診査の受診を促す通知をした。					【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績				
(事前評価)	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
【P】活動指標	両親教室の参加延人数			人	384	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
【P】予算	報償費	17,466,000				報償費	17,465,000			
	計			17,466,000		計			17,465,000	
	備考				【D】決算	備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	4か月児(H29 96.0%→H30 95.5%)健診の受診率は横ばいであったが、1歳6か月児(H29 95.1%→H 96.6%)、3歳6か月児(H29 90.9%→H30 91.7%)健診の受診率は向上した。 乳児家庭全戸訪問事業等さまざまな機会を活用し、乳幼児健康診査の必要性について啓発を継続していることが受診率向上につながっている。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	受診率に関しては、少しずつではあるが向上し、中間年度の目標値を達成できた。 妊娠届出時の全数面接において、保健(福祉)センターの役割を伝えることで、身近な相談場所であることが認知されてきていることが受診率向上につながっていると考える。 また、乳幼児健康診査従事者に研修を実施することで、乳幼児健康診査の質の向上を図ることができた。
(事後評価)	事業の方向性	
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	乳幼児健康診査の必要性の啓発を継続するとともに、受診者に満足してもらえる健診を実施できるよう、内容の見直しや従事者研修等を継続し、質の向上を図る。 啓発にあたっては子育て支援アプリの通知機能も活用できるよう、妊娠届出や乳児家庭全戸訪問事業等の機会を活用し、アプリの登録を促していくとともに、両親教室の参加者増加を目指し、実施方法を見直していく。 また、未受診者については、状況に応じ、健診以外の方法(訪問や経過観察健診等)を実施し、健診にて把握すべき内容(児の発育状況や発達状況、保護者の心配事・不安等)を確認、相談対応ができる機会を提供していく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	02 子どもたちの健やかな発育の支援											
成果指標 (KPI)	0202	日本脳炎、BCG、麻しん・風しんの接種率							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	75.6			中間年度の目標値(R2)	97.5		最終年度の目標値(R7)	99.0		総合戦略の目標値(R1)	93.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	76.2	83.7	86.3	92.1								達成状況
達成率		66.0%	100.0%	69.7%								
備考												
担当課	健康づくり推進室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 主要予防接種受診率向上事業				地方創生関連交付金事業該当					
					和泉躍進プラン(案)該当					
(事前評価) 【P】事業の目的	市民に対し広く予防接種を受ける機会を提供することにより、接種率の向上や感染症罹患の機会の減少を図り、感染症の蔓延を予防する。			(事後評価)	【BCG】 対象者1275人、接種者1219人、接種率95.61% (前年比-3.32%) 【日本脳炎】第一期 対象者4803人、接種者4596人、接種率95.69%(前年比+0.92%) 【日本脳炎】第二期 対象者1986人、接種者1541人、接種率77.59%(前年比+30.84%)					
(事前評価) 【P】事業の内容	A類感染症である日本脳炎、BCG、麻しん・風しんの接種率向上に向けた啓発を行なう。			【D】事業実績	【麻しん風しん混合(第一期)】 対象者1365人、接種者1339人、接種率98.1%(+4.87%) 【麻しん風しん混合(第二期)】 対象者1735人、接種者1624人、接種率93.60%(-0.25%)					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	各予防接種について、和泉市医師会や実施医療機関と連携し、積極的な接種勧奨を行う。 ①年度当初に全実施医療機関に手引きを配布 ②医師会の理事会で予防接種取り扱い等説明 ③保健センター及び医療機関で、各予防接種のスケジュールの管理・指導を行う。 ④接種勧奨通知を、適切なタイミングで発送する。 ⑤就学前健診で個別に接種勧奨チラシを配布する。			(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・日本脳炎【小学3年生への接種勧奨】 平成30年3月 対象者1807名に小学校で配付を行った。別に私立小学校等通学者71件は郵送 ・BCG未接種者【生後9か月から10か月の時期未接種者】 毎月月初め集計及び発送 138名に行った ・麻しん・風しん混合【第二期接種勧奨】 2月に未接種者へ582通発送を行った ・麻しん風しん混合【就学前対象者へのチラシ配布】 見込み数1713名に10月下旬各小学校で配付を行った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	接種勧奨通知(BCG)			回	12	H28	H29	H30	R1	R2
	接種勧奨通知(日本脳炎定期)			回	1	1	1	1		
	接種勧奨通知(日本脳炎特例)			回	1	1	1	1		
	接種勧奨通知(麻しん・風しん混合)			回	2	1	1	1		
就学前検診で個別接種勧奨チラシを配布(MR第2期)			回	1	1	1	1			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	BCG接種委託料	9,484,000	勧奨通知等通信運搬費	148,000		BCG接種委託料	9,109,587	勧奨通知等通信運搬費	146,128	
	日本脳炎接種委託料	69,147,000	勧奨ハガキ等消耗品費	20,000		日本脳炎接種委託料	54,257,397	勧奨ハガキ等消耗品費	15,686	
	麻しん風しん接種委託料	35,342,000				麻しん風しん接種委託料	34,152,519			
	計		計	114,141,000		計		計	97,681,317	
備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>【BCG】 BCGは予防接種法のみならず、結核予防法にも係る予防接種であり、国内でも大阪府(特に西成地区及び泉州地区)は結核の感染率が高いため、生後9か月から10か月の時期の未接種者へ個別接種勧奨を毎月実施したことが、高接種率の維持につながっている。</p> <p>【日本脳炎】 乳幼児期の予防接種が終了し、しばらく予防接種を実施しなくなり接種時期を逃しやすくなる小学3年生(第二期対象者)を対象に小学校を通じ接種勧奨チラシを行うことで、接種者の増加につながった。</p> <p>【麻しん・風しん混合】 麻しんについて、平成30年度は大阪で15人、全国で282人、風しんについては、大阪で平成29年度10人、平成30年度123人の報告が患者数の報告があったことや、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性が風しんの第5期定期接種の対象となったことから関心が高まり、接種率が増加したと考えられる。</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>平成27年度76.2、平成28年度83.7、平成29年度86.3、平成30年度92.1と成果指標は順調に増加している。</p> <p>広報やホームページの他、接種勧奨通知の発送が接種率の向上につながった。</p> <p>特に、日本脳炎の勧奨はがき送付後は、問い合わせも多く、対象者以外にも兄弟の対象者の掘り起こしになっている。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>今後の事業展開</p> <p>本市のみでなく、近隣(堺以南の10市4町)市町との感染症や啓発情報の共有を行う。</p> <p>厚生労働省や保健所を通して得られる感染症サーベイランス(発生動向調査)情報を基にした感染症情報の発信をホームページ等を通じ迅速に行う。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	02 子どもたちの健やかな発育の支援											
成果指標 (KPI)	0203	こども医療費助成の対象年齢拡大							指標の単位	-	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	(通院)小学3年生まで (入院)中学3年生まで		中間年度の目標値(R2)		(通院)高校3年生まで (入院)高校3年生まで		最終年度の目標値(R7)		(通院)高校3年生まで (入院)高校3年生まで	総合戦略の目標値(R1)	(通院)中学3年生まで (入院)中学3年生まで
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	(通院)小学6年生まで (入院)中学3年生まで	(通院)小学6年生まで (入院)中学3年生まで	(通院)中学3年生まで (入院)中学3年生まで	(通院)中学3年生まで (入院)中学3年生まで								達成状況
達成率		0.0%	0.0%	0.0%								
備考												
担当課	こども未来室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 こども医療費助成事業		地方創生関連交付金事業該当	-																
			和泉躍進プラン(案)該当	○																
(事前評価) 【P】事業の目的	子どもの健やかな成長の支援と子育て世帯の経済的負担の軽減を目的とする。		(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度の助成実績】 <table border="1"> <tr> <th></th> <th>対象者数</th> <th>件数</th> <th>助成額</th> </tr> <tr> <td>通院</td> <td>25,277人</td> <td>324,632件</td> <td>483,427,395円</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>25,277人</td> <td>4,393件</td> <td>108,048,574円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>329,025件</td> <td>591,475,969円</td> </tr> </table>		対象者数	件数	助成額	通院	25,277人	324,632件	483,427,395円	入院	25,277人	4,393件	108,048,574円	合計		329,025件	591,475,969円
	対象者数	件数			助成額															
通院	25,277人	324,632件	483,427,395円																	
入院	25,277人	4,393件	108,048,574円																	
合計		329,025件	591,475,969円																	
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉市に住所のある子どもに対し、医療費の一部助成を行う。 【一部自己負担金】 1つの医療機関について、2回目の受診まで1日500円を限度に負担し、3回目以降は無料 【対象者】 (通院)中学3年生まで(平成29年7月診療分から) (入院)中学3年生まで																			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	平成29年7月診療分から通院医療費助成の対象年齢を小学6年生から中学3年生に拡大し、こども医療証を発行する。		(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績 平成29年7月診療分から通院医療費助成の対象年齢を小学6年生から中学3年生に拡大し、こども医療証を発行した。 ・こども医療証発行数 25,068枚 (うち中学生分 5,141枚)																
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値 H28 H29 H30 R1 R2																
	こども医療証発行数		枚	25,571 20,954 25,818 25,277																
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																
	扶助費	608,845,000	郵送料	291,000																
	委託料	23,000	印刷製本費	140,000																
	医療費審査支払手数料	22,560,000	消耗品費 旅費	68,000																
	計		計	631,927,000																
	備考		備考																	
			【D】決算	内訳 金額(円) 内訳 金額(円) 扶助費 591,475,969 郵送料 254,582 委託料 18,371 印刷製本費 131,680 医療費審査支払手数料 21,918,497 消耗品費 旅費 64,828 計 613,863,927																

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	平成29年7月から通院医療費助成対象を小学6年生から中学3年生に拡充し、引き続き平成30年度も医療費助成を行うことができた。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生まで医療費助成を行い保護者の経済的負担軽減を図ることで、子どもが経済的理由により必要な医療を受けることができないことがないよう支援できた。 ・さらなる支援の充実のため、KPIの中間年度の目標値(H32)達成に向けて、課題への対応策等制度設計(案)作成を進める必要がある。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	入通院医療費の助成対象の拡充(高校3年生まで)に向けて、対象者の把握や拡充した場合の医療費の試算、府内で高校3年生まで助成を行っている自治体の取り組みなどを精査していく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進														
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり														
重点施策	02 子どもたちの健やかな発育の支援														
成果指標 (KPI)	0204	子育て支援総合案内窓口の設置								指標の単位	箇所	総合戦略該当	○		
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)			1		最終年度の目標値(R7)		1		総合戦略の目標値(R1)	1
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
	-	1	1	1									達成状況		
	達成率	100.0%		100.0%	100.0%										
備考															
担当課	こども未来室														

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 子育て支援総合案内窓口事業					地方創生関連交付金事業該当	-		
						和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	保護者等のニーズにあわせ、多様な教育・保育施設、地域の子育て支援、保育サービス事業等を適切に結びつけ、必要な支援を行うことを目的とする。				(事後評価) 【D】事業実績	○相談件数 241件 (内訳) ・子育て支援相談等 206件 ・保健センターへの案内 1件 ・ふたば幼児教室への案内 4件 ・はつが野支援センターへの案内 1件 ・その他(医療機関等) 10件			
(事前評価) 【P】事業の内容	子育て世代の保護者等に、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行う。								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①子育てに関する様ざま不安や悩みに対する助言を行う。 ②地域や子育て支援に関する情報提供を行う。 ③親子の心身の状況や養育環境などの把握や助言を行う。 ④支援が必要な家庭に対する情報提供を行う。 ⑤広報いずみや市ホームページ等で事業の周知を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①②子育てに関する保護者等の様ざま不安や悩みを聞き、地域や子育て支援に関する情報提供(支援センターなどの案内)などを行った。 ③親子の心身の状況や養育環境(保育所等の入所手続き方法など)などの把握や助言を行った。 ④支援が必要な家庭に対しては適切な情報提供(一時保護など)を行い関係機関への連絡等を行った。 ⑤広報いずみや市ホームページ等で事業に対する周知を行った。			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値			
	年間相談件数		件	200	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	計		0			計		0	
	備考					備考			

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	①R2目標を達成	地域などが行っている様ざまな子育て支援の情報や国等から受けることができる給付金などの内容把握に努め、子育て世帯に対し、情報提供(広報いずみ、市ホームページ等)を行うことで、活動指標の目標を達成することができた。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	①十分効果的だった	個々の子育ての悩みや養育状況などを具体的に把握し、的確なアドバイスを行うことができた。 また、積極的に窓口の周知に取り組んだことから、相談件数が増加したものと考えます。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	引き続き、子育て支援に関して内容(国等の制度改革、給付金等)を把握し、広報いずみや市ホームページ、市内の支援センター等で情報発信を行っていくとともに、民間等が開催する子育てイベントにも出向き、子育てに関する出張相談(子育てに対しての助言・子育て相談全般、給付金等の申請方法)等を行っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり												
重点施策	02 子どもたちの健やかな発育の支援												
成果指標 (KPI)	0205	年間保健指導数							指標の単位	件	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	11,174			中間年度の目標値(R2)	11,700		最終年度の目標値(R7)	12,100		総合戦略の目標値(R1)	11,600	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	12,496	11,776	12,525	13,707								達成状況	
達成率	100.0%		0.0%		100.0%								
備考													
担当課	健康づくり推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 母子健康相談・訪問指導事業							地方創生関連交付金事業該当			
								和泉躍進プラン(案)該当			
(事前評価) 【P】事業の目的	出産後に支援が必要な家庭を早期に把握し、必要な支援を継続的に実施することで、児の健やかな成長と保護者の育児力の向上を図る。										
(事前評価) 【P】事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠前から子育て期まで切れ目ない支援「いずみまるごと子育て・健康応援事業」を実施する。 ・妊婦、乳幼児、乳幼児の保護者に対し、妊娠出産や児の発育発達、育児に関し面接や電話、訪問にて相談を実施する。 ・乳児家庭全戸訪問は、おおむね2か月までの乳児がいる家庭を保健師または保育士と民生委員児童委員(主任児童委員)が訪問する。訪問時に、地域や育児情報の提供を行うとともに、家庭の育児状況や保護者の不安を把握し、必要な支援につなげる。 ・妊産婦または乳児の保護者、家族等が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩み等について相談支援をおこない、家庭や地域での孤立感の解消ができるよう、必要な支援を実施する。 ・家族等から支援が受けられず、心身の不調や育児不安等から養育支援を必要とする母子を対象に、産後も安心して子育てができるよう、産科医療機関で宿泊や日帰りで心身のケアや育児のサポート等を行う。 							(事後評価) 【D】事業実績	<p>・妊娠期からの切れ目ない支援「いずみまるごと子育て・健康応援事業」を実施。保健師等による個別支援計画の作成や情報提供、また支援が必要な家庭については、妊娠期から電話や訪問による個別支援を行った。</p> <p>・乳児期を対象に、専門職による相談交流会や訪問指導を実施、また既存事業の相談支援体制を強化した。</p> <p>・母子が健やかに日常生活を過ごせるよう、保健師・栄養士・歯科衛生士などが電話や面接、訪問などで相談を実施した。 面接:延6,765人 電話:延4,361人 訪問:延2,581人</p> <p>・出産後、不安の高まる時期に乳児家庭全戸訪問事業を行い、子育てに関する情報提供だけでなく、保護者の育児についての状況把握を行い、保護者への傾聴や助言等を行った。 訪問:1,220家庭、実施率97.5%</p>		
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	支援が必要な乳幼児・保護者を早期に把握し、必要な支援や今後の相談・指導につなげるため、下記の取組みを実施する。 ①妊娠届出時に、保健師等の専門職が全数面接し、妊娠期から子育て期の相談機関としての保健(福祉)センターの役割を周知する。 ②出産後初となる全乳児を対象とした乳児家庭全戸訪問事業において、適切な相談対応を行う。 ③産前産後サポート事業の実施 ④産後ケア事業の実施							(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①妊娠届出時に全数面接を行い、保健(福祉)センターの役割を伝えた。 実1,283人 ②乳児家庭全戸訪問事業を実施し、相談対応を行った。 1,220家庭、1,236人(97.5%) ③乳児期を対象とした、産前産後サポート事業を実施した いずみまるあかちゃんくらぶ 延:586人、サポート訪問 延:126人 ふれあいっこ 延:164人、相談会 延:108人 ④産後ケア事業を実施した(平成30年5月～) 延62回		
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	乳児家庭全戸訪問事業訪問実施率				%	97.5	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	臨時職員賃金	5,410,000				臨時職員賃金	5,295,758				
	臨時職員共済費	897,000				臨時職員共済費	854,764				
	計			6,307,000		計					6,150,522
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	前年度と比較し、保健指導数が増加した。 年間保健指導数の内訳をみると、訪問指導(H29 2,201人⇒H30 2,581)、個別相談(面接)(H29 6,198人⇒H30 6,765)、個別相談(電話)(H29 4,126人⇒H30 4,361)で、全てにおいて増加している。 妊娠期から早期に関わることで、妊産婦や新生児の保健指導数の増加がみられた。また、乳児期を対象にした産前産後サポート事業が周知されてきたことにより、利用者数が増えたことも要因と考えられる。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	妊娠期からの切れ目ない支援「いずみまるごと子育て・健康応援事業」を実施し、妊娠届出時の全数面接において、保健(福祉)センターの役割を伝えることで、妊娠期から身近な相談場所であることが認知された。また産前産後サポート事業を実施し、相談支援体制の充実を図ることで、支援が必要な対象者を早期に把握でき、保健指導数の増加につながった。 妊娠届出時や乳児家庭全戸訪問時に、子育てアプリの登録を促しており、少数ではあるが、アプリから「いずまるあかちゃんくらぶ」の参加にもつながっている。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を提供することを目的に、母子保健と子育てに関する相談支援を行う和泉市子育て世代包括支援センター(いずまる)を開始した。引き続き、妊娠期から育児のハイリスク者等の把握に努め、支援が必要な家庭については早期介入を行い、関係機関と連携し育児支援を行う。 また、子育てアプリを活用して、子育て支援等に関する情報や、妊婦や子どもの月齢に応じた健康管理情報などを発信し、市民が子育てしやすい環境の整備、充実を図っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり												
重点施策	03 きめ細やかな子育てサポート体制の充実												
成果指標 (KPI)	301	ふたば・第2ふたば幼児教室の待機児童数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	22			中間年度の目標値(R2)	0		最終年度の目標値(R7)	0			総合戦略の目標値(R1)	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	41	0	0	0								達成状況	
達成率	100.0%		100.0%	100.0%									
備考													
担当課	こども未来室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ふたば・第2ふたば幼児教室運営事業							地方創生関連交付金事業該当	-										
								和泉躍進プラン(案)該当	-										
(事前評価) 【P】事業の目的	発達に遅れや気かりがある子どもを対象に、遊びを通じて、日常生活に必要な基本的能力の発達を援助する。				(事後評価) 【D】事業実績	【ふたば幼児教室実施実績】													
(事前評価) 【P】事業の内容	○親子教室 ・「親子で遊ぶ」ことを通して、保護者が子どもを理解し、子どもが基本的な生活習慣を身につけるなかで、子どもの自尊心を育てる。 ・子どもとのかかわり方や遊び、進路について、保護者と一緒に考える。 ・保護者同士の交流を深めるきっかけ作りを行う。 ○障がい児通所支援事業 個別の支援プログラムを保護者と共同で立案し、それぞれの支援目標に合わせて個別課題やグループ活動を行う。					<table border="1"> <tr> <td></td> <td>1歳児以下</td> <td>2歳児以上</td> </tr> <tr> <td>ふたば</td> <td>月2回・2クラス</td> <td>週1回・4クラス</td> </tr> <tr> <td>第2ふたば</td> <td>月2回・4クラス</td> <td>週1回・8クラス</td> </tr> </table>			1歳児以下	2歳児以上	ふたば	月2回・2クラス	週1回・4クラス	第2ふたば	月2回・4クラス	週1回・8クラス	【ふたば幼児教室利用者数】 年間45人		
	1歳児以下	2歳児以上																	
ふたば	月2回・2クラス	週1回・4クラス																	
第2ふたば	月2回・4クラス	週1回・8クラス																	
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	親子教室各教室で、教室数の増加等に取り組み、待機児童を解消する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	平成29年度に引き続き、ふたば幼児教室では、月2回・2クラス、第2ふたば幼児教室では月2回・4クラスを開講した。													
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値													
	ふたば・第2ふたば親子教室実施回数			回	111	H28	H29	H30	R1	R2									
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)										
	報酬・賃金	14,328,000	共済費	2,348,000		報酬・賃金	13,749,687	共済費	2,303,151										
	報償費等	3,981,000	旅費・需要費	635,000		報償費等	1,339,120	旅費・需要費	616,275										
	役務費	404,000	備品購入	301,000		役務費	368,408	備品購入	280,800										
	計	21,997,000		計		18,657,441													
	備考					備考													

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	親子教室実施後に児童の様子や相談内容を記入する記録表の様式を見直すことで、事務の効率化を図り、保育準備や教材づくりの時間を確保することができた結果、実施回数を増やすことができた。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	平成27年度待機児童が特に多かった1歳児クラスのクラス数を、平成28年度途中からクラス数を段階的に増やした。 平成30年度も引き続き、開室数の増加に取り組んだ結果、希望者全員が通室できた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性 ①継続	今後の事業展開 引き続き、開室数を増やすなど、待機児童が発生しないように取り組む。 また、保護者同士が交流できる場を積極的に設けるなど、事業の充実を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり												
重点施策	O3 きめ細やかな子育てサポート体制の充実												
成果指標 (KPI)	0302	児童虐待等の養育課題が見られる児童のうち状況が安定し支援を終結した児童数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	225			中間年度の目標値(R2)	400		最終年度の目標値(R7)	450			総合戦略の目標値(R1)	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	252	361	588	763								達成状況	
達成率	55.1%		100.0%	100.0%									
備考													
担当課	こども未来室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 子育てなんでも相談事業				地方創生関連交付金事業該当	-					
					和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	虐待を受けている子どもをはじめとする要保護児童等(児童福祉法に規定される支援対象児童等)の早期発見や適切な支援を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度の実績】 ○虐待相談受理件数【408件】 ○要保護児童対策地域協議会代表者会議【1回】 ○要保護児童対策地域協議会実務者会議【20回】 内訳:実務検討会議【12回】 進行管理会議【8回】 ○個別事例検討会議【133回】 ○関係機関職員を対象とした研修会【1回】					
(事前評価) 【P】事業の内容	市民や学校等からの児童虐待相談等に対応するため、児童福祉法に規定されている要保護児童対策地域協議会(関係機関による支援のネットワーク)を設置、その調整機関として、虐待相談等に適宜対応するとともに、構成機関の代表者会議、実務者会議、個別ケース検討会議等を開催し、要保護児童等に対し、適切な支援を実施する。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①児童虐待への早期対応 ・通告受理後48時間以内の安全確認の実施及び保護者指導 ②支援対象家庭への継続指導 ・家庭訪問による、支援対象の児童の保護者への助言指導 ③児童虐待の要因の一つである子育て負担感軽減のための支援 ・家庭訪問支援員による育児支援家庭訪問事業 ④担当者の専門性の向上および対応力強化 ・外部専門家による事例検討を通してのスーパーバイズ ・大阪府市町村家庭児童相談室連絡協議会研修への参加				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	【平成30年度の実績】 ①児童虐待通告受理件数及び安全確認実施件数 児童虐待通告受理件数【88件】 48時間以内の安全確認実施件数【88件】 うち保護者への指導等直接支援した件数【37件】 ②家庭訪問による指導助言実施件数【155件】 ③育児支援家庭訪問実施件数【65件】 ④児童虐待防止協会の臨床心理士による事例検討会議【18件】 大阪府市町村家庭児童相談室連絡協議会研修への参加【3回】					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称							単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値	
	家庭訪問による指導助言実施件数				件	300	H28: 306	H29: 159	H30: 155	R1:	R2:
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	家庭児童相談システム管理委託料	479,000	家庭児童相談システムバージョン委託料	1,782,000		家庭児童相談システム管理委託料	478,094	家庭児童相談システム改修委託料	1,782,000		
	育児支援家庭訪問支援員報償費	360,000				育児支援家庭訪問支援員報償費	119,000				
	児童虐待対応アドバイザー報償費	180,000				児童虐待対応アドバイザー報償費	180,000				
	計		計	2,801,000		計		計	2,559,094		
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	前年度と比べ、175件増加し、中間年度及び最終年度の目標を達成している。 関係機関との連携や情報共有に努め、早期発見・早期対応につながっていることにより、家庭訪問による指導助言実施件数は減少しているものの終結件数の増加につながったと要因分析する。 活動指標については、児童や家庭の状況把握をこども未来室と関係機関(保健センターや所属先等)で役割分担することで間接的に見守りが可能となり、平成30年度の家庭訪問による指導助言実施件数が平成28年度と比べて減少している。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	個別事例検討会議を随時開催しており、関係機関との連携を密に図ることで情報の共有及び支援方針決定に向けての協議が必要なタイミングで実施できている。その結果、早期発見・対応の結果、虐待の重症化を防ぎ、終結につながっていると考ええる。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	虐待の相談件数は減少し、通告受理件数は増加しているものの関係機関との連携を密にし、個別事例検討会議等において、専門職員の参加等により、より適切な支援方針決定及び直接的支援に取り組んだことから成果指標である終結件数の増加につながった。このことから重症事例の発生予防および成果指標の継続的な達成に向けて事業の継続が必要である。 また、家庭訪問による指導助言実施件数については減少しているものの、直接支援を要する家庭について今後も引き続き家庭訪問による支援を実施していきたい。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進													
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり													
重点施策	O4 地域で安心して子育てができる仕組みづくり													
成果指標 (KPI)	0401	地域子育て支援事業の1日当たりの利用者数							指標の単位	件	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)	297			中間年度の目標値(R2)		311		最終年度の目標値(R7)		327		総合戦略の目標値(R1)	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	243	309	320	324									達成状況	
達成率		78.6%	91.7%	96.4%										
備考														
担当課	こども未来室													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 地域子育て支援拠点施設事業		地方創生関連交付金事業該当	-																																	
			和泉躍進プラン(案)該当	-																																	
(事前評価) 【P】事業の目的	地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的とする。		(事後評価) 【D】事業実績	【地域子育て支援拠点施設の利用実績】																																	
(事前評価) 【P】事業の内容	保護者が言葉や発達が気になる子どもの特性を理解し、子どもが基本的な生活習慣を身につけるなかで、子どもの自尊心を育てる。 また、子どもとのかかわり方や遊び、進路について、保護者と一緒に考えたり、保護者同士の交流を深めるきっかけ作りを行う。			<table border="1"> <tr><td colspan="2">(地域子育て支援センター)</td></tr> <tr><td></td><td>利用者数</td></tr> <tr><td>子育て支援センターぶらんこ</td><td>4,735人</td></tr> <tr><td>地域子育て支援センターハッピーランド</td><td>3,421人</td></tr> <tr><td>認定こども園ひかりGreenWell子育て支援センター</td><td>1,973人</td></tr> <tr><td>認定こども園横山のみ保育園子育て支援センターおひさま</td><td>1,022人</td></tr> <tr><td>クリアール子育て支援センター</td><td>1,917人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>13,068人</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="2">(いずみ・エンゼルハウス)</td></tr> <tr><td></td><td>利用者数</td></tr> <tr><td>いずみ・エンゼルハウス鶴山台</td><td>12,787人</td></tr> <tr><td>いずみ・エンゼルハウス府中</td><td>10,342人</td></tr> <tr><td>いずみ・エンゼルハウス北松尾</td><td>13,184人</td></tr> <tr><td>いずみ・エンゼルハウス和泉中央</td><td>12,563人</td></tr> <tr><td>いずみ・エンゼルハウス青葉台</td><td>14,361人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>63,237人</td></tr> </table>			(地域子育て支援センター)			利用者数	子育て支援センターぶらんこ	4,735人	地域子育て支援センターハッピーランド	3,421人	認定こども園ひかりGreenWell子育て支援センター	1,973人	認定こども園横山のみ保育園子育て支援センターおひさま	1,022人	クリアール子育て支援センター	1,917人	合計	13,068人	(いずみ・エンゼルハウス)			利用者数	いずみ・エンゼルハウス鶴山台	12,787人	いずみ・エンゼルハウス府中	10,342人	いずみ・エンゼルハウス北松尾	13,184人	いずみ・エンゼルハウス和泉中央	12,563人	いずみ・エンゼルハウス青葉台	14,361人	合計
(地域子育て支援センター)																																					
	利用者数																																				
子育て支援センターぶらんこ	4,735人																																				
地域子育て支援センターハッピーランド	3,421人																																				
認定こども園ひかりGreenWell子育て支援センター	1,973人																																				
認定こども園横山のみ保育園子育て支援センターおひさま	1,022人																																				
クリアール子育て支援センター	1,917人																																				
合計	13,068人																																				
(いずみ・エンゼルハウス)																																					
	利用者数																																				
いずみ・エンゼルハウス鶴山台	12,787人																																				
いずみ・エンゼルハウス府中	10,342人																																				
いずみ・エンゼルハウス北松尾	13,184人																																				
いずみ・エンゼルハウス和泉中央	12,563人																																				
いずみ・エンゼルハウス青葉台	14,361人																																				
合計	63,237人																																				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	子育て中の親子に対し、支援センターの開放、親子教室(製作・絵本の読み聞かせ・歯磨き指導・リトミック等)を開催するほか、子育て相談(情報提供・助言等)、子育てサークル支援などの啓発(支援センター掲示板にパンフレットの設置・案内チラシの配布)などを行い、子育て支援の充実を図り利用者の増加に取り組む。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	【子育てサークルの利用実績】 1,539名(731組)																																	
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																																	
	地域子育て支援設置箇所数	箇所	10	H28	H29	H30	R1	R2																													
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																												
	報償・旅費	38,000	需用・役務	306,000		報償・旅費	10,000	需用・役務	280,064																												
	委託料	26,000,000	使用料	3,338,000		委託料	26,000,000	使用料	3,315,170																												
	備品	17,000	負担金補助	26,966,000		備品	0	負担金補助	26,908,320																												
	計			56,665,000		計			56,513,554																												
	備考				備考																																

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	子育て世代の親子(利用者)に対して広報いずみや案内チラシで周知・啓発を行ったことで、親子教室・センター開放(センターで自由に遊んだり、情報交換をする場)への参加を増加させることができた。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	子どもの年齢に応じた子育て相談や講座等を「ららぽーと和泉」や「支援センターぶらんこ」等で開催し、子育て世帯のニーズにあわせた支援を行った。 また、各関係機関(保健センター、子育てサークルネットワーク推進協議会等)と会議を開催し、啓発・周知に対しての情報交換等を行い、SNSの配信やこんにちは赤ちゃん訪問等での啓発に取り組んだ結果、利用者数を増加させることができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	引き続き、関係機関と定期的に会議を開催し、子育てに関する情報交換を行うと同時に、子育て世代への利用促進の啓発・周知を関係機関等に行う。 また、情報交換した内容を含め、子どもの年齢に応じた子育て支援(子育て相談・子育て講座・子育て教室等)や子育てイベント等を通じて親同士が交流できる場(親学習・親子教室・講師による講座・父親参加による活動・異年齢児交流など)などの提供を行い、子育て支援の充実を図っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり												
重点施策	O4 地域で安心して子育てができる仕組みづくり												
成果指標 (KPI)	0402	地域主催の教育講演会・イベント及び見守り活動等への参加者数						指標の単位	人	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)	11,695			中間年度の目標値(R2)	12,000		最終年度の目標値(R7)	12,500		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	10,538	11,893	15,361	15,568								達成状況	
達成率	69.1%		100.0%	100.0%									
備考													
担当課	指導室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 我が町の子どもを育てよう事業						地方創生関連交付金事業該当	-					
							和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	子どもの「生きる力」を育成するため、学校・家庭・地域が協働する教育コミュニティを形成し、地域全体で子どもを育てる環境をつくる。				(事後評価) 【D】事業実績	市内全10校区の地域教育協議会が実施した取組みに対して補助金を交付した。							
(事前評価) 【P】事業の内容	各中学校区に設置された地域教育協議会が実施する教育コミュニティづくりの推進に向けた取組みに対して補助金を交付する。 (主な取組み内容) 講演会・イベントの開催、見守り活動等					(各校区の取組み) 平成30年度 教育講演会・イベント等の参加者数 15,568人 ・教育講演会(3中学校区) 191人 ・地域清掃活動(3中学校区) 1,662人 ・音楽ふれあいコンサート(3中学校区) 2,908人 ・模擬店等イベント(7中学校区) 4,442人 ・見守り活動(10中学校区) 6,365人							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①和泉市地域教育協議会連絡会で各地域の取組み状況を共有し、活動の幅を広げる。 ②子どもの登下校の見守りとあいさつ運動の活動を全校区でさらに推進できるように、各校区の地域教育協議会に働きかける。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①和泉市地域教育協議会連絡会を平成31年2月に開催し、各地域教育協議会の取組み報告を実施して、それらの共有及び意見交換を行った。 ②あいさつ運動・見守り活動時に使用する横断旗を作成し、活動時に使用するために配布し、運動の周知を進めることができた。							
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値							
	登下校の見守り活動にかかわる人の延べ人数			人	50,000	H28	H29	H30	R1	R2			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)				
	補助金	3,325,000				補助金	3,325,000						
	計			3,325,000		計					3,325,000		
	備考					備考							

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	教育講演会・イベントへの参加者総数は、各校区が地域の特色を活かした企画や活動を工夫して行ったことで、昨年度と比べ200人程度増加した。加えて、ポスターやチラシ、放送などによるイベント等の周知活動も参加者が増加した要因である。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	子どもたちから高齢の方までが楽しめるイベントを企画し、幅広い世代の参加者を獲得できたことにより、地域のつながりを深めることができた。また、行事に参加した子どもたちが、地域行事に興味を持つことができたことにより、地域教育協議会が主催した以外の他の地域行事にも意欲的に参加するようになった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	各校区で実施されている取組みは今後も継続した上で、全10校区の取組みについて情報共有等を行うとともに、子どもが主体となってイベントの企画運営を行ったり、ポスターや地域放送など行事の周知をさらに進めたりすることにより、より多くの人に行事の存在を知ってもらい、参加者を増やしていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり												
重点施策	04 地域で安心して子育てができる仕組みづくり												
成果指標 (KPI)	0403	放課後子ども教室の実施校区数							指標の単位	校区	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	14			中間年度の目標値(R2)	21		最終年度の目標値(R7)	21		総合戦略の目標値(R1)	21	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	15	21	21	21								達成状況	
達成率	100.0%		100.0%	100.0%									
備考													
担当課	生涯学習課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 放課後子ども教室推進事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	放課後や週末等に、安全で安心な子どもの活動場所を確保するとともに、地域のボランティアの方々の参画・協力を得て、子どもの体験・交流活動等の活性化を図ることにより、地域社会全体で子どもの豊かな成長を育む教育コミュニティづくりを推進する。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度の放課後子ども教室の実施実績】 ・事業実施校区:21小学校区(平成29年度:21小学校区) ・事業実施日数(延べ):898日(平成29年度:764日) ・年間参加児童数(延べ):17,036人(平成29年度:16,485人) ・活動内容:ソフトボール、昔遊び、読み聞かせ、ニュースポーツ等				
(事前評価) 【P】事業の内容	市から放課後子ども教室の実施を委託された各小学校区の実行委員会もしくは市が、小学校区の実情に合わせてスポーツや文化活動、体験活動等地域の特色を活かした様々な活動を行い、地域における子どもの居場所づくりを行う。 【対象】主に実施小学校区の小学生									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	全小学校区での事業実施を継続するため、大阪府教育庁の紹介する企業・団体による活動プログラム等を活用する。 【市が事業実施する予定校区】和気、伯太、いぶき野、南池田、南松尾はつが野				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	平成29年度に引き続き、大阪府教育庁の紹介する企業・団体による活動プログラムを活用すること等により、全21小学校区で放課後子ども教室を実施した。 (21校区のうち、16校区は実行委員会形式で実施)				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	府の企業等プログラムを活用して行った校数			校区	5	H28	H29	H30	R1	R2
						7	8	4		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	2,270,000	委託料	1,540,000		報償費	2,087,200	委託料	1,352,648	
	旅費	5,000	使用料	44,000		旅費	1,240	使用料	18,386	
	需用費	483,000				需用費	408,365			
	計			4,342,000		計			3,867,839	
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	<p>実行委員会形式での放課後子ども教室の開催が困難な5校区(和気、伯太、池上、南池田、いぶき野、南松尾はつが野)については、企業・団体による活動プログラム等を活用し、全校区で放課後子ども教室を実施することができた。</p> <p>なお、平成29年度に比べ、成果指標である「府の企業等プログラムを活用して行った校数」が減少していることについて、前年度は、実行委員会形式での放課後子ども教室の開催が困難な5校区のうち南池田を除く4校区において企業・団体による活動プログラム等を活用したが、今年度については、伯太1校区の活用に留まった。しかし、代わりに残りの4校区では地域の取り組み等を活用し、このことにより4校区については、既に実行委員会形式での放課後子ども教室を実施している16校区のように、事業の目標である地域の協力を得た活動を行うことができた。</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>3校区(国府、北松尾、青葉はつが野)については、実行委員会形式に加え、大阪府教育庁の紹介する企業・団体による活動プログラムを活用して放課後子ども教室を実施したことで、普段の活動に加え、更なる活動内容の充実を図ることができた。</p> <p>また、実行委員会形式での実行が困難な5校区(和気、伯太、南池田、いぶき野、南松尾はつが野)のうち伯太校区は大阪府教育庁の紹介する企業・団体による活動プログラムを活用し、残り4校区も地域の取り組み等を活用しすべての校区で放課後子ども教室を実施することができた。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性 ①継続	<p>今後の事業展開</p> <p>5つの小学校区では、大阪府教育庁の紹介する企業・団体による活動プログラム等を活用した放課後子ども教室を開催したものの、1回限りの実施であったため、今後は他の16小学校区のように実行委員会形式による事業実施に移行し、活動日数の増加につなげる。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	05 子育てと仕事の両立支援体制の充実											
成果指標 (KPI)	0501	保育所等入所待機児童数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	29			中間年度の目標値(R2)	0		最終年度の目標値(R7)	0		総合戦略の目標値(R1)	0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	27	44	56	44								達成状況
達成率	0.0%		0.0%	0.0%								
備考												
担当課	こども未来室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 民間保育所等整備補助事業		地方創生関連交付金事業該当	-				
			和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	民間保育所等における定員増や認定こども園への移行を支援し、保育認定を受けた就学前児童の受け入れ定員数を増加させる。		(事後評価) 【D】事業実績	<p>【平成30年度の整備実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認定こども園池上わかばこども園の建替 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度・平成30年度の2カ年事業 ・定員100名(建替え前 90名) ・補助金額 42,855,000円(20%を支払) ○認定こども園あいしゅう幼稚園の建替 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度・令和元年度の2カ年事業 ・定員161名(建替え前 90名) ・補助金額 94,145,000円(20%を支払) ○認定こども園和泉中央みのり園の新築 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度・令和元年度の2カ年事業 ・定員130名(平成31年4月一部開園) ・補助金額 148,992,000円(52%を支払) 				
(事前評価) 【P】事業の内容	施設の老朽化により施設の建替えが必要な民間保育所等について、整備計画を決定し、建替や改修、新築等の整備にかかる費用を補助する。							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○認定こども園池上わかばこども園建替の補助を行う。(29年度からの継続事業) ○認定こども園あいしゅう幼稚園建替の補助を行う。 ○新設認定こども園創設事業新設園2園の創設補助を行う。 							
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	平成30年度当初からの建替・改修・新設等の実施園数	園	4	1	2	3		
	平成30年度当初からの保育定員の増加数	人	307	11	57	85		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	民間保育所等整備補助事業	1,251,067,000			民間保育所等整備補助事業	285,992,000		
	計		1,251,067,000		計		285,992,000	
	備考				備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	引き続き待機児童は発生しているものの、前々年度と同水準の人数に減少した。これまでの保育定員の増加のための取り組みが一定の効果을あげているものと思われる。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	市北西部の認定こども園の創設が中止となるなど、予定通りに保育定員を増加できなかった部分もあるが、その他の取組により、待機児童数の増加を防ぐことができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	本市では、現時点においても待機児童が発生しているが、今後、幼児教育・保育の無償化による保育ニーズの高まりにより、さらに待機児童が増加することも予想される。このことから、本事業を継続的に進め、待機児童の減少・解消に向けて取り組む。 来年度は、「あいしゅう幼稚園」及び「和泉中央みのり園」の事業が完了し、定員が増加する見込みであるほか、市北西部の新設認定こども園（令和3年4月開設）の運営事業者を募集し、あらためて選考・決定を行う予定である。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第1節 「結婚・出産・子育て」に夢や希望が持てる環境づくり											
重点施策	05 子育てと仕事の両立支援体制の充実											
成果指標 (KPI)	0502	留守家庭児童会の待機児童数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	0			中間年度の目標値(R2)	0		最終年度の目標値(R7)	0		総合戦略の目標値(R1)	0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	0	0	0	0								達成状況
達成率		100.0%	100.0%	100.0%								
備考												
担当課	生涯学習課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 留守家庭児童会運営事業		地方創生関連交付金事業該当	-																																																																																																														
			和泉躍進プラン(案)該当	○																																																																																																														
(事前評価) 【P】事業の目的	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学1年生から6年生の児童に対し、適切な遊び場及び生活の場を提供し、その健全な育成を図る。		【平成30年度の利用者数等の実績】平成31年3月1日時点																																																																																																															
(事前評価) 【P】事業の内容	市内19小学校・義務教育学校(幸・南横山除く)において、以下のとおり、留守家庭児童会を開設する。 【開設日】原則日祝日年末年始を除く日 【開設時間】平日)放課後～19時 土曜日長期休暇等)8時～19時		(事後評価) 【D】事業実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">平成31年3月1日現在</th> </tr> <tr> <th></th> <th>クラブ</th> <th>クラス数</th> <th>定員(人)</th> <th>利用者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>国府</td><td>3</td><td>135</td><td>102</td></tr> <tr><td>2</td><td>信太</td><td>3</td><td>165</td><td>90</td></tr> <tr><td>3</td><td>鶴山台南</td><td>1</td><td>55</td><td>40</td></tr> <tr><td>4</td><td>鶴山台北</td><td>2</td><td>105</td><td>94</td></tr> <tr><td>5</td><td>黒鳥</td><td>2</td><td>100</td><td>79</td></tr> <tr><td>6</td><td>緑ヶ丘</td><td>3</td><td>175</td><td>124</td></tr> <tr><td>7</td><td>芦部</td><td>4</td><td>157</td><td>95</td></tr> <tr><td>8</td><td>伯太</td><td>3</td><td>129</td><td>97</td></tr> <tr><td>9</td><td>池上</td><td>2</td><td>93</td><td>46</td></tr> <tr><td>10</td><td>和氣</td><td>4</td><td>175</td><td>107</td></tr> <tr><td>11</td><td>北池田</td><td>3</td><td>135</td><td>83</td></tr> <tr><td>12</td><td>北松尾</td><td>3</td><td>181</td><td>126</td></tr> <tr><td>13</td><td>光明台南</td><td>3</td><td>133</td><td>86</td></tr> <tr><td>14</td><td>光明台北</td><td>3</td><td>140</td><td>92</td></tr> <tr><td>15</td><td>いぶき野</td><td>4</td><td>197</td><td>153</td></tr> <tr><td>16</td><td>横山</td><td>1</td><td>55</td><td>29</td></tr> <tr><td>17</td><td>南池田</td><td>2</td><td>90</td><td>68</td></tr> <tr><td>18</td><td>青葉はつが野</td><td>6</td><td>290</td><td>261</td></tr> <tr><td>19</td><td>南松尾はつが野</td><td>2</td><td>78</td><td>43</td></tr> <tr><td></td><td>合計</td><td>54</td><td>2,588</td><td>1,815</td></tr> </tbody> </table>	平成31年3月1日現在						クラブ	クラス数	定員(人)	利用者数(人)	1	国府	3	135	102	2	信太	3	165	90	3	鶴山台南	1	55	40	4	鶴山台北	2	105	94	5	黒鳥	2	100	79	6	緑ヶ丘	3	175	124	7	芦部	4	157	95	8	伯太	3	129	97	9	池上	2	93	46	10	和氣	4	175	107	11	北池田	3	135	83	12	北松尾	3	181	126	13	光明台南	3	133	86	14	光明台北	3	140	92	15	いぶき野	4	197	153	16	横山	1	55	29	17	南池田	2	90	68	18	青葉はつが野	6	290	261	19	南松尾はつが野	2	78	43		合計	54	2,588	1,815
平成31年3月1日現在																																																																																																																		
	クラブ	クラス数	定員(人)	利用者数(人)																																																																																																														
1	国府	3	135	102																																																																																																														
2	信太	3	165	90																																																																																																														
3	鶴山台南	1	55	40																																																																																																														
4	鶴山台北	2	105	94																																																																																																														
5	黒鳥	2	100	79																																																																																																														
6	緑ヶ丘	3	175	124																																																																																																														
7	芦部	4	157	95																																																																																																														
8	伯太	3	129	97																																																																																																														
9	池上	2	93	46																																																																																																														
10	和氣	4	175	107																																																																																																														
11	北池田	3	135	83																																																																																																														
12	北松尾	3	181	126																																																																																																														
13	光明台南	3	133	86																																																																																																														
14	光明台北	3	140	92																																																																																																														
15	いぶき野	4	197	153																																																																																																														
16	横山	1	55	29																																																																																																														
17	南池田	2	90	68																																																																																																														
18	青葉はつが野	6	290	261																																																																																																														
19	南松尾はつが野	2	78	43																																																																																																														
	合計	54	2,588	1,815																																																																																																														
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	年々増加する留守家庭児童会の入会希望者に対応するため、クラス数を増設する。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	7クラスを増設し、必要な教室数確保に努め、年間を通じて待機児童が発生することなく運営できた。																																																																																																														
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																																																																																																														
	留守家庭児童会の開設クラス数	クラス	54	H28: 45, H29: 47, H30: 54, R1: , R2:																																																																																																														
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																																																																																														
	報酬	135,455,000	需用費	5,155,000																																																																																																														
	共済費	20,898,000	備品購入費	14,244,000																																																																																																														
	賃金	160,703,000	その他	101,082,000																																																																																																														
	計	437,537,000		【D】決算																																																																																																														
	備考			内訳																																																																																																														
				金額(円)																																																																																																														
				報酬																																																																																																														
				136,128,860																																																																																																														
				需用費																																																																																																														
				4,910,676																																																																																																														
				共済費																																																																																																														
				20,069,063																																																																																																														
				備品購入費																																																																																																														
				14,046,561																																																																																																														
				賃金																																																																																																														
				121,962,310																																																																																																														
				その他																																																																																																														
				102,178,643																																																																																																														
				計																																																																																																														
				399,296,113																																																																																																														
				備考																																																																																																														

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	前年度に入会児童数の推計を算出し、7クラスを増設したことで、待機児童が発生しなかった。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて待機児童が発生することなく、留守家庭児童会を運営できた。また、児童推計等から計画的にクラス数の増設準備に取り組んだ。 ・児童数の増加に対応するため、平成31年度からの運用に向けて黒鳥小学校及びいぶき野小学校に仮設教室(プレハブ)を設置し、青葉はつが野小学校の教室を確保した。 ・鶴山台南・緑ヶ丘・北松尾・いぶき野小学校に、令和2年度から各1クラス増設するため、準備を行った。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	令和2年度には新たに4クラスを開設予定、引き続き待機児童が発生しないように留守家庭児童会を運営する。

第1章 定住の促進

第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実

- 06 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり
- 07 豊かな心を育む教育の推進
- 08 国際社会の中で活躍する人材の育成

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	06 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり												
成果指標 (KPI)	0601	保育所、認定こども園、幼稚園職員を対象にした研修の参加のべ人数						指標の単位	人	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)	1145			中間年度の目標値(R2)	1170		最終年度の目標値(R7)	1200		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	850	830	851	941								達成状況	
達成率	0.0%		0.3%	26.0%									
備考													
担当課	こども未来室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 保育園・幼稚園等職員研修事業				地方創生関連交付金事業該当	-				
					和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	就学までの子どもたちの健やかな育ちや小学校以降の教育との接続を踏まえた幼児教育、保育のあり方について学ぶ研修を実施し、保育・教育の質の向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度に実施した研修】 ○保幼小連携研修 ○小学校につなぐ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を学ぶ ・体育指導・絵画指導・音楽指導を学ぶ研修 ・保育要領改訂と指導計画に関する研修 ○人権を学ぶ研修 ・子どもの貧困問題と養育困難家庭への支援について ・愛着障がいについて ・子どもの自尊心を育む保育 ・個別支援と共生保育とは ○より良い職場づくり、環境を通しての保育・教育、発達と遊び、乳児保育で大切にしたいことについての研修他計25回の研修を開催				
(事前評価) 【P】事業の内容	保護者が言葉や発達が気になる子どもの特性を理解し、子どもが基本的な生活習慣を身につけるなかで、子どもの自尊心を育てる。 また、子どもとのかかわり方や遊び、進路について、保護者と一緒に考えたり、保護者同士の交流を深めるきっかけ作りを行う。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①研修内容の充実 現場で課題となっている内容や新たに学ぶべき内容を考えて企画する。 <研修内容(予定)> 保育所保育指針改定をふまえて改訂のポイントや発達障がいについての正しい知識や支援、子どもの貧困問題等 ②職員への周知 年間研修計画配布の他、月毎の案内、園長会等での再通知などを通して周知する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①研修内容の充実 「子どもたちの主体的(S)・対話的(T)で深い(F)和泉の学び」をつなぐ事業研修に、民間園を含め69人が参加。「保幼小連携の重要性」を学んだ。 子どもの支援についての研修では、複数の講師を招き、「子どもの貧困問題」や「愛着障がい」について学ぶ研修を実施した。 また、小学校教諭による指導や授業の見学を実施した。 ②職員への周知 年間研修計画の周知以外に、その都度周知するとともに、研修内容にも触れ参加を呼びかけ、参加者の確保を図る。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値			
	保育園・幼稚園等職員研修開催回数			回	25	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	講師謝礼	414,000				講師謝礼	375,000			
	会場借り上げ	284,000				会場借り上げ	237,470			
	計			698,000		計			61,247,000	
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	年度初めに「年間研修計画」を立て、研修の開催予定を事前に把握できるよう周知を図ったほか、毎月の研修案内や、園長会議等での再通知を徹底した。また、昨年度に引き続き、保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の改訂に向けての研修や、保・幼・小連携の研修、また、自園での公開保育だけでなく、拠点園を中心に地域ごとに公開保育を研修として周知した事で参加者が増えた。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	①研修内容の充実 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の改訂についての研修は引き続き企画し、より良い職場作り及び子どもの貧困問題や養育困難家庭への支援について等、研修内容を計画段階から職員の意見を聞き検討し企画をすることで意欲的に研修に参加する職員も増えた。 ②年度当初に年間研修計画を周知したことで、職員の研修に関する周知が進み、研修参加への計画が立てやすくなった。
(事後評価)	事業の方向性	1
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	現状の課題からの計画と長期的な視点で計画の双方を取り入れ、引き続き教育・保育の質の向上をめざし事業を継続する。 今後は、就学前の子どもの発達支援と理解及び保護者支援など、園で取り組める支援について学ぶ研修を多く取り入れていく。

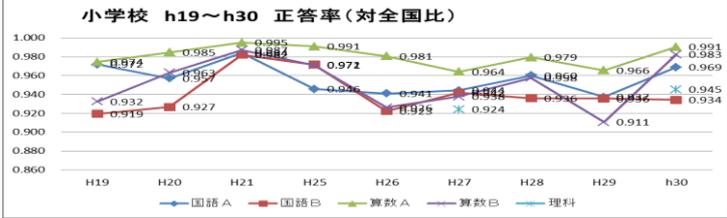
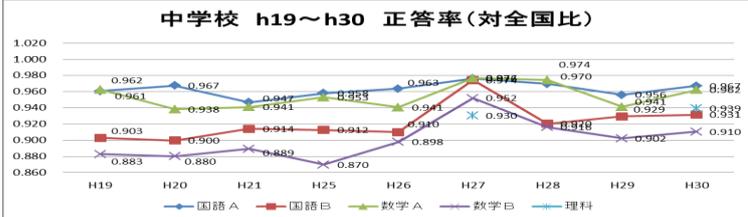
第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実											
重点施策	06 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり											
成果指標 (KPI)	0602	全国学力・学習状況調査の結果の平均正答率 対全国比						指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	小学校	0.943	中間年度の目標値(R2)	小学校	1.010	最終年度の目標値(R7)	小学校	1.050	総合戦略の目標値(R1)	-	-
		中学校	0.928		中学校	1.010		中学校	1.050		-	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	小	0.947	0.958	0.938	0.969							
中	0.970	0.945	0.932	0.943								
達成率	小		10.7%	0.0%	21.4%							
中			0.0%	0.0%	0.0%							
備考												
担当課	指導室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 学力向上対策事業						地方創生関連交付金事業該当	-																				
							和泉躍進プラン(案)該当	-																				
(事前評価) 【P】事業の目的	児童生徒の学習の状況に応じたきめ細かな指導を通して、一人ひとりの学力向上を図るとともに、自学自習力の育成を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【学力向上サポーター活動実績】																						
(事前評価) 【P】事業の内容	「学力向上サポーター(※)」を市内の学校園に派遣し、放課後、長期休業中などを活用した学習会及び授業等の支援を行う。 (※)元教員、大学生、地域の方々等による有償ボランティア					<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">活動人数(人)</th> <th rowspan="2">活動回数(回)</th> <th colspan="3">活動校数(校)</th> </tr> <tr> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>義務教育学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>23人</td> <td>810回</td> <td>11校</td> <td>6校</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>25人</td> <td>537回</td> <td>9校</td> <td>8校</td> <td>1校</td> </tr> </tbody> </table>				活動人数(人)	活動回数(回)	活動校数(校)			小学校	中学校	義務教育学校	平成30年度	23人	810回	11校	6校	1校	平成29年度	25人	537回	9校	8校
	活動人数(人)	活動回数(回)	活動校数(校)																									
			小学校	中学校	義務教育学校																							
平成30年度	23人	810回	11校	6校	1校																							
平成29年度	25人	537回	9校	8校	1校																							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①児童生徒への放課後等における学習支援において、学習支援のための学習室の整備及び教材等の準備を行う。 ②児童生徒との人間関係づくりや教員との連携による指導のための打ち合わせを行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①11小学校と6中学校、1義務教育学校で、学力向上サポーター23名が延べ810回活動した。 ②放課後や長期休業中に、一人ひとりの学力の状況に応じたきめ細やかな指導に活用できる英語・国語・算数(数学)の教材等の準備を行い、児童・生徒とともに学習を進めた。 ③授業時間内で、児童生徒との人間関係づくりを行うとともに、授業を担当する教員との連携によって、児童生徒の学習理解を深めた。																						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値																						
	学力向上サポーター活動校数		校	20	H28	H29	H30	R1	R2																			
	学力向上サポーター活用回数		回	810	1,057	537	810																					
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																			
	報償費	1,215,000				報償費	1,215,000																					
	計		1,215,000			計			1,215,000																			
	備考					備考																						

成果指標の達成状況		成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>全国学力・学習状況調査の結果の平均正答率(対全国比)について、小学校・中学校ともに総じて上昇した。</p> <p>【小学校の要因】 日々の授業改善やきめ細やかな学習支援により、前年度と比較して上昇している。主体的に、意欲的に取り組むことができる授業の実践により、特に算数Bの項目では大きく上昇している。また、個別児童への対応などにより、基礎的な学力をみる国語Aや算数Aにおいても上昇がみられた。</p>  <p>【中学校の要因】 小学校同様、全体的に上昇傾向が見られる。これは、日々の授業改善や、丁寧な個別生徒への学習支援、家庭学習の習慣づけを意識して取り組んできたことが要因と分析する。</p> 
	(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性 ①継続	今後の事業展開 <p>引き続き、放課後や長期休業中において、「児童生徒の自学自習力の育成」「学習習慣づくり」「児童生徒の学習意欲の向上」に向けて学力向上サポーター事業を実施する。具体的には、様々な難易度の課題プリントを用意し、個々が学力に応じて選択して学習したり、宿題に取り組んだりするための準備や、学習支援を行うために学力向上サポーターを派遣する。そのことで、児童生徒にとって、よりよい学習環境を醸成し、児童生徒の基礎学力及び学習習慣の定着と、自学自習力の育成を図る。</p>

取組事業	2 いずみ希望塾運営事業(学習支援・居場所づくり事業)				地方創生関連交付金事業該当	-																																																																								
					和泉躍進プラン(案)該当	○																																																																								
(事前評価) 【P】事業の目的	家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分身についていなかったりする小・中学生に対し、「確かな学力」を育成する。そのため児童生徒に対し、校外での学習環境を整え、学習習慣・自学自習力の定着、学習意欲や基礎学力の向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【各会場及び各学年 受講者人数】 各会場別人数一覧 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">小学校</th> </tr> <tr> <th></th> <th>5年</th> <th>6年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 北部リージョンセンター</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>2 青少年センター</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>3 和泉図書館</td> <td>20</td> <td>15</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>4 シティプラザ</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>5 南部リージョンセンター</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61</td> <td>61</td> <td>122</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">中学校</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 北部リージョンセンター</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>2 青少年センター</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>3 和泉図書館</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>4 シティプラザ</td> <td>24</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>5 南部リージョンセンター</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>65</td> <td>60</td> <td>53</td> <td>178</td> </tr> </tbody> </table>	小学校					5年	6年	合計	1 北部リージョンセンター	10	16	26	2 青少年センター	7	4	11	3 和泉図書館	20	15	35	4 シティプラザ	20	22	42	5 南部リージョンセンター	4	4	8	合計	61	61	122	中学校						1年	2年	3年	合計	1 北部リージョンセンター	12	12	10	34	2 青少年センター	9	5	10	24	3 和泉図書館	17	15	16	48	4 シティプラザ	24	22	17	63	5 南部リージョンセンター	3	6	0	9	合計	65	60	53	178
小学校																																																																														
	5年	6年	合計																																																																											
1 北部リージョンセンター	10	16	26																																																																											
2 青少年センター	7	4	11																																																																											
3 和泉図書館	20	15	35																																																																											
4 シティプラザ	20	22	42																																																																											
5 南部リージョンセンター	4	4	8																																																																											
合計	61	61	122																																																																											
中学校																																																																														
	1年	2年	3年	合計																																																																										
1 北部リージョンセンター	12	12	10	34																																																																										
2 青少年センター	9	5	10	24																																																																										
3 和泉図書館	17	15	16	48																																																																										
4 シティプラザ	24	22	17	63																																																																										
5 南部リージョンセンター	3	6	0	9																																																																										
合計	65	60	53	178																																																																										
(事前評価) 【P】事業の内容	市立学校の小学校5年生から中学校3年生まで(合計300名)を対象に、和泉市の公共施設5会場を利用し、民間教育事業者を活用した学習支援を実施する。																																																																													
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①「参加児童・生徒の個別の習熟状況に合わせた学習や、ICT教材等を用いた学習指導」を行う。</p> <p>②1会場あたり全70回実施するとともに、各受講生徒の出席状況や理解度確認テスト等で現状を把握する。加えて、生徒一人ひとりのつまづきを確認し、改善させることで基礎学力の習得を図る。</p>				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績																																																																									
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値																																																																									
	いずみ希望塾受講回数(一人当たり)		回	70	H28	H29	H30	R1	R2																																																																					
	いずみ希望塾受講人数		人	300	-	35	70																																																																							
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																																																						
	委託料	34,900,000			委託料	34,880,544																																																																								
	会場借上料	2,877,000			会場借上料	3,008,270																																																																								
	計			37,777,000	計				37,888,814																																																																					
	備考				備考																																																																									

成果指標の達成状況		成果指標の達成状況の要因分析																																																																																																																								
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>全国学力・学習状況調査の結果の平均正答率(対全国比)について、小学校・中学校ともに総じて上昇した。</p> <p>【小学校の要因】 きめ細やかな個別児童への学習支援により、前年度と比較して上昇した。いずみ希望塾の受講者は、「家庭学習時間が少ない」という課題に対し、本事業により自学自習力を獲得すると同時に、家庭学習習慣も身につけている。それに伴って学力も着々と定着していると分析している。</p> <p>中学校 h19～h30 正答率(対全国比)</p> <table border="1"> <caption>中学校 h19～h30 正答率(対全国比)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>国語 A</th> <th>国語 B</th> <th>数学 A</th> <th>数学 B</th> <th>理科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>0.962</td><td>0.903</td><td>0.961</td><td>0.883</td><td>0.947</td></tr> <tr><td>H20</td><td>0.967</td><td>0.900</td><td>0.938</td><td>0.880</td><td>0.941</td></tr> <tr><td>H21</td><td>0.947</td><td>0.914</td><td>0.941</td><td>0.889</td><td>0.959</td></tr> <tr><td>H25</td><td>0.959</td><td>0.913</td><td>0.941</td><td>0.870</td><td>0.963</td></tr> <tr><td>H26</td><td>0.963</td><td>0.916</td><td>0.941</td><td>0.898</td><td>0.963</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0.974</td><td>0.930</td><td>0.962</td><td>0.910</td><td>0.974</td></tr> <tr><td>H28</td><td>0.974</td><td>0.918</td><td>0.970</td><td>0.902</td><td>0.974</td></tr> <tr><td>H29</td><td>0.966</td><td>0.929</td><td>0.941</td><td>0.902</td><td>0.966</td></tr> <tr><td>H30</td><td>0.963</td><td>0.931</td><td>0.941</td><td>0.910</td><td>0.963</td></tr> </tbody> </table> <p>【中学校の要因】 小学校同様、全体的に上昇傾向が見られる。定期的で丁寧な個別生徒への学習支援により、自学自習力の向上や家庭学習の習慣を身につけることにより、学力向上につながっていると分析する。</p> <p>小学校 h19～h30 正答率(対全国比)</p> <table border="1"> <caption>小学校 h19～h30 正答率(対全国比)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>国語 A</th> <th>国語 B</th> <th>算数 A</th> <th>算数 B</th> <th>理科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>0.974</td><td>0.932</td><td>0.974</td><td>0.919</td><td>0.947</td></tr> <tr><td>H20</td><td>0.963</td><td>0.927</td><td>0.985</td><td>0.927</td><td>0.963</td></tr> <tr><td>H21</td><td>0.982</td><td>0.972</td><td>0.995</td><td>0.972</td><td>0.982</td></tr> <tr><td>H25</td><td>0.972</td><td>0.946</td><td>0.991</td><td>0.946</td><td>0.981</td></tr> <tr><td>H26</td><td>0.964</td><td>0.925</td><td>0.981</td><td>0.925</td><td>0.964</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0.964</td><td>0.924</td><td>0.964</td><td>0.924</td><td>0.964</td></tr> <tr><td>H28</td><td>0.958</td><td>0.936</td><td>0.979</td><td>0.936</td><td>0.958</td></tr> <tr><td>H29</td><td>0.966</td><td>0.937</td><td>0.966</td><td>0.911</td><td>0.966</td></tr> <tr><td>H30</td><td>0.983</td><td>0.934</td><td>0.991</td><td>0.934</td><td>0.983</td></tr> </tbody> </table>	年度	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科	H19	0.962	0.903	0.961	0.883	0.947	H20	0.967	0.900	0.938	0.880	0.941	H21	0.947	0.914	0.941	0.889	0.959	H25	0.959	0.913	0.941	0.870	0.963	H26	0.963	0.916	0.941	0.898	0.963	H27	0.974	0.930	0.962	0.910	0.974	H28	0.974	0.918	0.970	0.902	0.974	H29	0.966	0.929	0.941	0.902	0.966	H30	0.963	0.931	0.941	0.910	0.963	年度	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	H19	0.974	0.932	0.974	0.919	0.947	H20	0.963	0.927	0.985	0.927	0.963	H21	0.982	0.972	0.995	0.972	0.982	H25	0.972	0.946	0.991	0.946	0.981	H26	0.964	0.925	0.981	0.925	0.964	H27	0.964	0.924	0.964	0.924	0.964	H28	0.958	0.936	0.979	0.936	0.958	H29	0.966	0.937	0.966	0.911	0.966	H30	0.983	0.934	0.991	0.934	0.983
	年度	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科																																																																																																																				
H19	0.962	0.903	0.961	0.883	0.947																																																																																																																					
H20	0.967	0.900	0.938	0.880	0.941																																																																																																																					
H21	0.947	0.914	0.941	0.889	0.959																																																																																																																					
H25	0.959	0.913	0.941	0.870	0.963																																																																																																																					
H26	0.963	0.916	0.941	0.898	0.963																																																																																																																					
H27	0.974	0.930	0.962	0.910	0.974																																																																																																																					
H28	0.974	0.918	0.970	0.902	0.974																																																																																																																					
H29	0.966	0.929	0.941	0.902	0.966																																																																																																																					
H30	0.963	0.931	0.941	0.910	0.963																																																																																																																					
年度	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科																																																																																																																					
H19	0.974	0.932	0.974	0.919	0.947																																																																																																																					
H20	0.963	0.927	0.985	0.927	0.963																																																																																																																					
H21	0.982	0.972	0.995	0.972	0.982																																																																																																																					
H25	0.972	0.946	0.991	0.946	0.981																																																																																																																					
H26	0.964	0.925	0.981	0.925	0.964																																																																																																																					
H27	0.964	0.924	0.964	0.924	0.964																																																																																																																					
H28	0.958	0.936	0.979	0.936	0.958																																																																																																																					
H29	0.966	0.937	0.966	0.911	0.966																																																																																																																					
H30	0.983	0.934	0.991	0.934	0.983																																																																																																																					
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>本事業初回時7月と12月での確認テストの結果(偏差値) (小学生は国語・算数、中学生は英語・数学の2教科合計) 偏差値が上がった児童生徒は、小学6年生では82%、中学3年生では88%であった。9割近くの児童が学力向上につながったことがわかる。なかでも偏差値が5以上上がった児童生徒は、中学3年生は67%、小学6年生では72%となっているため、学力向上が図られている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><小学6年生></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><中学3年生></p> </div> </div>																																																																																																																								
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>事業の方向性</p> <p>今後の事業展開</p> <p>引き続き、1回2時間で年間70回実施し、参加児童生徒の個別の習熟状況に合わせた学習指導を実施する。各受講生徒の出席状況や理解度確認テスト等で現状を把握し、一人ひとりのつまづきを確認しながら、個々に応じたきめ細やかな学習支援を継続することにより、自学自習力や学習習慣の定着を図る。</p>																																																																																																																								

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	06 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり												
成果指標 (KPI)	0603	年度末学校図書館調査における市の児童生徒一人あたりの年間貸出冊数						指標の単位	冊数	総合戦略該当	-		
	参考値 (H26)	小学校	69.8	中間年度の目標値 (R2)		小学校	78.0	最終年度の目標値 (R7)	小学校	85.0	総合戦略の目標値 (R1)	小学校	-
		中学校	15.9			中学校	25.0		中学校	33.0		中学校	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	小	70.1	70.2	70.6	69.8								達成状況
中	16.0	14.8	13.1	12.1									
達成率	小	0.7%	3.4%	0.0%									
中	0.0%	0.0%	0.0%										
備考													
担当課	指導室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 小中学校図書館教育推進事業						地方創生関連交付金事業該当	-			
							和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	小中学校の図書館教育の充実を図り、読書活動に積極的に取り組むことで、知的活動の基盤となる国語能力を向上させることをめざす。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度における学校図書館支援司書の活動実績】 (配置人数) 31人(市内全校に配置) (1人あたりの平均年間活動日数) 190.3日 (主な活動内容) 図書館事務や休み時間の本の貸し出し業務、授業支援のほか、図書購入にあたる選書、子どもたちにとって活用しやすい図書館となるような環境整備並びに子どもに興味を持たせる館内ディスプレイやブックトーク・ビブリオバトルなどの子どもが図書館に来るきっかけづくりのためのイベントなどを企画・運営した。					
(事前評価) 【P】事業の内容	専門的な知識を有する学校図書館支援司書を各小中学校に配置し、児童生徒への指導や図書館の環境整備を行うことにより、読書活動に対する意識を向上させる。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①読書活動の重要性を理解し、各学校での取組みを推進させるため、学校図書館支援司書連絡会や司書教諭連絡会を開催する。 ②学校図書館の活用や充実を図るための図書館活動計画を策定し、学校図書館の活用回数を増加させるなど、利活用を一層促進する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①学校図書館支援司書連絡会(小・中学校とも毎月)を開催し、各校の取組みの共有化に取組むとともに、司書としての技能向上に向けた研修や大学教授による講演会などを実施した。 司書教諭連絡協議会を開催(年2回)し、大阪府教育庁より講師を招聘し、ブックトークやアニメーションなど、様々な読書活動推進の技法の紹介を通して、各校での読書活動推進の方策を考えるとともに学校図書館のあり方や、司書教諭などを含む学校図書館教育に向けた研修を実施した。 ②各校において、年間指導計画・全体計画を作成するとともに、各中学校区ごとの学校図書館教育全体計画を作成し、図書館教育における小中一貫教育の推進と学校図書館の活性化を図った。					
(事前評価) 【P】活動指標						(事後評価) 【D】実績値					
					単位	当該年度の目標値	H28	H29	H30	R1	R2
	「読書が好き」という子どもの割合				%	小6:50.0 中3:43.0	小6:47.5 中3:41.8	小6:47.9 中3:41.7	未実施		
	不読率				%	小6:18.0 中3:43.0	小6:27.5 中3:47.3	小6:25.4 中3:44.7	小6:19.6 中3:44.4		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	報償費	33,299,000				報償費	32,040,360				
	計			33,299,000		計					32,040,360
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>小・中学校とも昨年度に比べて減少した。</p> <p>小学校では、国語の時間に読書の時間を計画的に設定しているなど、図書館を授業時間内に積極的に活用していることが、成果指標の伸びにつながっていたが、新学習指導要領の実施に伴う授業時間数増への対応など、授業時数の増加による子どもたちの負担の軽減と読書の時間をどのように両立させるかが課題である。</p> <p>一方、中学校においては、小学校のような授業での読書時間はなく、また、休憩時間が短いため図書館に行く時間の確保が難しい。併せて、部活動や塾などで忙しく本を読む時間が十分に取れないことも一因になっていると考えられる。この他、学習センターや情報センター機能などを活かした授業での図書館の活用が小学校と比べて少ないことや、子どもたちのスマートフォンの普及が進み、今までの紙媒体から電子書籍へと子どもの行動が変化していることも原因と分析する。</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>貸し出し冊数だけを見ると、小・中学校とも減少しているが、全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙結果より、不読率は小中ともに減少している。これは、各学校図書館等で実施している読書郵便やビブリオバトル等が、児童・生徒がはじめて図書館に来館するきっかけとして機能し、その結果、児童・生徒が読書に親しみをもつようになるという好循環ができつつあると分析する。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	<p>不読率の減少から、子どもの読書活動に対する意識は向上しているが、特に中学校では貸し出し冊数の伸びに結びついていないことが課題である。そのため、中学校の授業において図書館活用を推進していくために、読書センターのみならず、学習センター、情報センター機能の拡充が求められている。ただし、学校現場では「学習センター、情報センター」機能の拡充のための人員が不足しがちなため、司書教諭と学校図書館支援司書の連携を軸に、各センター機能の拡充をめざす。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進														
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実														
重点施策	O6 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり														
成果指標 (KPI)	0604	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙「授業の内容はよく分かりますか」(国語、算数・数学)の肯定的な回答の割合							指標の単位	%	総合戦略該当	-			
	参考値(H26)	小学校	77.2	中間年度の目標値(R2)				小学校	79.0	最終年度の目標値(R7)	小学校	80.0	総合戦略の目標値(R1)	小学校	-
		中学校	69.1	中学校	71.0	中学校	72.0	中学校	-						
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	小	79.1	79.0	80.3	84.5									達成状況	
中	70.6	72.6	68.8	73.3											
達成率	小		0.0%	100.0%	100.0%										
	中		100.0%	0.0%	100.0%										
備考															
担当課	指導室														

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 教職員資質向上事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価)	児童生徒への指導力を向上させるため、教職員の資質や指導力育成を図る。				(事後評価)	【校内研修の実施状況】 実施校数 : 小学校20校、中学校9校、義務教育学校1校 実施回数 : 各学校からの校内研修アンケートの結果から 小学校約8.8回、中学校10.8回、義務教育学校16回 参加延べ人数 : 校内研修は全教員対象				
(事前評価)	【P】事業の目的				(事後評価)	【D】事業実績				
(事前評価)	【P】事業の内容				(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績				
(事前評価)	①学力向上担当者を対象とした「学力向上担当者会」を開催し、家庭における学習習慣の定着に関して、協議する。				(事後評価)	①各学校の学力向上担当者を対象に連絡会を1回実施。全国学力・学習状況調査の結果を分析し、自校の課題解決に向けた授業づくりについて考えることで教職員の指導力向上を図った。				
(事前評価)	②教職員が自らすすんで学び、普段の授業づくりに活用できる研修会の計画を実施する。				(事後評価)	②夏季・冬季休業中に市教委の指導主事や外部講師、各学校の指導教諭等を講師とした研修会を19講座実施し、200名以上が参加。研修を通して教職員の資質向上を図った。				
(事前評価)	③学力向上に向けての情報の収集及び発信を目的とした学校訪問を実施する。				(事後評価)	③学力向上に向けての学校訪問を、全校、前・後期で2回ずつ行った。全教室の授業を参観することで、学力向上に向けての好事例を収集し、教育フォーラムの場で市内全教員に発信した。				
(事前評価)	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
(P) 活動指標	学力向上担当者等を対象とした協議の実施			回	6	H28	H29	H30	R1	R2
	学力向上に向けての学校訪問の実施			回	60	-	-	60		
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
(P) 予算	補助金	3,410,000			(D) 決算	補助金	3,410,290			
	計		3,410,000			計			3,410,290	
	備考					備考				

成果指標の達成状況		成果指標の達成状況の要因分析	
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	(小学校算数 ②前年度より向上) (中学校数学 ②前年度より向上) 【要因分析】前年度より向上した要因の一つとして、子どもたちが、主体的に学び、課題・他者との対話を通じて、自ら振り返る場面を設定するなど、深い学びを実現できるような授業実践が増えてきたことがあげられる。 ※平成30年度の全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問紙に国語の「授業の内容はよく分かりますか」の項目が削除されたため、未記載。	
	(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	事業の評価 評価理由 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季・冬季休業中の研修においては、「早く授業がしたくなった」という感想が多くあり、教職員の資質向上につながった。 ・また、研修内容が、英語教育や人権教育学習、ICT活用プログラミング教育、図工授業づくり、理科実験授業、コーチング、学力向上等、学校のニーズにこたえられるよう多岐に渡る諸課題をテーマに実施することができた。 ・教育フォーラムで各校の学力向上に向けての取組みの様子を紹介したところ「他校の取組みが映像で具体的にみることでわかりやすくて良かった」など意欲の向上が見られた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開	
	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の教職員のスキルアップのため、必要に応じた研修が開催できるよう国・府からの情報を適宜収集する。 ・主体的・対話的で深い和泉の学びプロジェクトとして、市教育委員会が各学校の校内研修に積極的にかわり、継続して授業改善や校内研修の活性化を図る。 	

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進														
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実														
重点施策	06 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり														
成果指標 (KPI)	0605	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「市内の体力合計点」の平均値 対全国比								指標の単位	%	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)	中2・男	0.93	中間年度の目標値(R2)				中2・男	1.01	最終年度の目標値(R7)	中2・男	1.05	総合戦略の目標値(R1)	-	-
		中2・女	0.83	中2・女	1.01	中2・女	1.05	-	-						
		小5・男	0.95	小5・男	1.01	小5・男	1.05	-	-						
		小5・女	0.96	小5・女	1.01	小5・女	1.05	-	-						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	達成状況			
	中2・男	0.95	0.96	0.93	0.95										
	中2・女	0.92	0.95	0.96	0.96										
	小5・男	0.97	0.97	0.98	0.98										
	小5・女	0.97	0.97	0.96	0.97										
達成率	中2・男		10.0%	0.0%	0.0%										
	中2・女		23.1%	30.8%	30.8%										
	小5・男		0.0%	12.5%	12.5%										
	小5・女		0.0%	0.0%	0.0%										
備考															
担当課	指導室														

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 体力・運動能力向上事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価)	児童生徒の健全な心身の育成を図るため、小中学校において、子どもの体力向上を図る取組みを推進する。			(事後評価)			○教職員を対象にした体育研修を開催した。 開催回数 : 2回 対象校数 : 4校 参加教員 : 65人 研修内容 : 主体的に取り組む体育授業の工夫について 等			
(事前評価)	○教職員の資質向上のため、体育にかかる研修を行い、体育授業の充実を図る。 ○昼休み等の短時間で効果のある運動ができるよう環境整備する。			【D】事業実績			○昼休み等に使うことができる運動備品を購入し、子どもの運動を促進した。 (購入備品) トレーニングラダー、ハードル 等 その他、体育主任研修を開催し、本事業の目的を周知した。			
(事前評価)	①教職員の体育指導の資質向上のため、和泉市小学校体育実技研修を開催する。 ②児童の心身の成長と運動技能向上のため、水泳記録会、陸上競技大会を開催する。 ③大阪府の「子どもの体力づくりサポート事業」を活用し、運動指導の専門家による子どもへの指導や、ダンス活動など体力向上の取組みを推進する。			(事後評価)			①教職員を対象とした和泉市小学校体育実技研修を開催し、体づくり運動につながる取組みを教職員に伝えた。参加人数 : 42人 ②陸上競技大会を開催し、それぞれの大会に向けた練習等により、子どもの体力向上につなげた。(水泳記録会は猛暑のため中止) 参加人数 : 陸上競技大会1,072人、 ③「子どもの体力づくりサポート事業」を活用して、運動指導の専門家(大学准教授等)を講師として派遣し、子どもの運動意欲向上につなげた。 (事業内容) ・ダンス講師による「めっちゃスマイル体操」「めっちゃWAKUWAKUダンス」や大学准教授による「ラダーを使った体力を高める運動」等			
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値					
					H28	H29	H30	R1	R2	
【P】活動指標	小5男子の「体育の授業が楽しい」と回答する子どもの割合	%	75.0	70.6	72	74				
	小5女子の「体育の授業が楽しい」と回答する子どもの割合	%	60.0	57.8	56	60				
	中2男子の「体育の授業が楽しい」と回答する子どもの割合	%	40.0	40.6	33	38				
	中2女子の「体育の授業が楽しい」と回答する子どもの割合	%	33.0	26.3	29	26				
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)		内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
【P】予算	報償費	210,000			【D】決算	報償費	45,000			
	消耗品費	216,000				消耗品費	602,909			
	備品費	504,000				備品費	38,999			
	計		930,000			計			686,908	
	備考					備考				

成果指標の達成状況		成果指標の達成状況の要因分析																																
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	<p>本事業で実施した「短時間で実施できる運動」の取組みや、運動についての教員研修など、各学校での取組みの結果、小学校5年生において初めて男女ともに大阪府平均を上回った。また、中学校2年生についても昨年度と比べ、大阪府の平均に近づいている。意欲的に運動する子どもを増やしていくような取組みをすることで体力向上につながっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学5年男子</p> <table border="1"> <caption>小学5年男子 体力合計点 (点)</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>体力合計点 (点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>全国</td><td>54.5</td></tr> <tr><td>大阪府</td><td>53.0</td></tr> <tr><td>和泉市</td><td>53.5</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>小学5年女子</p> <table border="1"> <caption>小学5年女子 体力合計点 (点)</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>体力合計点 (点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>全国</td><td>56.5</td></tr> <tr><td>大阪府</td><td>54.0</td></tr> <tr><td>和泉市</td><td>54.5</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学2年男子</p> <table border="1"> <caption>中学2年男子 体力合計点 (点)</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>体力合計点 (点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>全国</td><td>50.0</td></tr> <tr><td>大阪府</td><td>49.0</td></tr> <tr><td>和泉市</td><td>48.5</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学2年女子</p> <table border="1"> <caption>中学2年女子 体力合計点 (点)</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>体力合計点 (点)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>全国</td><td>42.5</td></tr> <tr><td>大阪府</td><td>41.0</td></tr> <tr><td>和泉市</td><td>40.5</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>	地域	体力合計点 (点)	全国	54.5	大阪府	53.0	和泉市	53.5	地域	体力合計点 (点)	全国	56.5	大阪府	54.0	和泉市	54.5	地域	体力合計点 (点)	全国	50.0	大阪府	49.0	和泉市	48.5	地域	体力合計点 (点)	全国	42.5	大阪府	41.0	和泉市	40.5
地域	体力合計点 (点)																																	
全国	54.5																																	
大阪府	53.0																																	
和泉市	53.5																																	
地域	体力合計点 (点)																																	
全国	56.5																																	
大阪府	54.0																																	
和泉市	54.5																																	
地域	体力合計点 (点)																																	
全国	50.0																																	
大阪府	49.0																																	
和泉市	48.5																																	
地域	体力合計点 (点)																																	
全国	42.5																																	
大阪府	41.0																																	
和泉市	40.5																																	
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>事業の評価 評価理由</p> <p>○運動するための備品などの環境整備を実施し、子どもたちが意欲的に「短時間で継続的な運動」等に取り組める環境づくりを行った。その結果、体力向上を図ることができている。 ○猛暑のため平成30年度水泳記録会は開催できなかったが、陸上競技大会や水泳記録会に向けた練習等を活用して、子どもの体力向上への意欲向上を図った。 ○大阪府の「子どもの体力づくりサポート事業」を活用し、小学校2校がダンス講師による「めっちゃスマイル体操」「めっちゃwakuwakuダンス」や大学准教授による「ラダーを使った体力を高める運動」の指導を受け、運動の機会の充実を図った。</p>																																
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>事業の方向性 今後の事業展開</p> <p>目標達成に向け、本事業を継続しつつ教職員向けの体育実技研修や大阪府の「子どもの体力づくりサポート事業」などの活用を行うことにより、「体育の授業は楽しい」と感じる子どもの割合を増やすよう授業改善に取り組む。また、各学校園の体力合計点数の経年変化を調査分析することにより、効果を挙げている学校の取組みを広く周知し、各学校の取組みに活かす。</p>																																

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	06 社会の変化に対応できる生きる力を育む人づくり												
成果指標 (KPI)	0606	学校給食がおいしいと感じている児童・生徒の割合							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	88			中間年度の目標値(R2)	91		最終年度の目標値(R7)	95		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	91	90	89	90								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	教育総務室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 学校給食充実事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	○児童・生徒の健全な発育のため、文部科学省が示す栄養価の基準値に基づき、栄養バランスのとれたおいしい学校給食を提供する。 ○献立の工夫や食に関する知識の啓発、素材を活かした調理など充実を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【献立作成委員会】 (開催日) 毎月実施(8月を除く年11回) (出席者) 和泉市学校給食会会長、献立担当栄養教諭、栄養士、各校の代表者1名、調理員代表者4名 (内容) ・当月実施した給食の反省等 ・翌々月実施予定の献立の検討				
(事前評価) 【P】事業の内容	○献立作成委員会を開催し、旬の食材や行事食などを取り入れた魅力ある献立を作成する。 ○実施献立の反省や意見を出し合い、今後の献立作成に活かす。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①こんだてひとくちメモなどの発行。 ②行事食の実施。 ③調理員と児童・生徒との交流。 ④計画的に導入を進めているスチームコンベクションオープンを活用し、食材本来のおいしさを引き出す調理を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①「こんだてひとくちメモ」、「給食ニュース」等を各家庭に配付:各11回 ②行事食の提供:8回(七夕、月見、クリスマス、冬至、正月、節分、ひな祭り、卒業祝い) ③調理員と児童・生徒との交流:各学校園の実情に応じて給食時間に巡回して、児童・生徒に声かけし、素材本来の味や食に対する正しい知識を伝えた。 ④スチームコンベクションオープンの活用:献立に応じて積極的に活用(新規導入校:光明台中学校) ⑤献立レシピの紹介:市広報紙及び市ホームページに毎月掲載				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値				
	広報に給食レシピを掲載		件	12	H28	H29	H30	R1	R2	
	ホームページに給食レシピを掲載(新規)		件	12		12	12			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	備品購入費	40,000,000				備品購入費	27,864,000			
	計		40,000,000			計		27,864,000		
	備考	中学校給食施設改修事業			備考	中学校給食施設改修事業				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	②前年度より向上	前年度に比べ、「学校給食がおいしいと感じている児童・生徒の割合」は1%上昇した。調理員と児童・生徒の交流、各学校園の実情に応じて給食時間中での巡回を通しての児童・生徒への声かけ、素材本来の味や食に対する正しい知識を伝えるとともに給食担当教職員より学級担任教職員にクラス全体に積極的な声かけについて協力依頼したことが向上した要因とであると推測している。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	給食担当教職員より学級担任教職員にクラス全体に積極的な声かけについて協力依頼したことが向上した要因とであると推測している。しかし、学校給食は栄養バランスを重視して提供する必要がある、児童・生徒の嗜好のみに合わせた献立にできないことから、給食時間中における食育活動(素材本来の味や食に対する正しい知識、感謝の心の啓発等)を継続し、正しい食生活習慣の必要性について伝えることが重要であると考えている。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	正しい食生活が生活習慣病の予防になるなど健康な体づくりにも影響を及ぼすことを継続して児童・生徒に伝えることが重要であると考えている。このことから、給食時間だけでなく、特別活動や教科と関連させた食育など様々な食育活動と連携し、継続的に素材本来の味や食に対する正しい知識、感謝の心などについて児童・生徒に伝え、給食が「おいしい」と感じられるよう努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進													
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実													
重点施策	07 豊かな心を育む教育の推進													
成果指標 (KPI)	701	自分には、よいところがあると思っている子どもの割合 (学習状況調査 児童・生徒質問紙調査の肯定的回答に基づく)							指標の単位	%	総合戦略該当	-		
	参考値 (H26)	小学校	71.3	中間年度の目標値(R2)			小学校	76.0	最終年度の目標値(R7)	小学校	77.0	総合戦略の目標値(R1)	小学校	-
		中学校	57.0				中学校	63.0		中学校	65.0		中学校	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	小	72.8	74.8	73.6	82.9									
中	55.7	61.3	60.3	67.5										
達成率	小	47.6%	19.0%	100.0%										
中		60.2%	49.5%	100.0%										
備考														
担当課	指導室													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 豊かな心の教育推進事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	学校・家庭・地域の連携によって、お互いの「生命・人格・人権」を尊重し、人を思いやる心を大切にする、人間性豊かな児童・生徒の育成を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	○豊かな心をはぐくむ授業公開 和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開として、道徳の授業公開を保護者及び地域の方を対象に、市内全30校で実施した。地域の方の参加者数は84名で、ほとんどが和泉市在住の方であった。地域の方のアンケートでは、90%以上が肯定的な意見であった。					
(事前評価) 【P】事業の内容	学校・家庭・地域が一体となって「確かな学力を身につけた心豊かな子ども」の育成をめざし、市内全校で豊かな心をはぐくむ授業の公開授業等を実施する。					○和泉市中心豊かな子ども育成連絡会 和泉市中心豊かな子ども育成連絡会を年間2回実施し、地域の方に参加いただいた。「心あたたまるエピソード」を募集し、集まった20点の作品を連絡会で共有した。また、地域の方を「ゲストティーチャー」として招聘した2つの学校について情報共有を行った。					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①全校において「豊かな心をはぐくむ授業公開」を実施し、あわせて大阪府の「道徳教育推進事業」を受けている学校では、外部講師を招聘し、講演会を実施する。 ②和泉市道徳教育推進教師研修会において、道徳の公開研究授業や教材研究を実施することで、教員の道徳教育における資質向上を図る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①大阪府の「道徳教育推進事業」を受けている学校において、大阪教育大学名誉教授の藤永芳純氏を講師招聘し、市内教職員及び保護者、地域の方を対象に「道徳の授業と評価について」をテーマに講演会を実施した。 ・講演会の実施校数 1校 ・保護者以外の参加者数 175人 また、「豊かな心をはぐくむ授業公開」については、和泉市のホームページや広報いずみなどを用いて、広く市民に周知した。 ②和泉市道徳教育推進教師研修会を6回実施した。(研修会参加人数 183人) 研修内容:各学校の道徳教育推進教師を対象に「考え議論する道徳」や、「授業と評価について」、「すべての児童生徒が参加できる道徳の授業づくり」等をテーマに設定し、研修会を実施した。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	和泉市道徳教育推進教師研修会の実施回数			回	6	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	報償費	225,000				報償費	172,500				
	消耗品費	65,000				消耗品費	65,000				
	会場借上費	22,000				会場借上費	13,750				
	計			312,000		計				251,250	
	備考					備考					

成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析	
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R1目標を達成	「和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開」や「和泉市心豊かな子ども育成連絡会」の実施により、学校・家庭・地域における道徳教育に対する共通理解が図られ、今年度は「自分には、よいところがあると思っている」という子どもの割合が、大幅に増加し、「H32年目標」も達成することができた。道徳の教科化により、教職員の意識も高まり、年間6回実施した和泉市道徳教育推進教師研修会の参加者も昨年度より23人増加した。このような取組みを継続してきたことが、目標達成の要因である。
事業の評価	評価理由	
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	これまでの「和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開」や「和泉市心豊かな子ども育成連絡会」といった道徳的な取組みの継続が、子どもたちの自己肯定感の向上につながった。また、地域の方をゲストティーチャーとして招聘した道徳授業を通して、子どもたちと地域の方との距離が縮まり、豊かな心をはぐくむ取組み面で効果的であった。
事業の方向性	今後の事業展開	
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	次年度も「和泉市豊かな心をはぐくむ授業公開」や「和泉市心豊かな子ども育成連絡会」の実施を継続していくことで、地域・家庭・学校が連携を深め、子どもたちの自己肯定感を社会全体で育てる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	07 豊かな心を育む教育の推進												
成果指標 (KPI)	0702	小学校におけるいじめ解消率							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	86			中間年度の目標値(H32)	90		最終年度の目標値(H37)	95		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	78	95	95	69								達成状況	
達成率	100.0%		100.0%	0.0%									
備考													
担当課	指導室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 市スクールカウンセラー派遣事業				地方創生関連交付金事業該当	-				
					和泉躍進プラン(案)該当	○				
(事前評価) 【P】事業の目的	小学校において、児童や保護者、教職員を対象にした教育相談体制の充実を図ることにより、児童の問題行動等の課題解決をめざす。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度 文部科学省における「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」】 ・いじめ認知件数 357件 ・上記のうち解消している件数 248件				
(事前評価) 【P】事業の内容	臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する者等をスクールカウンセラーとして配置し、児童や保護者、教職員を対象に教育相談を行う。 (市内中学校・義務教育学校には、大阪府のスクールカウンセラーが配置される。)					【平成30年度の市スクールカウンセラー活動実績】 ・配置校 16校(新規配置校 鶴山台南小学校) (平成29年度 15校) ・配置回数 各校年間10回×7時間 ・相談件数 1,419件(平成29年度 1,316件) ・相談人数 延べ2,025人(平成29年度 1,832人)				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①スクールカウンセラーの活動における取組みについて、検討・情報共有するため、連絡会・研修会を実施する。 ②各派遣校の管理職やスクールカウンセラーと面談を行い、活動を支援するため、指導主事が各派遣校を訪問する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①スクールカウンセラー連絡会の実施 ・年間3回の連絡会において、事例検討や子ども家庭センターや警察などの関係機関との連携について、情報共有や協議を実施し、教育相談の充実にいかした。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと市適応指導教室担当が、スクリーニングシートについて研修・協議を行い、問題行動や不登校の未然防止の取組みについて、理解を深めた。 ②指導主事による各派遣校の訪問 ・各派遣校の管理職やすべてのスクールカウンセラーと面談を行い、専門家の活用について指導・支援を行うことで、派遣校での教育相談の推進につながった。相談室での来室相談対応だけでなく、積極的に各教室での観察等を行い、専門家の視点での支援方法の検討を教職員と行うことが出来た。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値			
	市費スクールカウンセラーの相談件数			件	1,300	1,314	1,316	1,419		
	市費スクールカウンセラーの配置校数			校	16	14	15	16		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	6,160,000				報償費	6,160,000			
	計			6,160,000		計			6,160,000	
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	各小学校における「いじめの認知」について、軽微な事案や疑いの事案も含め、日頃の子どもたちの小さなサインを見逃さないよう指導を行うとともに、子どもたちへのアンケートを定期的に行うことで積極的に「いじめ」を認知し、スクールカウンセラー等の専門家と連携し、組織的に早期対応を行った。しかし、文部科学省のいじめの基本方針の改定により、いじめの解消に関する要件について、「いじめが止んでいる状態が相当な期間継続している」等、安易に解消と判断しないこととなっており、1月から3月に認知したいじめに関して、年度内に一定の経過期間がとれず、解消したと判断することができないため、現段階では前年度と比較して低いいじめの解消率となっている。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	相談件数は、前年度(平成29年度)1,316件から今年度(平成30年度)1,419件へ103件の増加であった。スクールカウンセラー連絡会や研修会における事例検討等により、校内でのいじめ事案や不登校児童や保護者、教職員の相談にいかすことができ、問題行動等の課題解決に向けた取組みが実施できた。さらに、指導主事による各配置校への訪問により、来室相談対応だけでなく、事案対応や児童観察による専門家の分析等を積極的にすすめることができた。市内小学校へのスクールカウンセラー配置校を増やしたことで、児童生徒による問題行動等の背景に寄り添う意識が教職員により浸透したことにより、きめ細かくこれらの問題行動等への未然防止や早期対応を行うことができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	スクールカウンセラーを未配置の小学校には、その小学校区の中学校に配置しているスクールカウンセラーで対応しているが、時間的制約や中学校での予約で埋まることも多く、引き続き、市内小学校の教育相談体制の充実のため、全小学校へのスクールカウンセラー配置に向けて、さらに拡充していく。また、スクールカウンセラーの配置を拡充することで、相談室での児童生徒及び保護者へのカウンセリングだけでなく、教職員に対する助言・援助、校内研修会・ケース会議への参画など、予防的な取り組みにつなげていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	O7 豊かな心を育む教育の推進												
成果指標 (KPI)	0703	市内小中学校の不登校児童生徒数の割合						指標の単位	千人率	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)	小学校	4.5	中間年度の目標値(H32)		小学校	4.4	最終年度の目標値(H37)	小学校	4.3	総合戦略の目標値(R1)	小学校	-
		中学校	38.2	中学校	33.5	中学校	30.0		中学校	-			
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	小	7.0	5.3	5.5	6.2								達成状況
中	34.5	41.1	30.6	34.0									
達成率	小		63.0%	55.6%	29.6%								
	中		0.0%	86.7%	11.1%								
備考													
担当課	指導室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 不登校対策・相談支援事業						地方創生関連交付金事業該当	-		
							和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	不登校傾向等の問題を抱える児童生徒や保護者に適切な支援を行い、学校復帰を支援する。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度の不登校児童・生徒数】 ・小学校 70人(1年4人、2年2人、3年6人、4年13人、5年19人、6年26人) ・中学校 179人(1年36人、2年64人、3年79人)				
(事前評価) 【P】事業の内容	①問題を抱える児童生徒や保護者に対して、臨床心理士が、カウンセリングを行い課題解決につなげる。 ②発達障がい等で、個に応じた支援の必要な児童生徒に対して、臨床心理士が発達検査を行い、行動改善の取組みにつなげる。 ③適応指導教室に通う不登校の児童生徒に対して、学生等ボランティア指導員による学習支援や、自主活動支援における交流を通して、学校復帰につなげる支援を行う。					【平成30年度の事業実績】 ①カウンセリング(カウンセラー2名) ・相談件数 96件 ②発達検査(発達診断士2名) ・検査件数149件 ・発達診断士による検査を実施し、保護者及び担任に子どもの状況に応じた支援措置を求めた。 ③和泉市教育センター学生等ボランティア指導員(3名) ・指導日数:122回(1回 半日) ・児童生徒が、自学自習を行う際の個別支援を行い、学習理解の定着を図るとともに、自主性や社会性を育てる活動に参加した。				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①臨床心理士のカウンセリング結果を、児童生徒の担任や学校配置スクールカウンセラーに情報提供し、必要な措置を求める。 ②不登校の児童・生徒を抱える保護者対象の懇談会を開催する。 ③各学校の不登校担当教員に対し、関係機関との連携や未然防止の取組み等について研修を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①本事業のカウンセラーが、学校の教職員や学校に配置されているスクールカウンセラーと連絡を取り合い、一人ひとりの子どもの課題解決につながるきめ細かい支援につなげた。 ②懇談会について、各学校へ案内を送付し、同じような悩みを持つ保護者どうしがつながる場を提供し、カウンセラーからアドバイスをもらった。 ・開催回数 3回(各学期毎に1回) ・保護者参加者数25人(1学期9人、2学期11人、3学期5人) ③不登校担当教員連絡会の開催(年4回)…各学校の担当者(30名)が参加				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値				
	各学校園が行うケース会議への教育センター職員の参加		回	30	H28	H29	H30	R1	R2	
	適応指導教室在籍児童生徒の学校復帰率(併用含む)		%	83	80	86	80			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	3,560,000				報償費	3,041,500			
	役務費	19,000				役務費	18,900			
	計			3,579,000		計				3,060,400
	備考					備考				

成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析																																																																																																									
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学校</p> <table border="1"> <caption>小学校の児童数 (推定)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>小1</th><th>小2</th><th>小3</th><th>小4</th><th>小5</th><th>小6</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>11</td><td>16</td><td>16</td><td>59</td></tr> <tr><td>H25</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>17</td><td>17</td><td>66</td></tr> <tr><td>H26</td><td>9</td><td>7</td><td>7</td><td>20</td><td>15</td><td>15</td><td>73</td></tr> <tr><td>H27</td><td>5</td><td>9</td><td>14</td><td>13</td><td>34</td><td>13</td><td>88</td></tr> <tr><td>H28</td><td>8</td><td>10</td><td>9</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>72</td></tr> <tr><td>H29</td><td>9</td><td>17</td><td>15</td><td>19</td><td>19</td><td>19</td><td>98</td></tr> <tr><td>H30</td><td>4</td><td>6</td><td>13</td><td>19</td><td>26</td><td>26</td><td>94</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学校</p> <table border="1"> <caption>中学校の児童数 (推定)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>中1</th><th>中2</th><th>中3</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>61</td><td>66</td><td>63</td><td>190</td></tr> <tr><td>H25</td><td>52</td><td>91</td><td>81</td><td>224</td></tr> <tr><td>H26</td><td>61</td><td>69</td><td>100</td><td>230</td></tr> <tr><td>H27</td><td>41</td><td>87</td><td>74</td><td>202</td></tr> <tr><td>H28</td><td>71</td><td>72</td><td>91</td><td>234</td></tr> <tr><td>H29</td><td>27</td><td>70</td><td>70</td><td>167</td></tr> <tr><td>H30</td><td>36</td><td>64</td><td>79</td><td>179</td></tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>平成29年度と比較すると、小学校・中学校とも不登校児童生徒の割合が増加した。しかし、中学校においてはここ数年は低い水準にある。特に小学6年から中学1年における増加が低く抑えられている。これは不登校の兆候をいち早くつかみ、初期対応に努めた結果と考えられる。しかし、小学校については高学年において増加傾向が見られ、長期の欠席者も増えている。低学年で何らかの兆候が見られる場合もあり、欠席日数が比較的少ないうちから個に応じた支援を行う必要がある。</p>	年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計	H24	4	5	7	11	16	16	59	H25	5	8	7	12	17	17	66	H26	9	7	7	20	15	15	73	H27	5	9	14	13	34	13	88	H28	8	10	9	15	15	15	72	H29	9	17	15	19	19	19	98	H30	4	6	13	19	26	26	94	年度	中1	中2	中3	合計	H24	61	66	63	190	H25	52	91	81	224	H26	61	69	100	230	H27	41	87	74	202	H28	71	72	91	234	H29	27	70	70	167	H30	36	64	79	179
年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計																																																																																																			
H24	4	5	7	11	16	16	59																																																																																																			
H25	5	8	7	12	17	17	66																																																																																																			
H26	9	7	7	20	15	15	73																																																																																																			
H27	5	9	14	13	34	13	88																																																																																																			
H28	8	10	9	15	15	15	72																																																																																																			
H29	9	17	15	19	19	19	98																																																																																																			
H30	4	6	13	19	26	26	94																																																																																																			
年度	中1	中2	中3	合計																																																																																																						
H24	61	66	63	190																																																																																																						
H25	52	91	81	224																																																																																																						
H26	61	69	100	230																																																																																																						
H27	41	87	74	202																																																																																																						
H28	71	72	91	234																																																																																																						
H29	27	70	70	167																																																																																																						
H30	36	64	79	179																																																																																																						
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<div style="text-align: center;">事業の評価理由</div> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、適応指導教室に入室する児童生徒について各学校で行うケース会議に教育センター職員が参加し、学校復帰に向けた支援の方策について確認した。その結果、適応指導教室在籍児童生徒が在籍中に1度でも学校へ登校することができた割合は、80%であった。 ・成果指標や活動指標としては昨年度と比較して減少となったとはいえ、本事業の取組みがさらなる減少を防いでいる側面があると考えている。 ・カウンセリングや発達検査を通して得られた児童・生徒への支援手法については、保護者及び学校教職員と共有するため、綿密に連絡を取り合い、一人ひとりの子どもに対するきめ細やかな支援体制づくりにつなげることができた。 																																																																																																								
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<div style="text-align: center;">今後の事業展開</div> <ul style="list-style-type: none"> ○適応指導教室に在籍している児童生徒の取組み事例等について、各校の不登校担当教員に研修等を通して発信し、さらに市内全教員へと広め、教員の対応力の向上を図る。 ○小学校の不登校が増加しつつある状況を踏まえ、低学年から子どもの状態を一人ひとりしっかりと把握し、気になる子どもや家庭について、校内や中学校区で情報共有ができるよう学校訪問を通じて働きかける。 ○適応指導教室に通う児童生徒については、学校が作成した支援計画をもとに、適応指導教室指導員(非常勤職員)が中心となり、学生等ボランティアを活用しながら個に応じた支援を行っている。今後も、支援の方針について常に学校と連絡を取り合いながら、児童生徒の学校への復帰をめざす。 																																																																																																								

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	07 豊かな心を育む教育の推進												
成果指標 (KPI)	0704	子ども一人当たりの市立図書館児童図書貸出冊数							指標の単位	冊	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	16			中間年度の目標値(R2)	20		最終年度の目標値(R7)	23		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	17	17	16	17								達成状況	
達成率		0.0%	0.0%	0.0%									
備考													
担当課	読書振興課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 子どもの読書活動推進事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	○					
(事前評価)	子どもたちが読書を通じ生きる力を育めるよう、子どもの頃から読書に親しめる環境づくりに取り組む。		【P】事業の目的	【平成30年度の子どもの利用実績】 ・18歳以下の貸出点数(個人):316,505点(平均9.2点) (H29:294,874点(平均8.4点)) ・18歳以下の人口:34,449人(H29:35,262人)					
(事前評価)	①子どもの読書活動推進協議会を開催し、子どもの読書活動の推進に係る取組みについて、議論を行う。 ②絵本を親子のスキンシップに活用してもらうため、乳幼児健診という場を活用して絵本の有用性の理解を深めてもらうとともに、図書館の利用案内を行う。(ブックスタート事業の実施。) ③子どもが図書館に行ってみたいと思うきっかけとなるような行事や講演会を実施し、貸出数の増加につなげる。 ④読み聞かせボランティアの育成、技術の向上のための講座を実施し、図書館ボランティアの活動の充実を図る。								
(事後評価)	【D】事業実績		①子どもの読書活動推進協議会を1回開催し、平成29年度子どもの読書活動推進に関する事業報告、第2次和泉市子どもの読書活動推進計画における成果と数値目標結果の報告を行った。 ②ブックスタート事業を実施した。 ・4か月児健診時(絵本配付)1,250人配付/1,252人対象 ・1歳6か月児健診時(読み聞かせ等)1,312人/1,343人対象 ・3歳6か月児健診時(読み聞かせ等)1,418人/1,542人対象 ③講演会等の開催 ・中高生向け「万城目学氏講演会:ようこそ!万城目ワールドへ」 参加人数:108人 ・親子向け「鈴木のりたけ氏講演会:トークショー&ミニワークショップ」 参加人数:80人 ④大人のための絵本講座の開催(全3回) 延べ参加人数:48人						
(事前評価)	【P】事業の内容		【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①和泉市子どもの読書活動推進計画策定委員会による検討を重ね、第3次和泉市子どもの読書活動推進計画を策定した。令和元年度から概ね5年間で、子どもの読書活動推進のために計画の進行管理をしていく。 ②平成30年11月4日から、読んだ本の書名等を通帳に印字できる「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)を市内の図書館に導入した。 発行冊数:2,618冊					
(事後評価)	【P】成果指標向上のための具体的な取組								
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
【P】活動指標	小学校未満の実利用率※		%	18	H28	H29	H30	R1	R2
	※1年間に1度でも図書館を利用した人数の割合				17	16	19		
	小学生の実利用率				43	40	38	39	
	中高生の実利用率				20	18	17	17	
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
【P】予算	報酬	168,000	使用料	63,000		報酬	144,000	使用料	49,930
	報償費	529,000	読書記録帳導入費	4,000,000		報償費	490,000	読書記録帳導入費	3,940,920
	需用費	175,000				需用費	156,391		
	計		4,935,000			計		4,781,241	
備考			備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)を市内の図書館に導入したことにより、子どものうち、特に小学生以下の新規登録者が増えた(H30:1,904人/H29:1,506人)ことや、18歳以下の実利用人数も増え(H30:24.9%/H29:23.9%)、子どもの一人当たりの貸出冊数の増加(H30:9.2点/H29:8.4点)に繋がったことが向上した要因と考えられる。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)を市内の図書館に導入したことが最も効果的であったと考えられる。より多くの人に「ぶっくんつうちょう」を知ってもらうために、市内の金融機関に協力を依頼し、子どもに無料で配布する特典を提供していただいたほか、広報活動にも力を入れ、広報の特集やプレスリリースし新聞等で取り上げられた結果、広報後の平成30年12月と昨年の同月とを比較すると、図書館の新規登録者数が2.3倍(H30年12月:331人/H29年12月:139人)に増加した。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)をより多くの子どもに周知し市立図書館の利用を促すとともに、子どもの読書振興について平成31年3月に策定した「第3次和泉市子どもの読書活動推進計画」に基づき今後、概ね5年間で進行管理を行う。また、計画の目標達成に向け、市立図書館と学校図書館の連携が不可欠であることから、今後は指導室と協議を重ね、互いに協力しながら、新たな事業展開について検討していく必要がある。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	08 国際社会の中で活躍する人材の育成												
成果指標 (KPI)	0801	市内全中学校3年生の英語能力検定3級以上取得率							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	8.0		中間年度の目標値(R2)		32.5		最終年度の目標値(R7)		50.0		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	12.0	11.0	15.6	14.6								達成状況	
達成率		0.0%	9.5%	6.8%									
備考													
担当課	指導室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 英語能力検定推進事業		地方創生関連交付金事業該当	-																																								
			和泉躍進プラン(案)該当	-																																								
(事前評価)	生徒の英語学習への動機付け、客観的な英語力の確認に活用し、義務教育終了段階で「身近な英語を理解し、また使用することができる生徒」を育成する。		(事後評価)	【英検受験者数及び合格者数】																																								
【P】事業の目的				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> </tr> <tr> <th>受験者</th> <th>合格者</th> <th>受験者</th> <th>合格者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1級</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>準1級</td> <td>5人</td> <td>-</td> <td>5人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>2級</td> <td>48人</td> <td>12人</td> <td>68人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>準2級</td> <td>109人</td> <td>37人</td> <td>159人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td>728人</td> <td>248人</td> <td>697人</td> <td>207人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>890人</td> <td>297人</td> <td>930人</td> <td>267人</td> </tr> </tbody> </table>				平成29年度		平成30年度		受験者	合格者	受験者	合格者	1級	-	-	1人	0人	準1級	5人	-	5人	0人	2級	48人	12人	68人	10人	準2級	109人	37人	159人	50人	3級	728人	248人	697人	207人	合計	890人	297人	930人
	平成29年度		平成30年度																																									
	受験者	合格者	受験者	合格者																																								
1級	-	-	1人	0人																																								
準1級	5人	-	5人	0人																																								
2級	48人	12人	68人	10人																																								
準2級	109人	37人	159人	50人																																								
3級	728人	248人	697人	207人																																								
合計	890人	297人	930人	267人																																								
(事前評価)	年間1回、学校を通じて、英検3級以上の検定試験を受験する生徒の検定料を市が負担する。 ・対象者: 市内在住の中学校3年生 ・検定料: 3,800円~8,400円 ※級に応じて金額が異なる ・受験方法: 本会場又は準会場 ・準会場実施条件 ①学校教育法に定める学校 ②2~5級の志願者数の合計が10名以上		(事後評価)	【D】事業実績																																								
【P】事業の内容			(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績																																								
(事前評価)	①英語科教員に対して、「英語の授業を英語で行う」ことの定着を図るべく、授業改善推進教員による「英語による授業」の授業公開、研修会を実施する。 ②校長会や英語教員の部会等で生徒の英語力把握の必要性や、その結果を指導に反映させる有効性などを説明するほか、英検の受験啓発を行う。		(事後評価)	① 授業改善推進リーダー教員による「英語による授業」を主題とした公開授業を3回、研修会を5回実施した。授業における英語の使用状況についての意識調査では、全ての教員が授業での発話を50%以上英語で行っている結果となった。 ②毎月の校長会や各校に配置している外国語担当教員の連絡会議(年3回)、和泉市中学校教育研究部会、市発行の「和泉市外国語教育通信」等を通して継続的に英検の受験啓発を実施した。																																								
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値																																							
【P】活動指標	授業における教員の説明や指示等、発話の50%以上が英語である割合		%	100.0	H28	H29	H30	R1	R2																																			
	英語検定の受験率		%	50.0	35.7	46.8	50.8																																					
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																				
【P】予算	委託料	3,710,000			委託料	3,442,180																																						
	計		3,710,000	【D】決算	計		3,442,180																																					
	備考				備考																																							

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	英検の受験者数は前年比40人増加、合格者数は前年比30人減少であった。また、合格率についても前年度比で1ポイントの減少となった。 要因としては、英検3級の受験割合が前年81.8%に対し74.9%へ減少し、準2級以上の受験割合が前年18.2%から25.0%へと増加していることから、より難度の高い級を受験するようになったことが考えられる。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	公開授業や研修会の継続的な取組みにより、「英語による授業」の実施に向けた授業改善が図られている。その結果、授業における生徒の英語使用量も増えており、単に知識としてだけでなく、実際に活用できる技能としての英語の必要性を体感することにより、英検受験者数の増加につながっていると考えられる。また、英検準2級以上の受験率が増加していることから、より高い技能の獲得に向けた意欲、関心が高められている。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	○英検以外の外部検定(GTEC、TOEIC、TOEFLなど)の活用も検討し、将来に向けて必要とされる英語能力の判定方法などについて、外国語担当教員の連絡会や研修会などを通して、情報発信を行っていく。 ○生徒の英語活用の意欲向上に向けては、授業改善を一層推進することが不可欠であることから、英語科教員の「英語の授業を英語で行う」ことの定着を図るべく、学識と連携した公開授業や研修会を年間を通じて行うなど更なる取組みの充実を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実											
重点施策	08 国際社会の中で活躍する人材の育成											
成果指標 (KPI)	0802	交換学生派遣事業参加者の国際交流事業等参加率							指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	50		最終年度の目標値(R7)	70		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	-	5	30	19								達成状況
達成率	7.1%		42.9%	27.1%								
備考												
担当課	人権・男女参画室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 交換学生派遣事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価)	他国の伝統及び自然・文化等に接し、人々と交流することを通して相互理解と友好親善を深め、国際感覚を養うことにより、国際化に対応できる人材を育成する。		(事後評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・11/25 姉妹都市提携25周年記念シンポジウム 1名 ・6/22 交換学生派遣事前研修会 1名 ・国際交流ニュース寄稿 No.51号・52号・54号 1名 					
(事前評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市アメリカ・ミネソタ州ブルーミントン市と高校生・大学生の相互派遣を行う。 ・H30年度は和泉市の学生をブルーミントン市へ派遣する。 		(事後評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○交換学生を募集し、6名の学生を選考した。 応募:高校生14名・大学生10名 決定:高校生2名・大学生4名 ○交換学生を対象に、事前研修を4回開催(主な研修内容) ・交換学生としての心構え ・和泉市や日本をPRするためのパフォーマンス準備 ・過去の派遣事業参加者との座談会 ・ALTによる英語レッスン ○プログラム内容 ・期間:8月8日～22日 ・派遣者数:8名(引率2名含む) ・主な訪問先、内容など ノーマンディールコミュニティカレッジ、市長表敬訪問等 					
(事前評価)	<p>①選定の工夫</p> <p>市の代表として、積極的に国際交流に関わる意欲のある学生に参加してもらえるよう、公平かつ厳正に選考を行う。</p> <p>②事前研修の充実</p> <p>市の代表としての自覚を持ち、市や日本の文化を現地情報発信できるように課題を与え、グローバル人材とは何か、自ら考えさせる事前研修にする。</p> <p>③事後報告会の開催</p> <p>参加後すぐにレポートを提出させ、報告集を作成すると共に、事後報告会で発表する機会を設け、体験を分かち合い、参加者自身の達成感・満足感を高める。</p> <p>④姉妹都市提携25周年記念シンポジウムの開催</p> <p>姉妹都市提携25周年を記念して、シンポジウムを開催する。</p> <p>⑤交換学生による「国際交流ニュース」への寄稿</p> <p>交換学生に、自主的な国際交流の取組みについて寄稿してもらう。</p> <p>⑥交換学生派遣事業参加者への国際交流事業等への参加呼びかけ</p> <p>交換学生派遣事業参加者へ国際交流事業等への参加を呼びかける。</p>		(事後評価)	<p>①選定の工夫</p> <p>「市の代表としての自覚」「国際交流への自発的な意欲」等を問う面接・作文を課し、厳正な審査を行った結果、意欲溢れる学生達が集まった。</p> <p>②事前研修の充実</p> <p>事前研修において、日本とアメリカの文化を学び、異文化への理解と関心を深めるとともに、交換学生としての自覚や意欲を高めることができた。</p> <p>過去の派遣学生に参加してもらい、アドバイスをもらうことで経験を活かしてもらった。</p> <p>③報告書の作成</p> <p>参加後レポートを提出させ、報告集を作成したことによって、学んだことを共有した。</p> <p>④姉妹都市提携25周年記念シンポジウムの開催</p> <p>姉妹都市提携25周年を記念して、シンポジウムを開催した。</p> <p>【日時】11月25日</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生をテーマにした講演 講師:ブルーミントン市議会議員/桃山学院教育大学准教授 ・交換学生による姉妹都市交流のあゆみ紹介 ・交換学生による「国際交流ニュース」への寄稿 <p>H28年交換学生に、世界旅行の体験を「国際交流ニュース」へ寄稿してもらった。</p> <p>【掲載号】No.51号・52号・54号</p> <p>⑥交換学生派遣事業参加者への国際交流事業への参加呼びかけ</p> <p>事業の案内通知に加え、学生たちがアクセスしやすいライングループも活用し、参加者を募った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内回数4回 内訳:姉妹都市提携25周年記念シンポジウム、交換学生派遣事前研修会、多文化共生推進研修、外国人防災バスツアー 					
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
(事後評価)	国際交流事業参加者募集に関する案内回数		回	4	H28	H29	H30	R1	R2
(事後評価)	活動指標				1	1	4		
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
(事後評価)	報償	2,000			(事後評価)	報償	2,000		
(事後評価)	旅費	313,000	印刷製本費	125,000	(事後評価)	旅費	264,308	印刷製本費	75,816
(事後評価)	消耗品費	109,000	委託料	2,896,000	(事後評価)	消耗品費	30,552	委託料	1,716,876
(事後評価)	食糧費	1,000	使用料	88,000	(事後評価)	食糧費	248	使用料	50,780
(事後評価)	計			3,534,000	(事後評価)	計			2,140,580
(事後評価)	備考				(事後評価)	備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>国際交流事業等参加者数は、対象者16名(H28年度参加者10名、H30年度参加者6名)のうち、3名であった。 交換学生派遣は隔年事業であり、今年度は派遣の年であるため、受入れの年と比べると学生の歓迎パーティやツアーなどの参加してもらいやすい行事が少なかった。</p> <p>【参加者内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市提携25周年記念シンポジウム(11/25) 1名 ・交換学生派遣事前研修会(6/22) 1名 ・国際交流ニュース寄稿 No.51号・52号・54号 1名
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>参加率は上記の理由で減少したものの、姉妹都市提携25周年記念シンポジウムにおいて、派遣生に英語によるプレゼンを行ってもらい、姉妹都市交流事業のPRに寄与した。 また、過去の派遣生に、世界一周旅行の体験を国際交流ニュースに寄稿いただくことで、自主的な国際交流活動を継続している一例として、広く情報発信することができた。</p>
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・交換学生事前研修などで、派遣後の国際交流事業への参加についても理解を深めておく。 ・本事業で得た経験や知識、意欲を積極的に活かしてもらえるような派遣プログラムの内容とする。 ・SNSなども活用して参加を呼びかけるなど、周知に努め、参加率の向上を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第2節 社会に貢献できる人材輩出に向けた教育環境の充実												
重点施策	08 国際社会の中で活躍する人材の育成												
成果指標 (KPI)	0803	「日本と世界の子ども作品展」応募作品数(市内)							指標の単位	点	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	27			中間年度の目標値(R2)	38		最終年度の目標値(R7)	40		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	35	37	25	49								達成状況	
達成率	40.0%		0.0%	100.0%									
備考													
担当課	人権・男女参画室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 日本と世界の子ども作品展事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	友好姉妹都市の子ども達と作品の交換・展示を行う芸術を通じた国際交流により、文化の多様性に気づき国際交流に関する理解や関心を深め、次代を担う子ども達の国際感覚を養う。				(事後評価)	開催期間:平成30年11月10・11日(土・日) 開催場所:和泉シティプラザ3階学習室1A・B 作品課題:地球環境問題、世界平和、国際交流					
(事前評価) 【P】事業の内容	市内の子ども達が、友好都市・中国江蘇省南通市及び姉妹都市・米国ミネソタ州ブルーミントン市の子ども達と絵画や書道等の作品の交換・展示を行う。				【D】事業実績	応募作品数:和泉市 49点 友好都市 中国江蘇省南通市 39点 姉妹都市 米国ミネソタ州ブルーミントン市 69点					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①作品募集にあたっての工夫 ・応募者を増加させるために、児童・生徒への作品応募の働きかけについて、市内校・園長会で協力要請を行う。特に小学校の夏季休暇中の自由課題への採用を依頼する。 ・応募の増加につながるよう、募集期間を設定する。 ・一校(園)当たりの応募上限数を引き上げる。 ②作品展の周知 ・各種媒体を活用した周知の実施				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①作品募集にあたっての工夫 ・4月当初の校・園長会で協力要請を行った ・夏休みの課題にして頂きやすいよう、募集期間を夏休み直後からの約1ヶ月間とした ・一校(園)当たりの応募上限数を2点から6点に引き上げた ②作品展の周知 ・来場者を増やし、作品展の認知度を上げるため、広報いずみ・いずみメール・市のツイッターやフェイスブックを通じて周知を図った ・和泉市国際交流ニュースに作品展の記事を掲載し、周知を図った					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	応募者数			人	390	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	消耗品費	150,000				報償費	15,000				
	使用料	35,000				消耗品費	57,044				
						使用料	39,000				
	計			185,000		計					72,044
	備考				備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	<p>校長会での協力要請を夏休み課題に間に合うよう年度初めにしたことと、一校(園)当たりの応募上限数を2点から6点に引き上げたことにより、小学校の作品数が昨年10点から28点へ増加、中学校の作品も1点から7点へ増加した。</p> <p>【応募作品数内訳(市内)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園 5点 ・小学校 28点 ・中学校 7点
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	<p>学校・園への参加働きかけにあたり、友好姉妹都市の子ども達と作品の交換・展示を行う芸術を通じた国際交流である魅力を伝えることができ、たくさん子どもたちに参加してもらえた。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・校・園長会PR時に作品展の写真を用いたチラシを作成し、作品展のイメージを伝えることで、芸術を通じた国際交流の魅力についてPRする。 ・作品展への応募促進のためにも、広報いずみ、和泉市国際交流うニュース、市のSNS(ツイッター・Face book・いずみメール)等で今後も継続的に周知を図る。 ・来年度以降も早期に校・園長会で協力依頼し、一人でも多くの参加者を獲得する。

第1章 定住の促進

第3節 一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援

- 09 知識・経験を生かして地域に貢献する人材の育成
- 10 豊かな創造性と郷土愛を育む文化・芸術の振興

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援												
重点施策	09 知識・経験を生かして地域に貢献する人材の育成												
成果指標 (KPI)	0901	各種生涯学習講座等の年間参加者数 (和泉市コミュニティセンター、和泉シティプラザ、和泉市生涯学習サポート館、和泉市立青少年の家)							指標の単位	人	総合戦略該当		○
	参考値(H26)	40,034		中間年度の目標値(R2)		45,000		最終年度の目標値(R7)		46,000		総合戦略の目標値(R1)	44,000
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	41,485	42,401	37,957	43,979								達成状況	
達成率		20.3%	0.0%	55.2%									
備考													
担当課	生涯学習課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 生涯学習活動促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-						
			和泉躍進プラン(案)該当	-						
(事前評価) 【P】事業の目的	市民の生涯学習意欲の醸成をはかるため、生涯学習センターをはじめとする生涯学習施設での生涯学習情報の収集・提供体制の充実や施設相互の連携体制の強化に取り組む。		(事後評価) 【D】事業実績	各施設の指定管理者が、多様化する市民ニーズに応えるため、それぞれの施設の特性を活かして各種生涯学習講座を実施した。						
(事前評価) 【P】事業の内容	民間のノウハウを活用し、協議・調整のうえ、各施設において市民ニーズに応える多様な分野の学習講座を提供する。		(事後評価) 【D】事業実績	各施設講座等参加者数 ()内は定員 ○和泉市コミュニティセンター 1,310人(1,661人) ○和泉シティプラザ(生涯学習センター) 23,367人(29,995人) ○和泉市生涯学習サポート館 18,683人(26,603人) ○和泉市立青少年の家 619人(820人) 合計 43,979人(59,079人) ※受講率74%						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①各種講座との連携 ・市及び市の所管する施設が実施する講座等で生涯学習に関わるものについては、生涯学習サポート講座として認定し、「マナビ」スタンプを「まなびの手帳」に押印することで、学習のモチベーションを継続しやすくする。 ・「マナビ」ポイントを「ココロトコイズミ生涯学習カード」のポイントに交換し、ポイントに応じて講座等の招待券をプレゼントする。 ②広報活動 広報紙、HP、チラシ等で生涯学習サポート講座のタイトルにガクマル(学に○)マークや共通のイラストを付けることで周知を行う。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①各種講座との連携 ・「まなびの手帳」発行を継続することにより、各受講者が学びの成果を確認することができ、モチベーションの維持・向上につなげることができた。 ②広報活動 ・生涯学習サポート講座について、昨年度に引き続き共通のマーク等を使用することで、市民の目に留まりやすくなった。						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	定員に対する受講者の割合		%	70	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	コミセン指定管理料	39,564,000	市民大学運営委託料	2,912,000		コミセン指定管理料	39,564,000			
	施設指定管理料	223,540,000				施設指定管理料	201,353,908			
	青少年の家指定管理料	41,025,000				青少年の家指定管理料	41,025,000			
	計		計	307,041,000		計			281,942,908	
	備考					備考				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	②前年度より向上	<p>コミュニティセンターと生涯学習サポート館において、次の理由により講座参加者が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターでは、通年開催のレギュラー講座を増やし、講座内容を見直し魅力ある企画を行った結果、受講者の増加につながった。 ・生涯学習サポート館では、各講座の定員を増やし、将棋教室を新設したこと等により参加者が増えた。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	各施設の指定管理者が、施設の特徴を活かしつつ、市民ニーズに添った講座を実施できるよう定員や内容を見直して事業実施したことにより、各種講座への参加者数が増えた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	指定管理者の実施する自主事業は、各施設の活性化にもつながり、市民サービス向上にもなるため、民間ノウハウを活かして参加者数が増加するような講座実施に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいがづくり支援											
重点施策	09 知識・経験を生かして地域に貢献する人材の育成											
成果指標 (KPI)	0902	いずみ市民大学における年間受講者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	—			中間年度の目標値(R2)	650		最終年度の目標値(R7)	650		総合戦略の目標値(R1)	650
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	0	680	614	625								達成状況
達成率	100.0%		94.5%	96.2%								
備考												
担当課	生涯学習課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 いずみ市民大学事業		地方創生関連交付金事業該当	-																																																																												
			和泉躍進プラン(案)該当	○																																																																												
(事前評価) 【P】事業の目的	市民の生涯学習への取組みを支援するため、教養学部とまちづくり学部の2学部制で市民大学を実施する。		(事後評価) 【D】事業実績	<p>○市民大学はまちづくり学部32人、教養学部593人が受講した。</p> <table border="1"> <tr> <th>まちづくり学部</th> <th>定員</th> <th>申込者数</th> <th>講義回数</th> </tr> <tr> <td>エリア学科</td> <td>25</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>テーマ学科</td> <td>25</td> <td>20</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>24</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>教養学部(前期)</th> <th>定員</th> <th>申込者数</th> <th>講義回数</th> </tr> <tr> <td>ニュース・事件で考える法(2018年度前期)</td> <td>50</td> <td>19</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>『源氏物語』をあらごちに読む</td> <td>50</td> <td>49</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>昭和歌謡の文化社会学</td> <td>50</td> <td>39</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>心理学からみた現代 ー現代は生きにくい時代なのか?</td> <td>50</td> <td>49</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>司馬遼太郎の『翔ぶが如く』解読 ～話題の西郷隆盛について学びましょう</td> <td>50</td> <td>72</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>「ピアノ音楽をめぐって」遺された楽譜から</td> <td>50</td> <td>63</td> <td>8</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>教養学部(後期)</th> <th>定員</th> <th>申込者数</th> <th>講義回数</th> </tr> <tr> <td>生老病死と祈り</td> <td>50</td> <td>14</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>水都ヴェネツィアの歴史</td> <td>50</td> <td>58</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>市民のための証券市場入門</td> <td>50</td> <td>43</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>『水滸伝』の醍醐味を味わう</td> <td>50</td> <td>43</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>仏像探訪 ～仏像の魅力を発見するために～</td> <td>50</td> <td>72</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>ライブ形式で楽しむジャズピアノ講座</td> <td>50</td> <td>72</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>600</td> <td>593</td> <td>115</td> </tr> </table>	まちづくり学部	定員	申込者数	講義回数	エリア学科	25	12	12	テーマ学科	25	20	12	合計	50	32	24	教養学部(前期)	定員	申込者数	講義回数	ニュース・事件で考える法(2018年度前期)	50	19	10	『源氏物語』をあらごちに読む	50	49	10	昭和歌謡の文化社会学	50	39	10	心理学からみた現代 ー現代は生きにくい時代なのか?	50	49	8	司馬遼太郎の『翔ぶが如く』解読 ～話題の西郷隆盛について学びましょう	50	72	12	「ピアノ音楽をめぐって」遺された楽譜から	50	63	8	教養学部(後期)	定員	申込者数	講義回数	生老病死と祈り	50	14	12	水都ヴェネツィアの歴史	50	58	9	市民のための証券市場入門	50	43	10	『水滸伝』の醍醐味を味わう	50	43	8	仏像探訪 ～仏像の魅力を発見するために～	50	72	10	ライブ形式で楽しむジャズピアノ講座	50	72	8	合計	600	593	115
まちづくり学部	定員	申込者数			講義回数																																																																											
エリア学科	25	12			12																																																																											
テーマ学科	25	20	12																																																																													
合計	50	32	24																																																																													
教養学部(前期)	定員	申込者数	講義回数																																																																													
ニュース・事件で考える法(2018年度前期)	50	19	10																																																																													
『源氏物語』をあらごちに読む	50	49	10																																																																													
昭和歌謡の文化社会学	50	39	10																																																																													
心理学からみた現代 ー現代は生きにくい時代なのか?	50	49	8																																																																													
司馬遼太郎の『翔ぶが如く』解読 ～話題の西郷隆盛について学びましょう	50	72	12																																																																													
「ピアノ音楽をめぐって」遺された楽譜から	50	63	8																																																																													
教養学部(後期)	定員	申込者数	講義回数																																																																													
生老病死と祈り	50	14	12																																																																													
水都ヴェネツィアの歴史	50	58	9																																																																													
市民のための証券市場入門	50	43	10																																																																													
『水滸伝』の醍醐味を味わう	50	43	8																																																																													
仏像探訪 ～仏像の魅力を発見するために～	50	72	10																																																																													
ライブ形式で楽しむジャズピアノ講座	50	72	8																																																																													
合計	600	593	115																																																																													
(事前評価) 【P】事業の内容	<p>○教養学部では、歴史や文化などについて、楽しくわかりやすい講座を開催する。 ・前期、後期各6講座(1講座10回程度) ・定員:各講座50人</p> <p>○まちづくり学部では、エリア学科とテーマ学科を設置し、地域のまちづくりに活躍できる人材を育成するための講座を開催する。修了者に対しては、修了証を交付する。 ・定員:各学科25人</p>																																																																															
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①広報活動の充実 広報紙、ホームページに加え、関係団体等にも周知を行う。</p> <p>②魅力ある講座の設定 従来の講座等よりも一段難易度を上げたカリキュラムとなっており、応募者の確保と共に、継続して受講してもらう工夫をする。</p>		<p>①広報活動の充実 受講者数増加にむけて広報紙、ホームページで情報を掲載するとともに、町会連合会や社会教育関係団体、年輪大学の受講生等に周知を行った。</p> <p>②魅力ある講座の設定 まちづくり学部の受講者同士の交流を深めてもらうため、座学だけでなく、フィールドワークも開催することでバリエーションに富んだ内容とした。1期生と2期生で組織された校友会へ後方支援を行った。</p>																																																																													
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																																																																												
	周知を図る団体等の数	団体	7	H28: 7, H29: 7, H30: 7, R1: , R2:																																																																												
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																																																												
	委託料	2,912,000	委託料	2,217,556																																																																												
	計	2,912,000	計	2,217,556																																																																												
	備考		備考																																																																													

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	市民大学開設から3年目となった今年度は、「司馬遼太郎の『翔ぶが如く』解説～話題の西郷隆盛について学びましょう」や「ライブ形式で楽しむジャズピアノ講座」など、前期・後期合わせて12講座中5講座が定員を超える申し込みがあり、人気を集めることができたことから、全体として、前年度より申込者数が増加した。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	まちづくり学部は昨年度より申込者数が1名増加し、前年度の卒業生で組織され市内イベント等で積極的に活動されている校友会に今年度の受講生が参加するなど、地域活性化の担い手の育成に一定の成果があった。教養学部受講者はほぼ横ばいであるが、定員に対する受講者数は依然として高い比率となっており、市民ニーズに応えることができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	魅力あるカリキュラム編成に向けて委託先と協議を重ね市民ニーズに応じた講座提供を行うとともに、各種団体やPTA・文化協会・青少年指導員協議会などの社会教育団体への広報を行うことにより、申込者数の増加につなげる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいがづくり支援												
重点施策	09 知識・経験を生かして地域に貢献する人材の育成												
成果指標 (KPI)	0903	成人教室の年間修了者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	102			中間年度の目標値(R2)	148		最終年度の目標値(R7)	168		総合戦略の目標値(R1)	140	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	51	58	42	38								達成状況	
達成率	6.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	生涯学習課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 成人教室事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価)	茶華道・琴演奏の基礎的技術の習得及び伝統文化の体験を通じて、世代を超えた市民同士の交流を促進し、地域の生活文化を育むことを目的とする。		(事後評価)	【成人教室の開催実績(平成30年度)】					
【P】事業の目的				○琴：2教室 20回＋発表会 受講者数：7人 修了者数：5人					
(事前評価)	和泉市文化協会の協力で講師を派遣してもらい、茶道・華道・琴の教室を開講する。		【D】事業実績	○茶道：2教室 各20回＋発表会 受講者数：15人 修了者数：14人					
【P】事業の内容	(対象者)和泉市に在住、在勤又は在学の満18歳以上の者			○華道：2教室 各20回＋発表会 受講者数：21人 修了者数：19人					
(事前評価)	①広報にて受講希望者の募集を行う。 ②文化協会の会員を通じて市民へ情報提供を行う。		(事後評価)	①各教室の開催前に広報いずみで、受講者の募集を行った。 ②講師を引き受けてくれている文化協会に情報提供を行い、文化協会から広く市民への情報提供に努めた。					
【P】成果指標向上のための具体的な取組				【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績					
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
【P】活動指標	開催教室数		教室	5	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	報償費	400,000				報償費	300,000		
	消耗品費	126,000				消耗品費	101,766		
	使用料	837,000				使用料	696,470		
	計		1,363,000	【D】決算		計		1,098,236	
備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	民間の文化教室やシティプラザ、コミュニティセンター等において様々な講座が開催されており、成人教室で実施している茶華道・琴演奏に魅力を感じる市民が減少しているものと思われる。 また、成人教室は女性の受講者が多いところであるが、女性就労者の増加も影響していると思われる。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	受講者数が減少し、目標値の達成に向けて受講者数を確保することはできなかった。 ニーズのある中高年齢等に効果的な広報、十分な周知ができていなかったと考えられる。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	お琴、茶道、華道の基本的知識・技能を修得し、日本の伝統文化を多くの人に広めることのできる市民を育成する場は必要があるため、引き続き事業を継続する。 広報いずみへの掲載や文化協会からの情報発信、多くの市民の集まるカルチャーフェスティバル(毎年3月に開催)において周知を図るなどに加え、効果的な広報手段も検討しながらより多くの新規受講生獲得をめざし、交流を促進し、地域の生活文化を育む。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援											
重点施策	09 知識・経験を生かして地域に貢献する人材の育成											
成果指標 (KPI)	0904	図書館年間入館者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	現状値(H26)	908,576			中間年度の目標値(R2)	990,000		最終年度の目標値(R7)	1,000,000		総合戦略の目標値(R1)	937,000
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	1,005,583	989,708	959,089	961,786								達成状況
達成率	100.0%		100.0%	100.0%								
備考												
担当課	読書振興課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 図書館利用促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-																																									
			和泉躍進プラン(案)該当	○																																									
(事前評価) 【P】事業の目的	図書館が地域の情報拠点・生涯学習支援施設として、市民の教育・文化の発展に寄与するため、図書館の利便性の向上と良質な読書環境を提供し、利用促進を図る。		(事後評価) 【D】事業実績	<p>【資料の購入及び貸出状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料購入点数 14,627点 貸出人数:個人 340,822人、団体 4,932団体 貸出点数:個人1,267,752点、団体20,560点 <p>【指定管理者における自主事業の実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和泉図書館</td> <td>49回</td> <td>2,223人</td> </tr> <tr> <td>シティプラザ図書館</td> <td>34回</td> <td>2,005人</td> </tr> <tr> <td>北部リージョンセンター図書室</td> <td>37回</td> <td>808人</td> </tr> <tr> <td>南部リージョンセンター図書室</td> <td>4回</td> <td>343人</td> </tr> <tr> <td>三館合同(和泉・プラザ・北部)事業</td> <td>7回</td> <td>1,354人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>131回</td> <td>6,733人</td> </tr> </tbody> </table>		開催回数	参加人数	和泉図書館	49回	2,223人	シティプラザ図書館	34回	2,005人	北部リージョンセンター図書室	37回	808人	南部リージョンセンター図書室	4回	343人	三館合同(和泉・プラザ・北部)事業	7回	1,354人	計	131回	6,733人																				
	開催回数	参加人数																																											
和泉図書館	49回	2,223人																																											
シティプラザ図書館	34回	2,005人																																											
北部リージョンセンター図書室	37回	808人																																											
南部リージョンセンター図書室	4回	343人																																											
三館合同(和泉・プラザ・北部)事業	7回	1,354人																																											
計	131回	6,733人																																											
(事前評価) 【P】事業の内容	図書館に来てもらうきっかけづくりとして、多様な行事・講座を開催するほか、調査・探求を手助けする情報拠点として、広く資料を収集・保存し、市民が求める情報を提供する。																																												
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①和泉図書館開館40周年・シティプラザ図書館開館15周年・南部リージョンセンター図書室10周年に係る記念事業として、有名な文学作家の講演会を実施する。</p> <p>②「和泉躍進プラン(案)」に掲げられている「読書環境充実事業」のため、市長公約でもある「図書館の書籍の充実」に向けた蔵書構成の見直しや書庫の増設、図書館来館者増に向けた新たな施策について検討する。</p> <p>③集会室利用料金改正に伴い、附属設備を増やし利用促進を図る。</p>		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<p>①和泉図書館開館40周年・シティプラザ図書館開館15周年・南部リージョンセンター図書室10周年に係る記念事業として、笑い飯・哲夫氏による講演会を開催した。300人定員のところ、500人以上もの応募があり大盛況であった。(H31年1月27日和泉シティプラザ・レセプションホールにて開催。300人参加)</p> <p>②図書館に本が入りきらなくなったため、別施設での書庫の設置を検討していたが、今年度では具体的な場所の確定や書庫設置に係る予算措置ができなかった。</p> <p>③集会室の附属設備として移動式スクリーン・移動式プロジェクターを増やしたことや、集会室の定期利用が増えたことにより、集会室の利用回数が980回に増加した。(H29: 902回)</p>																																									
(事前評価) 【P】活動指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の名称</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">当該年度の目標値</th> <th colspan="5">(事後評価) 【D】実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館資料購入点数(雑誌は除く)</td> <td>点</td> <td>15,000</td> <td>14,714</td> <td>15,009</td> <td>14,627</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>図書資料予約件数</td> <td>件</td> <td>165,000</td> <td>163,389</td> <td>167,577</td> <td>182,084</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主事業参加人数(3館合同事業含む)</td> <td>人</td> <td>5,700</td> <td>5,642</td> <td>4,285</td> <td>6,733</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値					H28	H29	H30	R1	R2	図書館資料購入点数(雑誌は除く)	点	15,000	14,714	15,009	14,627			図書資料予約件数	件	165,000	163,389	167,577	182,084			自主事業参加人数(3館合同事業含む)	人	5,700	5,642	4,285	6,733						
指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値																																										
			H28	H29	H30	R1	R2																																						
図書館資料購入点数(雑誌は除く)	点	15,000	14,714	15,009	14,627																																								
図書資料予約件数	件	165,000	163,389	167,577	182,084																																								
自主事業参加人数(3館合同事業含む)	人	5,700	5,642	4,285	6,733																																								
(事前評価) 【P】予算	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記念講演会講師謝礼</td> <td>500,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td>320,252,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>集会室附属設備用備品</td> <td>184,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>320,936,000</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	記念講演会講師謝礼	500,000			指定管理料	320,252,000			集会室附属設備用備品	184,000			計		320,936,000		(事後評価) 【D】決算	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記念講演会講師謝礼</td> <td>500,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td>317,213,622</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>集会室附属設備用備品</td> <td>153,576</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>317,867,198</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	記念講演会講師謝礼	500,000			指定管理料	317,213,622			集会室附属設備用備品	153,576			計		317,867,198	
内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																										
記念講演会講師謝礼	500,000																																												
指定管理料	320,252,000																																												
集会室附属設備用備品	184,000																																												
計		320,936,000																																											
内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																										
記念講演会講師謝礼	500,000																																												
指定管理料	317,213,622																																												
集会室附属設備用備品	153,576																																												
計		317,867,198																																											
備考	うち図書購入費: 27,000,000円		備考	うち図書購入費: 27,000,000円																																									

成果指標の達成状況		成果指標の達成状況の要因分析																			
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	【入館者数】 <table border="1" data-bbox="486 257 1045 470"> <thead> <tr> <th>図書館名</th> <th>H30年度</th> <th>H29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和泉図書館</td> <td>326,696人</td> <td>315,455人</td> </tr> <tr> <td>シティプラザ図書館</td> <td>470,492人</td> <td>492,370人</td> </tr> <tr> <td>北部リージョンセンター図書室</td> <td>127,167人</td> <td>125,194人</td> </tr> <tr> <td>南部リージョンセンター図書室</td> <td>37,431人</td> <td>26,070人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>961,786人</td> <td>959,089人</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="443 488 1428 571">図書館への入館者数が昨年よりも増えた要因としては、南部リージョンセンター10周年記念イベント等の相乗効果による図書室への入館者数の増、指定管理者における自主事業の参加人数の増、「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)導入による利用者の増が考えられる。</p>		図書館名	H30年度	H29年度	和泉図書館	326,696人	315,455人	シティプラザ図書館	470,492人	492,370人	北部リージョンセンター図書室	127,167人	125,194人	南部リージョンセンター図書室	37,431人	26,070人	計	961,786人	959,089人
	図書館名	H30年度	H29年度																		
和泉図書館	326,696人	315,455人																			
シティプラザ図書館	470,492人	492,370人																			
北部リージョンセンター図書室	127,167人	125,194人																			
南部リージョンセンター図書室	37,431人	26,070人																			
計	961,786人	959,089人																			
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由																			
	②効果的だった	<p>読書離れが進んでいると言われているなかでも、図書館の様々な取組が浸透してきており、自主事業の参加者数の増加や、今年度は特に図書館のシステム更新によりパソコンやスマートフォンからの図書資料予約件数が増加したことは、利用者のニーズにあった事業展開やシステムの導入を行うことができた結果であると考えます。</p>																			
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開																			
	③拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる図書館利用促進を目指し、今後は、大人への「ぶっくんつうちょう」(通帳型読書記録帳)の有料配付を開始し、生涯にわたって読書の履歴が残る環境を提供し、読書活動の推進を図る。 ・時代の変化とともに図書館の利用サービスも変化を問われる中で、「長期滞在型図書館」を目指し、シティプラザ図書館内に、飲み物を飲みながらゆったりと読書を楽しむことができるカフェコーナーを設置する。 																			

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいづくり支援												
重点施策	10 豊かな創造性と郷土愛を育む文化・芸術の振興												
成果指標 (KPI)	1001	市民文化祭に参加している市民の延べ人数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	9,351		中間年度の目標値(R2)	10,500		最終年度の目標値(R7)	11,000		総合戦略の目標値(R1)	-		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	9,550	10,029	8,360	9,227								達成状況	
	達成率		33.0%	0.0%	0.0%								
備考													
担当課	生涯学習課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 市民文化祭事業							地方創生関連交付金事業該当	-			
								和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	市民文化祭期間中に開催される展示会や発表会に多くの市民が関心を持ち、参加や鑑賞ができる環境を整えることで、市民の文化・芸術活動を支援する。				(事後評価) 【D】事業実績	【第62回市民文化祭の開催実績】 開催期間：平成30年10月7日(金)から12月2日(日) ○式典：11月3日(土・祝) ○展示 第1期：10月26日(金)～28日(日) 第2期：11月1日(木)～3日(土・祝) 第3期：11月10日(土)～11日(日) ○市民ステージ：10月27日(土)【20組/158人】 ○OPTA研究大会、和泉市合唱祭、交響楽団定期演奏会等						
(事前評価) 【P】事業の内容	秋の一定期間を市民文化祭期間とし、市民の文化芸術に関する作品(絵画・書道・陶芸等)の展示を行うほか、市民による演劇やダンス等の発表の場として、市民ステージ等を開催する。					○チラシ、ポスターによる市民文化祭の周知 チラシ4,000枚、ポスター100枚作成し、文化協会会員及び和泉市所管の公共施設等、関係各所に配付、掲示依頼を行った。 ○文化関係団体の協力 より多くの市民に市民文化祭に関わってもらうため、文化協会の会員に式典当日の受付等の協力要請を行った他、式典とアトラクションの幕間で文化協会による抽選会イベントを行うなど集客増加を図った。また、展示や発表に加え、空きスペースを活用し文化協会による無料体験教室(ちぎり絵、編み物、盆栽、水墨画、写真)を実施し、好評を得た。						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①広報いずみにより、市民文化祭の周知を広く行うほか、チラシの配架、ポスターの掲示により、市民の参加意欲促進を図る。 ②文化協会との共催により、文化祭の活性化を図り、協会の積極的な協力を得る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績							
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称					単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	文化祭期間中に行っているイベント				件数	24	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	報償費	40,000	使用料	3,172,000		報償費	40,000	使用料	2,273,540			
	需用費	489,000				需用費	357,194					
	委託料	160,000				委託料	157,172					
	計			3,861,000		計				2,827,906		
備考					備考							

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ②前年度より向上	市民文化祭展示の第一期部門に手芸(ポピンレース)・アメリカンフラワー部門を新設したことにより参加者数が増加したと考えられる。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ②効果的だった	市民文化祭の展示や発表に加え、文化協会主催の無料体験教室(ちぎり絵、編み物、盆栽、水墨画、写真)での創作活動等が好評で、全体の参加者数が増加した。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	毎年同時期に行われるイベントであるため、市民も目標が立てやすく、発表の場として適当な事業であると評価しており、今後も継続して事業を推進していくことが必要であるとする。より多くの市民に参加いただけるよう、控え室として使用している部屋の活用や、広報・ホームページ・各種社会教育団体を通じた周知の強化など、共催者である文化協会と協議し、対策を検討する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいがづくり支援												
重点施策	10 豊かな創造性と郷土愛を育む文化・芸術の振興												
成果指標 (KPI)	1002	いずみの国歴史館・信太の森ふるさと館入館者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	17,000			中間年度の目標値(R2)	18,000		最終年度の目標値(R7)	19,000		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	16,419	18,270	19,761	14,838								達成状況	
達成率		71.7%	100.0%	0.0%									
備考													
担当課	文化財振興課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 いずみの国歴史館活性化事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	和泉市の歴史を広く市内外にアピールするため、いずみの国歴史館の活性化を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【いずみの国歴史館年間入館者数(平成30年度)】 10,141人 ○平成30年4月に常設展示をリニューアルした。 ○特別展を1回、コーナー展示を2回開催した。 ・秋季特別展「時をかける文書」 6/3～7/17 2,604人 ・夏休み企画「ミニミニ 和泉の化石展」 7/24～9/2 1,387人 ・コーナー展示「府中遺跡のすべてvol.2」 1/5～3/31 3,359人 ○体験型イベントを3回開催した ・まなびのプラザフェスタ(緑化センターと共催) 8/19 500人 ・化石レプリカづくり 8/11 9人 ・種をさがそう! 8/19 20人					
(事前評価) 【P】事業の内容	○考古学からみた和泉市の歴史を紹介している常設展示について、最新の調査成果をふまえ、リニューアルを行い(H30.4月オープン)、関連企画を実施する。 ○魅力ある特別展・企画展を開催する。 ○体験型のイベントや、体験コーナーの充実を図る。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①和泉史塾を定期開催とする。 ②市の文化芸術や歴史に対する関心を高めるため、体験授業を実施する。 ③桃山学院史料室や久保惣記念美術館、弥生文化博物館などと連携し、出張展示を行う。 ④ホームページやブログを活用し、情報を発信する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①和泉史塾を定期開催とし、好評を得た。 毎月第2水曜日に定期開催。計8講座727人。 ②文化芸術科学ふれあい体験事業として、市内の小学6年生全員に体験授業を実施した。(19校1,890人) ③出張展示・体験講座を4回開催した。 ・いずみの国弥生まつり(弥生文化博物館) 5/5 350人 ・勾玉教室(青少年センター) 8/17,24 66人 ・パズル教室(日根野イオン) 9/15 150人 ・冬のやよいミュージアム(弥生文化博物館) 2/3 719人 ④文化財活性化実行委員会のHPおよびブログでの情報発信に努めた。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値					
	特別展・企画展の開催		回	3	H28	H29	H30	R1	R2		
	体験型イベントの開催		回	4	4	3	3				
	和泉史塾受講者数		人	500	-	689	727				
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	報償費	235,000				報償費	95,000				
	印刷製本費	835,000				印刷製本費	673,056				
	委託料	670,000				委託料	247,600				
	計		1,740,000			計		1,015,656			
備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>常設展示のリニューアルを実施するとともに、市民の興味・関心に応え、多様な世代が歴史館に親しむ機会を提供するため、夏休み企画やコーナー展示を実施した。また、和泉史塾を定期開催とし、好評を得た。</p> <p>しかし、リニューアルに伴う休館期間が長期にわたったこともあり、歴史館の年間入館者は減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み企画「ミニミニ 和泉の化石展」 7/24～9/2 1,387人 ・コーナー展示「府中遺跡のすべてvol.2」 1/5～3/31 3,359人 ・和泉史塾 計8講座727人 <p>○いずみの国歴史館年間入館者数 10,141人(対前年度-3,042人)</p>
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示リニューアルや文化庁の補助金を活用したコーナー展示、体験講座の充実など、市民の興味関心に応えた企画を実施することができた。 ・和泉史塾を定期開催するとともに、補講(欠席者向け)を実施することで、全講座受講修了への動機付けを行うことができ、大変好評をえた。(和泉史塾全講座修了生727名)
	事業の方向性	
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を活かしつつ、市民の関心の高い時宜に適った特別展を企画する。 ・緑化センターや美術館、弥生文化博物館、桃山学院大学、泉大津市教育委員会など関連機関と協力し、体験型イベントや講座の充実を図る。 ・ホームページ、ブログの活用を促進し、タイムリーな情報発信に努める。

取組事業	2 信太の森ふるさと館活性化事業				地方創生関連交付金事業該当	-				
					和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	和泉市の歴史、伝説を広く市内外にアピールするため、ふるさと館の活性化を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【信太の森ふるさと館年間入館者数(平成30年度)】 4,697人 ○平成30年9月に常設展示をリニューアルした。 ○協力会主催による企画展を8回開催した。 「日本さくらそう展」、「華トンボ展」、「七宝展」、「水彩画展」 「信太山の自然と鶴山台」、「信太山周辺の近世の村々」 「絵手紙展」、「児童絵画展」 ○歴史ウォーク&歴史トークおよび音★楽市を開催した。 9/2 歴史ウォーク&歴史トーク 70人 音★楽市 150人				
(事前評価) 【P】事業の内容	○信太の森周辺の伝説や文化財、自然を紹介する常設展示について、リニューアルを実施する。 ○魅力ある特別展・企画展を開催する。 ○体験型のイベントや、体験コーナーの充実を図る。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①ふるさと館の独自企画として、特別展示を企画する。 ②ホームページやブログを活用し、情報を発信する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①ふるさと館常設展示リニューアルの一環として、「屏風 二度の子別れ」を特別陳列した。 8/2～9/24 365人 ②文化財活性化実行委員会HPで情報発信に努めた。				
(事前評価) 【P】活動指標					当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
						H28	H29	H30	H31	H32
	体験型イベントの開催				回	1	1	1		
	特別展・企画展の開催				回	1	1	1		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	消耗品	157,000				消耗品	142,249			
	印刷費	56,000				印刷費	49,896			
	備品費	183,000				備品費	137,160			
	計			396,000		計			329,305	
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	常設展示のリニューアルについては好評をえたが、入館者の増加には必ずしも結びついていない。 ○信太の森ふるさと館年間入館者数 4,697人(対前年度-1581人)
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	体験型イベントである、音★楽市in信太の森について、葛の葉伝説ゆかりの地元オーケストラ和泉市ウインドオーケストラKORUHAの出演が実現するなど、新たな広がりが見られたが、入館者の増加につながらなかった。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルした常設展示の魅力発信につとめ、来館者数の増加を図る。 ・ふるさと館の独自企画(特別展示)を実施し、市民の興味関心にそった展示に努める。 ・協力会主催の展示について、テーマおよび内容の見直しをすすめる。 ・ホームページ、ブログの活用を促進し、タイムリーな情報発信に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第3節 一人ひとりが輝くための生きがいがづくり支援												
重点施策	10 豊かな創造性と郷土愛を育む文化・芸術の振興												
成果指標 (KPI)	1003	久保惣記念美術館の年間来館者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	24,770		中間年度の目標値(R2)		30,000		最終年度の目標値(R7)		35,000		総合戦略の目標値(R1)	29,000
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	23,161	28,265	43,925	32,639									達成状況
達成率		43.1%	100.0%	80.1%									
備考													
担当課	久保惣記念美術館												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 研究発表展事業		地方創生関連交付金事業該当	-																													
			和泉躍進プラン(案)該当	-																													
(事前評価) 【P】事業の目的	豊富な所蔵品を生かした展覧会を開催し、文化・芸術に対する市民意識の高揚を図る。また、気軽に文化芸術に親しむ機会を創出する。		(事後評価) 【D】事業実績	【展覧会の開催実績(平成30年度)】																													
(事前評価) 【P】事業の内容	当館所蔵品を活用した常設展を開催するほか、他の美術館や個人が所蔵している美術品を借用をして企画する特別展や当館所蔵品の国宝・重要文化財や活用した特別陳列を開催する。			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>展覧会名</th> <th>期間</th> <th>来館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別展</td> <td>土佐派と住吉派</td> <td>H30.10.13~H30.12.2</td> <td>9,664人</td> </tr> <tr> <td>特別陳列</td> <td>所蔵名品撰</td> <td>H30.4.7~H30.5.27</td> <td>5,995人</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">常設展</td> <td>地図 エクスパンション!</td> <td>H30.6.9~H30.7.29</td> <td>4,508人</td> </tr> <tr> <td>浮世絵の妖術とモノノケ</td> <td>H30.8.11~H30.9.24</td> <td>5,186人</td> </tr> <tr> <td>漆器</td> <td>H30.12.15~H31.1.27</td> <td>2,391人</td> </tr> <tr> <td>愉しき源氏絵</td> <td>H31.2.9~H31.3.24</td> <td>4,895人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>32,639人</td> </tr> </tbody> </table>			展覧会名	期間	来館者数	特別展	土佐派と住吉派	H30.10.13~H30.12.2	9,664人	特別陳列	所蔵名品撰	H30.4.7~H30.5.27	5,995人	常設展	地図 エクスパンション!	H30.6.9~H30.7.29	4,508人	浮世絵の妖術とモノノケ	H30.8.11~H30.9.24	5,186人	漆器	H30.12.15~H31.1.27	2,391人	愉しき源氏絵	H31.2.9~H31.3.24	4,895人	合計		
	展覧会名	期間	来館者数																														
特別展	土佐派と住吉派	H30.10.13~H30.12.2	9,664人																														
特別陳列	所蔵名品撰	H30.4.7~H30.5.27	5,995人																														
常設展	地図 エクスパンション!	H30.6.9~H30.7.29	4,508人																														
	浮世絵の妖術とモノノケ	H30.8.11~H30.9.24	5,186人																														
	漆器	H30.12.15~H31.1.27	2,391人																														
	愉しき源氏絵	H31.2.9~H31.3.24	4,895人																														
合計			32,639人																														
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①展覧会名の工夫 一般の人々の心をとらえる展覧会名にする。</p> <p>②展覧会ポスター、ちらしの工夫 デザイナーを使い、より人目を引くように作成する。</p> <p>③展示解説 展示室内において作品をより深く理解し鑑賞できるよう対話型の展示解説を実施する。</p> <p>④文化芸術科学ふれあい体験事業への協力 学校教育指導室において市内小学6年生を対象に美術館で実施される社会学習に協力する。</p>		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<p>①展覧会名の工夫 一般の人々の心をとらえる展覧会名にした。</p> <p>②展覧会ポスター、ちらしの工夫 デザイナーを使い、より人目を引くように作成した。</p> <p>③展示解説 展示室内において作品をより深く理解し鑑賞できるよう対話型の展示解説を23回実施した。</p> <p>④文化芸術科学ふれあい体験事業への協力 学校教育指導室において市内小学6年生を対象に美術館で実施される社会学習に協力し、21校1,742人の児童と39人の保護者の来館があった。</p>																													
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																											
	展覧会の開催数		回	6	H28: 6, H29: 6, H30: 6, R1: , R2:																												
	展示解説		回	24	H28: 24, H29: 24, H30: 23, R1: , R2:																												
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算																												
	委託料	62,236,000			委託料 57,533,065																												
	計	62,236,000			計 57,533,065																												
	備考				備考																												

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度は開館35周年記念として開催した特別展「ピカソと日本美術」に20,958人の来館者があり、年間43,925人と目標を大きく上回る来館者があった。今年度は前年度に比べると来館者数は減少しているが、各展覧会が好評であったため、例年に比べ来館者は増加しており、目標値を達成することができた。 ・特別陳列「所蔵名品撰」においては、国宝1点及び重要文化財6点を中心に当館を代表する作品の陳列をおこなった。特に宮本武蔵の「枯木鳴鴉図」を陳列した後期に数多くの来館者があった。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展「土佐派と住吉派」は、平成28年度、29年度に大阪市立美術館及び堺市博物館と共同でおこなった調査をもとに開催したもので、美術研究者にも大変好評であった。 ・各展覧会にて展示解説を行うことで、美術品をより深く鑑賞していただくことができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>今後も久保惣記念美術館の知名度及び来館者数の向上のため、所蔵品の魅力を発信できるよう毎年内容を変更し、特別展1回、特別陳列1回、常設展3～4回の展覧会を継続するとともに、定期的に周年事業として位置付けられるような特別展を開催する。</p>

取組事業	2 文化芸術普及促進事業				地方創生関連交付金事業該当	-																																		
					和泉躍進プラン(案)該当	-																																		
(事前評価) 【P】事業の目的	久保惣記念美術館の施設を活用し、市民の芸術・創作活動を支援することで、文化・芸術の振興を図る。				【文化事業の開催実績(平成30年度)】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業内容</th> <th>実施回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">音楽ホール</td> <td>ミュージアムコンサート</td> <td>70回</td> <td>5,915人</td> </tr> <tr> <td>特別コンサート</td> <td>1回</td> <td>92人</td> </tr> <tr> <td>チャリティコンサート</td> <td>1回</td> <td>122人</td> </tr> <tr> <td>3月超茶会</td> <td>1回</td> <td>74人</td> </tr> <tr> <td>市民創作教室</td> <td>市民講座</td> <td>8回</td> <td>113人</td> </tr> <tr> <td>茶室(6/24～公開中止)</td> <td>一般公開</td> <td>21回</td> <td>818人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>7,134人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(市民ギャラリー活用実績) ・創作展等の実施 22回 ・「ART GUSH」原画展 1回 (ミュージアムキャンペーン等の入場割引の実施) ・入館料無料デーの実施(年10回)計4,015人 ・和泉・久保惣ミュージアムタウン推進事業として、「ART GUSH」完成を記念したスタンプラリー事前申込者の入館料無料を実施</p>								事業内容	実施回数	参加者数	音楽ホール	ミュージアムコンサート	70回	5,915人	特別コンサート	1回	92人	チャリティコンサート	1回	122人	3月超茶会	1回	74人	市民創作教室	市民講座	8回	113人	茶室(6/24～公開中止)	一般公開	21回	818人	合計			7,134人
	事業内容	実施回数	参加者数																																					
音楽ホール	ミュージアムコンサート	70回	5,915人																																					
	特別コンサート	1回	92人																																					
	チャリティコンサート	1回	122人																																					
	3月超茶会	1回	74人																																					
市民創作教室	市民講座	8回	113人																																					
茶室(6/24～公開中止)	一般公開	21回	818人																																					
合計			7,134人																																					
(事前評価) 【P】事業の内容	音楽ホールでのコンサート、市民ギャラリーでの市民創作展、茶室でのお茶会等の美術館施設を使った文化事業を開催する。																																							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①ミュージアムぐるっとパス・関西2018に参加 ミュージアムぐるっとパスに参加し、関西地域の文化向上に寄与する。 ②コンサート出演者の事前審査 音楽ホールでのコンサート出演者について、事前にデモテープによる審査を行い、質の高い音楽等を来館者へ提供する。 ③市民ギャラリーにおける創作展情報の発信 美術館ホームページの掲載及び出展者による案内状の送付にて広く周知する。 ④茶室の公開活用 毎週土曜日(春と秋は日曜日と祝日も)に茶室を公開。初釜等お茶会を開催する。				(事後評価) 【D】 成果指標向上のための具体的な取組の実績 ①ミュージアムぐるっとパス・関西2018に参加した。 ミュージアムぐるっとパスに参加し、98人の来館があり、関西地域の文化向上に寄与した。 ②コンサート出演者の事前審査 音楽ホールでのコンサート出演者について、事前にデモテープによる審査を行い、質の高い音楽等を来館者へ提供した。 ③市民ギャラリーにおける創作展情報の発信 美術館ホームページの掲載及び出展者による案内状の送付にて広く周知した。 ④茶室の公開活用 6月23日までの公開該当日に茶室を公開した。6月24日からは、耐震化に向け、公開を中止したため、初釜は行わず、煎茶会については、音楽ホールにて「くぼそう・超茶会」と題し開催した。																																			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】 実績値																																	
							H28	H29	H30	H31	H32																													
	キャンペーンの実施				回	7	7	7	10																															
	ミュージアムコンサートの開催				回	70	70	70	70																															
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】 決算		内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																														
	委託料	62,236,000					委託料	57,533,065																																
	計			62,236,000			計			57,533,065																														
	備考						備考																																	

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①H32目標を達成	<ul style="list-style-type: none"> ・入場割引等の実施や美術館施設を活用したミュージアムコンサート、茶会、市民創作展等の開催は美術館を訪れるきっかけ作りとなるとともに、美術だけでなく芸術、文化等さまざまな視点から美術館を楽しんでいただくことができ、入館者増へ繋がった。 ・和泉・久保惣ミュージアムタウン推進事業として、「ART GUSH」原画展の実施やツアー等の受け入れをおこない、他府県からの来館者の増加に繋がった。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムキャンペーン等の入場料無料や入館料割引を実施し、来館いただくきっかけをつくったことで美術館の魅力を知ってもらうことができ、今後の来館に期待できる。 ・ミュージアムコンサートや茶会の実施により、音楽や日本文化を味わっていただく場を提供したことで、美術品だけでなく、広く美術館の魅力を伝えることができた。 ・市民ギャラリーでの創作展は身近な美術、芸術として、親しみが持ちやすく美術館を訪れるきっかけとなった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・茶室の公開中止にともない、他の施設を利用した茶会等の実施を検討する。 ・美術館施設を活かした展覧会と連動する独自のイベントを実施することで、地域の核となる美術館の魅力をアピールし、来訪を促進する。 ・美術館敷地内の音楽ホールや市民ギャラリーを活用し、市民の文化振興を支援するほか、茶室を今後も活用できるよう耐震化を進めるなど、美術館の独自の魅力をアピールできるツールをさらに強化する。

取組事業	3 広報活動事業		地方創生関連交付金事業該当	-						
			和泉躍進プラン(案)該当	-						
(事前評価) 【P】事業の目的	美術館の認知を高めるとともに展覧会の周知を図る。		(事後評価) 【D】事業実績	美術館の認知を高め、来館者数の増加を図るため、展覧会情報を市の広報、地域ミニコミ誌、マスコミなどへ情報提供するとともに、特別展ちらしの市広報紙への折込を行った。また、ホテルや公共交通機関へのポスター掲出や案内の配布を実施した。						
(事前評価) 【P】事業の内容	美術館の認知を高めるための美術館広告や展覧会内容の告知用広告の各新聞社や雑誌、ミニコミ紙に掲載及び公共交通機関でのポスター掲出を行う。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①南海バスアナウンス 和泉中央駅を出発する全系統の車両にて、PRアナウンスを流し認知を図る。</p> <p>②美術館の認知度向上対策 美術関係、旅行関係等の雑誌媒体に広告を掲載し、美術館名の認知向上を図る。</p> <p>③展覧会の告知 新聞等に展覧会広告を掲載する。阪急・阪神両線の駅にポスター掲示を行う。</p> <p>④都市圏での広告 阪急梅田百貨店前コンコースに設置されているデジタルサイネージを活用し、当館の周知を図る。</p> <p>⑤観光客の誘致 大阪府内でコンシェルジュ係を備えるホテルに、宿泊客への案内に活用されるよう展覧会案内を送付する。</p> <p>⑥他の機関等との連携・提携 各種団体と連携・提携し、会報誌等に美術館情報を掲載し、各種団体の来館者について、入館料の割引を行う。</p> <p>⑦ホームページ、いずみメールの活用 ホームページやいずみメールを活用し、積極的に展示会やイベントPRをおこなう。</p>		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<p>①南海バスアナウンス 和泉中央駅を出発する全系統の車両にて、年間10万回以上のPRアナウンスを流し認知を図った。</p> <p>②美術館の認知度向上対策 美術関係、旅行関係等の雑誌媒体に14回広告を掲載した。また、泉北高速鉄道の車内吊広告を行った。</p> <p>③展覧会の告知 新聞等に展覧会広告を19回掲載した。</p> <p>④都市圏での広告 大阪駅前ビルみちまちスクエアにて「日本列島心のふるさと観光展」にて展覧会チラシや年間展示案内を2回展示、配架した。</p> <p>⑤観光客の誘致 ・大阪府内でコンシェルジュ係を備えるホテルに、宿泊客への案内に活用されるよう展覧会案内を送付した。 ・旅の情報サイトに美術館情報を掲載した。</p> <p>⑥他の機関等との連携・提携 各種団体と連携・提携し、会報誌等に美術館情報を掲載し、各種団体の来館者について、入館料の割引を行った。</p> <p>⑦ホームページ、いずみメール、タイムラインの活用 ホームページやいずみメールに加え、新たにタイムラインも活用し、積極的に展示会やイベントPRをおこなった。(月3~4回)</p>						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	展覧会告知のための広告数		件	12	H28	H29	H30	H31	H32	
	美術館の認知向上のための広告数		件	4	18	22	14			
	他の機関等との連携・提携件数		件	20	20	20	22			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	62,236,000				委託料	57,533,065			
	計			62,236,000		計			57,533,065	
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①H32目標を達成	<ul style="list-style-type: none"> ・人口や企業が多い大阪市内版や兵庫県版の各社新聞に展覧会広告を掲載することで、近畿圏からの来館へつながった。 ・市広報へシリーズ掲載することで、広く市民に関心をもていただくことができ、来館へつながった。 ・和泉・久保惣ミュージアムタウン事業推進関連にて、旅行会社向けモニタリングツアーの受入れやマスコミ向け内覧会の実施をおこなうことで、広域からの来館へつながった。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報でのシリーズ掲載や生活路線でもある泉北高速鉄道車両内にて、ちらし掲示をおこない、来館促進につながった。 ・広告を広いエリアに掲載することで、遠方から誘客につながるとともに美術館の認知度の向上と展覧会周知を図ることができつつあるが、市内情報周知に比べ、市外への情報周知が不足している。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市内における広報活動の費用対効果を考え、実施方法を検討する。 ・インバウンドの取り込みについては、実際の来館者数や費用等を考慮したうえで、PR手法を検討する。 ・各国語版のパンフレットを国内外の美術館、研究所、大学等のほか、旅行会社にも積極的に広く配布する。 ・ホームページでもバイリンガルの対応を行っていることを広く周知し、訪日外国人等の来館を促進するとともに平常陳列作品のキャプションに英語表示を加える。

第1章 定住の促進

第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進

- 11 定期的な健康チェックの推進
- 12 スポーツを通じた心身の健康増進
- 13 元気に生涯活躍できる環境づくりの推進

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	11 定期的な健康チェックの推進												
成果指標 (KPI)	1101	がん検診受診率(胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん)							指標の単位	%	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	19.3		中間年度の目標値(R2)		35.0		最終年度の目標値(R7)		50.0		総合戦略の目標値(R1)	32.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	20.0	20.3	20.0	21.8								達成状況	
達成率		1.0%	0.0%	6.1%									
備考													
担当課	健康づくり推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 がん検診受診勧奨事業		地方創生関連交付金事業該当	-																														
			和泉躍進プラン(案)該当	-																														
(事前評価) 【P】事業の目的	がんの早期発見・早期治療につなげるため、各種がん検診の受診勧奨による受診率の向上を図る。		(事後評価) 【D】事業実績	○各がん検診毎の受診率 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象者数(人)</th> <th>受診者数(人)</th> <th>受診率(%)</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん検診</td> <td>59,959</td> <td>1,582</td> <td>2.6%</td> <td>▲0.1</td> </tr> <tr> <td>肺がん検診</td> <td>59,959</td> <td>15,266</td> <td>25.5%</td> <td>+2.5</td> </tr> <tr> <td>大腸がん検診</td> <td>59,959</td> <td>13,435</td> <td>22.4%</td> <td>+2.6</td> </tr> <tr> <td>子宮がん検診</td> <td>22,442</td> <td>6,633</td> <td>29.6%</td> <td>+1.4</td> </tr> <tr> <td>乳がん検診</td> <td>18,802</td> <td>5,448</td> <td>29.0%</td> <td>+2.8</td> </tr> </tbody> </table>		対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	対前年度比	胃がん検診	59,959	1,582	2.6%	▲0.1	肺がん検診	59,959	15,266	25.5%	+2.5	大腸がん検診	59,959	13,435	22.4%	+2.6	子宮がん検診	22,442	6,633	29.6%	+1.4	乳がん検診	18,802	5,448	29.0%	+2.8
	対象者数(人)	受診者数(人)			受診率(%)	対前年度比																												
胃がん検診	59,959	1,582	2.6%	▲0.1																														
肺がん検診	59,959	15,266	25.5%	+2.5																														
大腸がん検診	59,959	13,435	22.4%	+2.6																														
子宮がん検診	22,442	6,633	29.6%	+1.4																														
乳がん検診	18,802	5,448	29.0%	+2.8																														
(事前評価) 【P】事業の内容	○子宮がん・乳がん検診の無料クーポン券を発行する。 ○受診勧奨及び周知・啓発を実施する。 ・個別勧奨通知 ・健康教育の場を活用した啓発・受診勧奨 ・チラシ・リーフレットの配布 ・いずみメール配信																																	
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①がん検診無料クーポン券の発行 ②個別勧奨通知 受診に繋がりがしやすい対象者に勧奨通知を送付する。 ③チラシ等の配布 受診率向上に効果的な配布場所を検討し、チラシ等を配布する。 ④健康教育の実施 ⑤いずみメールの配信 ⑥検診を受診することでポイントを付与する健康づくりポイント事業の実施。(集めたポイントを検診無料券に交換)		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①がん検診無料クーポン券の発行(4,608人) 子宮がん検診1,073人、乳がん検診1,275人に対し、無料クーポン券の送付を行った。また、クーポン券未使用者である子宮がん検診1,031人、乳がん検診1,229人に対し、再勧奨を行った。 ②個別勧奨通知(24,565人) 過去の受診状況を分析し勧奨通知対象者を選定した。また、受診勧奨素材もがんの種類別(女性のがんとそれ以外)に分けて、がん罹患率、発症率の情報を正しく伝え、早期発見によるメリットを分かりやすく記載した案内を作成した。更に、個別勧奨後の再勧奨を実施した。 ③チラシ等の配布 胃がん・乳がん集団検診、健康まつり、4ヶ月、1歳半、2歳半健診時等に配布 胃がん検診32回、1,600枚(5大がん向けリーフレット) 乳がん検診12回、600枚(5大がん向けリーフレット) 3歳半健診48回、1,320枚(5大がん向けリーフレット) 4ヶ月健診36回、1,218枚(子宮がん検診リーフレット) 1歳半健診48回、1,320枚(子宮がん検診リーフレット) 2歳半健診48回、1,320枚(子宮がん検診リーフレット) ④健康教育の実施 2回実施 147人参加 ・10月15日 於:理美容協会 対象者:協会会員 参加者29人 ・10月24日 於:いずみ緑ヶ丘自治会 対象者:自治会員 参加者数118人 ⑤いずみメールの配信 2回実施 ⑥健康づくりポイント事業の実施 市内73医療機関にポスター掲示、各がん検診受診票に健康ポイント事業の説明を記載																														
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値																											
	検診の受診啓発実施者数		人	28,000	H28	H29	H30	R1	R2																									
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																									
	印刷製本費	2,423,000				印刷製本費	1,384,450																											
	通信運搬費	1,259,000				通信運搬費	1,022,296																											
	計			3,682,000		計			2,406,746																									
	備考					備考																												

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<ul style="list-style-type: none"> ・胃がん検診以外は、受診率が向上する結果となった。 ・受診勧奨素材の内容、送付対象者の選定が適切であったことが要因として考えられる ・また送付時期についても考慮し、検診予約開始日の少し前に送付することで、受診行動に結びついた。 ・胃がん検診については、平成29年度より取り組んでいる胃がん内視鏡検査の周知が必要と考える。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨の効果およびリーフレット配付等により検診を周知できたことにより、受診率が向上した。 ・しかしながら目標値には届いておらず、対象者を受診行動に結びつけるより効果的な手法を検討する必要がある。 ・他市の好事例やソーシャルマーケティング等の取り入れなど検討する必要がある。 ・胃がん検診については、市の検診として内視鏡を実施しているという認知度が低いと感じた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨素材およびリーフレット等については、他市の好事例やソーシャルマーケティング等を取り入れ、周知手法などを検討する。 ・引き続き、幅広く働きかけを行うため、地域の健康教育や乳幼児健診で来所された保護者等を対象に周知啓発を行う。 ・新たに胃がん内視鏡検査のポスター等を作成し、周知に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進											
重点施策	11 定期的な健康チェックの推進											
成果指標 (KPI)	1102	メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)該当者及び予備群の割合							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	29.0			中間年度の目標値(R2)	26.7		最終年度の目標値(R7)	25.0		総合戦略の目標値(R1)	27.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	29.0	28.7	30.2	30.0								達成状況
達成率		7.5%	0.0%	0.0%								
備考												
担当課	保険年金室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 特定健康診査受診勧奨事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価)	生活習慣の改善が必要な人に早期にかつ適切な特定保健指導を実施するため、特定健康診査の受診率向上を図る。		(事後評価)	<平成30年度特定健康診査受診実績> 【受診対象者数】 27,253人 【受診者数】 11,677人 【受診率】 39.3% 【勧奨者数】 16,832人 うち受診者数 2,892人 【勧奨者の受診率】 28.2%					
(事前評価)	【P】事業の目的 (特定健康診査の対象者)和泉市国民健康保険に加入する40歳から74歳の人		(事後評価)	【D】事業実績 <勧奨通知の送付> 送付日 送付人数 第1回目 平成30年8月29日 7,319人 第2回目 平成30年11月1日 7,338人 第3回目 平成31年1月4日 1,076人 <電話勧奨の実施> 平成30年6月11日～6月15日 1,099人に架電					
(事前評価)	【P】事業の内容 特定健康診査の受診勧奨を実施し、受診につなげる。		(事後評価)	①はがきによる勧奨 ・年3回、合計15,733人に勧奨通知を送付し、2,863人が特定健康診査を受診した。 ・和泉市を4圏域に分け、地区内の医療機関を掲載送付した。 ②電話による勧奨 H27～H29年度のうち1回の受診歴あり、在宅率が高いと思われる63歳～70歳の方で今年度未受診者に保健師(委託)より電話勧奨。1,099人のうち379人が受診。 【共通】 第1・2回目:圏域別通知 第3回目:H30年度未受診者 電話:平成28・29年度特定健康診査未受診者どちらか受診しており今年度未受診者【新規】					
(事前評価)	【P】成果指標向上のための具体的な取組 ①はがきによる勧奨 対象者数:15,000人 ②電話による勧奨 対象者数:1,000人 【①及び②共通】 勧奨時期及び対象者の検討 対象者の年齢や過去の受診歴などを基に、受診率向上に効果的な時期・対象者を検討する。		(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績					
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
					H28	H29	H30	R1	R2
【P】活動指標	特定健康診査受診率(速報値)		%	44.0	38.1	37.3	39.3		
	勧奨通知者で特定健康診査を受けた人の割合		%	18.0	16.5	11.4	18.2		
	電話勧奨対象者で特定健康診査を受けた人の割合		%	20.0			34.5		
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
【P】予算	印刷製本費	289,000			印刷製本費	145,615			
	役務費	1,008,000			役務費	930,825			
	委託料	433,000			委託料	338,354			
	計			1,730,000	計				1,414,794
	備考				備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<ul style="list-style-type: none"> ・勧奨はがきに「和泉市死因別死亡率」を掲載し、生活習慣病を予防するための健診の必要性見える化し、また、近くの健診実施医療機関を掲載することで「行きやすい」と思ってもらえるように変更したところ、特定健康診査の受診率が39.3%に上昇した。 ・専門職(保健師)から電話勧奨することで受診に繋がらない方に対しても健康に関する情報提供をすることで予防の必要性、生活習慣病のリスクを伝えておくことで早期受診や今後の健診受診の動機付けになると考えられる。 ・受診率の向上が即座にKPI(メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合)の向上に直結するものではないものの、KPIを向上させるためには長期的な視点で、市民の健康意識を高めることが必要であり、受診率を向上させることが重要である。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や受診履歴を勘案し、勧奨対象者を抽出すると前年度より受診率が上昇し、早期に自身の健康行動に繋がることで、ひいてはメタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合の減少に繋げることができたと考えられる。 ・勧奨方法を工夫したことで勧奨の効果が上がっていると考えられる。今後も不定期に受診している人が一定数存在することや未受診者の固定化が想定されるため、これらの人を受診に繋げる勧奨の方法や内容を検討する必要がある。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間、土日に電話勧奨を実施出来るよう、委託先の検討を行う。 ・不定期受診者及び未受診者の固定化に対する対策として、電話による勧奨回数や対象者の拡大を検討する。 ・また、はがきによる勧奨通知については、引き続き実施する。未受診者が固定化されているということは、勧奨対象者も固定化されていると想定されるため、対象者の抽出方法、勧奨時期、勧奨内容の見直しを検討する。

取組事業	2 特定保健指導利用促進事業			地方創生関連交付金事業該当	-																																																
				和泉躍進プラン(案)該当	-																																																
(事前評価) 【P】事業の目的	生活習慣病の発症、重症化を予防するため、特定保健指導の利用率向上を図る。 (対象者)和泉市国民健康保険に加入する40歳から74歳の人の中、特定健康診査を受診し、その結果、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善が必要な人			(事後評価) 【D】事業実績	特定保健指導対象者数 1,202人 特定保健指導利用者数 325人 ①電話による利用勧奨 期間 平成30年4月～平成31年3月 勧奨対象者 785人 勧奨できた人の数 472人 勧奨率 60.1% 特定保健指導を利用した人の数 41人 利用率 8.7% ②運動教室 期間等 月2回、6か月間 実施回数 年間5クール 定員 15人/回(延べ75人) 参加者数 56人 参加率 74.7% 【開催状況等】 1回目 平成30年4月13日～参加者 15人 2回目 平成30年6月4日～参加者 15人 3回目 平成30年10月10日～参加者 8人 4回目 平成30年12月3日～参加者 6人 5回目 平成31年2月12日～参加者 13人 ③スポーツ施設利用型の運動指導支援 期間等 月4回、3ヶ月間 実施回数 2回 定員15人/回、20人/回 参加者数 27人 参加率 77.1%																																																
(事前評価) 【P】事業の内容	①特定保健指導対象者に利用勧奨を行う。 ②特定保健指導に運動教室を併設した支援を実施する。 ③特定保健指導とスポーツ施設利用型の運動指導支援を組み合わせた支援を行う。																																																				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①電話による利用勧奨 ・文書による案内で特定保健指導の利用意向の返事がない人を対象に電話により勧奨する。 ②運動教室の実施 ・年5クール、定員15人 ・運動教室の開催期間等 月2回、6か月間 ③スポーツ施設利用型の運動指導支援の実施 ・定員 60名 ・運動指導支援期間 3か月間			(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①特定保健指導の利用案内を送付し、締切日までに利用意向の返事がない人を対象に、電話による利用勧奨を行った。特定健康診査の結果を踏まえ、生活習慣改善の必要性を伝えた。 ②年5クール、合計56人が利用した。 ③スポーツ施設利用型は年2回27人が利用。年齢や性別、体力に応じて、一人ひとりが自宅や日常生活で取り組みやすい運動方法を習得するプログラムを実施した。また、生活改善の必要性の理解を深めるため、健康や運動等に関する学習時間を設けた。																																																
(事前評価) 【P】活動指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の名称</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">当該年度の目標値</th> <th colspan="5">(事後評価)【D】実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>勧奨できた人の割合</td> <td>%</td> <td>65.0</td> <td>65.5</td> <td>58.3</td> <td>60.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>勧奨できた人の内、特定保健指導を利用した人の割合</td> <td>%</td> <td>10.0</td> <td>6.9</td> <td>11.6</td> <td>8.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>運動教室併設型の特定保健指導参加率</td> <td>%</td> <td>70.0</td> <td>80.0</td> <td>85.0</td> <td>74.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スポーツ施設利用型運動指導支援者の特定保健指導参加率</td> <td>%</td> <td>70.0</td> <td></td> <td></td> <td>77.1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					H28	H29	H30	H31	H32	勧奨できた人の割合	%	65.0	65.5	58.3	60.1			勧奨できた人の内、特定保健指導を利用した人の割合	%	10.0	6.9	11.6	8.7			運動教室併設型の特定保健指導参加率	%	70.0	80.0	85.0	74.7			スポーツ施設利用型運動指導支援者の特定保健指導参加率	%	70.0			77.1						
指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																																																		
			H28	H29	H30	H31	H32																																														
勧奨できた人の割合	%	65.0	65.5	58.3	60.1																																																
勧奨できた人の内、特定保健指導を利用した人の割合	%	10.0	6.9	11.6	8.7																																																
運動教室併設型の特定保健指導参加率	%	70.0	80.0	85.0	74.7																																																
スポーツ施設利用型運動指導支援者の特定保健指導参加率	%	70.0			77.1																																																
(事前評価) 【P】予算	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>14,000</td> <td>使用料及び賃借料</td> <td>347,000</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td>173,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>6,837,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>7,371,000</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	印刷製本費	14,000	使用料及び賃借料	347,000	役務費	173,000			委託料	6,837,000			計			7,371,000	備考				(事後評価) 【D】決算	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> <th>内訳</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>0</td> <td>使用料及び賃借料</td> <td>209,810</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td>136,584</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>1,854,700</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>2,201,094</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	印刷製本費	0	使用料及び賃借料	209,810	役務費	136,584			委託料	1,854,700			計			2,201,094	備考			
内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																																		
印刷製本費	14,000	使用料及び賃借料	347,000																																																		
役務費	173,000																																																				
委託料	6,837,000																																																				
計			7,371,000																																																		
備考																																																					
内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																																		
印刷製本費	0	使用料及び賃借料	209,810																																																		
役務費	136,584																																																				
委託料	1,854,700																																																				
計			2,201,094																																																		
備考																																																					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>勸奨対象者の特定保健指導利用率及び運動教室併用型の特定保健指導利用率は、目標を達成し、前年度と比較して向上、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)該当者及び予備群の割合もやや減少したものの健診及び指導対象者の母数を増やし、働きかけていく必要がある。</p> <p>利用勸奨率の減少は、留守により勸奨できなかった人の割合が前年と比べて増えたことが影響した。</p> <p>日と時間帯(朝・昼・夕方)を変更して、3回架電しているものの、生活スタイルの多様化などから利用勸奨に繋がらなかった。</p>
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	<p>生活習慣病の発症・重症化リスクを予防・低減するためには、適度な運動、バランスの取れた食生活、禁煙などの生活習慣の定着が肝要であり、特定保健指導では、対象者の年齢・性別、腹囲やBMI、血液検査の数値などから個々に応じて、無理のない範囲で目標を設定し、中長期的かつ継続的に生活習慣の改善を図っていることから、即座にメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)該当者及び予備群の割合の減少に繋がった。</p> <p>運動教室併設型の特定保健指導に関しては、運動教室を2週間に1回、平日の日中に開催していることで、子育てや仕事などにより時間的な制限のある人が多い40歳代、50歳代の参加が低位になっていると想定されるため、今年度からスポーツ施設を利用して運動指導型の特定保健指導を開始した。利用者のうち、40・50代は14名中2名で、期待した対象者は少なかった。教室終了後の運動継続の有無に関しては事業が完了していないため不明。</p>
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>利用勸奨及び特定保健指導に運動教室を併設した支援は、特定保健指導の利用を促進するため引き続き継続する。</p> <p>時間的な制限がある人が多い40歳代、50歳代の特定保健指導利用率向上のため、土日祝日や夜間帯の利用が可能なスポーツ施設を利用した運動指導型の特定保健指導を継続する。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	11 定期的な健康チェックの推進												
成果指標 (KPI)	1103	ヘルスアップサポーターいずみ 地域活動回数							指標の単位	回	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	1,137		中間年度の目標値(R2)		1,430		最終年度の目標値(R7)		1,630		総合戦略の目標値(R1)	1,380
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	1,047	1,397	1,747	1,981								達成状況	
達成率	60.0%		100.0%		100.0%								
備考													
担当課	健康づくり推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ヘルスアップサポーターいずみ養成・活動支援事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価)	健康都市いずみを実現するため、地域で健康づくり活動を推進する健康づくりボランティア「ヘルスアップサポーターいずみ」の養成と育成を図る。				(事後評価)	①養成講座を開催 6回/コース 参加者数(延) 62人 ②定例会を開催 1回/月 全12回 参加者数(延)219人 地域活動等の情報交換や共有、イベント等の企画 ③会員の地域での健康づくり活動に関する支援 定例会での学習会、イベント企画・支援等				
(事前評価)	①養成講座を開催する。 ②健康づくりの情報提供や活動の情報交換等を行う会員対象の定例会を開催する。 ③会員の地域での健康づくり活動に関する支援を行う。				(事後評価)	【D】 事業実績				
(事前評価)	①サポーターに対して、定例会等を活用した活動支援を行う。 ・学習会 ・地域活動に関する情報交換 ・市と協働によるイベント企画・運営 【P】 成果指標向上のための具体的な取組 ②定例会参加者を増やすため、養成講座で会員から活動内容等を伝える機会を設け、受講生への定例会参加勧奨を行う。 ③養成講座受講者の地域健康づくりへの参画を支援するため、地域担当保健師が窓口となり受講者と地域活動者をコーディネート。				(事後評価)	【D】 成果指標向上のための具体的な取組の実績 ①定例会を活用した活動支援 ・学習会 10回 健康都市いずみ21計画の健康分野(健康チェック、栄養食生活、歯と口腔の健康、たばこ、こころの健康等)について実施 ・地域活動に関する情報交換の機会 12回 ・市と協働によるイベント企画・運営 2回 ウォーキングイベント、クッキングイベントを企画し運営 ②定例会参加者を増やす取り組み ・養成講座への既会員の参画 5回 ・養成講座受講者の定例会参加者数 8人 ③養成講座受講者の地域健康づくり活動への参画支援 地区担当者保健師が、地域で活動する登録会員と養成講座受講者とを繋げ、地域の健康づくり活動へ参画する機会を設けた				
(事前評価)	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】 実績値				
【P】 活動指標	ヘルスアップサポーターいずみ登録者数			人	114	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】 予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】 決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	353,000	役務費	20,000		報償費	353,000	役務費	20,000	
	消耗品費	91,000				消耗品費	90,948			
	印刷製本費	8,000				印刷製本費	6,700			
	計			472,000		計			470,648	
備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	従来からの会員活動に加え、新規会員が養成の段階から既会員との交流機会を通じ、またその後の定例会に参加することで、具体的な活動イメージが持て、養成講座受講後に活動者として登録され、実践的な活動につながっている。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	地域で活動する登録会員と養成講座受講者とを繋げ、地域の健康づくり活動へ参画する機会を設け、実践的な地域活動につながる事業運営を行えた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	「第3次健康都市いずみ21計画」の基本目標である健康寿命の延伸をめざし、健康課題を健康づくり活動の実践者であるヘルサポと共有し、協働した活動を展開していく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進											
重点施策	12 スポーツを通じた心身の健康増進											
成果指標 (KPI)	1201	スポーツ等市主催イベントへの年間参加者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	5,657		中間年度の目標値(R2)		7,200		最終年度の目標値(R7)		8,000	総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	6,308	6,547	4,512	6,452								達成状況
達成率		14.1%	0.0%	8.5%								
備考												
担当課	スポーツ振興課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 スポーツイベント推進事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	誰もが気軽にスポーツに親しむ機会を提供し、生涯スポーツの推進を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ファミリー歩こう会 <ul style="list-style-type: none"> ・春季参加者数: 108人(H29年度比+1人) ・秋季参加者数: 38人(H29年度台風により中止) ○親子ふれあい体験乗馬 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 42人(H29年度比▲14人) ○市民観戦デー <ul style="list-style-type: none"> ・プロ野球参加者数: 1,850人(H29年度比+653人) ・プロサッカー参加者数: 904人(H29年度比▲258人) ○市民ゴルフ大会 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 70人(H29年度比▲29人) ○キッズスポーツフェスティバル <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 1,584人(H29年度台風により中止) ○信太山クロスカントリー大会 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 1,727人(H29年度比+17人) ○ニュースポーツフェスタ <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 109人(H29年度比▲16人) ○走り方教室 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数: 20人(H29年度比▲36人) 				
(事前評価) 【P】事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツイベントやスポーツ教室を開催する。 ・野球やサッカーなどのプロスポーツ観戦の機会を提供する。 									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①シティプロモーションに連動し、大阪ミュージアムミックスなどにイベント情報を提供し、事業啓発等を行う。 ②市内体育施設等にチラシ・ポスターを配布・掲示する。 ③各イベントにおいて、企画内容の充実を図るとともに、協賛企業の獲得に取り組む。 ④桃山学院大学と連携し、気軽に誰でも楽しめるイベントとしてニュースポーツフェスタを開催し、スポーツイベント参加者の拡大を図る。 				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ①いずみアピール課のシティプロモーション事業を活用し、大阪府を通じて近畿及び全国へ事業啓発を行う等、広域的な啓発を行った。 ②市内体育施設や図書館において、チラシの配布やポスターの掲示を行った。 ③信太山クロスカントリー大会では、新規の協賛企業の獲得をすべく営業を行い、4社新規参入があった。 ④ニュースポーツフェスタでは広報・ホームページ等で募集を行い、参加者の拡大を図ったが、参加者数が減少した。 				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価) 【D】実績値				
	チラシ・ポスター設置箇所数(公の施設除く)		箇所	15	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	需用費	1,205,000	使用料及び賃借料	2,565,000		需用費	926,854	使用料及び賃借料	1,661,581	
	報償費	260,000				報償費	12,000			
	役務費	484,000				役務費	275,476			
	計			4,514,000		計			2,875,911	
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>○前年度台風で中止となったキッズスポーツフェスティバルや秋季ファミリー歩こう会について、今年度は開催する事ができ、参加者数が増加した。</p> <p>○プロ野球観戦会の試合前セレモニーにおいて、新たな出演団体が参加することにより参加者数が増大した。</p> <p>○ふれあい体験乗馬や市民ゴルフ大会などの委託事業については、周知方法が広報・ホームページ(体験乗馬、市民ゴルフ)や体育館だより(体験乗馬)であり、他のイベントと比較するとチラシ・ポスターの設置や案内が不十分だったため、参加者数が減少した。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>○キッズスポーツフェスティバルについては、昨年度台風により中止になったことを踏まえ、今年度は雨天時に室内で出来る内容を検討し、雨天時の対策も講じた。</p> <p>○ふれあい体験乗馬や市民ゴルフ大会など委託している事業については、周知の方法を検討していく必要がある。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>○引き続き関係団体と調整してイベント内容の充実を図り、SNSの利用や、見やすいホームページの作成、手にとってもらえるようなチラシの作成等、より有効な告知方法の検討をし、魅力あるイベントを実施していく。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	12 スポーツを通じた心身の健康増進												
成果指標 (KPI)	1202	社会体育施設の年間利用者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	496,716		中間年度の目標値(R2)		637,000		最終年度の目標値(R7)		700,000		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	540,296	518,384	555,613	554,450								達成状況	
達成率		0.0%	9.6%	8.9%									
備考													
担当課	スポーツ振興課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 体育施設利用促進事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	誰もが気軽にスポーツに親しむ機会やライフステージに応じた多様なスポーツ活動の場を提供する。				(事後評価)	○光明池球技場 延利用者数:71,230人(H29年度比▲9,451人) ○光明池緑地運動場 延利用者数:50,905人(H29年度比▲3,437人) ○温水プール 延利用者数:190,586人(H29年度比▲8,459人) ○市民体育館 延利用者数:47,847人(H29年度比▲18,381人) ○コミュニティ体育館 延利用者数:91,737人(H29年度比+1,888人) ○総合スポーツセンター 延利用者数:90,315人(H29年度比+24,847人) ○槇尾川公園テニスコート 延利用者数:11,830人(H30年度新規施設)				
(事前評価) 【P】事業の内容	市内の各体育施設において、スポーツ教室やイベントなどを開催する。				【D】事業実績					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①トップアスリートを招いたスポーツ教室等を開催 ②施設や広報誌における予約システムへの団体登録の周知				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①トップアスリートを招いたスポーツ教室を以下のとおり開催し、施設の利用促進を図った。 ○バドミントン教室(元日本代表 森かおり) 【時期】平成30年7月22日 【場所】コミュニティ体育館 【参加者数】46名 ○水泳教室(元日本代表 星奈津美) 【時期】平成30年8月29日 【場所】サン燦プール 【参加者数】41名 ○サッカー教室(元日本代表 加地亮) 【時期】平成30年9月17日 【場所】総合スポーツセンター 【参加者数】50名 ②施設や広報誌において予約システムへの団体登録の周知を行った。 【登録団体数】258団体(H29年度比+8)				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	指定管理者によるスポーツイベント実施数			回	25	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	138,995,000				委託料	133,382,477			
	計		138,995,000			計		133,382,477		
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	台風の被害により、一部施設の利用停止としたことで利用者が減少した。【市民体育館 大体育室(9/4～3/31)、市民体育館 小体育室&会議室(9/4,5)、コミュニティ体育館 全館(9/4～8)、光明池緑地運動場 Aグラウンド(9/4～2/17)、光明池球技場(9/4～5)、サン燦プール全館(9/5～6)、総合スポーツセンター全館(9/4～5)】 社会体育施設全体の年間利用者数は減少しているものの、昨年度全面オープンした総合スポーツセンターの延利用者数が順調に増加(H29年度比+24,847人)している。増加要因としては、近隣施設のJ-Green(堺市)等で台風被害による施設使用不可の影響を受けて、総合スポーツセンターに利用者が流れてきたと考えられる。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	台風被害により全体の利用者数は減少したものの、トップアスリートを招待したスポーツ教室を実施することで、市民の技術力向上や市民への周知を図り、今後の施設利用者の増加につなげることができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	引き続き、指定管理者と協議のうえ、トップアスリートを招いたスポーツ教室や誰もが参加しやすいスポーツイベントを開催するとともに、更なるスポーツの普及に向けて施設の利用促進を図る。

取組事業	2 総合スポーツセンター整備事業				地方創生関連交付金事業該当		-				
					和泉躍進プラン(案)該当		-				
(事前評価) 【P】事業の目的	市民が身近にスポーツを楽しめる施設環境の整備を行い、市民の健康や競技力の向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	平成30年12月～平成31年3月 駐輪場等の整備					
(事前評価) 【P】事業の内容	野球場や多目的グラウンド、テニスコート等の機能を備えた新たな総合スポーツセンターの整備を行う。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	平成29年5月に全面オープンした総合スポーツセンターについて、駐輪場等の整備を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	駐輪場・バイク置き場の設置、既存ブロック塀の撤去、ネットフェンスの新設、スロープ設置、施設内照明の設置、植栽工事、灌漑設備設置を行った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	開設施設数				施設	-	H28	H29	H30	H31	H32
						1	3	-			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	工事請負費	27,000,000				工事請負費	21,867,840				
	計			27,000,000		計			21,867,840		
	備考					備考					

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ④前年度より減少	
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ②効果的だった	駐車を多目的グラウンド付近に設置したことで、自転車・バイクで来場する利用者の利便性が向上した。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ⑤廃止	駐輪場等の整備を完了し、事業終了。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	12 スポーツを通じた心身の健康増進												
成果指標 (KPI)	1203	体育協会の加盟者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	10,954			中間年度の目標値(R2)	13,700		最終年度の目標値(R7)	15,000		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	10,862	10,890	11,638	10,263								達成状況	
達成率		0.7%	18.8%	0.0%									
備考													
担当課	スポーツ振興課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 体育協会運営費補助事業							地方創生関連交付金事業該当	-			
								和泉躍進プラン(案)該当				
(事前評価) 【P】事業の目的	体育協会の支援により、地域のスポーツ団体や市民のスポーツ活動の活性化を図る。				(事後評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○陸上競技連盟 加入者数:500人(H29年度比:▲124人) ○軟式野球連盟 加入者数:1,852人(H29年度比:▲1,178人) ○バレーボール連盟 加入者数:462人(H29年度比:+183人) ○ソフトテニス連盟 加入者数:112人(H29年度比:▲83人) ○バスケットボール連盟 加入者数:685人(H29年度比:▲39人) ○卓球連盟 加入者数:310人(H29年度比:+13人) ○空手道連盟 加入者数:186人(H29年度比:+11人) ○柔道連盟 加入者数:105人(H29年度比:+32人) ○剣道連盟 加入者数:167人(H29年度比:▲4人) ○ソフトボール連盟 加入者数:438人(H29年度比:+44人) ○バトミントン連盟 加入者数:590人(H29年度比:▲105人) ○ゲートボール連盟 加入者数:69人(H29年度比:▲7人) ○テニス連盟 加入者数:2,299人(H29年度比:▲99人) ○サッカー連盟 加入者数:1,150人(H29年度比:+174人) ○少林寺拳法連盟 加入者数:125人(H29年度比:▲35人) ○太極拳連盟 加入者数:366人(H29年度比:+76人) ○グラウンドゴルフ連盟 加入者数:535人(H29年度比:▲294人) ○キックベースボール連盟 加入者数:270人(H29年度比:+60人) ○インディアカ連盟 加入者数:42人(H28年度比:±0人) 						
(事前評価) 【P】事業の内容	体育協会加盟団体の活動費、各種体育大会の参加経費等を対象として、補助金を交付する。				(事後評価) 【D】事業実績							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①体育協会に対して、以下の事業の活動費、派遣費、総合体育大会の諸経費等を対象として補助金を交付する。 ・スポーツの普及振興に関する事業 ・体力の向上、健康増進に関する事業 ②各連盟に対して、体育協会運営費補助事業の制度周知を図る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	○体育協会に対して、以下のとおり補助金を交付した。 【交付実績】 ・交付団体数 19団体 ・加盟団体事業実施補助金 6,745,250円 ・大阪府総合体育大会派遣費 534,800円 ・大阪府総合体育大会諸経費 130,000円 ・体育協会表彰諸経費 28,080円 ・雑費 568,140円 ○各連盟に対して、体育協会運営費補助事業の制度周知を図った。						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値						
	補助金交付団体数			団体	19	H28	H29	H30	R1	R2		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	負担金補助及び交付金	8,192,000				負担金補助及び交付金	8,186,116					
	計			8,192,000		計					8,186,116	
	備考				備考							

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ④前年度より減少	台風21号による影響で市民体育館が利用できなくなった為に大会中止となり、大会開催時に連盟加入を受け付ける事ができず、連盟加入者数が減少した。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ②効果的だった	大会中止となったために昨年度と比較すると連盟加入者数は減少したが、各連盟の活動は前年度と同様に企画され、補助制度による活動の活性化につなげることができた。 各連盟に対して制度の周知を図ることで、補助制度の積極的な活用を促すことができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	体育協会と連携を図り、市広報やホームページを活用するなどしてスポーツの普及・振興や大会参加者数の増加に努め、体育協会の周知と共に地域のスポーツ団体や市民のスポーツ活動の活性化を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	13 元気に生涯活躍できる環境づくりの推進												
成果指標 (KPI)	1301	住民自主グループによる介護予防体操参加者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	2,300		最終年度の目標値(R7)	2,500		総合戦略の目標値(R1)	2,278	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	253	647	913	1,425								達成状況	
達成率	17.5%		29.4%		52.2%								
備考													
担当課	高齢介護室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 介護予防体操普及啓発事業				地方創生関連交付金事業該当	-				
					和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価)	○介護予防に関する知識や技術を提供し、要介護状態を防ぐ。 ○年齢や心身の状態の状況によって高齢者を分け隔てることなく、誰でも一緒に参加することのできる住民主体の通いの場を地域に作っていくことで人と人のつながりができ、緩やかな見守りが自然にできる地域づくりを目指す。				(事後評価)	【平成30年度末の活動団体の状況】 団体数 : 63団体 参加者数 : 1,425名				
(事前評価)	○住民主体で週1回以上の実施が可能な概ね10名以上のグループに対して「いきいきずみ体操」を実施できるように知識と技術及び媒体(体操DVD・おもり)を提供する。 ○年に1回ずつ体力測定・療法師派遣を行う。				(事後評価)	【D】事業実績 (内、平成30年度の新規団体数:23団体/522名)				
(事前評価)	①活動の場の立ち上げ ・年度初めに、連合町会・民生児童委員・校区社会福祉協議会の代表者の会議にて、事業について説明を実施する。 ・依頼のあった団体に、地域包括支援センターの職員が、体験版1回・シリーズ版3回を通じ主体的に取り組むノウハウを指導。その後は自主的に体操を実施していく。 ②活動団体の継続支援 ・立ち上げ後、6ヶ月後に体力測定と療法師による指導を実施する。 ・7月と11月に活動団体の代表者の交流会を開催。 ③体操の周知 ・市で実施する介護予防教室で「いきいきずみ体操」を実施し、継続参加の希望があれば、お住まいに近い活動の場を紹介。町会、老人クラブ、社協ボランティアなど、地域の団体に周知する。 ・地域の集まりに出向きPRを行う。 ・市内福祉施設が活用可能か聞き取りを実施する。 ④地域包括支援センターが周知しやすいようデータの提供を行う。				(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績 ①活動の場の立ち上げ ・体験版実施団体:21か所 ・シリーズは委託事業者で実施。 ②活動団体の継続支援 ・評価フォロー実施:45か所 ・療法師フォロー実施:26ヶ所 ・活動者交流会:2回 ・90歳以上の活動継続者に表彰式を実施し、モチベーション維持の支援を実施。 ・口腔ケアのDVDを作成し、活動団体へ配布。 ③体操の周知 ・体操を理解してもらうためのPRを各地域で実施 ・介護予防教室として「おためいきいきずみ体操」を3回実施。 ・生活支援コーディネーターやCSWにも周知の協力をしていただいた。 ④地域包括支援センターへデータの提供 ・町単位の高齢化率や認定率、参加者の声等、住民にとって関心を向けてもらえるような媒体を作成した。				
(事前評価)	指標の名称			当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
(P)活動指標	いきいきずみ体操活動団体の立上げ数			箇所	40	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
(P)予算	報償費	715,000			(D)決算	報償費	338,000			
	委託料(包括)	1,600,000				委託料(包括)	575,000			
	委託料	10,732,000				委託料	4,017,600			
	計			13,047,000		計				4,930,600
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	平成30年度の開催団体は63団体であり、内新規は23団体と、昨年度の12団体に比較して約2倍の伸びとなった。新規立ち上げ団体数が昨年度より多かった要因として、近隣町からのロコミや、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが、新たな地域へのアプローチを行いやすいよう各地域の高齢化率等のデータを提供し、活動環境を整えたことが主な要因であると考えられる。 参加者数が伸びた要因として、全体の参加者1,425名のうち、新規団体の参加者は522名であり、新規参加者が全体の36.5%を占める大きな割合となったことが主な要因であると考えられる。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	周知時に、実際に体験している人の言葉を用いるなど、体操の効果を強調して説明していることが、未体験の市民の興味関心を引き、参加者増につながる効果を得たのではないかと考える。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ○単位老人クラブなどへ、早い時期に働きかけを行い、各地域で活動団体が立ち上がるよう啓発を促す。 ○地域の高齢者等が、歩いていける範囲に活動の場ができるよう協力団体と調整を行う。 ○地域包括支援センターが新規活動団体の開拓に専念できるような事業展開を行う。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	13 元気に生涯活躍できる環境づくりの推進												
成果指標 (KPI)	1302	認知症予防教室の参加者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	78		中間年度の目標値(R2)	630		最終年度の目標値(R7)	1,155		総合戦略の目標値(R1)	525		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	84	179	253	287								達成状況	
達成率	8.9%		15.8%		19.0%								
備考													
担当課	高齢介護室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 認知症予防教室開催事業					地方創生関連交付金事業該当	-		
						和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	○認知症に対する正しい知識の習得と進行予防に関する知識や手法を身につけてもらい、認知症の予防を図る。 ○認知症を正しく理解することで、地域に住む認知症の方への理解や見守りなどについても考える機会とする。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度の認知症予防教室開催実績】 <教室数> 4日間×6コース <参加者数> 実82名 延べ287名			
(事前評価) 【P】事業の内容	65歳以上の要介護認定を受けていない方に対し、計4日間の認知症予防教室を開催する。 (教室の内容) 簡易なスクリーニングテストや脳トレニング、ウォーキングなど脳活性に効果のある実技及び講座を実施する。					<教室内容> ・1日目:スクリーニング、脳トレ、講話、グループワーク ・2日目:講話、脳トレ、運動、グループワーク ・3日目:講話、脳トレ、タオル体操、グループワーク ・4日目:講話、脳トレ、体操、グループワーク			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①認知症予防教室の講座内容を充実する。 ・認知症の基礎知識や予防の取組み、実技など、教室終了後も自分で取り組めそうな内容を検討する。 ②広報活動を充実する。 広報、HP、お知らせパンフや高齢者が集う機会へ出向き周知する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①認知症予防教室の講座内容の充実 ・エビデンスに基づいたメニュー(国立長寿医療研究センターが開発したコグニサイズなど)を取り入れたことで教室終了後の主体的な取組みに繋がった。 ・虚弱高齢者や認知機能の低下が著しい参加者については、短期集中的に運動機能へ働きかける教室や家庭訪問、専門機関による相談等を実施し、機能低下を予防する取組みを行い、介護予防に繋がった。 ②広報活動の充実 ・広報いずみや市HPで周知を図ったほか、医療機関へのチラシの配架やねりん大学・老人クラブ若手部での周知に取組んだ。また70歳に到達された方全員に介護予防の啓発文書を送付し、その中で教室の周知も行った。			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値			
	認知症予防教室の開催コース数		コース	6	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	1,476,000				委託料	1,198,800		
	計		1,476,000			計			1,198,800
	備考					備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	事業継続により参加者数は増加したものの、目標達成のためには単年度で概ね150人の参加者を得る必要があるところ、今年度は82人の参加者に止まった。 広報いずみ・市HP掲載、医療機関への周知、ねんりん大学・老人クラブ若手部での周知に取り組んだものの、認知症予防教室は平成20年度に開始しており、学習意欲の高い方はすでに受講しているため、目標とする参加人数には至らなかった。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防教室の開催場所によっては、定員オーバーで希望者全員が受講できなかったことが過去にあったため、希望の多い場所での開催を増やすなどの工夫を行い、定員オーバーで受講できない市民が出ることを避けることが出来た。 ・講座内容の充実を図ったものの、参加者数を十分に確保できなかったが、新規受講者が多く、本取組みに興味を持つ地域の土壌や個人の意識が育ちつつあると考える。 ・認知症のハイリスク者を早期に把握し、相談機関につなげることができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命(男71.19歳/女74.21歳)や本市の傾向(75歳を境に要介護認定率が上昇)を踏まえ、要介護状態になりやすい前段階である70歳の節目に集中的に情報提供を行い、身近な地域での開催も検討し、介護予防に取り組む高齢者の増加をねらう。 ・高齢者が介護予防の取り組みを継続するために、教室参加後のフォローについても検討していく(取組みを継続できる地域資源の情報提供など)。 ・介護予防への取組みを始めてほしい対象層への情報提供や参加しやすい場所の工夫など考慮する必要がある。 ・地域出張型の介護予防教室内でも認知症予防に関する内容を取り入れ、予防に関する周知を行っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第4節 健康寿命の延伸をめざした健康づくりの推進												
重点施策	13 元気に生涯活躍できる環境づくりの推進												
成果指標 (KPI)	1303	老人クラブの登録者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	14,536		中間年度の目標値(R2)	18,602		最終年度の目標値(R7)	21,314		総合戦略の目標値(R1)	17,924		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	14,536	14,283	13,901	13,408								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	高齢介護室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 老人クラブ加入促進事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価)	老人クラブは会員相互の連絡を図り、老後の生活を健全で豊かなものにし、老人の福祉増進に資することを目的としている。活動組織の基盤となる会員の増強に向け、加入率の低い60歳代の方に加入促進を行い、休会、退会クラブの復活を目指す。				(事後評価)	【平成30年度末の老人クラブの状況】 (クラブ数) 194クラブ(対前年度 ▲1クラブ) (会員数) 13,408人(対前年度 ▲493人)					
(事前評価)	老人クラブが存在しない地域に対し、クラブの必要性について周知を図り、新規クラブの設立を推進する。また、休会・解散クラブへ、CSWや地域包括支援センターが自治会長等へ働きかけを行うとともに、近隣のクラブへ協力を求めるなど復活への支援を行う。					(事後評価)	【活動内容】 ・町会・自治会等に対して、周知、広報活動を行った。 ・参加したくなる魅力的なクラブとするため、サークル等の充実、先進的な活動の情報交換等を行った。				
(事前評価)	①校区会長をはじめ、女性部、若手部においては、それぞれ地元校区、単位クラブにおいて、積極的な老人クラブの新規結成と休会・解散クラブの復活を目指すとともに、入会勧誘に努める。 ②新たに、和泉市役所の関係団体に働きかける。 ③各単位クラブが活発に様々な活動を行えるような魅力あるクラブづくりを目指す。 ④他市の先進クラブの視察を行う。 ⑤老人集会所の施設、設備の更新と充実を行う。				(事後評価)	①単位クラブ会長等が、校区長会議のほか、町会・自治会、各種関係団体に対して周知活動を実施した。また、広く周知を図るため、ホームページの立ち上げを行った。 ③単位クラブが実施する教室等を充実させるため、ニュースポーツを紹介する場を設けた。 ④老人クラブの若手会員を対象に、高齢者の健康等生きがいづくりを推進するリーダーを育成するため、シニアクラブ大阪健康づくり大学校講座に参加した。 ⑤老人集会所の設備を更新し、高齢者が活用しやすいよう整備した。 H30実施内容:エアコンの修繕、取り替え、手すり設置等 また、南松尾老人集会所を旧南松尾小学校をリニューアルする形で設置し、グラウンドを持った施設とすることで、高齢者が活用しやすいよう整備した。					
(事前評価)	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
【P】活動指標	単位クラブ数				クラブ	200	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	補助金	11,032,000				補助金	11,032,000				
	計			11,032,000		計			11,032,000		
【P】予算					【D】決算						
備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	新規加入者が少ないため、クラブの中心的な役割を担うべき若手のクラブ会員が減少し、組織が高齢化する中で、クラブの継続が困難となる悪循環が全国的に起こっている状況であり、本市も例外ではなく、クラブ数が減少した。 また、これに伴い会員数が減少した。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	老人クラブの活性化を図る各種取組みや周知啓発を行ったが、老人クラブの加入者数の増加に繋がらなかった。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	○老人クラブの方に囲碁将棋大会への一般参加を促進する等、老人クラブの活発な活動を啓発する。 ○自治会加入者以外の団体への対応等検討して行く。 ○市として、老人クラブへ必要なフォローを継続して行うとともに、老人集会所の設備更新を行う。

第1章 定住の促進

第5節 外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備

- 14 緑のある憩いの場の創出
- 15 住み続けたいくなる快適な都市環境の整備
- 16 外出を容易にする交通機能の充実

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第5節 外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備												
重点施策	14 緑のある憩いの場の創出												
成果指標 (KPI)	1401	都市公園の開設面積							指標の単位	ha	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	145.3			中間年度の目標値(R2)	147.6		最終年度の目標値(R7)	149.1		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	144.5	147.0	148.2	149.1								達成状況	
	達成率		54.3%	80.4%	100.0%								
備考													
担当課	公園緑地課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 都市公園整備事業							地方創生関連交付金事業該当	-																																	
								和泉躍進プラン(案)該当	-																																	
(事前評価) 【P】事業の目的	緑とうるおいのある快適な都市環境の向上を図るため、憩いの場として休息やレクリエーション、地域のコミュニティ活動等に利用できる公園や緑地を整備する。				(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ○黒鳥山公園：園路広場、公衆便所設置の工事を実施した。 ○松尾寺公園：災害復旧工事を完了した。 ○その他、開発公園やUR施工分の管理移管により公園の開設面積が、0.9ha増加した。 																																				
(事前評価) 【P】事業の内容	本市の中核的な公園である、黒鳥山公園、松尾寺公園の整備を進めるとともに、民間住宅開発時に適切な公園配置を求める。 ○黒鳥山公園：公園整備工事を実施する。 ○松尾寺公園：災害復旧工事を行う。 ○民間開発公園の移管を受ける。					(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○黒鳥山公園 <ul style="list-style-type: none"> ・園路広場、公衆便所設置の工事を実施した。 ○松尾寺公園 <ul style="list-style-type: none"> ・被災箇所の復旧工事を完了した。 ○開発等に伴い下記の公園の移管を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> ・内田6号公園 256㎡(内田町三丁目) ・葛の葉8号公園 94㎡(葛の葉三丁目) ・はつが野4号公園 8,258㎡(はつが野四丁目) 																																			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①黒鳥山公園：0.2haの公園開設を目指し、園路、広場、植栽等の整備を行う。 ②松尾寺公園：被災箇所を復旧し、今後の整備工事が可能な状況をつくる。 ③開発行為の届出があった場合は、適切な公園設置を行うよう事業者と協議する。				(事後評価) 【D】実績値		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の名称</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">当該年度の目標値</th> <th colspan="5">(事後評価) 【D】実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>黒鳥山公園整備面積</td> <td>ha</td> <td>0.2</td> <td>0.0</td> <td>1.0</td> <td>0.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>民間開発公園(UR事業分含)移管分</td> <td>ha</td> <td>0.2</td> <td>2.5</td> <td>0.2</td> <td>0.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値					H28	H29	H30	R1	R2	黒鳥山公園整備面積	ha	0.2	0.0	1.0	0.0				民間開発公園(UR事業分含)移管分	ha	0.2	2.5	0.2	0.9		
指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値																																							
			H28	H29	H30	R1	R2																																			
黒鳥山公園整備面積	ha	0.2	0.0	1.0	0.0																																					
民間開発公園(UR事業分含)移管分	ha	0.2	2.5	0.2	0.9																																					
(事前評価) 【P】活動指標																																										
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																																	
	工事費	65,000,000				工事費	64,393,920																																			
	計			65,000,000		計			64,393,920																																	
	備考																																									

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	本年度で松尾寺公園は、災害復旧工事を完了した。 黒鳥山公園は造成工、園路整備や便所の設置を優先して、園路灯の設置を見送ったため、開設告示は行なわなかったが、開発公園等の移管により0.9haの増加となった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	松尾寺公園は災害復旧工事を完了し、今後の整備工事が可能な状況となった。また、黒鳥山公園は昨年度に引き続き社会資本整備総合交付金を確保しながら整備工事を実施し、後年度開設へ向けての進捗が図られた。 全体としては開発公園・UR施工分の管理移管により0.9haの開設区域をを拡大できた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	社会資本整備総合交付金を確保しながら、黒鳥山公園、松尾寺公園等の整備を進め、公園面積の拡大に向け、継続的に事業を行なう。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進													
節	第5節 外出機会を創出するうえのある都市基盤の整備													
重点施策	14 緑のある憩いの場の創出													
成果指標 (KPI)	1402	貴重動植物の数						指標の単位	種類	総合戦略該当		-		
	参考値(H26)	6			中間年度の目標値(R2)	6			最終年度の目標値(R7)	6			総合戦略の目標値(R1)	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	6	6	6	6								達成状況		
達成率	100.0%		100.0%	100.0%										
備考														
担当課	環境保全課													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 信太山丘陵市有地貴重動植物モニタリング事業						地方創生関連交付金事業該当	-				
							和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	貴重な動植物が生息する信太山丘陵市有地を次世代に継承すべき財産、地域のシンボルと位置づけ、里山的環境の保持に取り組む。				(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会所属のNPO団体(特定非営利活動法人信太の森FANクラブ及び特定非営利活動法人いずみの国の自然館クラブ)協力のもと、湿地のモニタリング調査を、平成30年4月、7月、9月、11月、平成31年1月の計5回実施。 ・平成30年度の湿地調査において、調査対象種のほか「サギソウ」、「コモウセンゴケ」等の絶滅危惧Ⅱ類や準絶滅危惧種にランク付けされている貴重種の生育を確認した。 						
(事前評価) 【P】事業の内容	大阪府レッドリスト2014において絶滅危惧Ⅰ類にランクされている「カスミサンショウウオ」、「コバナノワレモコウ」、「ヒメコヌカグサ」、「イガクサ」、「ノグサ」、「トキノウ」の継続的なモニタリングを行い、目指すべき自然環境の姿にどれだけ近づいたかを評価する。					<ul style="list-style-type: none"> ・湿地及び周辺の草原等の雑草除去、樹木の伐採等の管理作業を実施した。 (実施日)5/6、6/3、9/2、10/7、11/4、12/2 ・カスミサンショウウオの産卵場所確保のための泥上げ作業を実施した。 (実施日)12/21 ・カスミサンショウウオについて、平成31年3月頃、協議会所属のNPO団体が成体を確認した。 						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地(湿地周辺を含む)の雑草除去、樹木の伐採を実施する。 ・カスミサンショウウオの産卵場所確保のための泥上げ作業を行う。 											
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値						
	活動回数		回		7	H28	H29	H30	R1	R2		
						7	7	7				
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	委託料	2,000,000				委託料	1,576,800					
	計		2,000,000			計		1,576,800				
	備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	モニタリング調査の主たる対象としている貴重な動植物全6種をモニタリング調査等で確認し、信太山丘陵における里山的環境が保持されていることを確認した。 学識経験者や地域のNPO団体、コンサルタント事業者等との連携のもと、ネザサ等の雑草の除去やカスミサンショウウオが産卵しやすい環境づくりなど、湿地の保全活動を継続して実施した結果、希少な動植物が生育可能な環境を保持できたためと判断している。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	調査対象としている動植物は、いずれも大阪府レッドリスト2014において絶滅危惧Ⅰ類にランク付けされており、生存に適切な環境が維持できなければ、大阪府内で見られなくなってしまうリスクが非常に高い種である。 今年度の湿地におけるモニタリング調査でも、調査対象種のほか「サギソウ」、「コモウセンゴケ」等の絶滅危惧Ⅱ類や準絶滅危惧種にランク付けされている貴重種の生育を確認できたことから、効果的な保全活動が実施できたと判断した。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	「貴重動植物の数を保持していくため、信太山丘陵市有地公園協議会における公民協働による様々な活動や取組が不可欠であり、活動や取組の支援及び主導するためのより専門的な「保全手法の検討」や継続的な「モニタリング調査」を適宜遂行していく。 具体的には、多様な下草植生の保持のためネザサ等の草刈を実施、カスミサンショウウオの産卵場所の保全のため湿地の適宜確認と管理作業の実施、外来種の侵入や人為的な被害を未然に防止するための対応策の検討など、学識経験者やNPO団体と協力しながら進めていく。また、定期的な調査を継続して実施することにより、信太山丘陵における環境の変化を記録し、貴重な動植物が生育可能な環境を維持できるよう努めていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第5節 外出機会を創出するうおいのある都市基盤の整備												
重点施策	14 緑のある憩いの場の創出												
成果指標 (KPI)	1403	植樹本数							指標の単位	本	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	77,477			中間年度の目標値(R2)	180,000		最終年度の目標値(R7)	-		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	100,356	125,569	151,641	175,380								達成状況	
達成率		31.7%	64.4%	94.2%									
備考													
担当課	公園緑地課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 いずみいのちの森事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	○		
(事前評価) 【P】事業の目的	市民・地域団体・企業との公民協働の取組により、和泉市内の公共用地や民有地に新たな緑や森を創出し、植樹活動を通して、地域社会のコミュニケーションや支えあい等の心を育み、環境にやさしく、安全安心で、安らぎと潤いのあるまちづくりを推進する。				(事後評価) 【D】事業実績	■植樹実績 ・植樹活動本数 7,401本 ・苗木配付本数 12,925本 ・民間開発緑化基準外本数 3,413本 ※要綱協議、緑化計画書にて緑化必要本数が決まっているが、それ以上に植樹している本数をカウントする。					
(事前評価) 【P】事業の内容	・市民参加による植樹祭・植樹活動の開催 ・市民・小学生などによるどんぐり苗木づくり ・緑化を推進する樹木苗木の提供 ・地域の道路沿線にプランターによる緑化										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①植樹活動 公園緑地において町会・自治会と協働して植樹活動を進める。 ②樹木苗木配付事業 出生・転入・新築戸建・個人・団体配布・イベント等で配布する。 ③いずみいのちの森ロード事業 市街地の道路沿道に統一した樹木を植えたプランターを配布する。 ④いずみいのちの森鎮守の森事業 どんぐり苗木を鎮守の森構想で植樹を行う。 ⑤どんぐり苗木の育成事業 どんぐりから苗木を育てて、市内の小学校で育成する。 ⑥広報啓発事業 PRポスターを作成し、地域掲示板や企業・店舗等に掲示する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①植樹活動 ・黒鳥山公園千本校構想、中央公園、他 7,393本を植樹した。 ・18万人植樹活動応募本数 8本 ②樹木苗木配付事業 ・出生・転入苗木配布本数 644本 ・新築戸建住宅苗木配布本数 26本 ・個人・団体配布本数 1,113本 ・イベント等苗木配布本数 10,999本 ③いずみいのちの森ロード事業 小栗街道・国府小学校通学路沿い 143鉢を配付した。 ④いずみいのちの森鎮守の森事業 どんぐりの苗木を黒地山公園内の鎮守の森エリアにおいて植樹活動の実施。 平成28年度から毎年植樹事業を実施しており、昨年は三回目の実施となる。 ⑤いずみいのちの森銀行事業 ・どんぐり預金の預入事業は終了し、払戻し用景品を配付した。 ⑥どんぐり苗木の育成事業 ・どんぐり苗木育成小学校 池上小学校、他2校 ⑦広報啓発事業 ・PRポスター掲示 地域掲示板、和泉市観光おもてなし処・商工会議所・宮ノ上公園(まなびのプラザ)等に掲示し広報を図った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	植樹活動本数			本	5,000	H28	H29	H30	R1	R2	
	苗木配付本数			本	14,000	13,969	12,405	12,925			
	民間開発緑化基準外本数			本	6,000	6,169	4,758	3,413			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	負担金	13,580,000				負担金	12,542,959				
	工事費	2,000,000				工事費	1,389,960				
	計			15,580,000		計					13,932,919
	備考										

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>■平成29年度 植樹本数 8,909本 苗木配付本数 12,405本 民間開発緑化基準外本数 4,758本 合計 26,072本</p> <p>■平成30年度 植樹本数 7,401本 苗木配付本数 12,925本 民間開発緑化基準外本数 3,413本 合計 23,739本</p> <p>来年の平成32年度本事業完了に向けて、最終目標の18万本植樹達成まであと4,600本あまりと着実に遂行できている。前年度の年間合計本数よりは微減であったものの、平成22年度に事業を開始してから9年が経過し、市民にも事業主旨を一定ご理解いただき、公民協働にて取り組みを進められている結果であると考え。</p>
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	<p>事業の成果達成のために、広報やPR活動の強化等の改善を図っているが、平成30年度においては、台風の影響によるイベントの中止などが相次ぎ、それが原因となり配布本数が前年度から減少したと考えられる。ただし、平成31年度末での目標18万本に向けて、約2万4千本の植樹ができた。18万本を10年間で植樹することが事業目標であり、年間平均1万8千本が年間目標数値となっている。目標数値を上回る本数を植樹できたので十分効果的であったと考える。</p>
	事業の方向性	
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>これまでの成果により、平成31年度は4,600本あまりの植樹を行えば成果指標を達成することができる。ただし、当初の目標本数18万本にとらわれず、緑潤いのある街づくりに向け、緑化推進の取り組みを継続する。</p> <p>○植樹活動:公園緑地において、町会・自治会等と協働して植樹活動を進めるとともに、公共施設施設等での植樹活動を推進する。</p> <p>○樹木苗木配付事業:イベント等苗木配付事業については、各種イベント時に活用してもらえるよう、庁内等へ積極的に周知していく。また、年4回の個人・団体苗木配布事業は市広報・ホームページで、制度の周知を行う。</p> <p>○いずみいのちの森18万本植樹達成記念イベント:平成31年度に植樹目標の達成を祝して、記念式典を開催し、記念樹の植樹や鎮守の森の植樹活動等を行う等のイベントを実施する。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第5節 外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備												
重点施策	15 住み続けたいくなる快適な都市環境の整備												
成果指標 (KPI)	1501	特定経路のバリアフリー化整備率							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	40.0			中間年度の目標値(R2)	83.0		最終年度の目標値(R7)	100.0		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	40.0	40.0	46.1	56.6								達成状況	
達成率		0.0%	10.2%	27.7%									
備考													
担当課	道路河川室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 特定経路バリアフリー化整備事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	○	
(事前評価) 【P】事業の目的	誰もが安全に安心して通行できるように、交通バリアフリー基本構想に基づき歩道のバリアフリー化整備を行う。				(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ●光明池駅周辺地区 ・バリアフリー化工事⇒3路線実施 ●和泉府中駅周辺地区 ・バリアフリー化工事⇒府中町8号線実施 (整備完了：R元年度) 				
(事前評価) 【P】事業の内容	下記の地区で、駅から主要な公共施設などを結ぶ特定経路に位置付けられている歩道のバリアフリー化整備を行う。 (整備地区) ・和泉府中駅周辺地区 ・泉北高速光明池駅周辺地区 (事業計画期間) ・令和2年度まで									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①平成29年度より、光明池駅周辺地区のバリアフリー化工事に着手済み。今年度は3路線の整備を予定。 (整備路線数 3路線)</p> <p>②平成30年度より、和泉府中駅周辺地区の府中町8号線のバリアフリー化工事に直手。(2箇年で整備予定) (整備完了は、R元年度予定)</p>				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<p>①バリアフリー化工事を3路線実施した。 整備路線：伏屋町16号線、伏屋町19号線、室堂町18号線 整備内容：歩道透水性舗装、点字ブロック、段差解消など</p> <p>②バリアフリー化工事を1路線実施した。 整備路線：府中町8号線 整備内容：歩道透水性舗装、点字ブロック、段差解消、歩道照明など</p>				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値				
	特定経路のバリアフリー整備路線数		箇所	3	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	工事費	76,000,000				工事費	50,717,880			
	計		76,000,000			計			50,717,880	
	備考									
		北通り線⇒H31へ繰越								

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	当初計画どおり、光明池駅周辺地区において3路線のバリアフリー化工事を実施した。このことにより、バリアフリー化整備路線が3路線増加し、成果指標(バリアフリー化整備率)が向上した。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	○昨年は光明池駅周辺地区においては、社会資本整備総合交付金の内示率が厳しい状況で整備路線数の精査が必要であったが、今年度は財源確保のうえ、予定していた3路線の歩道改良工事を実施した。 ○和泉府中駅周辺地区においても、地域のシンボルロードでもある和泉府中北通り線の歩道改良工事を2か年かけて整備を行う計画で、平成30年度に計画どおり工事着手することができた。 ⇒台風による影響により、繰越事業となったが整備完了時期に影響はない。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	令和元年度以降も社会資本整備総合交付金を活用して、計画的にバリアフリー化工事を実施し、事業進捗を図る。 また、和泉府中駅周辺地区については、財源を確保するために様々な事業手法を検討し、事業の推進に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進											
節	第5節 外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備											
重点施策	15 住み続けたいくなる快適な都市環境の整備											
成果指標 (KPI)	1502	交通安全活動への年間参加者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	14,322		中間年度の目標値(R2)	14,750		最終年度の目標値(R7)	15,040		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	14,157	13,985	12,837	14,587								達成状況
達成率		0.0%	0.0%	48.7%								
備考												
担当課	道路河川室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 交通安全啓発実施事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	市民一人一人が正しい交通ルールを身に付け交通安全に対する意識を高めることにより、交通事故の未然防止を図る。				(事後評価)	【平成30年度における交通安全教室開催実績】 ①保育園、幼稚園、認定子ども園 …38園(4,519人) ②小・中学校 …28校(5,023人) ③子育てサークル、高齢者、地域団体等 …16回(853人)				
(事前評価) 【P】事業の内容	交通安全教育指導員を中心に交通安全教室等の交通安全教育に取り組むとともに、関係機関と連携のもと交通安全の啓発活動を実施する。				【D】事業実績	【平成30年度における交通安全啓発活動の実績】 ①運転者講習会 …10回(945人) ②街頭啓発活動 …8回(2,115人) ③交通安全研修会等…5回(1,132人)				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	福祉総務課や高齢介護室とも連携し、高齢者向けの交通安全教室の実施回数の増加に努める。				(事後評価)	高齢者向け交通安全教室のチラシを作成し、老人クラブの会合において配布し、啓発を行った。 【高齢者向け交通安全教室開催実績】 老人会等の団体 …7回(210人) ※上記、事業実績③16回(853人)の内数				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	高齢者向け交通安全教室の実施回数			回	10	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	補助金	1,900,000				補助金	1,900,000			
	負担金	3,084,000				負担金	2,915,551			
	計		4,984,000			計		4,815,551		
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	交通安全活動の延べ参加者数は14,587人で、前年度に比べ増加(1,750人)した。 交通安全教室においては、保育園や幼稚園での実施園数・受講者数は前年とほぼ同数だが、小中学校では実施校数が増え受講者数も増加した。 【小中学校 実施校数:28校(H30) 23校(H29)、受講者数:5,023人(H30) 4,827人(H29)】 また、地域団体等の交通安全教室では高齢者向けの教室回数が増え受講者も増加するとともに、街頭啓発活動も前年度より積極的に実施できた。 【高齢者向け教室 実施回数:7回(H30) 5回(H29)、受講人数:210人(H30) 119人(H29)】 【街頭啓発活動 実施回数:8回(H30) 4回(H29)、受講人数:2,115人(H30) 1,400人(H29)】
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	地域団体等の交通安全教室については、老人クラブへの案内や指導員のクチコミ等により周知を行った結果、高齢者向けの教室の実施回数が増加した。 街頭啓発活動においては警察との連携し警察主体の各種啓発活動に積極的に参加することで啓発することができた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	幅広い年代層に対する交通安全教室の実施を継続していくとともに、警察が実施している街頭啓発活動へ参加するなど警察との連携を強化し、啓発活動の実施回数を増やすことにより、市民の交通安全への意識向上に努める。また、福祉総務課や高齢介護室とも連携し、今後も高齢者向けの交通安全教室の実施回数の増加に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第5節 外出機会を創出するうるおいのある都市基盤の整備												
重点施策	16 外出を容易にする交通機能の充実												
成果指標 (KPI)	1601	コミュニティバス等年間利用者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	128,016		中間年度の目標値(R2)		129,300		最終年度の目標値(R7)		130,580		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	124,323	118,709	116,531	112,720								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%		0.0%								
備考													
担当課	道路河川室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 コミュニティバス等運行事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価)	○コミュニティバス、オレンジバス等の運行により、日常生活に必要不可欠な交通手段を確保し、公共交通空白地域の解消を図る。 【P】事業の目的				(事後評価)	【コミュニティバス】 ・市民の移動手段を確保し、公共交通空白地域の解消のため運行 (ルート数) 4ルート (利用者数) 86,812人 【路線維持バス】 ・路線バスの廃止・減便計画に対し、生活路線の維持継続のため運行 (ルート数) 3ルート、朝夕のみ (利用者数) 17,009人 【横山地域バス(オレンジバス)】 ・市民の移動手段を確保し、公共交通空白地域の解消のため運行 (ルート数) 3ルート (利用者数) 8,899人					
(事前評価)	市内公共交通の確保、維持のため下記のバス運行にかかる補助金・負担金を交付する。 【P】事業の内容 ・(補助等の対象バス) ・コミュニティバス ・路線維持バス ・横山地域バス(オレンジバス)					(事後評価)	【D】事業実績 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績				
(事前評価)	①和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会において、見直し後のコミュニティバスの利用状況等について情報共有を行う。 【P】成果指標向上のための具体的な取組 ②横山地域バス運営委員会と連携しオレンジバスの利用促進に努める。 ③市ホームページ等においてバス運行にかかる情報を提供し利用促進を図る。				(事後評価)	①公共交通利用活性化プロジェクト委員会の開催 第1回:平成30年7月11日 平成29年度コミュニティバスの利用実績について 第2回:平成30年11月21日 和泉市地域公共交通網形成計画素案について 第3回:平成31年3月26日 和泉市地域公共交通網形成計画案について ②横山地域バス運営委員会の開催 第1回:平成30年6月20日 平成29年度コミュニティバスの利用実績について 意見交換 ③コミュニティバスのルート図・時刻表を新たに作成するとともに、市ホームページにおいても各種バスの運行情報の提供を行い利用促進に努めた。					
(事前評価)	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
【P】活動指標	公共交通利用活性化プロジェクト委員会の開催回数				回	3	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
【P】予算	負担金	68,171,000				負担金	68,170,340				
	計		68,171,000	【D】決算		計		68,170,340			
備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>【コミュニティバス等の利用者数の対前年度増減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス : ▲4,069人 ・路線維持バス : ▲989人 ・オレンジバス : 1,247人 <p>近年、マイカーの普及等により公共交通の利用者が減少している。 また、公共交通空白地域の解消や公共施設へのアクセスの確保などを目的としたバスサービスのため、交通結節点への乗り継ぎの問題や長距離となる運行ルートなどの要因により利用者の減少傾向が続いている。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	<p>コミュニティバスについては、ルート・ダイヤの一部改正にあわせ新たなルートマップ・時刻表を広報いずみの折込で配布を行うとともに、ホームページにおいて周知を行ったが、利用者が減少している状況を踏まえると、情報発信が不十分であったと考える。 ルートの見直しを行い前年度より利用者が増加したルートもあるが、逆に減少したルートもあり、停留所の廃止やルートの変更が影響したものと考えられる。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>平成30年度策定の和泉市地域公共交通網形成計画に基づき、コミュニティバス、路線維持バス、オレンジバス、路線バス等の各交通サービスの役割や位置づけを精査し、本市にとって望ましい持続可能な公共交通ネットワークを形成することで公共交通のサービスレベルの向上を図り、利用者数の確保につなげる。 また、広報いずみやホームページ等において情報発信の強化を行い、公共交通の利用促進を図る。</p>

第1章 定住の促進

第6節 環境に配慮した快適なライフスタイルの確立

17 環境負荷の少ない社会システムの構築

18 ごみの減量化と再資源化の推進

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第6節 環境に配慮した快適なライフスタイルの確立												
重点施策	17 環境負荷の少ない社会システムの構築												
成果指標 (KPI)	1701	市民一人あたりのCO2(二酸化炭素)排出量							指標の単位	kg	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	4,029		中間年度の目標値(R2)	3,626		最終年度の目標値(R7)	3,425		総合戦略の目標値(R1)	-		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	3,825	3,679	3,554	3,473								達成状況	
達成率		36.5%	67.8%	88.0%									
備考													
担当課	環境保全課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 太陽光発電システム設置費補助事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	○		
(事前評価) 【P】事業の目的	CO2(二酸化炭素)の削減に効果的な太陽光発電システムの普及啓発を図り、地球温暖化防止対策を推進する。				(事後評価)	○補助金交付実績 (募集期間)平成30年7月2日(月)～平成31年1月31日(木) (募集件数)200件程度 (申請件数)135件 (交付件数)135件					
(事前評価) 【P】事業の内容	家庭用の太陽光発電システムの設置に要する経費を一部補助する。 (補助金額)1kWあたり15,000円 (上限60,000円)				【D】事業実績						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①募集要領等の配架による制度周知 ・市内各施設にて関係書類を配架する。 ②市内イベントでの啓発活動 ・市内イベントでの啓発活動を実施する。 ③広報活動 ・広報、HPを通じた広報活動を実施する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①関係書類の配架場所 ・市内6施設に関係書類を配架した。 ②市内イベントへの参加 ・民間イベントに参加し啓発活動を実施した。 ③広報活動 ・広報、HPを通じた広報活動を実施した。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	住宅用太陽光発電システム設置費補助金の申請数			件	200	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	負担金補助及び交付金	12,000,000				負担金補助及び交付金	8,507,000				
	計		12,000,000			計		8,507,000			
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	成果指標(市民一人あたりCO2排出量)の向上については、市民等の環境に対する意識の高まりによるものと考えられるが、多くの要因があるため、目標を大きく上回る成果が得られている要因については分析が必要である。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	平成32年度目標を上回る市民一人あたりCO2排出量を削減できたため、「効果的だった」と評価した。ただし、活動指標が中間年度の目標値に達しているが、成果指標のさらなる向上を目指し、太陽光等の新エネルギー利用の啓発活動を実施し、新エネルギーの更なる利用推進を図る必要がある。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	補助金の交付が太陽光発電システムの普及促進の一助となっており、市民一人あたりのCO2排出量の削減が図られている。補助金の申請件数が募集件数に達しなかったことや今後の需要を考慮し、今後は、太陽光発電システム以外の設備の研究、啓発及び普及促進に努めていく必要がある。

取組事業	2 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設置費補助事業				地方創生関連交付金事業該当	-			
					和泉躍進プラン(案)該当	○			
(事前評価) 【P】事業の目的	CO2(二酸化炭素)の削減に効果的な燃料電池コージェネレーションシステムの普及啓発を図り、地球温暖化防止対策を推進する。				(事後評価)	○補助金交付実績 (募集期間)平成30年7月2日(月)～平成31年1月31日(木) (募集件数)200件程度 (申請件数)198件 (交付件数)198件			
(事前評価) 【P】事業の内容	家庭用の燃料電池コージェネレーションシステムの設置に要する経費を一部補助する。 (補助金額)1台あたり50,000円				【D】事業実績				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①募集要領等の配架による制度周知 ・市内各施設にて関係書類を配架する。 ②市内イベントでの啓発活動 ・市内イベントでの啓発活動を実施する。 ③広報活動 ・広報、HPを通じた広報活動を実施する。 				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ①関係書類の配架場所 ・市内6施設に関係書類を配架した。 ②市内イベントへの参加 ・民間イベントに参加し啓発活動を実施した。 ③広報活動 ・広報、HPを通じた広報活動を実施した。 			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設置費補助金の申請数		件	200	H28	H29	H30	H31	H32
						123	198		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	負担金補助及び交付金	10,000,000				負担金補助及び交付金	9,900,000		
	計		10,000,000			計		9,900,000	
	備考					備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①H32目標を達成	成果指標(市民一人あたりCO2排出量)の向上については、市民等の環境に対する意識の高まりによるものと考えられるが、多くの要因があるため、目標を大きく上回る成果が得られている要因については分析が必要である。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	平成32年度目標を上回る市民一人あたりCO2排出量を削減できたため、「効果的だった」と評価した。ただし、活動指標が中間年度の目標値に達しているが、成果指標のさらなる向上を目指し、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設置利用の啓発活動を実施し、新エネルギーの更なる利用推進を図る必要がある。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	補助金の交付が家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設置の普及促進の一助となっており、市民一人あたりのCO2排出量の削減が図られている。今後の需要を考慮し、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム啓発及び普及促進に努めていく必要がある。また、蓄電池等の補助金についても研究を努めていく必要がある。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第6節 環境に配慮した快適なライフスタイルの確立												
重点施策	17 環境負荷の少ない社会システムの構築												
成果指標 (KPI)	1702	水洗化率の向上							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	89.6			中間年度の目標値(R2)	90.9		最終年度の目標値(R7)	92.3		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	89.7	89.9	90.1	90.4								達成状況	
達成率		7.7%	15.4%	26.9%									
備考													
担当課	お客さまサービス課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 水洗化啓発事業		地方創生関連交付金事業該当	-								
			和泉躍進プラン(案)該当	-								
(事前評価) 【P】事業の目的	啓発活動を通じて、未水洗化家屋の水洗化を推進することにより、衛生環境の健全化を図る。			(事後評価)	【平成30年度末の公共下水道による水洗化の状況】							
(事前評価) 【P】事業の内容	公共下水道使用可能地域における未水洗化家屋に対して、公共下水道への接続を勧奨する。			【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 水洗化家屋 : 62,048件 未水洗化家屋 : 6,877件 平成30年度の水洗化件数734件 (内訳) 新築家屋 576件 既存家屋 158件 水洗化率 = 水洗化人口 / 水洗化地域人口 = 147,286人 / 163,016人 = 90.4% 							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①出前講座 : 年間3校の小学校を訪問し、授業の一環として開催する。 ②上下水道だより : 年2回発行し、様々なテーマで下水道の役割を広報する。 ③未水洗化家屋訪問 : 啓発説明やパンフレットを配布する。			(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取り組みの実績	①出前講座 : 小学校での出前講座を4回実施した。 ②上下水道だより : 年2回の発行に際し、水洗化への啓発記事の掲載を行った。 ③未水洗化家屋の訪問 : 下水道が使えるようになって間もない地域を中心に環境保全の重要性や早期接続の必要性等を説明した。 ・未水洗化家屋訪問件数 1,052件 うち家屋所有者への説明 308件 (後の接続17件) うち留守家屋へのチラシ等投函 744件 (後の接続40件) また、20町会での下水道工事説明会において、水洗化に関する説明やチラシ配布を行い、工事完了後の早期接続を啓発した。							
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値							
	出前講座の実施回数		回	3	H28	H29	H30	R1	R2			
	上下水道だよりの発行		回	2	1	1	2					
	未水洗化家屋訪問による啓発		件	2,000	1,176	460	1,052					
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	備用品費	55,000				備用品費	9,115					
	委託費	373,000				委託費	273,376					
	計			428,000		計				282,491		
	備考					備考						

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	
	②前年度より向上	広報誌及び家庭への訪問などによる周知で公共下水道への接続を促した結果、平成30年度において既存家屋の水洗化が158件、新築家屋が576件、合計734件の水洗化を実現できたことにより、水洗化率が向上した。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	水栓台帳システムと管路図システムから未水洗化家屋を抽出するシステムを構築するのに日数を要し、当初目標件数2000件に到達しなかった。訪問した件数1052件のうち、直接会って説明した件数は308件に留まったが、そのうち17件が水洗化され、留守家屋744件もチラシ配布後、40件が水洗化されたことを確認した。今後は直接会って説明することにより、水洗化の件数を増加させるために、訪問曜日の検討を行う必要がある。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3校の小学校を訪問し、出前講座を開催するとともに、地域の集まり等に参加し水洗化の啓発を行う。 ・上下水道だよりを年2回発行し、下水道の役割を広報する。 ・水洗化により増収効果の高いマンション等の集合住宅の所有者への郵送や訪問により、未水洗化家屋に対する啓発活動に取り組むものとする。また、10月を水洗化促進強化月間と定め、休日訪問を展開する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第1章 定住の促進												
節	第6節 環境に配慮した快適なライフスタイルの確立												
重点施策	18 ごみの減量化と再資源化の推進												
成果指標 (KPI)	1801	市民1人当たりの年間ごみ排出量							指標の単位	kg	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	297.0			中間年度の目標値(R2)	251.8		最終年度の目標値(R7)	250.4		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	292.0	266.0	269.3	279.4								達成状況	
達成率		62.5%	54.6%	30.3%									
備考													
担当課	生活環境課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ごみ減量啓発事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	環境負荷の軽減に向けて、市民や事業者に対し、ごみ減量やリサイクルに対する意識の向上を促し、その取り組みを推進することで、循環型社会の形成を目指す。				(事後評価) 【D】事業実績	【泉北クリーンセンターへのごみ搬入実績】(事業系含む) 平成30年度 51,940トン (平成29年度実績 50,063トン 前年比約4%増)					
(事前評価) 【P】事業の内容	ごみ減量・リサイクル促進の周知啓発に取り組むとともに、市民や事業者をごみ減量・リサイクルに誘導できるような仕組みづくりに取り組む。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①「ごみダイエット作戦」の実施 これまで啓発を行ってきたリサイクルできる紙ごみの分別、生ごみの水切りのほか、新たに食品ロスの削減を加えて、更なるごみ減量の啓発を行う。 ②紙ごみ分別用紙袋の配布 家庭から排出される日常(可燃)ごみに含まれる紙ごみの減量のため、主に雑がみを分別して頂く方法等を表示し、分別に活用するための紙ごみ分別用紙袋を広報配布時に全戸配布を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①「ごみダイエット作戦」の実施 ごみ減量の啓発として、9月号の広報にて折込で「紙ごみ分別用紙袋」の配布用に封筒を作成し、その封筒へ食品ロスや生ごみ処理容器の補助の内容を記載し周知を行った。 ②紙ごみ分別用紙袋の配布 9月号の広報にて折込で「紙ごみ分別用紙袋」を73,000部を配布。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	ごみの搬入量			t	48,020	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	負担金補助及び交付金	860,918,000				負担金補助及び交付金	723,470,000				
	委託料	1,013,124,000				委託料	1,001,140,752				
	計			1,874,042,000		計					1,724,610,752
	備考				備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>【泉北クリーンセンターへのごみ搬入実績(内訳)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○可燃ごみ(家庭系)29,053トン(平成29年度実績28,882トン 前年比約0.6%増) (直営・直接搬入を含む事業系)18,042トン(平成29年度実績16,744トン 前年比約8%増) ○粗大ごみ(家庭系)1,544トン(平成29年度実績1,245トン 前年比約24%増) (直営・直接搬入を含む事業系)667トン(平成29年度実績583トン 前年比 約14%増) ○資源ごみ(家庭系)2,494トン(平成29年度実績2,461トン 前年比 約1%増) (直営・直接搬入を含む事業系)137トン(平成29年度実績 148トン 前年比 約7%減) <p>・可燃ごみ(家庭系)については、人口は平成29年度と変わらないが、世帯数は約1000世帯増となっているため、昨年度と比較して微増となったものと思われる。</p> <p>・粗大ごみについては、台風21号の影響により昨年度と比較して、かなりの増となったものと思われる。</p> <p>・資源ごみについては、昨年とほぼ横ばいの量となっている。</p> <p>以上のことから、総量の比較として、平成30年度は51,940トンで平成29年度の実績50,063トンと比較して約4%増となっている。</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	<p>事業の評価</p> <p>評価理由</p> <p>家庭系日常(可燃)ごみ有料化以降の取り組みとして、有料化によりごみ排出量が減少したことを周知し、さらなるごみ減量の意識向上を促すため、ごみ減量の啓発に係る広報の折込チラシの配布や新分別や食品ロス削減の啓発を行ったものの、排出量の減少にはつながらなかった。</p> <p>1月から2月の間に23の事業所へ訪問し、各事業に応じた事業系ごみについて、紙ごみや缶などが排出される場合があれば、売却により削減される等の助言を行うことで、可燃ごみ・粗大ごみともに減少につながった。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>事業の方向性</p> <p>今後の事業展開</p> <p>・事業系ごみ削減のための啓発・周知の取り組みとして、多量排出事業所からの排出計画書や排出実績を基に、排出量が上位の事業所(30事業所程度)に対して、実地確認や事業系ごみの削減を働きかける。</p> <p>・引き続き、広報などを活用し、ごみ削減の啓発を行っていく。</p>

取組事業	2 再資源化事業推進奨励金事業				地方創生関連交付金事業該当	-			
					和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	ごみの減量化、資源再生利用、環境美化および地域コミュニティの育成を推進し、リサイクルに対する市民意識の向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【集団回収量】4,875,435kg(前年度比-234,106kg) 【集団回収登録団体数】254団体((前年度より1団体減) 【奨励金額】29,231,500円(前年度比-6,513,100円)			
(事前評価) 【P】事業の内容	町会・自治会等の営利を目的としない住民団体が古紙等の集団回収を実施し、回収量に応じて奨励金を交付する。 【回収品目】新聞、雑誌・書類類、ダンボール、飲料用紙パック、その他紙類、古繊維 【奨励金の金額】 H27.3~H29.12 7円/kg H30.1~ 6円/kg								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①集団回収の促進 奨励金の金額を従来の5円/kgから増額し、集団回収を促進する。 平成27・28・29年:7円/kg 平成30年:6円/kg ②古紙等の分別啓発 広報の折り込みチラシに、紙ごみの分別啓発の記事を掲載する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①集団回収の促進 回収量はやや落ち込んだ。 ②古紙等の分別啓発 9月号の広報にて折込で紙ごみの分別啓発を記載した「紙ごみ分別用紙袋」を73,000部配布。			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
					H28	H29	H30	H31	H32
集団回収量		t	6,257	5,313	5,109	4,875			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	報償費	35,147,000				報償費	29,231,500		
	計		35,147,000			計		29,231,500	
	備考					備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>集団回収量は前年度よりわずかに減少した。</p> <p>電子書籍の普及により、新聞・雑誌等の紙媒体の発行部数が年々減少し、古紙そのものの全体量が減少したことが一因であると考えられる。</p>
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	<p>奨励金は年単位で区切っており、平成30年1月～6月の回収分を8月頃に、平成30年7月～12月分を2月頃に交付している。奨励金の交付単価は平成29年は7円/kgであったが、平成30年からは6円/kgへ減額し、1団体が脱退したこともあり、また台風21号の影響で一般の家庭ごみへ流出したことも考えられるため、回収量が減となったものと思われる。</p>
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・未だ集団回収を行っていない町会・自治会や世帯もあることから、自治会への働きかけなど、集団回収の促進を検討する。 ・引き続き、市ホームページで、再資源化事業推進奨励金の制度に関する周知を実施する。

取組事業	3 生ごみ自家処理容器・EMぼかし生ごみ堆肥化容器・家庭用生ごみ処理機購入費補助事業				地方創生関連交付金事業該当	-				
					和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	一般家庭から排出される生ごみの堆肥化・減量化を促進し、市民のごみ減量の意識向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【補助実績】 ・補助総額723,600円 コンポスト…補助額87,500円、24基 EMぼかし…補助額9,500円、7基 電動式…補助額626,600円、18基 キエーロ…補助額0円、0基				
(事前評価) 【P】事業の内容	市民が購入する生ごみ処理容器(コンポスト・EMぼかし・電動式・キエーロ)の費用の一部を補助する。 【補助内容】 コンポスト…購入費の4分の3(上限額5,000円、1世帯2基まで) EMぼかし…購入費の4分の3(上限額2,000円、1世帯2基まで) 電動式…購入費の3分の2(上限額40,000円、1世帯1基まで) キエーロ…購入費の3分の2(上限額14,000円、1世帯1基まで)									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①購入補助制度についての周知啓発補助制度について、広報・ホームページを通じて周知を行う。 ②補助対象の拡充 平成29年度より、土の力で生ごみを分解するキエーロを新たに補助の対象とし、生ごみの減量化の推進につなげる。									
(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①補助制度について、広報5・6・10・12・1月号及びホームページを通じて周知を行った。 ②平成29年度に新設した補助であったため申請があったが、平成30年度は申請が無かったため、再考を検討する。									
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
						H28	H29	H30	H31	H32
	コンポスト補助基数			基	20	42	19	24		
	EMぼかし容器補助基数			基	15	8	5	7		
	電動式生ごみ処理機補助基数			基	20	38	13	18		
キエーロ補助基数			基	20	-	3	0			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	補助金	1,210,000				補助金	723,600			
	計			1,210,000		計			723,600	
備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>【H30年度実績】</p> <p>コンポスト…24基(H29年度19基 前年比+26.3%) EMぼかし…7基(H29年度5基 前年比+40.0%) 電動式…18基(H29年度13基 前年比+38.5%) キエーロ…0基(H29年度3基 前年比-100.0%)</p> <p>上記の通り、コンポスト以外は活動指標を達成することができなかった。 キエーロは敬遠傾向であるが、それ以外の処理機について前年度よりは増加傾向にある。</p>
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>キエーロの機能に手間がかかるため敬遠されがちであるが、それ以外の処理機については前年度よりは増加傾向にある。広報等にの周知によりこれらの補助事業が徐々に定着してきているものと思われる。</p>
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	<p>・キエーロの補助については一般需要の動向を確認しつつ再考を検討し、引き続き広報・ホームページを通じた制度の周知を行い、また、「ごみ減量等推進委員研修会」等の別事業での広報の強化を図る。</p>

第2章 にぎわいの促進

第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出

- 19 ものづくり産業の振興
- 20 商店街活性化と産業集積による地域の賑わいの創出
- 21 産業として成立する農林業の確立
- 22 安定した雇用の創出と次代の担い手の育成

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出												
重点施策	19 ものづくり産業の振興												
成果指標 (KPI)	1901	国等のものづくり補助金の採択の延べ件数							指標の単位	件	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	5		最終年度の目標値(R7)	10		総合戦略の目標値(R1)	4	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	0	0	0	0								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	商工労働室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ものづくり技術・商品開発支援事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	○		
(事前評価) 【P】事業の目的	市内のものづくり企業が魅力的な技術・商品を創出するための研究・開発を支援し、市域全体の産業振興を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【補助実績】 新規事業者：4件 4,000,000円 継続事業者：3件 1,500,000円 ※4社に対し継続事業者として交付決定するも、そのうち1社について、当初予定していた事業計画通りに研究開発が進まなかったため、補助金を交付せず。					
(事前評価) 【P】事業の内容	・和泉市と公立大学法人大阪府立大学、和泉商工会議所、地方独立行政法人大阪産業技術研究所との産業連携協定を活用した共同研究開発事業(医工連携を含む)を行う市内事業者に対し、研究開発に係る費用を補助する。 (補助率)10/10 (補助期間)最大2年間 (上限額)初年度100万円、次年度50万円 ・研究開発費の補助により、新技術、新製品の創出にむけた国等のものづくり補助金の採択をめざす。					(参考)主な新規事業者の研究開発内容 ①継続利用可の呼吸訓練装置の開発 ②EMS(電気で筋肉を刺激する機能)を加えた吸引療法の効果検証 ③次世代型リチウムイオン電池用材料の開発 ④吸排気弁の製品化					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	より多くの企業に本制度を周知するため、下記の周知を実施する。 ①市広報、市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信 ②市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架、機関紙への折込 ③産業団地における協議会会員へのチラシ送付				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	より多くのものづくり企業に制度の周知を図るため、下記の広報活動を行った。 ・市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信 ・市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架(合計1,000部)、機関紙への折込(約2,100部) ・産業団地における協議会会員へのチラシ送付(約150部)					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	補助件数(和泉市ものづくり技術・商品開発事業補助金)			件	9	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	補助金	7,000,000				補助金	5,500,000				
	計			7,000,000		計					5,500,000
	備考					備考	継続1社分について、当初予定していた事業計画通りに研究開発が進まなかったため、補助金の支払が発生しなかった。				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	③変化なし	補助件数は全7件で、平成29年度からの継続企業3件、新規企業4件を採択。本補助金を活用し、新商品の研究開発から商品化に結びついているものの、国等のものづくり補助金を申請するにあたり、十分な研究等が必要であることから、申請できる段階には至っていない。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	④効果的でなかった	国等のものづくり補助金の採択は、要件がきびしく、申請に至るまでに十分な研究等が必要である。本補助金はその基礎研究への支援であり、採択まで長期間要するものである。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	更なる周知を図るため、市広報、市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信等を行う。また、交流会やセミナーにおいて、制度説明を行うとともに、企業との交流を深めることで、気軽に相談・申請しやすい環境づくりを行っていく。また、過去に補助金を交付した企業への継続的な情報提供等のサポート等も検討する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	19 ものづくり産業の振興											
成果指標 (KPI)	1902	新技術、新製品事業化に向けた連携研究の延べ件数							指標の単位	件	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	2			中間年度の目標値(R2)	26		最終年度の目標値(R7)	42		総合戦略の目標値(R1)	22
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	4	7	8	8								達成状況
	達成率		7.9%	10.5%	10.5%							
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ビジネスマッチング促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	○					
(事前評価) 【P】事業の目的	市内のものづくり企業が魅力的な技術・商品を創出するための研究・開発を支援し、市域全体の産業振興を図る。		(事後評価) 【D】事業実績	【セミナー】 ＜第1回 9月18日(火) 17:30～19:30＞※参加人数1人 1. ものづくり中小企業 新事業開拓プログラムの概要 2. 国の政策 ①科学技術基本計画 ②経済産業省・文部科学省等の概算要求 3. マーケットの考え方 4. 自社のコア技術 5. 外部からの評価 6. 自社の製品の特徴分析					
(事前評価) 【P】事業の内容	新技術、新製品の創出にむけ、各企業の課題抽出等による新技術開発支援を行う「産学官セミナー」を開催し、下請型から開発型への変革や事業拡大を目指すものづくり中小企業を、大学と連携し支援する。			＜第2回 10月4日(木) 17:30～19:30＞※参加人数2人 1. IoT技術の現状と産学連携 2. レポート課題解説 ＜第3回 10月19日(金)17:30～19:30＞※参加人数1人 1. 知財(IoT/AI時代の特許) 2. 事業継承に関する会社法上の留意点 計3回開催 延べ参加人数:4人 参加事業所数:2社 うち 個別指導を行った事業所数:1社 さらに継続し連携研究を行っている事業所数:0社					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	より多くの企業にセミナー参加を呼びかけるため、下記の周知を実施する。 ①市広報、市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信 ②市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架、機関紙への折込 ③産業団地における協議会会員へのチラシ送付			(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績 より多くのものづくり企業に制度の周知を図るため、下記の広報活動を行った。 ・市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信 ・市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架(合計1000部)、機関紙への折込(約2,100部) ・産業団地における協議会会員等へのチラシ送付(約150部)					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	セミナー参加人数		人	18	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	1,800,000			委託料	1,800,000			
	計			1,800,000	計				1,800,000
	備考				備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	産業団地における協議会会員へのチラシ送付に加えて、個別に文書送付や電話での案内を行ったが、全日程の参加が必要であることと、レポート等の作成にも膨大な時間を要すること等が要因で、参加を控える企業や途中で参加を断念する企業もあったため、セミナー参加件数は目標を達成できなかった。 ※事業者からは台風災害の復旧対応を優先する関係から、参加する余裕がないとの声も聞かれた。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	出題された課題を提出し、個別訪問・指導を行うまでがセミナーの内容であり、セミナー終了後、連携研究へつなげるといった流れだが、台風災害の影響等もありレポートを提出する参加者はなかった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	⑤廃止	平成27年度より大阪府立大学(産業振興連携・協力に関する基本協定を締結済)に業務委託し、市内の“ものづくり”に関連する中小企業が、自社のシーズを適切に把握し、新しい事業を見つけることを目指す「ものづくり中小企業新事業開拓セミナー」を毎年開催(参加料:無料)していましたが、市内事業者の参加が減少しており、事開催実施が事実上困難な状況になっている。このため、平成31年度より本セミナーは大阪府立大学の自主事業として対象エリアを大阪府内全域に拡大して実施することになっており、本市独自のセミナー開催は廃止することになった。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	20 商店街活性化と産業集積による地域の賑わいの創出											
成果指標 (KPI)	2001	創業セミナーの延べ受講者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	92		中間年度の目標値(R2)	700		最終年度の目標値(R7)	1200		総合戦略の目標値(R1)	500	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	193	264	300	390								達成状況
達成率		7.1%	10.6%	19.6%								
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 創業支援事業		地方創生関連交付金事業該当	-
			和泉躍進プラン(案)該当	-
(事前評価) 【P】事業の目的	商業の活性化を図るとともに創業希望者の支援を目的とする。		(事後評価) 【D】事業実績	【セミナーについて】 第1回 10月21日 10:00~12:00 内容:あなたの商品はもっと輝く!商品づくりの3つ基本戦略 受講者数:22人
(事前評価) 【P】事業の内容	産業競争力強化法第114条第2項に規定する創業支援事業計画における認定連携創業支援事業である創業支援セミナーを和泉商工会議所との連携にて開催し、創業希望者等の支援を行う。 【P】セミナー受講後、特定創業支援事業を受けたことの証明を取得することで、法人設立時の登録免許税の軽減や信用保証協会における保証期間・金額の拡充等が受けられる他、本市における創業関係補助金をうけることができる。			第2回 10月21日 13:00~15:00 内容:売上を倍増させるマーケティング入門 受講者数:21人
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	創業希望者への参加呼びかけとして、下記の広報活動を行う。 ①市広報への折込 ②市ホームページへの掲載 ③市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架 ④機関紙への折込			第3回 11月4日 10:00~12:00 内容:明日から使える人材活用の基礎知識 受講者数:23人
(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績				第4回 11月4日 13:00~15:30 内容:金融マンがこっそり教える起業家がしておきたい資金調達術 受講者数:24人 計4回開催 延べ受講者数:90人 特定創業支援事業を受けたことの証明所得:1人
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値
	創業セミナーの開催	回	4	H28: 4, H29: 4, H30: 4, R1: , R2:
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	計	0	計	0
	備考	経費については和泉商工会議所負担		備考

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ③変化なし	・和泉商工会議所と連携し、延べ4回の創業支援セミナーを滞りなく実施し、90名の参加を得て開催出来た。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ②効果的だった	全国的な景気の状態や市ホームページや和泉商工会議所による周知、過去の補助事業者や創業希望者による口コミ等から本事業に対する認知度の高まりにより、昨年度より受講者数が増えたと考えられる。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	セミナー実施後にアンケートをとるなど、開催日や周知方法等も含め参加者のニーズを把握した内容とする。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	20 商店街活性化と産業集積による地域の賑わいの創出											
成果指標 (KPI)	2002	商店街加入店舗数							指標の単位	件	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	177			中間年度の目標値(R2)	177		最終年度の目標値(R7)	177		総合戦略の目標値(R1)	177
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	190	183	361	373								達成状況
達成率		100.0%	100.0%	100.0%								
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 商店街活性化事業		地方創生関連交付金事業該当	-
			和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	経営支援等を通じて、魅力ある個店や商店街全体の賑わい創出に資することを目的とする。		(事後評価) 【D】事業実績	①和泉市商店連合会への補助事業 <商店街基盤強化事業> ・経営支援(1組合) ・和泉市商店連合会のホームページ作成 ・共催としての催事開催 (エコールいずみ店舗会、鶴山台商店会、) 実施期間:H30.8.11~12 場所:エコールいずみ店舗会 実施期間:H30.10.21 場所:鶴山台商店会 ・インバウンド向け体験型商品の開発 <商店街魅力創出事業> ・いずみ音楽祭来場者数 約15,000人 実施期間:H30.11.3 場所:ロードインいずみ等 ②市実施事業 ・イルミネーション来場者数 8,650人 実施期間:H30.11.12~H31.2.14 場所:ロードインいずみ等
(事前評価) 【P】事業の内容	①和泉市商店連合会への補助事業 <商店街基盤強化事業>(3分の2補助) ・ホームページ作成経費補助・マルシェ開催経費補助・インバウンド需要創出経費補助・商店街組織経営支援経費補助 <商店街魅力創出事業>(10割補助) いずみ音楽祭における商店街PR ②市実施事業 ・イルミネーション設置			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①和泉市商店連合会が行う経営支援事業及び商店街魅力創出事業への補助を行う。 ②和泉府中駅周辺の商店街活性化および賑わい創出のために、イルミネーションを設置する。			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値
	支援施策数	件	4	H28: 3, H29: 4, H30: 6, R1: , R2:
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	補助金	3,000,000	補助金	2,602,000
	委託料	7,550,000	委託料	7,549,200
	計	10,550,000	計	10,151,200
	備考		備考	

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ①R2目標を達成	・補助金による支援及びイルミネーション設置を行うことで、集客力の向上や魅力の創出を行うとともに、家賃補助(空き店舗活用支援補助金)や改装費補助(創業支援補助金)等の他の施策効果もあり、商店街加入店舗数は増加した。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ③あまり効果的でなかった	経営支援や魅力創出事業を実施しているが、昨今の商店街の取り巻く厳しい環境もあり、直接的な波及効果は表れていない。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	商店街の利用状況や課題点を調査分析し、ITの活用やキャッシュレス化などの商業形態の多様な変化に対応した新たな商店街活性化策の検討を進める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出												
重点施策	20 商店街活性化と産業集積による地域の賑わいの創出												
成果指標 (KPI)	2003	テクノステージ和泉における企業の立地割合								指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	100.0			中間年度の目標値(R2)	100.0			最終年度の目標値(R7)	100.0		総合戦略の目標値(R1)	100.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	100.0	100.0	100.0	100.0									達成状況
達成率		100.0%	100.0%	100.0%									
備考													
担当課	商工労働室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 産業集積促進事業(テクノステージ和泉)		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	本市の産業振興及び経済の活性化のため、テクノステージ和泉において、工場等の操業の継続等、産業集積の維持及び促進を図る。		(事後評価) 【D】事業実績	①和泉市商店連合会への補助事業 【平成30年度末のテクノステージ和泉の操業状況】 区画数:120 空き区画:0 企業数:106社 【補助実績】 継続補助件数 9件					
(事前評価) 【P】事業の内容	テクノステージ和泉にて操業している企業に対し、和泉市産業集積促進条例に基づき、補助金の交付する。 (補助額)取得した工場等の建物の固定資産税額の1/2 (補助上限額)500万円/年 (補助期間)5年								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	・企業の操業環境の改善や補助制度の活用を図るため、テクノステージ和泉まちづくり協議会と連携し、操業状況等の情報収集に努める。 ・補助制度について、市ホームページで周知を図る。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・大阪府やテクノステージ和泉まちづくり協議会と連携し、新たに創業を予定している企業や工場の増設等を予定している企業の情報収集を行った。 【協議会開催数】年12回 【協議内容】 ・補助制度について、市ホームページで周知を図った。 ・開発協議や工場立地法届出の際に企業への案内を行うなどの周知に努めた。 ・大阪府が開催する「大阪府産業集積促進市町村連携会議」において、企業立地促進に係る他市町村の取組み事例など、情報共有を図った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	補助件数		件	9	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	補助金	3,900,000				補助金	3,782,000		
	計		3,900,000			計			3,782,000
	備考					備考			

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ①R2目標を達成	・撤退した事業者が発生していないため、立地割合については100%を維持している。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ②効果的だった	・補助制度の周知を図り、補助金を活用した工場増設を行う企業もあり、企業の事業拡大や産業活性化に貢献していると考え。工場立地等の相談があった際に直接本補助金の趣旨・制度等を説明案内していることが、本補助金の活用に結びついていると考えている。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	・テクノステージ和泉まちづくり協議会や産業振興プラザとの連携を深め、事業拡大を検討している企業の有無など情報収集を行い、制度の周知に努めることで、他市への企業流出を防ぎ、産業団地における立地維持を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	20 商店街活性化と産業集積による地域の賑わいの創出											
成果指標 (KPI)	2004	トリヴェール和泉西部地区における企業の立地割合							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	63.6			中間年度の目標値(R2)	90.0		最終年度の目標値(R7)	100.0		総合戦略の目標値(R1)	90.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	95.1	100.0	100.0	100.0								達成状況
達成率	100.0%											
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 産業集積促進事業(トリヴェール和泉西部地区)							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	本市の産業振興及び経済の活性化のため、トリヴェール和泉西部地区において、工場等の操業の継続等、産業集積の維持及び促進を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度末のトリヴェール和泉西部地区の操業状況】 区画数:44 空き区画:0 企業数:39社				
(事前評価) 【P】事業の内容	トリヴェール和泉西部地区にて操業している企業に対し、和泉市産業集積促進条例に基づき、補助金の交付する。 (補助額)取得した工場等の建物の固定資産税額の1/2 (補助上限額)500万円/年 (補助期間)5年					【補助実績】 継続補助件数 7件 新規補助件数 2件				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①企業の操業環境の改善や補助制度の活用を図るため、トリヴェール和泉西部地区連絡協議会と連携し、操業状況等の情報収集に努める。 ②開発協議や工場立地法届出の際に企業への案内を行う。 ③補助制度について、市ホームページで周知を図る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・トリヴェール和泉西部地区連絡協議会と連携し、新たに創業を予定している企業や工場の増設等を予定している企業の情報集収集を行った。 【協議会開催数】年5回 【協議内容】 ・開発協議や工場立地法届出の際に企業への案内を行うなどの周知に努めた。 ・補助制度について、市ホームページで周知を図った。 ・大阪府が開催する「大阪府産業集積促進市町村連携会議」において、企業立地促進に係る他市町村の取組みなど、情報共有を図った。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値			
	補助件数			件	7	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	補助金	24,982,000				補助金	20,965,000			
	計			24,982,000		計			20,965,000	
	備考					備考				

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成 ・撤退した事業者が発生していないため、立地割合については100%を維持している。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった ・協議会と連携して補助制度を周知したことにより、企業のトリヴェール和泉西部地区での操業を促進することができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続 トリヴェール和泉西部地区連絡協議会との連携を維持し、事業者が抱えている課題やニーズを把握し、産業団地における立地維持を図る施策の検討を進める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	21 産業として成立する農林業の確立											
成果指標 (KPI)	2101	道の駅における生鮮農産物の年間販売額							指標の単位	千円	総合戦略該当97726	○
	参考値(H26)	94,240			中間年度の目標値(R2)	106,000		最終年度の目標値(R7)	113,000		総合戦略の目標値(R1)	104,000
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	97,726	99,545	107,154	100,322								達成状況
達成率		11.9%	61.7%	17.0%								
備考												
担当課	農林課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 地産地消推進事業		地方創生関連交付金事業該当	-
			和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	都市近郊に立地する本市農業の特性を活かし、生産者と消費者を直接結びつける地産地消の取り組みを推進し、安全で安心な農産物を市民に届けるとともに、地域農業振興の活性化を図ることを目的とする。		(事後評価)	
(事前評価) 【P】事業の内容	道の駅に併設する南部リージョンセンターをはじめとする市内農産物直売所や各種イベントにおいて、地場農産物を積極的にアピールする。 また、各種農業関係団体が開催する研修等を支援し、市内農業者の農業技術や営農知識の向上を図る。		【D】事業実績	【道の駅における主要取扱生鮮農産物】 ・生鮮品 みかん、たけのこ、たまねぎなど ・加工品 ジャム、瓶詰め、味噌など 【各種農業関係団体への支援実績】 ・補助金交付を行った団体…4団体 ・補助金総額…380,000円
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①各種イベントにおける市内農産物のPR 農林業祭や各種イベントにて、市内農産物のPRを行い、地場農産物の認知度向上を図り、道の駅における生鮮農産物の販売額の増加につなげる。 ②農業関係団体への支援 農業関係団体が実施する研修会等を支援することで、新鮮で安全な農産物の栽培を促進し、市内直売所への安定的な出荷を促す。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①各種イベントにおける市内農産物のPR ・H30.11.10(土)、11(日)の2日間で、農林業祭を開催し、市内農産物の直売等を行いPRを行った。 ・H30.10.20 いずみふれあい農の里開設10周年記念イベントとして、市内農産物を使用したバーベキューイベントを実施した。 ②農業関係団体への支援 ・支援を行った農業関係団体が実施した研修会等 5件 認定農業者連絡協議会…6次産業化の取組みに向けて、先進地視察を実施(H31.2.27、奈良県、14名) 農業後継者の会…栽培技術の向上を図るため、先進地視察研修会を実施(H31.1.29・30、愛知県、14名) 花き組合…台風21号による被害を受けたビニールハウスの廃ビニール処分を実施した。 果樹振興会…農作業負担軽減のためのアシストスーツの実演講習会(H30.5.9、JAいずみの横山支店、50名)及び剪定・接木に関する技術講習会・スプレーノズルについての実演講習会(H31.2.28JAいずみの横山支店、31名)を実施した。
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値
	PRを行ったイベント数	件	2	H28: 2, H29: 0, H30: 2, R1: , R2:
	支援を行った研修等の事業数	件	4	H28: 5, H29: 6, H30: 5, R1: , R2:
(事前評価) 【P】予算	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算
	負担金補助及び交付金	3,116,000		内訳 負担金補助及び交付金 3,116,000
	委託料	500,000		委託料 500,000
	計		3,616,000	計 3,616,000
	備考			備考

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	農林業祭、いずみふれあい農の里10周年記念バーベキューイベントで市内農産物のPRをおこなったものの、台風の影響から出荷される農産物が減少したことにより、前年度より減少となった。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的ではなかった	昨年度、天候の影響により中止となった農林業祭及びいずみふれあい農の里における市内農産物を使用したバーベキューイベントの開催により、市内農産物のPRを行ったイベント数は、昨年度より2件増加した。その結果、市内農産物の周知が図られた。 支援を行った研修等の事業数は前年度より1件減少したものの、継続して農業者の生産技術や営農知識の向上を図ることで、より高品質な農産物生産に寄与し、今後の販売額の向上が見込めるものとする。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業祭等のPRイベントにおいて、地場農産物のPRを継続するが、農林業祭については池上曽根史跡公園での開催をH30年度までとし、H31年度からは開催時期、開催場所、共催のあり方などについて検討の上、あらたな形態で実施し、より効果的なPRを行う。 ・直売所に出荷される農産物が安定的に供給され、また、その品質の向上をはかるため、引き続き農業関係団体の行う研修等について支援を行い、農業者の生産技術や営農知識の向上を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出												
重点施策	21 産業として成立する農林業の確立												
成果指標 (KPI)	2102	道の駅における加工品の年間販売額								指標の単位	千円	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	42,712			中間年度の目標値(R2)	48,000			最終年度の目標値(R7)	51,300		総合戦略の目標値(R1)	47,000
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	45,972	42,096	39,496	34,237								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%		0.0%								
備考													
担当課													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 6次産業化促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-
			和泉躍進プラン(案)該当	-
(事前評価) 【P】事業の目的	農業者等が地場農産物を活用し、生産から加工、販売までを行う6次産業化を促進することにより、自立した農業者の育成を図り、活力のある地域農業の実現と新たな担い手の創出につなげる。		(事後評価) 【D】事業実績	【6次産業化に関する支援・相談等の件数】2件
(事前評価) 【P】事業の内容	資金面のリスクにより、6次産業化に躊躇する農業者を支援するための事業を農業関係機関と連携し実施する。			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	・商品開発や販路開拓等に関する取組みの支援 策定した6次産業化戦略プラン(※)に基づき、農業者の市内商工業者等と連携した新たな商品開発や販路開拓等に関する取組みを支援し、魅力ある農産物加工品の提供・道の駅における加工品の販売額増加をめざす。 (※)H28年度に、「和泉市6次産業化等戦略プラン」を策定し、本プランに基づき、農業者が6次産業化に取り組む場合は、国の補助金が拡充される。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	【支援・相談等の内容】 ・和泉市の農産物を使用した加工品開発事業に係る国補助金の申請に対して必要な手続きを行った。 ・加工品販売のための車両購入費の府補助金の申請を行い、補助金を交付した。
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値
	6次産業化に関する支援・相談等の件数	件	3	H28: 3, H29: 2, H30: 2, R1: , R2:
	新規商品開発数	品	3	H28: 3, H29: 0, H30: 1, R1: , R2:
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	負担金補助及び交付金	1,781,000		
	計	1,781,000		
	備考			
			(事後評価) 【D】決算	内訳
				金額(円)
				1,757,761
				計
				1,757,761
				備考

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	前年度に協議を行った国補助を活用した新規商品開発が1件あった。また、加工品販売のための車両の購入に対する補助を行うなど、今後の加工品販売実績向上に向けた取組みができた。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	加工品開発の支援のほか、加工品販売のための移動販売車購入の補助支援を行った。道の駅における加工品の年間販売額は前年度より減少しているものの、新規商品の開発や加工品の販売支援を通じて、将来的な道の駅における加工品の年間販売額の増加に寄与したと考えられる。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントを通じて、地場農産物加工品や商品購入できる場所としての道の駅をPRしていく。 ・また、今年度、移動販売車購入の補助支援を行った団体に対し、イベントでの出店を要請するなど、移動販売車の活用機会を提供することで、加工品販売や商品PRの支援を行う。 ・大阪府などの関係機関と連携し、6次産業化事業を行う事業者に対し、情報提供等の支援を行っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出												
重点施策	21 産業として成立する農林業の確立												
成果指標 (KPI)	2103	農業体験交流施設の年間利用者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	31,500		中間年度の目標値(R2)	40,000		最終年度の目標値(R7)	42,000		総合戦略の目標値(R1)	35,000		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	38,262	39,129	43,543	41,527								達成状況	
	達成率		23.2%	100.0%	87.3%								
備考													
担当課	農林課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 都市農村交流事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	都市近郊の立地特性を活かした都市農村交流事業を実施することにより、都市住民に「農」に対する理解と関心を深める。		(事後評価) 【D】事業実績	・農業体験交流事業 22回開催 223人参加 みかんの花咲ウォーキング事業 参加者数:16人 ファームステイ事業 参加者数: 5人 お米の学校 参加者数:168人 など ・農産物の収穫等体験 228回開催 25,872人参加					
(事前評価) 【P】事業の内容	農業体験交流施設(いずみふれあい農の里)を活用した農産物収穫体験など都市農村交流事業を実施する。			・農産物等の加工体験 36回開催 483人参加 ・夏祭りなどのイベント活動 21回開催 2,361人参加 ・その他、バーベキュー施設など貸館事業等として 12,588人参加					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①広報等を活用し、施設のPRを行う。 ②農業体験交流施設が開設10周年を迎えるため、同じく10周年を迎える南部リージョンセンター・道の駅いずみ山愛の里と連携した記念事業を行う。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・広報・ホームページ等で周知を行い、来訪促進に取り組んだ。 ・10周年記念事業として、市内農産物を使ったバーベキューイベントを行った。(参加者 30人)					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	みかんの花咲ウォーキング事業参加者数		人	20	H28	H29	H30	R1	R2
	ファームステイ事業参加者数		人	10	21	13	16		
	10周年記念事業参加者数		人	40	12	3	5		
					-	-	30		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	需用費	4,328,000	使用料及び賃借料	4,000		需用費	4,326,872	使用料及び賃借料	3,265
	役務費	21,000				役務費	20,580		
	委託料	9,804,000				委託料	9,804,000		
	計			14,157,000		計			14,154,717
備考					備考				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	①R2目標を達成	いちご狩りについては昨年度が豊作であったため、多数の参加者があったが、今年度は平年並みにとどまったため、参加者が減少した。併せていちごのスイーツ作り講座についても同様に減少したため、併せて約2,000人の減少となった。前年比では減少となるものの、H32目標は達成した。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者については、一部の事業で参加しやすいよう実施方法を見直したが、いちご狩り参加者の減少等から、全体として前年より減少した。 ・施設開設10周年記念事業として、収穫した作物を始めとする地場農産物を食材としたバーベキューイベントを開催し、施設のPRを行うことで、更なる利用促進に寄与した。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	<p>農閑期や台風等の自然気象による影響など、シーズンにより利用実績が偏っているため、利用者が少なくなる時期の利用拡大に向け、農業体験事業の内容の見直しや、新規イベントの実施、PRの強化を行っていく。</p> <p>バーベキュー施設について、食材等の提供(手ぶらバーベキュー)を行い、より手軽に施設利用できるようにすることで、利用者の利便性向上及び利用率の向上を図る。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出												
重点施策	21 産業として成立する農林業の確立												
成果指標 (KPI)	2104	森林経営計画に基づきいずもくの年間搬出量							指標の単位	m ³	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	689			中間年度の目標値(R2)	770		最終年度の目標値(R7)	830		総合戦略の目標値(R1)	750	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	402	180	113	0								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	農林課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 市内産木材ブランド化推進事業		地方創生関連交付金事業該当	-									
			和泉躍進プラン(案)該当	-									
(事前評価) 【P】事業の目的	市内林業・木材産業の活性化のため、市内で産出された木材「いずもく」のブランド化を推進し、利用促進を図る。また、良質な木材を安定して搬出するための森林整備を支援する。			(事後評価) 【D】事業実績	①いずもくで建てよう支援事業 補助件数:0件 補助額 :0円 ②森林経営計画に対する補助 ・間伐区域集約化計画作成補助金 計画面積:45.12ha 補助額:177,986円 ・間伐区域集約化事業補助金 事業実施面積:0ha 作業道整備:581m 補助額:644,730円 ③間伐材搬出事業補助金 件数:2件 搬出間伐量:60m ³ 補助額:420,000円								
(事前評価) 【P】事業の内容	①いずもくで建てよう支援事業の実施 いずもくの使用量1m ³ に対し、5万円(上限8m ³)を補助する。 ②森林経営計画に対する補助の実施 ・間伐区域集約化計画作成補助金 ⇒計画作成に係る費用を補助する。 ・間伐区域集約化事業補助金 ⇒計画に基づく間伐等の施業に対して補助する。 ③間伐材搬出事業補助金 ⇒間伐材の搬出に対して補助する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①庁内への利用周知を行い、市の各部署が行う事業で「いずもく」利用の検討を促した結果、庁内で下記のいずもく利用があった。 ・公共建築物への利用・・・2件 ・備品等への利用・・・・・・・2件 ②農林業祭でいずもくについてPRを行った。 ③間伐による健全な森林の育成やいずもくの流通促進を図るため、新たに間伐材搬出事業補助金を創設した。							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①いずもくを公共事業へ積極的に導入するための利用促進に係る庁内への啓発活動を実施する。 ②イベント等を活用し、いずもくのPRを行う。 ③間伐材搬出事業補助金の創設												
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値								
	いずもくで建てよう支援事業の申請件数		件	8	H28	H29	H30	R1	R2				
	森林経営計画に含まれる森林の延べ面積		ha	294	294	351	413						
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)				
	旅費	16,000	負担金補助及び交付金	5,794,000		旅費	3,480	負担金補助及び交付金	1,917,716				
	需用費	122,000				需用費	97,134						
	使用料及び賃借料	27,000				使用料及び賃借料	6,454						
	計			5,959,000		計				2,024,784			
	備考					備考							

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	今年度から大阪府による森林環境税による、今後の施業に向けた作業道の架橋工事などの基盤整備を優先したことから、間伐事業の事業量を抑制したため、搬出間伐の施業量が減少した。 今後整備された作業道等を活用した森林施業が行われることが予定されるため、整備後には間伐施業量の増加が見込める。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	農林業祭等で「いずもくで建てよう支援事業」のPRを行ったが、申請者の増加には繋がらなかった。 今年度新たに創設した間伐材搬出補助金については、2件の申請があり合計60㎡の補助を行ったことから、成果指標の向上には直接寄与しないものの、間伐材の搬出による健全な森林の育成やいずもくの流通促進を図ることができた
	事業の方向性	
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き森林経営計画に基づく森林施業に対する補助を行うとともに、間伐材の搬出や林道の維持管理への補助など、新たな支援施策を継続することで、林業施業に必要な林道を補修し、間伐材の搬出を誘引し、いずもくの出荷量を増大させる。 引き続き農林業祭等で「いずもく」のPRを行い、地場産材の利用促進を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	22 安定した雇用の創出と次代の担い手の育成											
成果指標 (KPI)	2201	大学等と連携した中小企業のための個別相談の延べ件数							指標の単位	件	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	3			中間年度の目標値(R2)	23		最終年度の目標値(R7)	42		総合戦略の目標値(R1)	20
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	6	11	13	15								達成状況
達成率		13.9%	19.4%	25.0%								
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ビジネスマッチング促進事業【事業番号1902再掲】							地方創生関連交付金事業該当		
								和泉躍進プラン(案)該当	○	
(事前評価) 【P】事業の目的	市内のものづくり企業が魅力的な技術・商品を創出するための研究・開発を支援し、市域全体の産業振興を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【セミナー】 ＜第1回 9月18日(火) 17:30～19:30＞※参加人数1人 1. ものづくり中小企業 新事業開拓プログラムの概要 2. 国の政策 ①科学技術基本計画 ②経済産業省・文部科学省等の概算要求 3. マーケットの考え方 4. 自社のコア技術 5. 外部からの評価 6. 自社の製品の特徴分析				
(事前評価) 【P】事業の内容	新技術、新製品の創出にむけ、各企業の課題抽出等による新技術開発支援を行う「産学官セミナー」を開催し、下請型から開発型への変革や事業拡大を目指すものづくり中小企業を、大学と連携し支援する。					＜第2回 10月4日(木) 17:30～19:30＞※参加人数2人 1. IoT技術の現状と産学連携 2. レポート課題解説 ＜第3回 10月19日(金)17:30～19:30＞※参加人数1人 1. 知財(IoT/AI時代の特許) 2. 事業継承に関する会社法上の留意点				
(事後評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	より多くの企業にセミナー参加を呼びかけるため、下記の周知を実施する。 ①市広報、市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信 ②市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架、機関紙への折込 ③産業団地における協議会会員へのチラシ送付					より多くのものづくり企業に制度の周知を図るため、下記の広報活動を行った。 ・市ホームページへの掲載、メールマガジンの配信 ・市及び連携機関における窓口へのパンフレット配架(合計1000部)、機関紙への折込(約2,100部) ・産業団地における協議会会員等へのチラシ送付(約150部)				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	セミナー参加人数			人	18	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	1,800,000				委託料	1,800,000			
	計		1,800,000			計			1,800,000	
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	産業団地における協議会会員へのチラシ送付に加えて、個別に文書送付や電話での案内を行ったが、全日程の参加が必要であることと、レポート等の作成にも膨大な時間を要し、参加を控える企業や途中で参加を断念する企業もあるなか、セミナー参加件数は目標を達成できなかった。 ※事業者からは台風災害の復旧対応を優先する関係から、参加する余裕がないとの声も聞かれた。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	出題された課題を提出し、個別訪問・指導を行うまでがセミナーの内容であり、セミナー終了後、連携研究へつなげるといった流れだが、台風災害の影響等もありレポートを提出する参加者はなかった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	⑤廃止	平成27年度より大阪府立大学(産業振興連携・協力に関する基本協定を締結済)に業務委託し、市内の“ものづくり”に関連する中小企業が、自社のシーズを適切に把握し、新しい事業を見つけることを目指す「ものづくり中小企業新事業開拓セミナー」を毎年開催(参加料:無料)していましたが、市内事業者の参加が減少しており、事開催実施が事実上困難な状況になっている。このため、平成31年度より本セミナーは大阪府立大学の自主事業として対象エリアを大阪府内全域に拡大して実施することになっており、本市独自のセミナー開催は廃止することになった。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	22 安定した雇用の創出と次代の担い手の育成											
成果指標 (KPI)	2202	認定農業者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	77			中間年度の目標値(R2)	87		最終年度の目標値(R7)	95		総合戦略の目標値(R1)	85
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	77	76	76	76								達成状況
達成率		0.0%	0.0%	0.0%								
備考												
担当課	農林課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 農業担い手育成事業		地方創生関連交付金事業該当	-				
			和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	農業従事者の高齢化、後継者の他産業への流出に伴う担い手の減少が課題となるなか、農空間を次世代へ継承するため、就農実践研修等を実施し、新たな担い手を育成・確保する。		(事後評価)	・和泉市農業担い手塾の開催実績 10回/年 延べ参加者数 59名				
(事前評価) 【P】事業の内容	・農業の人材育成・確保のため「和泉市農業担い手塾」を実施する。 ・新規農業者の自立を促すため、「農業次世代人材投資事業給付金」を給付する。		【D】事業実績	・農業次世代人材投資事業給付金の交付実績 受給者数 5名				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①「和泉市農業担い手塾」の開催 就農希望者に対し、農業技術を習得する研修事業を実施する。 ②「農業次世代人材投資事業給付金」の給付 新規就農者の給付金受給に向けて、必要な計画等について申請者、関係機関等と協議・調整を行う。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・「和泉市農業担い手塾」の実施 みかん栽培に関する市民向け研修事業を、農の匠の協力を得て実施した。 ・「農業次世代人材投資事業給付金」の給付 新規就農者の給付金受給に向けて必要となる計画等について、申請者・関係機関等と協議を行い、計画内容の確認、指導を行った。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
				H28	H29	H30	R1	R2
	農業担い手塾参加者の実人数		人	10	10	12	9	
	農業次世代人材投資事業給付金の受給者数		人	3	6	6	5	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	負担金補助及び交付金	15,750,000			負担金補助及び交付金	6,750,000		
	計			15,750,000	計			6,750,000
	備考				備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	認定農業者数は新規1名の増加があったものの、事業撤退のため1社が減となり、差し引き増減なしであった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	農業次世代人材投資事業給付金について、平成29年度から協議中の新規就農者に対して給付開始の見込みであったが、継続して関係者と協議、指導を重ねたものの、青年等就農計画の認定及び給付までに至らなかった。引き続き、給付開始に向けて、必要な協議調整を行う予定。
	事業の方向性	
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・農業担い手塾やファームステイ事業等の既存事業に加え、次世代人材投資事業給付金など新規就農者の育成につながる施策を持続的に行なうことで、新たな農業の担い手の育成・確保を図る。 ・就農希望者に対して、本格就農から認定に至るまで、大阪府やJAなど関係機関と連携し情報提供・指導を行うなどのサポートを継続して実施していく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	22 安定した雇用の創出と次代の担い手の育成											
成果指標 (KPI)	2203	和泉市就職情報フェアの年間就職者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	28			中間年度の目標値(R2)	39		最終年度の目標値(R7)	44		総合戦略の目標値(R1)	38
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	36	25	22	16								達成状況
達成率		0.0%	0.0%	0.0%								
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 和泉市就職情報フェア事業		地方創生関連交付金事業該当	-						
			和泉躍進プラン(案)該当	○						
(事前評価) 【P】事業の目的	和泉市就職情報フェアを行うことにより、求職者の求職活動及び企業の人材確保を支援し、就労の促進と雇用の安定を図る。		(事後評価)							
(事前評価) 【P】事業の内容	市・府・ハローワーク・商工会議所等で構成された実行委員会により、年2回和泉市就職情報フェアを実施する。 (フェアの内容) ・合同就職面接会 ・各種就労支援コーナー		【D】事業実績							
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	和泉市就職情報フェアの周知拡大に向け、下記項目に取り組む。 ①市ホームページ、府ホームページ、商工会議所会報等で開催内容を周知する。 ②チラシを作成し、広報と同時配布及び町会掲示板に貼り出す。 ③市関係機関、外部機関等にチラシ・ポスターの掲示を依頼する。 ④企業に参加依頼文を送付する。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績							
			①市ホームページ、府ホームページ、商工会議所会報等で開催内容を周知する。 ②チラシを作成し、広報と同時配布(146,000部)及び町会掲示板に掲示依頼(2,560部)。 ③市関係機関、外部機関等にチラシ・ポスターの掲示を依頼(チラシ8,000部、ポスター140部)。 ④企業に参加依頼文を送付(416社)。 【第2回】 参加事業所の募集方法について、これまでは先着順としていたが、より魅力のある求人内容にすることを目的に就労支援コーディネーターが事業所を訪問して参加依頼した。依頼による参加事業所は6社。6社の面接者は合計17人で、全体(21社)の面接者41人の4割。							
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値					
	合同就職面接会の年間面接者数		人	100	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	負担金	600,000			【D】決算	負担金	589,416			
	計		600,000			計			589,416	
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	2年後の中間年度(H32)目標値の39人だけでなく、現状値(H26)の28人をも下回る16人となっている。 平成26年度に490人だった来場者数が220人と半分以下になっており、有効求人倍率の上昇が示す雇用改善(就業率の向上)が進んでいることも要因と考えられる。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	就労支援コーディネーターによる事業所訪問を実施し、人気のある事務職や軽作業の求人を出してもらえたことは評価できる。 また、ハローワーク泉大津との協議により無料職業紹介センターでの紹介状発行を可能としたが、無料職業紹介センターからの紹介状発行が1件に留まり、面接者の増加に繋がらなかった。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	来場者数の増加のため、開催日時を土日祝にすることや、障がい者や高齢者等の就職困難者を意識した内容にすることを、共催団体である商工会議所やハローワーク泉大津と協議する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第1節 活力ある地域産業の実現と地域雇用の創出											
重点施策	22 安定した雇用の創出と次代の担い手の育成											
成果指標 (KPI)	2204	和泉市無料職業紹介センターにおける年間就職者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	65			中間年度の目標値(R2)	125		最終年度の目標値(R7)	160		総合戦略の目標値(R1)	90
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	80	142	118	103								達成状況
達成率		77.5%	47.5%	28.8%								
備考												
担当課	商工労働室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 和泉市無料職業紹介センター事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	就職困難者等の就業機会の拡大を図るため、和泉市無料職業紹介センターを中心に関係機関と協力しながら、就職困難者等の自立・就労を支援する。		(事後評価) 【D】事業実績	相談者数:1,125人 紹介者数:260人 就職者数:103人					
(事前評価) 【P】事業の内容	市内5か所で和泉市無料職業紹介センターを開設し、就労支援コーディネーターによる就労支援相談及び職業紹介を行う。市の独自求人を開拓するため、商工会議所の会員企業を中心に地元雇用の促進に向けた求人開拓を実施。またパソコン等で、いつでも和泉市無料職業紹介センターの求人・求職情報を見ることができるホームページ(eワーク和泉)を開設している。			求人開拓(うち商工会議所委託分) 訪問事業所:1,347件(1,347件) 求人受理事業所数:676社(552社) 求人受理事業所数:1,371件(1,093件) 求人受理事業所数:2,940人(2,316人)					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①和泉市無料職業紹介センターの周知拡大に向け、下記項目に取り組む。 ・ホームページ、広報で相談場所や内容を周知する。 ・チラシを作成し、各相談場所に配架、町会回覧板にて周知する。 ・市関係機関、外部機関等にチラシ・ポスターの掲示を依頼する。 ②和泉市無料職業紹介センターにおいて、就労支援コーディネーターが継続支援者に繰り返し連絡し、マッチング求人やスキルアップセミナーの案内を行う。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①周知 ・ホームページ ・広報掲載(10月号) ・町会・自治会チラシ回覧(2月) ・市関係機関、外部機関等にチラシ配架(約30箇所) ②就労支援コーディネーターが継続支援者に繰り返し連絡し、フォローアップ(マッチング求人やスキルアップセミナー案内)を実施(62件)					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	和泉市無料職業紹介センターにおける年間紹介者		人	350	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	3,520,000				委託料	3,520,000		
	会場借上料	326,000				会場借上料	290,970		
	計		計	3,846,000		計		計	3,810,970
	備考				備考				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	④前年度より減少	前年度と比較して、相談者数が406人減少し、紹介者数が55人減少し、就職者数が15人減少した。相談者数の減少は、有効求人倍率の上昇が示すように、昨年度に引き続き雇用改善(就業率の向上)が進んでいることも要因と考えられる。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	③あまり効果的でなかった	昨年度と比較して、就職者数が減少したため、「③あまり効果的ではなかった」と評価したものの、相談者数に対する就職者数の割合が1.5ポイント上昇して9.2%に、紹介者数に対する就職者数の割合が2.1ポイント上昇して39.6%になっていることから、就労支援コーディネーターによる求職者と求人とのマッチングは効果的だったと考えられる。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	無料職業紹介センターの認知度が低いため、様々な周知を続けていく。特に、町会・自治会回覧直後に新規登録者が増加することから、回覧の回数を増やしていく。

第2章 にぎわいの促進

第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興

23 地域資源を活用した観光産業の振興

24 新たな魅力づくりとまちのブランド化の促進

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興											
重点施策	23 地域資源を活用した観光産業の振興											
成果指標 (KPI)	2301	いずみの国観光おもてなし処の年間来館者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	7,825		中間年度の目標値(R2)	17,167		最終年度の目標値(R7)	23,000		総合戦略の目標値(R1)	16,000	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	14,451	17,322	21,124	20,386								達成状況
	達成率		33.6%	78.1%	69.4%							
備考												
担当課	いずみアピール課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 おもてなし処来館促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-
			和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	和泉市を来訪する観光客等に対し、必要な観光情報の案内等を行うことで、スムーズで快適な観光を提供し、市の魅力発信につなげる。		(事後評価) 【D】事業実績	・いずみの国観光おもてなし処(和泉府中) 年間来館者数:11,304人 ・いずみの国観光おもてなし処(和泉中央) 年間来館者数:9,082人
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉市を来訪する際の玄関口となる駅周辺(JR和泉府中駅・泉北高速鉄道と泉中央駅)において、窓口と電話の問い合わせの対応や、情報提供を行う。 (スタッフは英語対応可能) ①観光情報一般(観光施設、イベント等)の案内 ②飲食店・宿泊施設等の紹介 ③特産品の販売業務 ④観光ボランティアガイドの予約受付 ⑤観光特大MAP等の制作 ⑥観光HP・SNS等の運営			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①観光特大MAPの配布 おもてなし処の認知度を向上するため、観光MAPを作成し、配布する。 ②来館促進のための取組み 来館を促進させるため、各種イベント等を実施する。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①観光特大MAPの配布 泉大津PA・神戸空港・ホテルルートイン大阪和泉など大勢の旅行者が見込まれる施設に配架を行った。【配布数:40,000部】 ②来館促進のための取組み 旅行者に観光バスツアーの休憩・立寄所として活用してもらうだけでなく、地域住民にも愛着を持っていただける拠点となるように以下のイベント等を開催した。 ・和泉野菜直売イベント(年4回開催、参加人数約1,045人) ・いずみパールのアクセサリー作り体験等イベント(年4回開催、参加人数約163人) ・和泉市プチ検定の開催(年1回開催、参加人数41人) ・マンホールカード配布(随時配布、配布枚数1,419人)
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値
	観光特大MAPの配布部数	部	10,000	H28:40,000 H29:40,000 H30:40,000 R1: R2:
	来訪促進イベントの実施回数	回	5	H28:5 H29:70 H30:45 R1: R2:
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	37,000,000	委託料	34,367,280
	計	37,000,000	計	34,367,280
	備考	おもてなし処管理運営及びマイスター業務委託料	備考	

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	駐車場スペースを活用した和泉野菜の直売等について、定着したイベントとして開催することができたものの昨年度より若干開催回数が減少した。9月に発生した台風21号の影響による来館者数減少も考えられる。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	評価理由 ・イベント開催時には、いずみメールや市観光ホームページ・フェイスブック・ツイッター等SNSでの発信を行い、周知を図った。 ・和泉市プチ検定について41名に参加があった。本イベント含め観光案内所へは聞きたいことがないと入館しにくいという声があったが、イベントを企画することで来館者数の増加だけでなく、来館者への本市PRIにつながった。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	今後の事業展開 参加型、体験型のイベントは比較的好評であることから、更なる企画の充実を図っていく。 具体的には、和泉観光ボランティアクラブによる、夏休み中の子ども達を対象にした和泉市を楽しく学べるクイズ参加型の講座の開講や、バーナーを使った本格的な和泉ガラス玉作り体験などを開催し、来館者数の増加につなげる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興												
重点施策	23 地域資源を活用した観光産業の振興												
成果指標 (KPI)	2302	国史跡池上曾根史跡公園、国史跡和泉黄金塚古墳ほか府、市史跡の年間来訪者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	118,000			中間年度の目標値(R2)	165,000		最終年度の目標値(R7)	200,000		総合戦略の目標値(R1)	160,000	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	116,317	89,628	65,162	85,775								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%		0.0%								
備考													
担当課	文化財振興課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 史跡公園活性化事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	国史跡池上曾根遺跡や国史跡和泉黄金塚古墳など、和泉市が誇る文化財を広く市内外にアピールするため、来訪者の増加を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	○各施設年間来訪者数内訳 【国史跡池上曾根史跡公園来訪者数】 80,853人 【国史跡和泉黄金塚古墳】 7団体225人 【ふるさと館】 4,697人 ○池上曾根遺跡 ・高校軽音フェスタ 台風21号の影響で中止 ・音★楽市 11/25 200人 ○和泉黄金塚古墳 ・見学ルートを明示し、案内看板を設置した。 ・学校や団体等を案内し、和泉黄金塚古墳の周知をはかった。 ○ふるさと館 ・歴史ウォーク&歴史トーク 70人					
(事前評価) 【P】事業の内容	○池上曾根史跡公園 高校軽音フェスタ、音★楽市などの活性化事業を実施する。 ○和泉黄金塚古墳 見学ルートの整備を行い、歴史ウォーク、歴史トークなどの活性化事業を実施する。					○昨年度に引き続き、歴史ウォークについては、歩く距離を短縮するかわりに、歴史トークとセットで、深く文化財を学べるようにプログラムを実施し、今年度は、信太の森鏡池史跡公園を会場に、歴史ウォークと歴史トークを開催した。					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	史跡公園を活用したイベント内容の見直しをはかり、魅力ある企画を実施する					【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	史跡を活用したイベント等の開催回数			回	4	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	負担金	3,000,000				負担金	2,044,827				
	備品購入費	100,000				備品購入費	15,228				
	原材料費	120,000				原材料費	48,149				
	計		3,220,000		計		2,108,204				
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡公園等への入園者数について、平成29年度よりも増加した。しかし、高校軽音フェスタin 弥生の杜など、台風の影響で中止となったイベントもあり、活動指標は目標値に届かなかった。 ・また、9月の台風の影響により、池上曽根史跡公園の大型建物への立ち入りが禁止となり、入園者数が他の月より減少した。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・池上曽根史跡公園について、前年度より入園者数は増加したものの、より魅力あるイベントの開催や情報発信につとめる必要がある。 ・和泉黄金塚古墳の見学ルートについては、仮整備が十分に整備できていないため、限定的な公開に留まっており、広く一般の来訪促進には結びついていない。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性 ②一部見直し	<p style="text-align: center;">今後の事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度で高校軽音フェスタin 弥生の杜が10回目をむかえることから、10年の取組みの成果と課題を整理し、関係部局、関係機関とも協力して、事業内容の見直しを進める。 ・歴史ウォークについて、他部局が実施している関係イベントとの連携を検討する。 ・ホームページやブログを活用した情報発信に努める。

取組事業	2 史跡整備事業				地方創生関連交付金事業該当	-				
					和泉躍進プラン(案)該当	○				
(事前評価) 【P】事業の目的	国史跡池上曾根遺跡や国史跡和泉黄金塚古墳など、和泉市が誇る文化財・歴史遺産の保存と整備をすすめ、その魅力を市内外に発信し、観光振興、地域活性化を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	(池上曾根遺跡の整備) 復元施設の修繕計画に基づき、今年度は竪穴建物の修理とトイレ改修を実施した。また、史跡指定地の公有化をはかった。 (和泉黄金塚古墳の整備計画の策定) 文化財保護法の改正に対応するため、仮オープンは先送りすることとしたが、見学ルートの整備や維持管理(除草等)を実施した。				
(事前評価) 【P】事業の内容	○池上曾根遺跡の整備および復元建物の修繕を計画的に実施する。 ○池上曾根遺跡の土地公有化をすすめる。 ○和泉黄金塚古墳史跡公園の仮オープン(H31年度)にむけ、観光拠点としての位置づけにも留意しつつ、整備計画を策定する。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①商工まつりなどの既存のイベントでの活用のほか、あらたな活用手法について、関係部局をまたいだ調整を進め、整備計画に反映させる。 ②復元施設の修繕について、専門家の助言を得るため、整備指導委員会を開催する。 ③池上曾根史跡公園のインバウンド対応をすすめる				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①史跡公園の新たな活用手法について、文化庁や府、泉大津市と協議を進め、令和元年度から2か年計画で、池上曾根遺跡の保存活用計画を策定することとなった。 ②上記により、指導委員会の開催を見送った。 ③池上曾根史跡公園のインバウンド対応のため、情報館トイレの改修(洋式化)を実施した。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	整備指導委員会開催回数			回	2	H28	H29	H30	H31	H32
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	修繕委託料	9,800,000	工事請負費	3,000,000		修繕委託料	9,800,000	工事請負費	2,440,800	
	公有財産購入費	63,425,000				公有財産購入費	63,424,397			
	鑑定委託料	1,535,000				鑑定委託料	1,534,960			
	計		77,760,000			計		77,200,157		
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<ul style="list-style-type: none"> ・9月は、台風の影響により池上曽根史跡公園の大型建物への立ち入りが禁止となり、入園者数が他の月より減少したが、池上曽根史跡公園の復元施設の修繕に計画的に取り組み、池上曽根遺跡の魅力の維持につとめた結果、入園者数は前年度を上回ることができた。 池上曽根遺跡公園 年間入園者 H29 65,162人 → H30 80,853人 ・和泉黄金塚古墳の見学ルートについては、仮整備が十分に整備できていないため、限定的な公開に留まっており、広く一般の来訪促進には結びついていない。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	文化財保護法の改正(H31.4.1施行)をふまえ、文化庁、大阪府および泉大津市と連携し、史跡池上曽根遺跡保存活用計画の策定準備をすすめることができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・池上曽根史跡公園については、引き続き計画的に施設修繕に取り組むとともに、令和元年度から2か年計画で、保存活用計画策定を策定する。 ・和泉黄金塚古墳については、関係機関や地元町会などと協議をすすめ、令和2年度から保存活用計画策定に着手できるよう、令和元年度中に準備を進める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興											
重点施策	23 地域資源を活用した観光産業の振興											
成果指標 (KPI)	2303	いずみの国観光おもてなし処の外国人年間来館者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	73			中間年度の目標値(R2)	152		最終年度の目標値(R7)	210		総合戦略の目標値(R1)	140
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	70	88	133	80								達成状況
達成率		12.9%	45.0%	7.1%								
備考												
担当課	いずみアピール課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 おもてなし処訪日旅行者来館促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	○					
(事前評価)	和泉市を来訪する訪日旅行者に対し、必要な観光情報の案内等を行うことで、スムーズで快適な観光を提供し、市の魅力発信につなげる。		(事後評価)	いずみの国観光おもてなし処(和泉府中)外国人年間来館者数:31人 いずみの国観光おもてなし処(和泉中央)外国人年間来館者数:49人					
(事前評価)	和泉市を来訪する際の玄関口となる駅周辺(JR和泉府中駅・泉北高速鉄道と泉中央駅)において、窓口・電話の問い合わせの対応や、情報提供を行う。 (スタッフは英語対応可)								
(事前評価)	【P】事業の内容 ①観光情報一般(観光施設、イベント等)の案内 ②飲食店・宿泊施設等の紹介 ③特産品の販売業務 ④観光ボランティアガイドの予約受付 ⑤観光特大MAP等の制作 ⑥観光HP・SNS等の運営		(事後評価)	【D】事業実績					
(事前評価)	【P】成果指標向上のための具体的な取組 ①観光特大MAPの配布 おもてなし処の認知度を向上するため、観光MAPを英語で作成し、配布する。 ②和泉市観光大使の任命 和泉市観光大使に香港で活躍するお笑い芸人「ムコアンジー」を任命する。 ③和泉市観光ガイドブックの多言語化 4ヶ国語(日本語、英語、韓国語、中国語)対応のガイドブックを作成し、配布する。内容は訪日旅行者のニーズが高い体験ものを中心とした。		(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績 ①観光特大MAPの配布 泉大津PA・神戸空港・ホテルルートイン和泉などの大勢の旅行者が見込まれる施設への配架を行った。【配布数:40,000部】 ②和泉市観光大使の任命 2018年9月1日付け関西広域連合が任命するKANSAI観光大使「ムコアンジー」を和泉市の観光大使に任命した。具体的な取組としては、「ムコアンジー」が活動拠点としている香港でのイベントで和泉市のPRブースを設けることが出来た。また同時にそのイベントから2018年に開催の和泉市納涼花火大会で行われたカラオケ大会に香港からの挑戦者を選出し招くなど海外からの誘客や和泉市PR、知名度アップに繋げることが出来た。 ③和泉市観光ガイドブックの多言語化 4ヶ国語(日本語、英語、韓国語、中国語)対応の和泉市ガイドブックについて、外国人の方が好む体験ものを中心に構成し、海外での認知度が高いムコアンジーの和泉市おすすめスポットを掲載するなど外国人に興味を持ってもらいやすい内容を意識し制作した。【配布数:各言語3,000部ずつ計15,000部】 配架先は和泉市内の観光案内所や宿泊施設だけでなく外国人が多く訪れている大阪市内宿泊施設や大阪観光局が運営する観光案内所にも配架を行った。					
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
(事前評価)	【P】活動指標				H28	H29	H30	R1	R2
	海外からのホームページへのユーザー数		PV	1,000	929	1,479	2,507		
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	200,000			【D】決算	委託料	200,000		
	計			200,000		計			200,000
	備考	観光ホームページ管理委託料				備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	近年の動向として訪日旅行者は増えているが、今年度9月に発生した台風21号の影響による来館者数減少も考えられる。和泉市内観光施設等に台風の状況による影響を確認したところ、被害の状況により来訪者数は減少しているとのことであった。それに伴い、観光施設等へのアクセスなどの問い合わせ先である観光案内所への来館者数も減少したと考えられる。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	昨年度に引き続き、ホテルルートイン大阪和泉等、外国人来訪者の目に触れる機会が多い場所への観光特大大マップの配架により、外国人観光客に和泉市に関心をもってもらえるよう取り組んだ。 また、4ヶ国語(日本語、英語、韓国語、中国語)対応の観光ガイドブックについては、大阪市内ホテルやゲストハウスなどにも配架を行うなど、大阪市内に来訪中の外国人観光客の誘客にも取り組んだ。 KPIは減少する結果となったが、今まで配架していなかった大阪市内ホテル、ゲストハウス等にも新たに配架PRしたことで、今後の来訪者の増加につながると考えられる。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	市観光ホームページについて、外国人観光客に好まれるコンテンツを増やすこと、また外国人観光客の誘客に効果的WEB、SNS等の発信媒体を利用し、さらなる情報発信に取り組む。 また、和泉・久保惣ミュージアムタウンの取組の一つである「アートガッシュ」等を開始したところであり、今後は「アートがまちにあふれる和泉」の重点的な周知PRに注力し、外国人観光客の誘客に取り組む。またその取組の案内拠点として、おもてなし処(和泉中央)が効果的に機能するよう、同処からのさらなる積極的な情報発信にも取り組む。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進											
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興											
重点施策	23 地域資源を活用した観光産業の振興											
成果指標 (KPI)	2304	モニターツアーの実施延べ回数							指標の単位	回	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	22		最終年度の目標値(R7)	30		総合戦略の目標値(R1)	20
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	3	3	3	16								達成状況
達成率	0.0%		0.0%		48.1%							
備考												
担当課	いずみアピール課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 和泉・久保惣ミュージアムタウン推進事業										地方創生関連交付金事業該当	○
											和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価)	和泉市久保惣記念美術館を中心とする半径2キロメートル以内のエリアである「和泉・久保惣ミュージアムタウン」のプランディング向上とエリアへの来訪促進を目的とする。					(事後評価)					<ul style="list-style-type: none"> パブリックアートの新設 エリア内各所に、32のパブリックアートを設置 予展展の開催 【日時】平成31年2月11日～16日 【参加者】462名 お披露目イベント「ほろ酔いフェスタ」の開催 お披露目イベントに合わせて、スタンブラー(参加者:129名)やアートツアー(参加者:48名)を同時開催。 【日時】平成31年3月21日 【参加者】1,200名 タウンマガジン(第2号、3号)の発行 【発行部数】各2万部 周遊キャンペーンの実施 ウォーキング、サイクリング、バスツアー、ワークショップ、SNSキャンペーンを実施 【延べ参加者数】721名 和泉市とかつらぎ町の共同運行による「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」の運行 【日時】平成30年4月1日～平成31年3月31日 日・祝日のみ(1日往復6便、内3便を急行便として運行。計66日間) 【ルート】和歌山県JR笠田駅から和泉市泉北高速鉄道中央駅まで 【延べ乗車数】1,423人 モニターツアーの実施(全13回) 【延べ参加者数】459名 特産品の開発 日本酒、酒樽・酒樽、メダルの特産品を開発 	
(事前評価)	<ul style="list-style-type: none"> アートイベントをはじめとした、地域の魅力向上および来訪促進のためのイベントを開催する。 和泉市とかつらぎ町の共同運行による「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」を運行し、交通アクセス・利便性の向上を図る。 地域住民や近隣店舗と協働・連携し、パブリックアートを製作し、まちなかに展示する。 					(事後評価)					<ul style="list-style-type: none"> ①パブリックアートの新設 松本零士氏及び弘業憲史氏デザインの立体造形物2体を和泉中央駅に設置した他、関西に縁のあるアーティスト30人が美術館所蔵品をリライトした30箇所の壁画アートを和泉中央駅から美術館までの各所に設置した。 ②タウンマガジンの発行 第2号・第3号とも英語併記を行った。第2号は制作段階で桃山学院大学学生が記事を作成、第3号は海外旅行者向けに、関西国際空港等に配架を行い、認知度向上に取り組んだ。 ③周遊キャンペーンの実施 ウォーキングツアーなどを実施し、参加者に、ミュージアムタウンの魅力を伝えた。また、SNSキャンペーンの実施により、情報の拡散に取り組んだ。 ④「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」の運行 和歌山県側からの来訪促進の実証実験として実施し、将来的な持続性について検証を行った。 ⑤モニターツアーの実施 大阪府及び兵庫県からの一般向けモニターツアー及び旅行事業者・マスメディア向けモニターツアーを実施し、参加者にミュージアムタウンの魅力を伝えた。 ⑥特産品の開発 特産品の開発に要する費用の一部(開発費用の3分の2、上限60万円)を事業者に助成することにより、特産品の商品化に取り組んだ。 	
(事前評価)	<p>【P】成果指標向上のための具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> パブリックアートの新設 タウンマガジンの発行 周遊キャンペーンの実施 「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」の運行 モニターツアーの実施 特産品の開発 					(事後評価)					<p>【D】実績値</p>	
(事前評価)	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価)					
【P】活動指標	来訪促進イベント(和泉・久保惣アート祭)参加者数				人	1,000	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
【P】予算	報償費	220,000	印刷製本費	266,000		報償費	46,000	印刷製本費	249,938			
	食糧費	20,000	使用料	53,000		食糧費	4,120	消耗品費	20,210			
	委託料	33,700,000	補助金	5,546,000		委託料	33,408,277	補助金	3,767,282			
	計			39,805,000		計			37,495,827			
	備考			備考								

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	前年度は未実施であったが、大阪府及び兵庫県からの一般向けモニターツアー11回、旅行事業者・マスメディア向けモニターツアーをそれぞれ1回ずつ実施し、全13回開催することが出来た。 これまでのミュージアムタウンにおける継続的な取り組みにより、ミュージアムタウンのブランディング化が図られ、ツアーを実施できる最低限の環境が整ったことにより実施できたものと考ええる。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	モニタリングツアー実施により、459名の参加者に直接ミュージアムタウンの魅力を伝えることができ、アンケートでも参加者の87%の方から、ツアーに参加して満足との結果を得た。 また、旅行事業者向けモニタリングツアーに参加された旅行事業者が、独自ツアーを5件実施し、175名の述べ参加があった。 マスメディア向けモニタリングツアー実施により、2月10日付産経新聞朝刊などのメディアへの露出につながった。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	モニタリングツアー実施においては、大型バスの駐車場や大人数収容の食事場所などのインフラ整備が課題であることが浮き彫りになった。 本事業の目的である「和泉・久保惣ミュージアムタウン」のブランディング向上とエリアへの来訪促進を効果的に実施するためには、令和元年度に予定しているエリア内観光施設を巡るツアー企画において桃山学院大学食堂での食事利用を検討するなど、インフラ整備が必要であると考ええる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興												
重点施策	24 新たな魅力づくりとまちのブランド化の促進												
成果指標 (KPI)	2401	宿泊施設の延べ誘致数							指標の単位	件	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	3		最終年度の目標値(R7)	3		総合戦略の目標値(R1)	3	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		1	1	1								達成状況	
達成率		33.3%	33.3%	33.3%									
備考													
担当課													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 宿泊施設誘致事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	宿泊施設を誘致することで、まちのにぎわいの創出及び都市機能の充実を図り、もって市内経済の活性化及び市民福祉の向上に資することを目的とする。							(事後評価) 【D】事業実績	【補助実績】 ○新規補助 0件		
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉市ホテル・旅館の誘致に関する条例に基づく、補助金の交付 ・建築費等補助金(建築費用の100分の10に相当する額:上限1億円) ・固定資産税等補助金(土地及び建物に係る固定資産税及び都市計画税に相当する額) ・借地料補助金(土地借地料の1/2に相当する額:上限年額500万円) ・下水道使用料補助金(下水道使用料に相当する額:上限年額500万円)								○継続補助 1件 ・固定資産税等補助金 8,934,000円 ・借地料補助金額金 5,000,000円 ・下水道使用料補助金 4,735,000円		
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	・HPによる制度周知を行う。 ・宿泊施設の開業に向け、ホテル事業者との協議を行う。 ・ホテル事業者の企業訪問を行い、補助金等の説明を行う。							(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・HPによる制度周知を行った。 ・ホテル関係の各種団体へ制度案内文を送付した。		
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	企業訪問数				件	3	H28	H29	H30	R1	R2
							1	0	0		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	補助金	21,000,000				補助金	18,669,000				
	計			21,000,000		計					18,669,000
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	<p>条例制定後、和泉市内ホテル用地の売買が2件発生した。</p> <p>一方についてはホテルルートイン和泉がH29年3月に開業、もう一方については周辺状況を勘案しながら事業主側の検討段階にある。</p> <p>本事業の周知は継続して行っているが、ホテル・旅館の開業には公共交通機関の利便のよい一定規模の土地が必要であり、ホテル事業主側の需要と該当する土地の供給が一致しなかったことが要因と考えられる。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>新たなホテル開業はなかったが、10ヵ年で3件のホテル・旅館誘致を目標としていることから成果指標の未達成については概ね問題ないとする。</p> <p>平成28年度に開業したホテルルートイン和泉は、今年度も継続して補助を実施した。稼働率が約7割を超えており、順調な経営状況である。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>今後もホームページによる条例の周知に努めるとともに、ホテル用地所有者へ誘致の呼びかけを行う。また、ホテル事業者や土地所有者への意向確認等、訪問を引き続き行う。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興												
重点施策	24 新たな魅力づくりとまちのブランド化の促進												
成果指標 (KPI)	2402	久保惣記念美術館の年間来館者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	24,770			中間年度の目標値(R2)	30,000		最終年度の目標値(R7)	35,000		総合戦略の目標値(R1)	29,000	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	23,161	28,265	43,925	32,639								達成状況	
達成率		43.1%	100.0%	80.1%									
備考													
担当課	政策企画室・いずみアピール課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 和泉・久保惣ミュージアムタウン推進事業【再掲】							地方創生関連交付金事業該当	○		
								和泉躍進プラン(案)該当	○		
(事前評価)	和泉市久保惣記念美術館を中心とする半径2キロメートル以内のエリアである「和泉・久保惣ミュージアムタウン」のブランディング向上とエリアへの来訪促進を目的とする。				(事後評価)	<ul style="list-style-type: none"> パブリックアートの新設 エリア内各所に、32のパブリックアートを設置 予告展の開催 【日時】平成31年2月11日～16日 【参加者】462名 お披露目イベント「ほろ酔いフェスタ」の開催 お披露目イベントに合わせて、スタンブラリー(参加者:129名)やアートツアー(参加者:48名)を同時開催。 【日時】平成31年3月21日 【参加者】1,200名 タウンマガジン(第2号、3号)の発行 【発行部数】各2万部 周遊キャンペーンの実施 ウォーキング、サイクリング、バスツアー、ワークショップ、SNSキャンペーンを実施 【延べ参加者数】721名 和泉市とかつらぎ町の共同運行による「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」の運行 【日時】平成30年4月1日～平成31年3月31日 日・祝日のみ(1日往復6便、内3便を急行便として運行。計66日間) 【ルート】和歌山県JR笠田駅から和泉市北高速鉄道と泉中央駅まで 【延べ乗車数】1,423人 モニターツアーの実施(全13回) 【延べ参加者数】459名 特産品の開発 日本酒、酒樽・酒樽、メダルの特産品を開発 					
(事前評価)	<ul style="list-style-type: none"> アートイベントをはじめとした、地域の魅力向上および来訪促進のためのイベントを開催する。 和泉市とかつらぎ町の共同運行による「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」を運行し、交通アクセス・利便性の向上を図る。 地域住民や近隣店舗と協働・連携し、パブリックアートを製作し、まちなかに展示する。 					(事後評価)	<ul style="list-style-type: none"> パブリックアートの新設 ・松本零士氏及び弘兼憲史氏デザインの立体造形物2体を和泉中央駅に設置した他、関西に縁のあるアーティスト30人が美術館所蔵品をリライトした30箇所の壁画アートを和泉中央駅から美術館までの各所に設置した。 タウンマガジンの発行 第2号・第3号とも英語併記を行った。第2号は制作段階で桃山学院大学学生が記事を作成、第3号は海外旅行者向けに、関西国際空港等に配架を行い、認知度向上に取り組んだ。 周遊キャンペーンの実施 ウォーキングツアーなどを実施し、参加者に、ミュージアムタウンの魅力や魅力を伝えた。また、SNSキャンペーンの実施により、情報の拡散に取り組んだ。 「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」の運行 和歌山県側からの来訪促進の実証実験として実施し、将来的な持続性について検証を行った。 モニターツアーの実施 大阪府及び兵庫県からの一般向けモニターツアー及び旅行事業者・マスメディア向けモニターツアーを実施し、参加者にミュージアムタウンの魅力や魅力を伝えた。 特産品の開発 特産品の開発に要する費用の一部(開発費用の3分の2、上限60万円)を事業者に助成することにより、特産品の商品化に取り組んだ。 				
(事前評価)	<p>①パブリックアートの新設</p> <p>②タウンマガジンの発行</p> <p>③周遊キャンペーンの実施</p> <p>④「和泉・かつらぎ広域観光路線バス」の運行</p> <p>⑤モニターツアーの実施</p> <p>⑥特産品の開発</p>				(事後評価)	<p>【D】 成果指標向上のための具体的な取組の実績</p>					
(事前評価)	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】 実績値				
[P] 活動指標	来訪促進イベント参加者数				人	1,000	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
[P] 予算	報償費	220,000	印刷製本費	266,000		報償費	46,000	印刷製本費	249,938		
	食糧費	20,000	使用料	53,000		食糧費	4,120	消耗品費	20,210		
	委託料	33,700,000	補助金	5,546,000		委託料	33,408,277	補助金	3,767,282		
	計			39,805,000		計			37,495,827		
	備考			備考							

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	<p>昨年度と同様に、平成32年度の目標値を達成できた。 第2号・第3号のタウンマガジンの発行やモニタリングツアー・キャンペーンの実施、パブリックアートの設置によりエリアの認知度向上につながり、来館者が増加したと考える。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊キャンペーンやモニタリングツアー実施により1,180名の参加者に直接ミュージアムタウンの魅力を伝えることができた。 ・モニタリングツアー参加者のアンケートでも87%の方から、ツアーに参加して満足との結果を得た。 ・旅行事業者向けモニタリングツアーに参加された旅行事業者が、独自ツアーを5件実施し、175名の述べ参加があった。 ・マスメディア向けモニタリングツアー実施により、2月10日付産経新聞朝刊などへのメディアへの露出につながった。 ・当初1回の発行予定であったタウンマガジンを2回発行し、英語併記を加え、インバウンドに向けた効果的な情報発信ができた。 ・美術館の収蔵品に由来するパブリックアートをエリア内の各所に配置できたことで、美術館とまちをつなげ、アートのまちとしてブランディング化を図ることができた。 ・地元特産品を複数開発でき、ミュージアムタウンに新たな魅力を加えることができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>久保惣記念美術館やいずみの国歴史館、和泉リサイクル環境公園、松尾寺などの観光スポットとエリア内に点在するパブリックアートを巡る周遊イベントを実施するなど、エリアのブランディング化を行う。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第2章 にぎわいの促進												
節	第2節 新旧の魅力が融合する観光の振興												
重点施策	24 新たな魅力づくりとまちのブランド化の促進												
成果指標 (KPI)	2403	南部リージョンセンター道の駅年間利用者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	154,505			中間年度の目標値(R2)	181,600		最終年度の目標値(R7)	200,000		総合戦略の目標値(R1)	177,000	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	162,297	155,691	152,275	145,098								達成状況	
	達成率		0.0%	0.0%	0.0%								
備考													
担当課	公民協働推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 道の駅利用促進事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	道の駅の利用促進を図り、地場産業の振興と地域交流の活性化を推進する。				(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・展示販売出荷協力者 212名 ・販売売上額(年間) 160,242,970円 					
(事前評価) 【P】事業の内容	地域の人たちの協力のもと地域特産品のPRを兼ねて展示販売を行う。また、施設開設10周年記念式典等を実施する。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①出荷協力者の増加 展示販売の取扱いについてのルールを見直し、出荷協力者の増加を図る。</p> <p>②施設の広報活動 道の駅応援隊長である「土肥ポン太」氏を中心に、吉本興業グループの認知度を活用した広報活動を実施する。</p> <p>③記念式典等の実施 開設10周年を記念して、記念式典等を実施し、施設の認知度の向上と活性化を図る。</p> <p>④指定管理者による自主事業の実施 利用者を増加させるため、指定管理者による自主事業を実施する。</p> <p>⑤特産品のブランド化を図る。 いずみみかんの周知に努め、ブランド化を図る。</p>				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<p>①出荷協力者の増加 展示販売品目及び出荷希望者の条件に係る要件を緩和したことにより、出荷協力者の増加に繋がった。 H29 206名→H30 212名</p> <p>②施設の広報活動 道の駅応援隊長である「土肥ポン太」氏を中心として、出演番組を利用した広報を実施した。</p> <p>③記念式典等の実施 【日時】平成30年11月17日・18日 【内容】10周年記念イベント(式典・除幕式・N1グランプリ等) 【参加者数】4,900人</p> <p>④指定管理者による自主事業の実施 【実施件数】19件 【主な内容】落語会、春夏秋冬の味覚祭 【延べ参加人数】20,223人</p> <p>⑤特産品のブランド化を図る。 いずみみかんのパンフレットを配架し、周知に努めた。</p>					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	販売売り上げ額			円	168,600,000	H28	H29	H30	R1	R2	
						168,063,929	172,315,669	160,242,970			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	委託料	51,840,000				委託料	50,775,083				
	計		51,840,000			計				50,775,083	
	備考	南部リージョンセンター施設管理費含む				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	繁忙期に2度台風が上陸し、その影響により前年度と比較して、利用者数が大きく減少したと考えられる。 平成29年9月 11,573人⇒平成30年9月 9,715人
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	南部リージョンセンター開館10周年の節目にあたり、記念式典等を実施し、施設の周知を図った。また、道の駅応援隊長である「土肥ポン太」氏を中心に広報活動にも取り組んだが、台風の影響による利用者減少により、利用者数、販売売り上げ額ともに増加には至らなかった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	指定管理者である吉本興業グループの認知度を活用しつつ、出荷協力会及びいずみの里と協力し、地元特産品の周知、施設の周知に取り組む。また、南部リージョンセンター開設10周年を迎え、隣接する道の駅を含めた施設全体の今後のあり方について、調査研究業務委託により施設の改修等来場者数増加に繋がる計画を策定した。今後計画に基づき、より集客のある施設を目指すと共に、地域交流の活性化を図る。

第3章 安全・安心の促進

第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり

25 地域医療の充実

26 支援を必要とする人への相談支援体制の充実

27 安心して生活できる防犯体制の整備

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり											
重点施策	25 地域医療の充実											
成果指標 (KPI)	2501	市立病院の患者満足度(指定管理者実施調査)							指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	57.0			中間年度の目標値(R2)	70.0		最終年度の目標値(R7)	80.0		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	74.6	-	75.1	-								達成状況
達成率	-		9.4%	-								
備考												
担当課	病院経営管理課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 和泉市立総合医療センター医療サービス充実事業							地方創生関連交付金事業該当	-
								和泉躍進プラン(案)該当	-
(事前評価) 【P】事業の目的	和泉市立総合医療センターが市民の健康と生活を守る病院として安全で質の高い医療を提供するために、また地域の中核病院としての役割を果たしていくために、医療サービスの充実を図っていく。				(事後評価)	新病院開院に伴い、医師確保、救急医療の全面再開を実現した結果、患者数が増となった。 <主な運営状況> 常勤医師数 83人、前年度比+29人増 入院患者数(1日) 299人、前年度比+69人増 病床利用率 97.3%、前年度比+22.4ポイント 外来患者数(1日) 850人、前年度比+291人増			
(事前評価) 【P】事業の内容	○急性期病院として必要な機能・体制を整備する。 ○がん医療を中心とした高度専門医療の充実を図る。 ○地域住民への健康講座や地域医療機関との連携を推進する。				【D】事業実績				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<市の取り組み> ①和泉市立総合医療センター経営評価委員会を開催し、指定管理者の運営状況のチェックを行う。 ②新設診療科、人工透析室の医療機器充実を図る。 ③病院記念誌を発刊し、地域医療機関への病院情報の提供を図る。 <指定管理者の取り組み> ・人材確保 ・自主事業(医療講演等)の充実 ・地域の医療機関との情報交換 ・歯科口腔外科の開設				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<市の取り組み> ①和泉市立総合医療センター経営評価委員会を3回開催し、各委員から、運営状況に関する評価とともに、経営改善につなげるための意見を多数受けた。 ②新設診療科(人工透析室)の医療機器を購入した。 ③病院記念誌を発刊し、病院情報のPRを行った。 <指定管理者の取り組み> ・医師を54名から83名に、看護師を189名から247名に増員。 ・医療講演会を51回開催、1,360名の参加があった。 ・7月19日に地域医療機関連携の会合を開催。 ・10/1から歯科口腔外科を開設、歯科医師2名確保			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	病床利用率		%	87.9	H28	H29	H30	R1	R2
	指定管理者評価委員会の開催		回	3	3	3	3		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	計			0	計				0
	備考				備考				

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ③変化なし	平成30年度において、指定管理者による患者アンケートが未実施であったため、成果指標の達成状況は不明である。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ①十分効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・新病院の移転建て替え、医師確保、救急医療の再開が実現し、入院・外来患者数の大幅増となった。 ・消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、血液内科、歯科口腔外科など計17科の診療科を新たに新設し、医療体制の充実を図った。 ・土曜日診療を開始し、利便性向上を図った。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	和泉市立総合医療センター経営評価委員会による運営状況評価を受けながら、PDCAサイクルによる医療サービスの向上を図る。 翌年度には、高機能手術室用医療機器を導入し、低侵襲のカテーテルによる血管内治療から心臓手術を組み合わせる環境整備を行う。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり											
重点施策	25 地域医療の充実											
成果指標 (KPI)	2502	市立病院での救急患者の受入れ率							指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	5.0		中間年度の目標値(R2)	50.0		最終年度の目標値(R7)	60.0		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	8.5	16.5	15.7	26.3								達成状況
	達成率		15.5%	14.0%	34.6%							
備考												
担当課	病院経営管理課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 救急医療拡大事業							地方創生関連交付金事業該当	-
								和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	市民の生命と健康を守る公立病院としての使命を果たすため、救急医療の全面再開をめざし、市内の他の救急告示病院と連携をとりながら、和泉市民の管外搬送をなくす。				(事後評価)	平成30年度より24時間365日の救急受け入れの再開を実現した。			
(事前評価) 【P】事業の内容	24時間365日断らない救急を目指して、救急専門医の確保を行うとともに、疾患により専門化が進む現在の医療提供体制との連携体制を構築し、脳、心疾患、呼吸器、消化器、外傷等と多岐に渡る領域の救急医療の充実を図っていく。				【D】事業実績	和泉市消防本部からの救急搬送受入は、2,351人で、前年度と比較して1,022人(+76.9%)の増となり、全救急搬送の26.3%を受入。			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p><市による取り組み> 指定管理による市立病院運営の最も重要な事業と位置づけ、実施状況をチェックしていく。また、必要となる医療機器の整備・更新を行い、救急受け入れ体制の強化を図る。</p> <p><指定管理者による取り組み> 本年度は、診療体制のさらなる拡充に向けて、医師をはじめとするスタッフの確保に取り組む。</p>				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<p><市による取り組み> CT、MRIの増設等、医療機能整備を実施した。</p> <p><指定管理者による取り組み> 救急医療の全面再開のため、医師確保を図った。</p>			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	消防本部の市立病院搬送率		%	14.7	H28	H29	H30	R1	R2
	救急医療実施日		日	365	260	313	365		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	指定管理料	229,748,000			指定管理料	175,866,454			
	計		229,748,000		計		175,866,454		
	備考				備考	指定管理料のうち救急医療分			

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	②前年度より向上	和泉市内における救急搬送数は、8,451人から8,953人で、5.9%増であった。そのうち、総合医療センターにおける受け入れ救急患者数は、1,329人から2,351人で、76.9%増となり、大幅に増加した。 救急医療の24時間365日実施の再開により、前年度を大きく上回る救急患者受入数となった。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	①十分効果的だった	医師確保の取組みにより、24時間365日の救急受け入れを再開し、救急患者の受入れ率向上に寄与した。その結果、和泉市消防本部の市外搬送の減少につながった。 また、CT、MRIの増設等、医療機能整備を実施し、救急受け入れ体制の強化を図ることができた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	引き続き、市外搬送の減少に向け、指定管理者とともに取り組んでいく。 具体的には、市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少を目指す。また、重篤な患者の対応については、引き続き、協力・支援病院と連携を図っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり											
重点施策	26 支援を必要とする人への相談支援体制の充実											
成果指標 (KPI)	2601	地域出張型在宅医療介護セミナー年間受講者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	525		最終年度の目標値(R7)	840		総合戦略の目標値(R1)	420
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	0	134	265	710								達成状況
達成率	16.0%		31.5%		84.5%							
備考												
担当課	高齢介護室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 地域出張型在宅医療介護セミナー推進事業		地方創生関連交付金事業該当	-																																																												
			和泉躍進プラン(案)該当	○																																																												
(事前評価) 【P】事業の目的	医療や介護、在宅療養が必要になっても最後まで望む暮らしができるよう、元気なうちに学び、考える機会を持つことで他人任せではなく自らの意思で選択していきける力を養う。		(事後評価) 【D】事業実績	<p>【講座の開催実績】 セミナーを14回開催し、445人の参加を得た。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催月日</th> <th>対象者</th> <th>テーマ</th> <th>人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月22日(日)</td> <td>セントラルステージ光明池「あすなる会」</td> <td>介護保険について</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>5月19日(土)</td> <td>セルカ「泉樹会」</td> <td>病院のしくみについて</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>5月29日(火)</td> <td>漢徳会</td> <td>介護保険について</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>6月9日(土)</td> <td>寺田町いきいきサロン</td> <td>かかりつけ医師について</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>6月16日(土)</td> <td>光明池フェリータウン老人クラブ</td> <td>介護保険について</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>6月27日(火)</td> <td>光明台南校区社会福祉協議会</td> <td>訪問看護について</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>7月19日(木)</td> <td>宮本町寿会</td> <td>かかりつけ医師について</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>7月28日(土)</td> <td>昭和団地自治会(長寿会)</td> <td>介護保険について</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>8月17日(金)</td> <td>内田町老人クラブ</td> <td>介護保険について</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>9月12日(水)</td> <td>光明台南校区シニアクラブ連合会</td> <td>病院のしくみについて</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>9月15日(土)</td> <td>和泉グリーンボリス自治会</td> <td>かかりつけ医師について</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>11月28日(水)</td> <td>光明台南校区社会福祉協議会</td> <td>介護保険について</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>1月26日(土)</td> <td>小田町老人クラブ</td> <td>訪問看護について</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>2月9日(土)</td> <td>四つ葉会(上町北老人会)</td> <td>訪問看護について</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	開催月日	対象者	テーマ	人	4月22日(日)	セントラルステージ光明池「あすなる会」	介護保険について	20	5月19日(土)	セルカ「泉樹会」	病院のしくみについて	24	5月29日(火)	漢徳会	介護保険について	16	6月9日(土)	寺田町いきいきサロン	かかりつけ医師について	30	6月16日(土)	光明池フェリータウン老人クラブ	介護保険について	24	6月27日(火)	光明台南校区社会福祉協議会	訪問看護について	68	7月19日(木)	宮本町寿会	かかりつけ医師について	21	7月28日(土)	昭和団地自治会(長寿会)	介護保険について	16	8月17日(金)	内田町老人クラブ	介護保険について	19	9月12日(水)	光明台南校区シニアクラブ連合会	病院のしくみについて	49	9月15日(土)	和泉グリーンボリス自治会	かかりつけ医師について	60	11月28日(水)	光明台南校区社会福祉協議会	介護保険について	55	1月26日(土)	小田町老人クラブ	訪問看護について	29	2月9日(土)	四つ葉会(上町北老人会)	訪問看護について	14
開催月日	対象者	テーマ			人																																																											
4月22日(日)	セントラルステージ光明池「あすなる会」	介護保険について	20																																																													
5月19日(土)	セルカ「泉樹会」	病院のしくみについて	24																																																													
5月29日(火)	漢徳会	介護保険について	16																																																													
6月9日(土)	寺田町いきいきサロン	かかりつけ医師について	30																																																													
6月16日(土)	光明池フェリータウン老人クラブ	介護保険について	24																																																													
6月27日(火)	光明台南校区社会福祉協議会	訪問看護について	68																																																													
7月19日(木)	宮本町寿会	かかりつけ医師について	21																																																													
7月28日(土)	昭和団地自治会(長寿会)	介護保険について	16																																																													
8月17日(金)	内田町老人クラブ	介護保険について	19																																																													
9月12日(水)	光明台南校区シニアクラブ連合会	病院のしくみについて	49																																																													
9月15日(土)	和泉グリーンボリス自治会	かかりつけ医師について	60																																																													
11月28日(水)	光明台南校区社会福祉協議会	介護保険について	55																																																													
1月26日(土)	小田町老人クラブ	訪問看護について	29																																																													
2月9日(土)	四つ葉会(上町北老人会)	訪問看護について	14																																																													
(事前評価) 【P】事業の内容	概ね20名以上の地域団体に対し、地元 <small>の</small> 専門職(医師・看護師・ケースワーカーなど)がお住まいの地域に出向き、在宅医療・介護のサービスや疑問について、「元気なうちに知っ得講座」を実施する。																																																															
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①地域団体へ周知を図る。 年12回を目標にセミナーを開催できるよう地域の団体に事業説明を実施する。 ②セミナー内容を講師と調整する。 各々の専門職が専門性を発揮でき、且つ「在宅医療・介護」のキーワードがずれないうような専門部会等で内容の精査や方向性の位置づけ、実施内容の報告を行う。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①地域団体へ周知を図る。 全老人クラブの校区会議に出席し、単体会長に直接事業説明を行なったことにより、医療介護の知識を習得することについての関心を得ることができた。 ②セミナー内容を講師と調整する。 医療介護コーディネーターが、ヒアリング等で住民ニーズを分析し、専門部会等で講師と意見をすり合わせるにより、より住民に関心を持ってもらえる講義内容にブラッシュアップした。																																																												
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																																																											
	和泉市地域出張型在宅医療介護セミナー開催数		回	12	H28	H29	H30	R1	R2																																																							
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳		金額(円)	内訳		金額(円)																																																						
	講師謝礼	312,000			講師謝礼	104,000																																																										
	計			312,000	計				104,000																																																							
	備考				備考																																																											

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	全老人クラブの会議に出向き、単位会長に直接事業アピールをすることにより、セミナーの開催数の申込み数が前年度の3箇所から今年度は14箇所と飛躍的に伸びた。結果445人の参加者数を得ることができた。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	全老人クラブの会議に出向き、単位会長に直接事業アピールをすることにより、目標を達成することができた。 また、住民の知りたいニーズを汲み取り、セミナー内容を講師と調整したことで、より興味深い講義プログラムを構築することができた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	○周知ができていない団体(ねんりん大学・大学院受講生、介護予防教室等)に、事業PRを行い、セミナーを実施してもらえるように働きかける。 ○医療と介護の連携推進審議会の所属する職能団体に、周知の拡大を依頼する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり												
重点施策	26 支援を必要とする人への相談支援体制の充実												
成果指標 (KPI)	2602	障がい者基幹相談支援センター及び障がい者相談支援センターの支援実人数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	1,254			中間年度の目標値(R2)	2,000		最終年度の目標値(R7)	3,000		総合戦略の目標値(R1)	2,000	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	1,561	1,657	1,265	1,274								達成状況	
達成率	6.7%		0.0%		0.0%								
備考													
担当課	障がい福祉課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 障がい者地域自立支援協議会等運営事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	○		
(事前評価) 【P】事業の目的	障がい者等の相談支援体制等を整備することで、障がい者等の地域での自立支援を推進する。				(事後評価)	障がい者地域自立支援協議会を以下のとおり実施した。 【第1回目】平成30年7月20日(金) テーマ:基幹相談支援センター、各種部会の取組みについて 【第2回目】平成30年12月14日(金) テーマ:基幹相談支援センター、各種部会の取組みについて 【第3回目】平成31年3月20日(金) テーマ:基幹相談支援センター、各種部会の取組みについて					
(事前評価) 【P】事業の内容	障がい者等の医療・保健・福祉・就労等の関係機関や関係団体が構成される協議会において、地域における障がい者等への支援体制の整備等に関する協議を行う。				【D】事業実績						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	相談支援体制の整備等を目指して全体会として障がい者地域自立支援協議会の実施のほか、テーマ別の部会や連絡会などを実施する。また、第5期障がい福祉計画における重点目標事項を推進するために新たに部会の設置を進める。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①相談支援部会(6回) 相談支援専門員のスキルアップや連携体制の構築を目指して実施した。 ②就労支援部会(10回) 障がい者の一般就労への移行や工賃向上などを目指して実施した。特にハローワークとの連携体制の強化に向けて取り組んだ。 ③地域移行部会(8回) 精神病床からの退院促進の体制整備を目的に部会を設置した。 ④地域生活支援拠点整備(10回) 地域生活支援拠点の整備を進めるため、プロジェクトチームを発足し、取り組んだ。それにより、地域生活支援拠点部会の設置に至った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	障がい者地域自立支援協議会の開催			回	3	H28	H29	H30	R1	R2	
	各種部会の開催			回	32	24	16	40			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	報酬	384,000				報酬	216,000				
	需用費	22,000				需用費	14,144				
	使用料及び賃借料	20,000				使用料及び賃借料	9,870				
	計			426,000		計				240,014	
	備考										

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	基幹相談支援センターや障がい者相談支援センターによる相談対応は前年度より減少(32件減少)しているものの、それ以上に特定相談支援事業者による計画相談支援を受給する障がい者が増加(41件増加)したことにより、前年度より増加している。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹相談支援センターを中心とした関係機関との連携強化や連絡会を実施することで、特定相談支援事業者への相談件数は増加しており、相談支援体制の整備に効果があった。 ○具体的な効果としては、研修会等を行うことで、専門員としての資質向上につながり、障がい者等が特定相談支援事業者による支援を受けやすくなった。 ○また、平成30年度に新たに地域移行・地域生活支援拠点整備の取組みを開始した。地域移行については、精神病床からの退院促進の支援体制の整備について協議を行った。地域生活支援拠点整備については、プロジェクトチームを発足し、現状の課題の把握・分析や整備の骨子案の策定を行い、部会の設置を行った。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹相談支援センターを中心とした各種相談窓口において、障がい者等が相談しやすい体制を整備することや、相談支援専門員等の資質向上を図るため、協議会や各種部会において協議を行う。 ○就労支援部会においては、就労支援機関との連携体制の構築や工賃向上に向けた協力体制の構築に取り組む。 ○地域移行部会においては、精神病床からの退院促進の効果的な支援体制の整備に向けて、支援ツールの開発や情報連携の仕組みづくりなどに取り組む。 ○地域生活支援拠点部会においては、相談機能の充実、緊急時の受入れ対応をテーマに取り組む。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり											
重点施策	26 支援を必要とする人への相談支援体制の充実											
成果指標 (KPI)	2603	就労訓練事業・就労体験の延べ利用者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	50		最終年度の目標値(R7)	100		総合戦略の目標値(R1)	40
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	3	18	11	13								達成状況
達成率		15.5%	8.2%	10.3%								
備考												
担当課	福祉総務課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 生活困窮者就労訓練・体験事業					地方創生関連交付金事業該当	-			
						和泉躍進プラン(案)該当	○			
(事前評価) 【P】事業の目的	生活困窮者のうち、長期離職などの理由により、直ちに一般就労が困難な者に対して、就労訓練事業や就労体験事業を活用することにより、一般就労のための意欲や経験などの向上を図る。				(事後評価)	【就労訓練事業利用者】延べ3人 (見学)畑の農作業及び農産物加工作業 1人 (体験)畑の農作業及び農産物加工作業 2人				
(事前評価) 【P】事業の内容	【就労訓練事業】 大阪府等の認定を受けた認定就労訓練事業者による就労に関する訓練を活用し、利用にあたっての支援を行う。 【就労体験事業】 市に登録のある就労体験事業者において職場体験・見学を行う。また、利用にあたっての支援を行う				【D】事業実績	【就労体験事業利用者】延べ10人 (見学)配送センターのピッキング作業及び老人施設作業 7人 (7人は11月15日実施のセミナーの職場見学) 配送センターのピッキング作業 2人 障がい者作業所 1人 (体験)0人				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①自立支援調整会議の開催 【会議構成員】 ・主任相談員、相談支援員、就労支援員で構成。 ・ケースにより、CSW等他職種の職員も参加する。 【取組内容】 ・ケースの抱える課題の確認・検証。 ・支援プランの策定にあたり、就労の見込みのある生活困窮者については、就労訓練事業や就労体験事業を支援内容に位置付ける。 ②就労体験事業者の登録促進 ・体験可能な職場の多様化を図るため、市への登録事業者向け就労体験事業チラシを作成し、事業者訪問・説明を行う。 ③就労準備セミナーと職場見学 ・職場で働くイメージを持つことが出来ない方に向けて、就職への第一歩を踏み出せるよう職場見学を兼ねたセミナーを実施する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①自立支援調整会議 ・自立支援調整会議を33回開催した。 ・就労から長期間離れているなど就職し続けることが困難な方について、本事業を活用することが有効な場合は、事業の活用を支援プランに位置づけた。 ②就労体験事業者の登録促進 事業所6社を訪問し、事業説明と事業登録勧奨を行ったことで1社の登録があった。これにより、合計30事業所となった。 ③職場見学と就労準備セミナー 就労準備セミナーと職場見学を平成30年11月15日に実施し、7人が参加した。 ・職場見学 配送センターのピッキング作業及び老人施設作業の2か所を見学。 ・セミナー 就労訓練事業利用経験のある方を招き、体験談をお聞きし、参加者でグループワークを行った。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	支援プランに就労訓練事業及び就労体験事業を位置づけた件数			件	8	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	40,000	委託料	13,468,000		報償費	20,000	委託料	13,466,729	
	印刷製本費	32,400	使用料	49,000		印刷製本費	32,400	使用料	35,261	
	役務費	61,000				役務費	9,650			
	計			13,650,400		計			13,564,040	
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<ul style="list-style-type: none"> ・就労体験事業における延べ利用者数は昨年より1名減少し、一方就労訓練事業における延べ利用者数は昨年より3名増加し、両事業で計2名増加したが、継続勤務が必要な訓練まで参加した方はいなかった。 ・継続勤務が困難な方が相談に来られる一方で、継続勤務が可能な方は、すぐに収入が必要なことから、就労訓練・体験へ参加するよりも、一般就労目的の求人紹介による支援を求められる傾向がある。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・就労訓練事業所及び本市の就労体験事業所については、福祉関係事業所が多い一方で、製造業などの登録が少ないことなどから、選択肢が少ないことも利用件数が少ない要因の一つであると考え、登録事業者の拡大を図るために事業所6社を訪問し、事業説明と事業登録勧奨を行い、結果1事業所について新たに登録をいただき、30事業所となった。 ・働くことのイメージを持っていただくために、就労準備セミナーや職場見学・職場体験を実施。参加者から、参加してよかった等の前向きな感想もあり、また参加者の内、実際に就労開始したものが4名いる。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は、CSW事業所に自立相談支援事業を委託することにより、ひきこもり等地域で孤立し、自身では市役所等へ相談に来られない方に対し、アウトリーチを行っている。社会的に孤立している人へ、社会参加をすすめることが期待される取り組みの一つである。 ・昨年実施した就労準備セミナーでは、参加者によるグループワークを行ったが、コミュニケーションを苦手とする方の参加が多い中、参加者全員が発言することができ、またこのような企画にはまた参加したいとの感想もあった。参加者同士がコミュニケーションできる機会の確保を継続するため、就職準備セミナーの内容を前年度を参考に検討を加え、継続することで就労へ寄与していく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり											
重点施策	27 安心して生活できる防犯体制の整備											
成果指標 (KPI)	2701	防犯カメラの延べ設置台数							指標の単位	台	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	64		中間年度の目標値(R2)	438		最終年度の目標値(R7)	438		総合戦略の目標値(R1)	300	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	127	228	234	444								達成状況
達成率		32.5%	34.4%	100.0%								
備考												
担当課	公民協働推進室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 防犯カメラ設置事業							地方創生関連交付金事業該当	-
								和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	街頭犯罪の未然防止及び子どもや女性を対象とした犯罪の抑止を図り、犯罪のない安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与することを目的とする。				(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年7月に105台、平成31年3月に105台の設置を行った。 町会、自治会が設置する防犯カメラの電気料金の一部の補助を行った。(118台) 町会、自治会が設置する防犯カメラの修繕費の一部の補助を行った。(7台) 			
(事前評価) 【P】事業の内容	平成30年7月の105台、平成31年3月の105台の防犯カメラ稼働に向けて、調達及び設置箇所の決定等を行うとともに、防犯カメラを運用する町会等に対して、下記の補助を行う。 ・電気料金の50%相当額 ・修繕費の50%(上限20,000円)								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	自治会、警察、関西電力、西日本電信電話株式会社などとも連携し、設置場所を確定する。設置が困難な箇所については、代替箇所を選定し、目標台数の設置を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	自治会、警察、関西電力、西日本電信電話株式会社などとも連携し、設置が困難な箇所についても代替箇所を選定し、設置することができた。			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値			
	防犯カメラの延べ設置台数		台	438	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	光熱水費	1,242,000	使用料	223,000		光熱水費	888,320	借上料	11,668,860
	修繕料	300,000	借上料	11,998,000		委託料	300,000	補助金	445,971
	委託料	300,000	補助金	544,000		使用料	196,847		
	計		計	14,607,000		計		計	13,499,998
備考					備考				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	①R2目標を達成	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度から防犯カメラの業者選定及び設置場所の選定等の準備を着実に進めてきたため、設置台数が増加する結果となった。 ・設置が困難な箇所についても、自治会、警察、関西電力、西日本電信電話株式会社などとも連携し、代替箇所の選定を円滑に進めることで、設置台数の増加につながった。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	①十分効果的だった	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路に210台設置することができ、子どもを狙った犯罪抑止につながった。 ・今後、既設カメラの耐用年数超過により故障台数の増加が見込まれるため、定期点検を実施するとともに、機器の更新を行っていく必要がある。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標を達成できたことから、今後は既設カメラの維持・管理を実施する。 ・耐用年数超過等による機器の更新計画を立てる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり											
重点施策	27 安心して生活できる防犯体制の整備											
成果指標 (KPI)	2702	地域見守りの年間活動日数							指標の単位	日	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	243		中間年度の目標値(R2)	243		最終年度の目標値(R7)	243		総合戦略の目標値(R1)	243	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	242	246	243	243								達成状況
達成率		100.0%	100.0%	100.0%								
備考												
担当課	公民協働推進室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 防犯ボランティア活動活性化事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	「自分たちのまちは自分たちで守る。」という防犯意識の醸成を図り、防犯ボランティア活動を活性化させることにより、犯罪の発生を未然に防止し、安全で安心して暮らせる街をつくる。				(事後評価) 【D】事業実績	○和泉市防犯協議会への委託事業を通じて、各地区の防犯委員が小学校PTA等と合同で「子ども安全見守り隊」活動に取り組み、登下校時における児童の安全確保を行った。				
(事前評価) 【P】事業の内容	市内の犯罪発生情報や特殊詐欺の手口等の情報提供を行い、和泉防犯協議会による防犯キャンペーン、子ども見守り活動等を実施して、被害に遭いやすい子ども・女性・高齢者を守る活動の実施を推進する。					○声かけ事案や公然わいせつ等の発生時に、青色防犯パトロール車で登下校の見守り活動を実施した。また、各地区の青色防犯パトロール登録車が、随時巡回パトロール活動を行った。				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①防犯教室・防犯啓発を行うとともに、子どもの見守り活動が、無理なく継続して実施できるように効果的な活動の実施方法を案内する。 ②警察と連携して犯罪発生情報や有事の対応方策を提供する。 ③地元の防犯委員と学校側が連携して、組織的な見守り活動が展開されるように各校区の防犯支部長に働きかけていく。 ④青パト合同パトロールを実施し、各青パト所有団体に向けて青パト活動を推進する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①防犯教室・防犯啓発を行うとともに、子どもの見守り活動が、無理なく継続して実施できるように効果的な活動の実施方法を案内した。 ②児童への声かけ事案、特殊詐欺と思われる不審電話等が連続して発生した際には、警察と連携して事案発生情報や有事の対応方策を提供した。 ③学校や警察からの不審者情報をもとに各校区の防犯支部長と連携し、地域の見守り活動を実施した。 ④久保惣美術館前駐車場に市内全青パトが集合し、合同パトロールを実施した。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位			当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値			
	青色防犯パトロール車登録台数		台		125	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	1,705,000				委託料	1,705,000			
	計			1,705,000		計				1,705,000
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	<p>○活動の実施方法の案内、警察と連携しての犯罪発生件数情報や有事の対応方策の提供、積極的に活動する防犯ボランティア団体と連携して市内の見守り活動を行い、目標の活動日数を達成することができた。</p> <p>○街頭犯罪発生件数についても前年と比較して減少していることから、一定の効果を挙げていると考える。</p> <p>全刑法犯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28 1,777件 ・H29 1,555件 ・H30 1,464件
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>子どもや女性を狙った悲惨な犯罪が全国的に発生するなど犯罪に関する社会的な関心が高まる中、住民同士が不審者の出没情報等を共有し、継続的に防犯活動に取り組んでいただいていることが、桃山学院大学の学生等による防犯ボランティア活動にも繋がっており、住民の防犯意識の向上を図ることができている。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	<p>○犯罪被害に遭うことのない安全で安心して暮らせるまちを確立するためには、行政と地域が一体となった防犯活動を継続的に取り組む必要がある。</p> <p>○街頭における犯罪発生件数の大幅な減少は、地域に根ざした地道な防犯ボランティア活動によるところが大きいことから、これからの防犯ボランティア活動を担う若い人材の育成と、少年の規律意識の醸成を図っていく。</p> <p>○また、引き続き警察と連携して犯罪発生状況や被害防止方策等の情報発信を実施し、市民の自主防犯意識を向上し、地域の見守り活動につなげていく。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第1節 住み慣れた地域で安心して暮らすことができる仕組みづくり												
重点施策	27 安心して生活できる防犯体制の整備												
成果指標 (KPI)	2703	防犯教室・防犯啓発の年間活動回数							指標の単位	回	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	104			中間年度の目標値(R2)	110		最終年度の目標値(R7)	116		総合戦略の目標値(R1)	110	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	95	107	107	105								達成状況	
達成率	57.1%		57.1%	47.6%									
備考													
担当課	公民協働推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 防犯啓発事業		地方創生関連交付金事業該当	-									
			和泉躍進プラン(案)該当	-									
(事前評価) 【P】事業の目的	犯罪の被害者とならないように市民の防犯意識の高揚を図る。			(事後評価) 【D】事業実績	○和泉市安全なまちづくり推進協議会をはじめとする防犯ボランティア団体、和泉警察署とも連携し、防犯キャンペーン等を105回実施した。 ・ひったくり防止等の防犯キャンペーン 92件 ・小学校等への防犯教室 13件								
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉市安全なまちづくり推進協議会への業務委託も行いながら、春の地域安全運動、秋の全国地域安全運動、ひったくり防止デー等の様々な機会を捉えて、特殊詐欺、サイバー犯罪といった最近、増加している犯罪に的を絞った各種防犯キャンペーン、防犯教室を開催する。				○市内において還付金詐欺をはじめとする「特殊詐欺」の被害が続発したことから、同被害防止のキャンペーンや啓発ビラを作成して、被害に遭いやすい高齢者を中心に積極的な注意喚起を行った。 ○大型スーパーマーケットにおける「ひったくり防止カバー」取り付けキャンペーンや通勤通学時における和泉府中駅での「防犯ブザー」等の犯罪被害防止グッズの配布を実施した。								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①和泉市安全なまちづくり推進協議会をはじめとする防犯ボランティア団体、和泉警察署と連携して、各種キャンペーン等の取組における情報共有を行い、開催回数を確保する。 ②春と秋に実施される地域安全運動期間中において集中的な防犯啓発活動を行うことができるよう、関係機関と連携して取り組む。			(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①② 和泉市安全なまちづくり推進協議会をはじめとする防犯ボランティア団体、和泉警察署とも連携して、各種キャンペーン等の取組における情報共有を行った。 主なキャンペーンの実績 ・ひったくり防止キャンペーン 12回(毎月) 大型スーパーマーケットにおいて、自転車カゴへの防止カバーの取り付け。 ・特殊詐欺被害防止キャンペーン 6回(春と秋) 金融機関等で高齢者を対象に注意喚起。 ・女性被害防止キャンペーン及び痴漢被害防止キャンペーン 3回(春と秋) 和泉府中駅、和泉中央駅で防犯ブザー等の配布。								
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値							
	和泉市安全なまちづくり推進協議会会員数		人	40	H28	H29	H30	R1	R2				
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)				
	委託料	2,939,000				委託料	2,939,000						
	計		2,939,000			計				2,939,000			
	備考					備考							

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	和泉警察署と連携し、春と秋の地域安全運動やひたくり防止デー等の機会を捉えて集中的に各種キャンペーンを展開したが、犯罪の的を絞った新たな取組等が実施できなかったため、活動回数を減らす結果となった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>○和泉警察署と連携し、過去最高の被害が発生している特殊詐欺の防止に向けたキャンペーンやビラ配り、行政無線を活用した注意喚起を8回実施し、被害の拡大防止を図った。</p> <p>○街頭犯罪発生件数についても前年と比較して減少していることから、一定の効果を挙げていると考える。</p> <p>全刑法犯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28 1,777件 ・H29 1,555件 ・H30 1,464件
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	○引き続き、大阪府警察本部、和泉警察署と連携を密にして、最新の犯罪発生情報や不審者出没情報を和泉市安全なまちづくり推進協議会をはじめとする防犯ボランティア団体等に伝達し、犯罪被害の拡大防止を図っていく。

第3章 安全・安心の促進

第2節 災害に備える仕組みづくり

28 地域における防災体制の強化

29 消防体制の強化

30 災害に強い環境づくりの推進

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第2節 災害に備える仕組みづくり											
重点施策	28 地域における防災体制の強化											
成果指標 (KPI)	2801	防災リーダーの認定者数							指標の単位	人	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	50			中間年度の目標値(R2)	185		最終年度の目標値(R7)	185		総合戦略の目標値(R1)	100
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	96	145	190	224								達成状況
達成率		55.1%	100.0%	100.0%								
備考												
担当課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 防災リーダー養成事業		地方創生関連交付金事業該当	-							
			和泉躍進プラン(案)該当	-							
(事前評価) 【P】事業の目的	防災に関する講習会や実技指導等を実施することで、個人の防災知識・技術の習得を促進し、研修修了者が中心となって各地域における防災意識の啓発・防災活動を活性化を図る。			(事後評価)	○危機管理担当による講義だけでなく、外部講師による講義、実技等を含め8回のカリキュラムを実施した。 ・平成30年度実績:34名を認定(定員40名に対し、申込者数35名) ・認定者数の合計:224名						
(事前評価) 【P】事業の内容	防災対策に関する制度及び災害時応急対策の実践に関する基礎的知識、技術を習得した防災リーダーを養成するため、研修を開催する。			【D】事業実績	○また、防災リーダー認定者に対して、フォローアップ講座を実施し、知識の向上及び再認識を行うとともに、認定者どうしが知識や取組みを共有する場を設けることができた。 ・平成30年度実績:190名のうち85名が参加						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①防災の出前講座を行い、防災意識の向上を図り、防災リーダー養成講座の受講につなげる。 ②校区長会議、女性消防クラブ、消防団に対する案内を行う。 ③防災リーダーフォローアップ研修を開催し、既存の防災リーダー認定者からの口コミにより、防災リーダー養成講座の受講につなげる。			(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①自治会、保育園、老人クラブ等に対して防災の出前講座を行い防災意識の向上を図った。 ②平成30年7月の校区長会議で案内を行い、自主防災組織を設立している町会・自治会を中心に23名の受講につながった。 ③平成30年10月に、防災リーダーフォローアップ研修を開催した。						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値						
	出前講座開催数		回	22	H28	H29	H30	R1	R2		
	出前講座参加人数		人	900	836	854	801				
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	報償費	141,000	会場借上料	70,000		報償費	60,000				
	消耗品費	247,000				消耗品費	124,362				
	印刷製本費	13,000				会場借上料	57,850				
	計			471,000		計				242,212	
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	過去5年間の認定者からの紹介や出前講座において積極的にPR活動を実施したが、定員を下回る申込者となった。認定者については平成32年度の目標値である185人を達成できている。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	近年多発している災害の影響で、年々市民の防災に対する関心が高まっていると考えられる。認定者が中心となって自主防災組織の結成にも繋がっていることや、認定者同士の交流会や訓練で知識の共有等も行われており、個人だけでなく地域の防災力の向上も図れている考えられる。一方で、参加者が募集定員を下回る結果となったことや、既存の認定者に防災リーダーとしての地域での役割を担っていただけるよう、制度の見直しを検討する必要がある。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	防災リーダーの認定者数が目標を超えていることから、新たなステップとして、風水害や地震が発生した際に自主的に地域で行動を起こしてもらえるように、既存の認定者と自主防災組織を対象とした専門機関による研修や訓練を実施し、自主防災組織の活性化に繋げていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	28 地域における防災体制の強化												
成果指標 (KPI)	2802	自主防災組織の設立数							指標の単位	組織	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	36			中間年度の目標値(R2)	83		最終年度の目標値(R7)	116		総合戦略の目標値(R1)	76	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	40	46	56	65								達成状況	
達成率	7.9%		21.1%	32.9%									
備考													
担当課	公民協働推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 自主防災組織支援事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	町会・自治会等で結成される自主防災組織の活動を推進し、地域の組織力の向上に寄与する。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度の補助実績】 ・資機材購入補助 9件 ・単独訓練補助 16件 ・追加資機材補助 5件 ・校区訓練補助 11件 計41件の補助				
(事前評価) 【P】事業の内容	自主防災組織に対して、下記の補助を行う。 ・資機材購入費(1回限り上限200,000円) ・校区の訓練等での消耗品購入費(上限50,000円) ・自主防災組織の訓練等での消耗品購入費の50%(上限20,000円) ・追加資機材購入費(4年に1回限り上限100,000円)					新規自主防災組織設立促進のため、校区長会議や出前講座、各種訓練やイベント時に自主防災組織の必要性及び補助事業について説明を行った。				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①防災の出前講座の際に、共助の必要性を説明するなど防災意識の向上を図るとともに、自主防災組織の必要性を説明し、自主防災組織の設立につなげる。 ②校区長会議に対する案内を行う。 ③自主防災組織の交流会を開催する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	○防災の出前講座の際に、共助の必要性を説明することで防災意識の向上を図るとともに、自主防災組織の必要性を説明した。 ○校区長会議で、自主防災組織の必要性について案内を行った。 ○平成30年9月の台風第21号被害を受け、中学校区単位で、町会・自治会を対象に、自主防災をテーマとしたタウンミーティングを開催した。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価) 【D】実績値				
	出前講座開催数		回	22	H28	H29	H30	R1	R2	
	出前講座参加人数		人	900	836	854	801			
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	補助金	4,600,000				補助金	2,987,873			
	会場借上料	10,000				会場借上料	11,000			
	計		4,610,000			計			2,998,873	
	備考					備考				

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	②前年度より向上	<p>校区長会議や出前講座、各種イベント時に自主防災組織の必要性や補助金についての説明をしたことで、自主防災組織への理解が深まったことが要因と考えられる。</p> <p>(自主防災組織の新規設立数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 10件 ・平成30年度 9件
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	<p>平成30年9月の台風第21号を教訓に、中学校区で町会・自治会を対象としたタウンミーティングを開催し、自助・共助の重要性について説明したことで、防災意識の向上に繋がった。自主防災組織が設立されていない地域についても、設立に向けた機運の醸成に効果があったものとする。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	<p>近年の災害を教訓に、町会・自治会を対象に小学校区単位で防災ワークショップ等を開催し、自主防災(自助・共助)の理解を深める。また、既存の防災リーダー認定者を交えた防災専門機関による実践的な訓練や研修を実施し、自主防災組織の育成・活性化を図る。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第2節 災害に備える仕組みづくり											
重点施策	28 地域における防災体制の強化											
成果指標 (KPI)	2803	支援者が避難行動要支援者台帳を活用して活動を行っている割合							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	46.0		最終年度の目標値(R7)	80.0		総合戦略の目標値(R1)	40.0
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	0.0	37.7	33.3	41.9								達成状況
達成率		47.1%	41.6%	52.4%								
備考												
担当課	福祉総務課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 避難行動要支援者支援事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	災害が発生し、または災害が発生するおそれのある場合に、自ら避難することが困難な人が、円滑かつ迅速に避難できるよう、支援体制を整備する。		(事後評価) 【D】事業実績	平成30年度要支援者は3,378名、同意者は2,028名となっており、同意台帳を地域に配布。 避難行動支援者説明会 (開催回数)7回 (開催日)平成30年7月2日(月)～23日(月) (開催場所)市内7箇所(予備日で重複) (参加人数)384名 (説明会内容)避難行動要支援者支援制度説明⇒避難体制と情報伝達の研修					
(事前評価) 【P】事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿(同意台帳)を作成し、地域へ提供する。 ・平常時からの同意台帳の活用を促進するため、地域の支援者への研修等を開催する。 ・同意台帳の登録・同意(推薦)の受付を行う。 ・同意台帳の更新・追加を行う。 								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①説明会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・同意台帳の更新及び名簿の活用事例発表会を行う。 ②研修内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・地域での名簿の活用法や取り組み事例を発表してもらい、支援者により分かりやすい研修を行う。 ③アンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施についての要望や疑問点をアンケートにより聴取し、事業運営検討のための参考とする。 		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> ①説明会の実施箇所及び実施回数 <ul style="list-style-type: none"> ・台風8号接近に伴い、7月5日、6日に予定していた説明会をそれぞれ7月23日、7月19日に順延し、市内7箇所ですべて予備日も含め7回開催した。 ②研修内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・公民協働推進室危機管理担当より避難体制と情報伝達に関する研修を実施した。 ・説明会及び研修の実施日 <ul style="list-style-type: none"> 平成30年7月2日、7月3日、7月4日、7月9日、7月10日、7月19日、7月23日の合計7回 ③アンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・説明会終了後に各支援者にアンケートを実施した。 対象者:同意台帳を配布している461人の地域の支援者 アンケート回答数274件、回答率59.4% 					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値		
	避難行動要支援者説明会等の開催回数		回	2	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	報償費	69,000	役務費	545,000		報償費	0	役務費	443,465
	消耗品費	585,000	会場借上料等	206,000		消耗品費	303,016	会場借上料等	133,102
	印刷製本費	91,000	複製利用料	206,000		印刷製本費	57,454	複製利用料	193,600
	委託料	150,000	備品購入費	48,000		委託料	149,040	備品購入費	47,520
	計		計	1,900,000		計		計	1,327,197
	備考				備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>評価指標としている「支援者が避難行動要支援者台帳を活用して活動を行っている割合」は昨年度と比較して増加しているが、アンケートにおいて、「連絡をとり、台帳の活用方法等、話し合いをしている」、「訪問等を行ってから他の支援者と話し合いをしましたか」の項目では、肯定的な意見の割合が減少している。</p> <p>制度に対する認知はあるが、台帳をどのように活用するか、支援者同士での話し合いの場をどのように持てばよいか支援者自身が戸惑っているのではないかと考える。今後、台帳の活用方法や話し合いの場を提供し、支援体制の充実を図る。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>制度の説明会を各地域に分けて7回実施したとともに、あわせて公民協働推進室危機管理担当より避難体制と情報伝達に関わる研修を実施したことで、支援体制の周知と災害対応力の向上が図られた。また、支援者を対象にアンケートを実施することで「地域内の他の支援者と連絡を取っている・取る予定」の割合は約半数だが、「連絡を取り、台帳の活用方法等話し合いをしている・話し合う予定」の割合はその半数にとどまることから、台帳活用方法の周知の必要性などの課題を把握することができた。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域に避難行動要支援者の同意台帳の提供を行った支援者を対象にアンケートを行った。その中で『本制度を推進するにあたっての課題は何だと思いますか』の問いに対し、要支援者の理解と協力が27.8%、制度の周知が26.4%、支援者同士の連携が21.8%であったことから、制度や障がいに対する理解の周知に努め、地域の支援者同士の連携がもてるよう地域と関わり、支援体制の充実に取り組んでいく。 ・そのため、協議の場を利用するなど、支援者同士が関われる協議の場の提供と、制度や障がいに対する勉強会や支援台帳の活用方法などの説明会などを実施する。 ・地域に応じた支援を実施するため、アンケート内容を見直し、地域の現状把握に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	29 消防体制の強化												
成果指標 (KPI)	2901	消防団員数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	353			中間年度の目標値(R2)	370		最終年度の目標値(R7)	370		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	362	362	355	352								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	消防団事務課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 消防団加入促進事業						地方創生関連交付金事業該当	-																										
							和泉躍進プラン(案)該当	-																										
(事前評価) 【P】事業の目的	全国的に消防団員が減少傾向にある中、消防団員の確保に取り組み、地域防災力を強化する。				(事後評価)	<条約定数> 370名 <組織数> 9個分団 37個班 <H30団員数> 352名 <団員数の推移>																												
(事前評価) 【P】事業の内容	消防の各種行事において消防団紹介コーナーの設置、消防団だよりの配布及び発行した消防団だよりをホームページに掲載することで、消防団の活動をPRし、消防団への加入を促進する。				【D】事業実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団員数</td> <td>353名</td> <td>362名</td> <td>362名</td> <td>355名</td> <td>352名</td> </tr> <tr> <td>退団者数</td> <td>▲23名</td> <td>▲32名</td> <td>▲29名</td> <td>▲24名</td> <td>▲24名</td> </tr> <tr> <td>入団者数</td> <td>32名</td> <td>32名</td> <td>22名</td> <td>21名</td> <td>23名</td> </tr> </tbody> </table>						H26	H27	H28	H29	H30	団員数	353名	362名	362名	355名	352名	退団者数	▲23名	▲32名	▲29名	▲24名	▲24名	入団者数	32名	32名	22名	21名	23名
	H26	H27	H28	H29	H30																													
団員数	353名	362名	362名	355名	352名																													
退団者数	▲23名	▲32名	▲29名	▲24名	▲24名																													
入団者数	32名	32名	22名	21名	23名																													
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①各種行事で消防団の紹介コーナーを設置 消防関連のイベントで、消防団の活動に関する紹介を行い、消防団への加入を促進する。 ②消防団だよりの配布 消防団の活動実績や消防団員の紹介等を行う「消防団だより」を配布する。 ③消防団だよりのホームページへの掲載 発行した消防だよりをホームページに掲載する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①消防団出初式において、消防団紹介コーナーを設置し、来場者の消防団に対する理解を深めることが出来た。 ・消防出初式 平成31年1月12日(土) 来場者 約600人 ②消防団だよりの配布 各町会、各関係機関に広報誌を配布し、広報活動を実施し、消防団活動内容の周知を行った。																												
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値																												
	消防団紹介コーナー設置回数			回	1	H28	H29	H30	R1	R2																								
	消防団だよりの配布数			枚	500	500	500	500																										
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																									
	印刷製本費	50,000				印刷製本費	49,680																											
	計		50,000			計		49,680																										
	備考			備考																														

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	昨年同様、消防団員の活動紹介等の広報媒体の配布等を行い団員加入促進を図ったが昨年より3名減の352名となった。 団員数は全国的にも減少傾向であり、主な理由としては、被雇用者で仕事との両立困難や年齢を理由としての退団理由であった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	広報誌やホームページ等の広報媒体を使用し、団員活動等の情報発信をしたものの、団員数減少に歯止めをかけることはできなかった。 現在の広報の方法は、団員数が充足している地域、不足している地域に関係なく、同様の広報活動を行っており、ターゲットを絞った広報活動ではなかったと考えられる。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	②一部見直し	消防団員数の不足地域に対し、入団促進ポスターや入団促進DVDを他の地域よりも多く配布するなど、重点的に広報活動を展開する。 また、消防団員の取り巻く環境整備を図るために、防火帽等の装備品を更新し、災害活動時の安全対策の強化を図る一方、消防団員の活動状況や訓練風景等をホームページで積極的に発信し、消防団の重要性をPRすることにより、消防団員の加入促進を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	29 消防体制の強化												
成果指標 (KPI)	2902	火災件数(過去5年間の平均値の件数)							指標の単位	件	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	57			中間年度の目標値(R2)	51		最終年度の目標値(R7)	46		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	56	52	48	41								達成状況	
達成率	40.0%		80.0%	100.0%									
備考													
担当課	予防課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 火災予防事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	啓発活動等を通して防火意識の向上に努め、火災予防を推進する。				(事後評価) 【D】事業実績	(火災予防運動におけるリーフレット配布枚数)12,000枚 (防災行政無線による広報)14回 (啓発活動実施回数)3回 ・11月9日 エコールいずみ 防火パレード 防火啓発活動 ・3月1日市内各4駅 駅前防火広報 ・3月1日ららぽーと 防火啓発活動 (防火指導)538件 前年比111% (立入検査)769件 前年比122%					
(事前評価) 【P】事業の内容	・火災予防運動等の機会に、効果的な防火広報を展開し、防火意識の向上を図る。 ・消防法令・火災予防条例について広く市民に周知するとともに、安全管理・危機対応のあり方を指導し、防火管理の徹底を図る。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①火災予防に係る周知啓発 ・市内各所で、火災予防に係るリーフレットを配布する。 ・防災行政無線による広報を行う。 ・大阪市消防局ヘリコプターによる広報をおこなう。 ②防火指導の実施 ・防火防災意識の向上を図る。 ③立入検査の実施 ・防火管理の徹底、設備指導の強化を図る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①火災予防運動に係る周知啓発 ・火災予防運動中、早朝時間帯に市内鉄道各駅において、リーフレットを配布した。 ・防災行政無線及び大阪市消防局ヘリコプターから、「火の用心」等の呼びかけを実施。 ・消防本部前の電光掲示板で広報を実施。 ②防火指導の実施 ・町会自治会等への防火指導の強化を図った。 ③立入検査の実施 ・消防法令違反是正の強化を図った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値					
	防火指導件数		件	300	H28	H29	H30	R1	R2		
	立入検査実施件数		件	600	679	629	769				
	火災件数		件	46	46	37	41				
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	印刷製本費	200,000				印刷製本費	132,192				
	計		200,000			計		132,192			
	備考				備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	火災件数が前年度より減少(過去5年間の平均)し、防火指導・立入検査時などの指導を継続し一定の効果が現れていると思慮するが、火災種別は、焼却行為等による火災発生や、電気製品の製品火災等が増加傾向であることから、その事も踏まえ引き続き広報し、火災予防に努める。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	効果的な広報及び防火指導・立入検査時の適切で有効な防火指導ができた事により、市民を含め、防火対象物関係者にも防火意識が向上したと思われ、消防法令違反是正対象物を対象に積極的な査察に取り組み、ゆるやかではあるが違反是正が進んでいる。 是正指導は、平成28年から実施しており、指導を行った全34件中、22件が違反是正された。 なお、是正に至っていない12件の違反对象物に対しては、今後も違反是正に向けて積極的に取り組む。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	市民が、安全安心して暮らせるまちづくりを推進するため、火災予防・防火意識の向上は不可欠であることから、今後も、継続的に防火指導や立入検査を実施するとともに、令和2年4月から始まる「消防法令違反に関する公表制度」に向け、違反是正防火対象物に対して、積極的に違反是正を促す活動を行う。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	29 消防体制の強化												
成果指標 (KPI)	2903	救命入門コースの年間受講者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	600		最終年度の目標値(R7)	1000		総合戦略の目標値(R1)		
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	127	448	728	820								達成状況	
達成率		36.8%	68.8%	79.4%									
備考													
担当課	警防課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 応急手当普及啓発事業							地方創生関連交付金事業該当	-																									
								和泉躍進プラン(案)該当	-																									
(事前評価) 【P】事業の目的	一般市民による負傷者等への応急手当が適切に実施されるよう、応急手当に関する各種講習を実施し、救命率の向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	救命入門コース 24回実施 820名受講 ※参考 各種救命講習																												
(事前評価) 【P】事業の内容	小・中学生や各種専門職従事者に対して、AEDの使用方法や心肺蘇生法、応急手当等の方法について、講習を開催する。 ・普通救命講習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ・上級救命講習 ・救命入門コース/実技救命講習 ・応急手当普及員講習Ⅰ・Ⅱ等					<table border="1"> <thead> <tr> <th>講習名</th> <th>回数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通救命講習Ⅰ</td> <td>72回</td> <td>898名</td> </tr> <tr> <td>普通救命講習Ⅱ</td> <td>1回</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>普通救命講習Ⅲ</td> <td>8回</td> <td>92名</td> </tr> <tr> <td>上級救命講習</td> <td>1回</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>実技救命講習</td> <td>1回</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>応急手当普及員講習Ⅰ</td> <td>1回</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>84回</td> <td>1,023名</td> </tr> </tbody> </table>						講習名	回数	受講者数	普通救命講習Ⅰ	72回	898名	普通救命講習Ⅱ	1回	1名	普通救命講習Ⅲ	8回	92名	上級救命講習	1回	13名	実技救命講習	1回	3名	応急手当普及員講習Ⅰ	1回	16名	計	84回
講習名	回数	受講者数																																
普通救命講習Ⅰ	72回	898名																																
普通救命講習Ⅱ	1回	1名																																
普通救命講習Ⅲ	8回	92名																																
上級救命講習	1回	13名																																
実技救命講習	1回	3名																																
応急手当普及員講習Ⅰ	1回	16名																																
計	84回	1,023名																																
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①救命入門コースの時間短縮コースの設置に向けた取組み ・小学生を対象に、授業の一環として、救命入門コース(90分)を更に短縮した45分間の講習を試験的に実施する。 ②講習受講者増加に向けた広報活動 ・広報・消防本部ホームページに、講習案内を掲載する。 ・他の講習に比べ、講習時間の短い「救命入門コース(90分)」について、周知を図る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	○制度の周知を図るため、下記の広報活動を行った。 ・市広報、消防本部ホームページへの掲載。 ・従来型の救命講習の申し込みの際に、救命入門コースの受講を勧奨。 ・各種救命講習実施時に救命入門コースを紹介。																												
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																											
	救命入門コース実施回数			回	25	H28	H29	H30	R1	R2																								
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																									
	計					計																												
	備考					備考																												

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ②前年度より向上	平成27年9月に新設されて以来、受講者数が年々増加し、広報媒体を使用した啓発及び各種救命講習実施時の案内に一定の効果が出ており、引き続き広報、案内を継続していく。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ①十分効果的だった	和泉市内の小学校に対して、授業の中で救命入門コースを小学校高学年に行い、多くの小学生が命の大切さを感じ取っていた。また、保護者にも関心を持ってもらうことで受講者の更なる確保に繋がり、従来型の講習申込み時に、短時間で受講できる入門コースを案内することで受講者の増加に繋がった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ③拡大	救急入門コースが各事業所や学校、一般市民に広がっていくよう、救命講習の指導者の養成を継続的に行っていく。(年1回実施、最大30名)また、今年度から消防本部ホームページに入門コースのeラーニングを導入し、パソコンまたは、スマートフォンで学習できるようになった。今後は和泉市LINEアカウントを使用し、SNSを活用した広報活動を実施する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	30 災害に強い環境づくりの推進												
成果指標 (KPI)	3001	民間建築物の耐震化率							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	81.8			中間年度の目標値(R2)	89.0		最終年度の目標値(R7)	95.0			総合戦略の目標値(R1)	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	83.2	83.8	84.5	85.2								達成状況	
達成率		5.1%	11.0%	16.9%									
備考	数値は推計値(統計調査で算出しているため)												
担当課	建築・開発指導室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 既存建築物耐震化推進事業							地方創生関連交付金事業該当	-			
								和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	安全・安心なまちづくりの実現に向け、耐震に対する市民の意識を高揚させるとともに、旧耐震基準で建築された民間建築物に対して補助事業を実施することにより耐震化率向上を図る。											
(事前評価) 【P】事業の内容	耐震化の必要性について周知を行い、耐震化に関する補助金の交付を行う。 (対象)昭和56年5月31日以前に工事着手した旧耐震基準の建築物(※その他要件あり) ・耐震診断…費用の90%(上限4万5千円) ・耐震設計…費用の70%(上限10万円) ・耐震改修…60万円+工事費から60万円を除いた額の3分の1(上限100万円)							(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 耐震診断補助件数 42件 耐震設計補助件数 8件 耐震改修保持件数 3件 			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①補助制度周知のため、パンフレットを配布する。 ②弥生町地区、いぶき野二丁目西地区、唐国町グリーンポリス地区において、まちまる事業(昭和56年以前に建築された木造住宅を対象に、戸別訪問により木造住宅耐震診断等補助制度を説明)を実施する。なお、昨年度実績が低迷したことから、訪問戸数を増加する。 ③防災イベント等で耐震化の必要性を周知する。 ④除却補助制度の創設について、関連制度との調整及び検討を行う。							(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①耐震関連制度の概要を案内するパンフレットを、6月の広報挟み込みにより全戸配布。 ②弥生町、いぶき野二丁目西及び唐国町グリーンポリスの各地区において、S56年以前に建築された木造住宅戸を対象として、まちまる事業を実施。(訪問戸数 320件) ③防災イベントにおける周知活動 ・三町会合同防災訓練において、起震車体験を実施。 ・総合防災訓練において、耐震模型の実演、耐震改修に関するチラシ等の設置及び個別相談スペースを設け、耐震改修の必要性や市の制度について周知活動を実施。 ④除却補助の創設検討の結果、空家対策を優先し、空家除却補助制度が創設された。			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値						
						H28	H29	H30	R1	R2		
	耐震診断補助件数			件	70	56	19	42				
	耐震設計補助件数			件	20	15	4	8				
	耐震改修補助件数			件	20	24	4	3				
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	診断補助	4,150,000				診断補助	1,890,000					
	設計補助	2,000,000				設計補助	800,000					
	改修補助	20,000,000				改修補助	2,660,000					
	計			26,150,000		計			5,350,000			
	備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>○耐震診断では、まちまる事業において前年度より実施件数(戸別訪問件数)を増加したことにより、前年度より件数は大きく増加した。</p> <p>○耐震設計・改修では、診断を受けたものの、所有者の高齢化に伴い、耐震改修工事までの実施を促すことが難しくなっている。</p> <p>○また、H30年度は大阪北部地震及び台風による被害により、予期しなかった修繕費用を要するなど費用面の問題や、事業者が災害対応で捕まらなかったといった事情のため、改修工事に至る物件が少なかったものと考えられる。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>診断42件中の20件がまちまる実施地区の申請であることから、特にまちまる事業については効果的であったと考える。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>耐震改修等については、市民個人にも費用負担が発生することから、容易に進展させることは難しいが、安全・安心な生活を実現していくため、周知活動や補助制度の整備・運用を行い、粘り強く耐震化への働きかけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの全戸配布、防災イベント参加での耐震改修の必要性の周知を引き続き行う。 ・S56年以前の旧耐震基準で建築された木造住宅等に対しては、耐震改修の費用に対して補助金交付の支援を引き続き行う。 <p>・まちまる事業については効果が大きいと引き続き実施するが、次年度から、一団の開発地以外への周知を行う予定とし、対象住宅の把握がこれまでに比べ難しくなるため、町会等及びまちまる事業者と十分に調整を取り、トラブル回避に努める。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進											
節	第2節 災害に備える仕組みづくり											
重点施策	30 災害に強い環境づくりの推進											
成果指標 (KPI)	3002	耐震管率(耐震管+耐震適合管)							指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	37.6		中間年度の目標値(R2)	42.7		最終年度の目標値(R7)	47.2		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	38.2	39.1	40.1	41.0							達成状況	
達成率		10.0%	21.1%	31.1%								
備考												
担当課	水道工務課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 水道管耐震化事業							地方創生関連交付金事業該当	-
								和泉躍進プラン(案)該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	大規模な地震が発生した場合でも、水道の供給を継続できるように地震に強い水道の構築を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度工事实績】 耐震管新規布設工事 約2.5km 耐震管布設替工事(移設工事含む) 約2.6km			
(事前評価) 【P】事業の内容	水道管の新設及び老朽管の更新時に耐震管を布設する。					【平成30年度末の水道管状況】 配水管布設総延長 約573km 耐震管(耐震適合管含む)延長 約234km 耐震管率 40.96%			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①耐震管の新規布設 新設道路へ耐震管を布設する。 安定供給に向けた、送水管の布設を行う。 ②老朽管を耐震管への布設替 老朽管更新時に耐震管への布設替を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①耐震管の新規布設 布設延長2.5km 主な工事箇所 仏並町、納花町、府中町 合計8力所 ②老朽管を耐震管への布設替 布設延長 約2.6km 主な工事箇所 青葉台三丁目、尾井町、春木川町 合計16力所			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値			
	耐震管(耐震適合管含む)布設延長		m	4,800	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	工事費	446,910,000				工事費	454,008,888		
	計		446,910,000			計		454,008,888	
	備考					備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>成果指標の目標値を達成するためには、毎年約1%程度、耐震化率の向上が必要である。平成29年度末時点の配水管延長が約569kmであることから、1%向上するためには、約5kmの耐震管布設が必要であり、今年度は安定供給に向けた送水管布設、未給水区域への水道管布設、老朽管の更新工事等により、5.1kmの布設を行い、約1%の向上を達成することができた。</p> <p>耐震管の新規布設延長(H30:2.5km、H29:1.7km) 耐震管の布設替延長(H30:2.6km、H29:2.6km)</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>安定供給に向けた送水管布設については、昨年度と比較して、布設延長を伸ばして実施することができた。</p> <p>また、道路管理者と協議を密に行い、舗装工事に合わせて管布設工事を実施したことで、水道管布設後の舗装本復旧工事費用を削減するなどコスト削減を図った。</p> <p>これらの取組みにより、約5kmの耐震管の布設目標に対し、5.1kmの布設を実施することができた。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性 ①継続	<p>今後の事業展開</p> <p>平成29年度に地震等大規模災害に対する対策の充実等を目的とした水道水の運用計画を策定した。</p> <p>本計画に沿って、漏水リスクの高い老朽化した管路や施設の更新を行うとともに、主要管路の耐震化を実施していく。</p> <p>また、今後水道事業におけるアセットマネジメントを導入し、中長期的な財政収支の見通しを立て、更新延長の平準化を行い、水道台帳整備の強化、ダウンサイジング等を含めた効率的かつ効果的な耐震化率向上を図る。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	30 災害に強い環境づくりの推進												
成果指標 (KPI)	3003	雨水管整備面積の割合								指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	48.88			中間年度の目標値(R2)	48.99			最終年度の目標値(R7)	49.06		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	48.91	48.97	48.99	49.00								達成状況	
達成率	40.0%		53.3%	60.0%									
備考													
担当課	下水道整備課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 雨水管整備事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	-					
(事前評価) 【P】事業の目的	安定した雨水排水対策により、大雨時にも浸水被害の少ない安全なまちづくりを目指す。		(事後評価) 【D】事業実績	【雨水管整備実績】 H30年度:整備面積 0.67ha					
(事前評価) 【P】事業の内容	浸水状況を的確に把握し、既存排水施設の活用を図りながら、効果的に事業を行う。 内水による浸水を防ぐため、計画雨量に基づいた雨水管の整備を、他事業(都市計画道路等)と連携を図りながら効率的に推進する。			【雨水管整備総実績】 ① H30年度末整備総面積 1,272.6ha ② 事業計画面積 2,597ha ①/②H30年度末整備率 49.00%					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 過去の降雨実績(計画雨量)に基づき設計された雨水管渠の整備を行う。 浸水状況を的確に把握し、既存排水施設の活用を図りながら効果的に事業を行う。 他事業(都市計画道路の整備等)と連携を図り、効率的な事業を行う。 【整備予定路線(都市計画道路)】 (H27~R7年度整備予定) <ul style="list-style-type: none"> 岸和田南海線 1.5ha 池上下宮線 2.5ha 		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<ul style="list-style-type: none"> 既存排水施設の活用を図りながら雨水管の整備を進めたことで、H30年度も大きな浸水被害は発生しなかった。 都市計画道路の整備にあわせて雨水管の整備を行う予定であったが、都市計画道路事業の一部が先送りになったため、予定していた都市計画道路沿いの工事も見送る結果となった。 【整備実績(都計道路)】 H30年度:整備面積 [予定] [実績] ・岸和田南海線(工事2件) 0.93ha → 0.67ha					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	雨水管整備面積		ha	2.47	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	雨水工事費	163,530,000				雨水工事費	93,107,880		
	計		163,530,000			計		93,107,880	
	備考				備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①H32目標を達成	H30年度は、岸和田南海線の整備に伴う雨水管の設置を予定していたが、事業の一部が先送りになったため、予定していた整備面積0.93haに対して、0.67haの整備に留まった。しかし、これまでの取組みによる整備面積と合わせ、中間年度の目標値を達成することができている。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	大阪府の都市計画道路の整備事業とあわせて雨水管の整備を進めている。今年度については、岸和田南海線整備事業の先送りから雨水管整備事業自体が見送られたが、前年度までの事業進捗は中間目標を達成できているため、事業全体としては効果的と評価した。今後も道路事業者と整備スケジュール等について協議を行うことで、滞りなく事業を進めるよう努めていく。
	事業の方向性	
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>公共下水道(雨水管)は浸水予防の備えとして重要な都市インフラであることから、過去の降雨実績(計画降雨量)に基づいた雨水管の整備を適切に行っていく。</p> <p>近年の気象状況の変化に伴う記録的な短時間降雨があった場合、住宅等の浸水被害が発生する恐れがあるため、被害状況を的確に把握し、対策が必要な箇所については効果的に事業を進めていく。</p> <p>都計道路事業(岸和田南海線・池上下宮線)に合わせて効率よく整備を行えるよう、道路事業者と引き続き整備スケジュール等について協議を行い、着実に雨水管の整備を実行していく。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第3章 安全・安心の促進												
節	第2節 災害に備える仕組みづくり												
重点施策	30 災害に強い環境づくりの推進												
成果指標 (KPI)	3004	防災農地の設置箇所								指標の単位	-	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	12		最終年度の目標値(R7)	21		総合戦略の目標値(R1)	10	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	0	0	0	0								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	農林課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 防災農地設置事業								地方創生関連交付金事業該当	-		
(事前評価)	大地震などの災害時において「農地」を、避難空間や仮設住宅用地、復旧用資材置き場等として利用することで、住民の安全確保及び復旧活動の円滑化を図る。				(事後評価)	【防災協力農地登録数】0件						
【P】事業の目的												
(事前評価)	防災協力農地の設置を目指す。 【防災協力農地】 ○あらかじめ、農地所有者の協力を得た、500㎡以上の一団の農地を防災空間として、登録する。 ○登録した農地には案内標識を設置し、ホームページなどで市民に周知する。 ○使用時は農地所有者に対し必要な補償を行う。				(事後評価)	【D】事業実績						
(事前評価)	防災農地設置のための要綱等を制定し、設置に向けた防災農地候補地の選定を行う。				(事後評価)	【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績 防災農地設置のための要綱案を作成した。防災農地候補地選定のための条件等を整理した。						
(事前評価)	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値					
【P】活動指標	協議を行った協力農地所有者の数				人	2	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	計					0	計				0	
備考					備考							

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	③変化なし	制度の確立に向け、大阪府に連絡調整を依頼し、府内で先行して開設している市の取り組み状況について情報収集を行い、今後の方針を踏まえた要綱案の整備まで行ったが、防災協力農地の設置までには至らなかった。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	③あまり効果的でなかった	防災協力農地の登録にあたって、他市事例の情報収集など、設置手法の調査・研究は実施したものの、要綱等の整備まで行えなかったため、農地選定や所有者への説明ができず、防災協力農地の設置にはいたらなかった。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	制度設計について完了したため、要綱を早期に制定し、協力いただける農家の公募等を行い、防災協力農地を設置する。

第4章 支えあい・協働の促進

第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり

31 コミュニティの活性化と担い手の育成

32 地域で地域課題を解決する支えあいの仕組みづくり

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり												
重点施策	31 コミュニティの活性化と担い手の育成												
成果指標 (KPI)	3101	市民ラウンドテーブルにおける延べ参加人数							指標の単位	人	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	210		最終年度の目標値(R7)	240		総合戦略の目標値(R1)	200	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	61	69	87	110								達成状況	
達成率	4.5%		14.5%		27.4%								
備考													
担当課	公民協働推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 市民ラウンドテーブル実施事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	参加者の地域や暮らし、様々な活動の紹介など気軽な話し合いを通じ、参加者同士のつながりづくりや、新しい活動への参加機会をつくることを目的とする。				(事後評価) 【D】事業実績	市民ラウンドテーブルを以下のように開催した。					
(事前評価) 【P】事業の内容	参加者を限定せず、話し合いのテーマを自由に設定し、参加者同士が気軽に話し合う場を設ける。					【コーディネーター】 近畿大学総合社会学部 教授 久隆浩 氏 【アイ・あいロビー】 開催回数 11回、延べ参加人数 110人					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①実施手法の変更 参加者が参加しやすいように、場所及び日時を固定して継続的に実施する。 ②市民活動団体への広報 和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」を通じて、メール配信を実施する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①実施手法の変更 参加者が参加しやすいように、以下のとおり変更した。 ・実施日時を偶数月は第2火曜日の午後1次30分から、奇数月は第2水曜日の午後6時30分からとした。 ・実施場所については、昨年度は4ヶ所で開催していたが、和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」に固定し、市民活動に携わる人の参加者の増加を図った。 ・実施回数については、11回とした。(前年比+1回) ②市民活動団体への広報 アイ・あいロビー登録団体及び個人へ対し、アイ・あいロビーを通じて案内(メール配信)を行い、周知を行った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	市民ラウンドテーブル開催回数			回	12	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	委託料	13,959,000				委託料	13,959,000				
	計		13,959,000			計		13,959,000			
	備考	和泉ボランティア・市民活動センター施設管理費含む				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	市民ラウンドテーブル開催回数については、5月から開始したため、11回の開催にとどまった。市民ラウンドテーブルについては、地域の現状や課題について、市民が気軽な雰囲気です話合える場をつくり、市民相互によるまちづくりの推進を図り、市民主体で実施することが望ましいとの考えから、今年度より、ボランティア、NPO法人等の市民活動団体の支援の役割を担っているアイ・あいロビーに委託した。アイ・あいロビー登録団体及び個人に対し、アイ・あいロビーを通じて案内メールを配信し、参加の呼びかけを積極的に行った。また、参加しやすい環境づくりとして、実施日時及び実施場所を固定し、参加人数を増加させることができた。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	実施日時及び実施場所の固定に加えて、開催回数の増加に取り組み、より広く市民が参加できる機会を設けることで、参加者数の増加につなげることができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	次年度は、4月から開始(全12回)し、参加者数の増加を図る。引き続き、アイ・あいロビー登録団体及び個人に対し、アイ・あいロビーを通じて案内メールを配信し、参加の呼びかけを積極的に行っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり												
重点施策	31 コミュニティの活性化と担い手の育成												
成果指標 (KPI)	3102	ちよいづ投票率							指標の単位	%	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	12.3			中間年度の目標値(R2)	16.7		最終年度の目標値(R7)	20		総合戦略の目標値(R1)	16	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	14.3	13.6	14.3	14.7								達成状況	
達成率		0.0%	0.0%	7.0%									
備考													
担当課	公民協働推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ちよいづ事業(和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業)							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	市民活動に対する理解や関心を深めるとともに、市民活動団体の活性化やその活動の促進を図り、市民相互の協働によるまちづくりを実現する。				(事後評価) 【D】事業実績	【申請団体数】 37団体 【交付申請額】 12,067,959円 【交付決定団体数】 37団体 【交付決定額】 10,651,748円 【投票者数】 22,553人(前年度+2.9%)					
(事前評価) 【P】事業の内容	18歳以上の市民が、あらかじめ申請のあった団体の中から支援したい団体を選び、一定の支援金額を当該団体に補助金として交付する。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①申請団体との協働による周知活動を行う。 ②制度改善の研究を行う。 ③制度の広報を実施する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①ちよいづフェスティバルを実施し、申請団体と協働による周知活動を行った。 【日時】平成31年2月4日 【場所】エコール・いずみ アムゼ広場 【内容】申請団体によるステージ発表やワークショップ、投票所の設置など ②ちよいづ制度の実績分析(団体数推移、届出状況等)をし、投票制度の評価を行った。 ③制度の広報を実施した。 ・2月広報いずみと同時にチラシを全戸配布した。 ・平成31年1月校区会長会議で各町会等へチラシの回覧依頼を行った。 ・アイあいロビー主催の和泉ボランティア市民活動フェスタにて周知を行った。 ・公共施設へのチラシ設置に加え、市内商業施設4か所へのチラシの設置を行った。 ・ちよいづ制度の紙芝居を作成し、動画配信を行った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
	届出者数			人	23,000	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	印刷製本費	2,551,000				印刷製本費	2,134,338				
	役務費	533,000				役務費	510,252				
	委託料	735,000				委託料	730,000				
	計			3,819,000		計				3,374,590	
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	申請団体と協働によるちよいずフェスティバルの実施や公共施設へのチラシ設置に加え、市内商業施設4か所へのチラシの設置を行う等の周知活動が、投票率の上昇に繋がった。 ・届出対象者 平成29年度：152,871人 平成30年度：153,583人 ・届出者数 平成29年度：21,899人 平成30年度：22,553人
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	和泉中央のアムゼモールで、周知活動として「ちよいずフェスティバル」を申請団体との協働により実施し、投票ブースを設けたことにより、投票者数や投票率を増加させることができた。また、本イベントにより、市民活動に対する理解や関心を深めるとともに、市民活動団体の活性化やその活動の促進に繋がった。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	今後も申請団体との協働によるより効果的な周知方法の検討を行う。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり												
重点施策	31 コミュニティの活性化と担い手の育成												
成果指標 (KPI)	3103	ボランティア年間需給調整数							指標の単位	件	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	206			中間年度の目標値(R2)	260		最終年度の目標値(R7)	300		総合戦略の目標値(R1)	250	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	180	138	188	223								達成状況	
達成率		0.0%	6.7%	35.8%									
備考													
担当課	公民協働推進室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 ボランティア活動支援事業							地方創生関連交付金事業該当	-			
								和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	ボランティアをはじめとする、あらゆる市民活動を総合的にサポートし、住民同士の相互扶助を推進するとともに、コミュニティの活性化と担い手の育成を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	依頼件数 275件 調整件数 223件 (内訳) ・個人からの依頼 4件(3件) ・施設、団体からの依頼 243件(192件) ・行政、学校からの依頼 28件(28件) ()内は調整件数						
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」において、ボランティア団体等の登録を行い、市民等から要望を受け派遣を行う。											
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①市民ラウンドテーブルの実施 和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」で実施し、施設の周知を図る。 ②活動団体への研修会 各種研修会を実施する。 ③団体同士の交流 団体同士の交流を実施する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①市民ラウンドテーブルの実施 おしゃべりカフェを11回(昼6回、夜5回)開催し、延べ110人が参加した。 ②活動団体への研修会 ボランティア市民活動入門講座(38名参加)、ボランティア市民活動ステップアップ講座(53名参加)を実施した。 ③団体同士の交流 団体同士の交流の場である「ボランティア・市民活動交流サロン」を2回開催し、延べ173人が参加した。						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	登録団体数			団体	154	H28	H29	H30	R1	R2		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	委託料	13,959,000				委託料	13,959,000					
	計			13,959,000		計					13,959,000	
	備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	依頼件数(調整件数)が昨年度の221件(188件)から275件(223件)と大きく増加した。特に、介護施設の入所者に対する支援やデイサービスセンターでのレクリエーション関係のボランティア依頼が増加した。また、台風21号被害に対するボランティアを平成30年9月6日から21日の間募集したところ、54件(34件)の依頼があった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	専門職員を配置したことで、災害に対するボランティア活動に対する相談や支援にきめ細やかに応じることができるようになり、安心してボランティアができる環境を整えることができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	ボランティア募集情報のほか、「アイ・あいロビー」のイベントや活動、登録団体の活動などについて、メールマガジン・SNSを活用するなど様々な情報発信を行うことで、ボランティアや市民活動を身近に感じてもらい、年間受給調整数の増加を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進											
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり											
重点施策	32 地域で地域課題を解決する支えあいの仕組みづくり											
成果指標 (KPI)	3201	和泉市地域福祉総合相談員 (CSW) の地域連携活動数							指標の単位	件	総合戦略該当	-
	参考値 (H26)	136			中間年度の目標値 (R2)	175		最終年度の目標値 (R7)	200		総合戦略の目標値 (R1)	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	208	156	176	253								達成状況
達成率		100.0%	100.0%	0.0%								
備考												
担当課	福祉総務課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 和泉市地域福祉総合相談員 (CSW) 配置促進事業		地方創生関連交付金事業該当	-
			和泉躍進プラン(案) 該当	○
(事前評価) 【P】事業の目的	住民に身近な生活圏域に総合的な福祉の専門職である地域福祉総合相談員 (CSW) を配置し、地域福祉の向上と自立生活支援のための基盤づくりを行い、地域の健康福祉セーフティネット (いきいきネット) の構築と、子どもから高齢者まで対象にとらわれない総合的な地域ケアシステムの実現を図ることを目的とする。		(事後評価) 【D】事業実績	以下のとおり計253件の地域連携活動を実施した。 ①地域の福祉力向上へのサポート 地域福祉活動を行っている住民 (民生委員、校区社会福祉協議会ボランティア、自治会等) を対象に住民懇談会を実施し、地域の福祉力向上をサポートした。 【住民懇談会の開催】 24件 サロン等の開催を支援し、地域の福祉力向上をサポートした。 【住民活動のコーディネート】 137件 地域住民を対象とした認知症講座等を開催し、地域の福祉力向上をサポートした。 【地域住民等を対象とする研修会の開催】 58件 ②複合的なニーズをワンストップで受け止め課題解決を図る。 家族介護者、障がいのある子とその保護者等の組織化を支援し、支援を要する本人だけでなく、家族全体の課題解決にあたった。 【要介護者等の組織化支援】 21件 桃山学院大学と協働し推進している社会的居場所プロジェクトでひきこもり支援を実施し、既存の制度やサービスでは充足できない新たなサービスの研究開発に取り組んだ。 【研究・開発した新たなサービス】 13件
(事前評価) 【P】事業の内容	市内8か所にいきいきネット相談支援センターを設置し、地域福祉総合相談員 (CSW) を配置し、以下の事業を行う。 ①地域の福祉力向上へのサポート 地域住民の個別相談、安否確認、虐待の予防・見守り・発見及びサービスへのつなぎ機能を強化し、地域のボランティアや事業所、関係機関等との連携を強化するため、講座や研修会を開催する。 ②複合的なニーズをワンストップで受け止め課題解決を図る。 支援を要する本人及び家族全体の課題を整理し、本来の関係機関へつなげたり、既存の制度では充足しきれない「制度の狭間にあるニーズ」を把握し、専門機関や地域住民、各種団体等とのチームアプローチを通じた新たなサービス・システムの提案や開発に取り組む。			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①「協議の場」の開催校区の拡大および地域福祉総合相談員 (CSW) の「協議の場」への参画・住民と地域支援者等による地域課題の解決に向けた話し合の場 (協議の場) を増やすとともに、地域福祉総合相談員 (CSW) の「協議の場」への参画により、いきいきネット相談支援センターの『福祉の総合相談窓口』としての機能を強化する。 ②いきいきネット相談支援センターの認知度向上・相談支援センターや地域福祉総合相談員 (CSW) の認知度向上のため、制度案内のチラシを配布する。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①今年度は全21校区において「協議の場」の設置が完了した。いきいきネット相談支援センターの『福祉の総合窓口』としての周知拡大により地域連携活動が253件と増加した。 地域福祉総合相談員 (CSW) が、地域住民を対象とした研修会を58件開催し地域の福祉力向上に貢献した。 ②いきいきネット相談支援センターの認知度の向上のため、適宜ホームページの修正を行った。
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称	単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値 H28 H29 H30 R1 R2
	協議の場で検討された課題を解決するための活動実施校区数	校区	21	10 12 9
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	26,800,000		
	計	26,800,000		
	備考			
	(事後評価) 【D】決算			
	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	委託料	26,800,000		
	計	26,800,000		
	備考			

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	平成30年度は、全21校区で協議の場が設置完了した。これにより、地域住民を対象とした講座や勉強会が増加し、地域福祉力向上につながった。ホームページ修正やチラシの配布によりいきいきネット相談支援センターの『福祉の総合相談窓口』の周知が拡大したため、地域連携活動の増加に繋がった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	協議の場が全21校区で設置完了したことにより、各校区で定期的に福祉や地域の課題について話し合う体制と、それを解決するための具体的な実践活動につながった。また、今年度、地域連携活動が253件と増加したのは、前年度と比べいきいきネット相談支援センターの『福祉の総合窓口』としての周知が拡大しているためと考える。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	地域福祉総合相談員(CSW)が継続して協議の場に参加することで、地域課題の把握や解決を推進するとともに、地域福祉総合相談員(CSW)の活動を広く、周知することで、地域連携活動の増加、充実を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり												
重点施策	32 地域で地域課題を解決する支えあいの仕組みづくり												
成果指標 (KPI)	3202	和泉市認知症高齢者等SOSおかえりネットワーク見守り登録者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	500			中間年度の目標値(R2)	1,000		最終年度の目標値(R7)	1,250		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	652	742	883	946								達成状況	
達成率		15.1%	38.6%	49.2%									
備考													
担当課	高齢介護室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 認知症高齢者等SOSおかえりネットワーク見守り事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	○	
(事前評価) 【P】事業の目的	認知症高齢者等の方が事前登録しておくことで、万が一が行方不明となった時にメール配信システムを活用し、できるだけ多くの方に情報提供を呼びかけ、地域ぐるみで早期発見につなげる。				(事後評価)	【平成30年度末の登録者数】 SOS登録者数:385名 見守り登録者数:946名				
(事前評価) 【P】事業の内容	登録者の携帯電話やスマートフォンに、行方不明になった方の特徴や場所など24時間365日メール配信する。生活の中で気になる人を見かけた場合は警察に連絡を入れてもらう。				【D】事業実績	【平成30年度のメール配信実績】 メール配信数:10件(平成29年度:6件) うち発見件数:10件(未発見:0件)				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①認知症サポーター養成講座で、「SOSおかえりネットワーク見守り事業」を紹介し、見守りの登録を促す。 ②認知症フォーラム等研修や講座で、本事業の周知を行う。 ③新規の登録があった時は家族等、ケアマネジャーに見守り登録の説明を行う。				(事後評価)	①認知症サポーター養成講座において本事業を紹介し、見守りの必要な人の登録を促した。 ・養成講座開催実績:48回、参加者2180名 ②認知症フォーラムにおいて本事業の周知を行った。 ・フォーラム開催実績:1回、参加者170名 ・地域での声かけ見守り訓練は、新規開催1校区、過去開催実績あり1校区、合計2校区での開催であった。 ③新規登録 63件				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	認知症サポーター養成講座開催回数			回	50	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
				0		計			0	
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	登録者数の増加割合は昨年度よりよかったものの、見守り登録者数の増加割合は昨年度より悪かった。地域からの認知症サポーター養成講座の依頼が多かったが、声かけ見守り訓練の実施校区が少なかったため、見守り登録者数の増加割合が少なかったと思われる。登録者数については、市民の認知症に関する関心も高まってきており、認知症の方を地域で見守る目の醸成も進んできていることが要因と考える。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	これまで町会や各種事業所において「サポーター養成講座」が開催できるよう積極的に取り組み、また、講座において見守り活動の重要性を継続的に説明してきた結果、地域の問題としての意識が醸成されてきている。結果、平成26年度から平成30年度までに「声かけ見守り訓練」開催実績のある校区は、平成30年度新規開催の1校区を加え、実数で9校区となった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	引き続き認知症サポーター養成講座や認知症市民フォーラム、地域包括支援センターが地域で行う様々なイベント等で周知をはかる。 また、認知症サポーター養成講座の周知として、小中学校の校長会や地域包括支援センターが地域で行う様々なイベント等で周知をはかる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進													
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり													
重点施策	32 地域で地域課題を解決する支えあいの仕組みづくり													
成果指標 (KPI)	3203	全国学力・学習状況調査 生徒質問紙「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的回答の割合						指標の単位	%	総合戦略該当		-		
	参考値 (H26)	小学校	56.4	中間年度の目標値 (R2)			小学校	57.5	最終年度の目標値 (R7)	小学校	60.0	総合戦略の目標値 (R1)	小学校	-
		中学校	31.6				中学校	35.0		中学校	37.0		中学校	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	小	54.7	51.7	47.3	46.9							達成状況		
中	35.7	33.7	27.9	34.9										
達成率	小	0.0%	0.0%	0.0%										
	中	0.0%	0.0%	0.0%										
備考														
担当課	指導室													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 いずみあいさつ運動事業						地方創生関連交付金事業該当	-			
							和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	PTA等と連携したあいさつ運動を実施することで、児童生徒・保護者・地域のつながりを深め、顔の見える関係をつくり、良好な地域社会の構築を図るとともに、元気で豊かな心を育む。				(事後評価) 【D】事業実績	○毎月11日を「いずみあいさつ運動」の日として、市内全学校と地域が連携して、あいさつ運動を実施した。					
(事前評価) 【P】事業の内容	毎月11日を1(ひと)と1(ひと)とのつながりを大事にする11日(いいひ)とし、特にこの日を市民みんなで意識して「あいさつ運動」を広めるため、各小中学校で、地域と連携したあいさつ運動を実施する。					○各学校における取組みでは、児童会・生徒会役員を中心としたあいさつ運動を、市内全30校で実施した。 ○生徒児童の登校時の見守り活動におけるあいさつ運動では、スクールガードリーダーや地域の老人会、学校PTAの方等、年間延べ47,720人が参加した。					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①地域の見守り隊の方などに、あいさつ運動ロゴ入りの「横断旗」を作成し、配付する。 ②毎月11日の「いずみあいさつ運動の日」には、青色パトロールカーで市内中学校区を巡回する。 ③各校におけるあいさつ運動の実施状況を集約し、取組みの改善にいかす。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①地域の見守り隊に、あいさつ運動キャンペーン用の横断旗を配付した。 ②毎月11日のいずみあいさつ運動の日には、複数台の青色パトロールカーで市内を巡回し、いずみあいさつ運動の周知に努めた。 ③各学校におけるあいさつ運動の活動状況を把握するため、取組状況調査を実施し、地域教育協議会連絡会等において情報共有を図るとともに、取組みの活性化を図った。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称					単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値			
	「PTA等と連携したあいさつ運動」実施校数の割合				%	100	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	消耗品	150,000				消耗品	126,360				
	計			150,000		計			126,360		
	備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	あいさつ運動や見守り隊の活動が年間を通して継続されていることで、児童生徒・保護者・地域がつながりを深めており、子どもたちの地域行事への参加率向上につながっている。 しかし、平成27年度と比較すると、肯定的回答の割合は下回っており、小学生については、減少傾向にある。これは、近年のライフスタイルの多様化に伴う放課後や休日の過ごし方の変化により、地域行事への参加が難しくなっているものと分析している。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	あいさつ運動キャンペーンの横断旗を地域の見守り隊に配付し、登下校の見守り活動時に活用してもらうことで、あいさつ運動・見守り隊の活動を広く周知することができた。また、青色パトロールカーで市内を巡回することにより、市民に「いずみあいさつ運動の日」を広く周知することができた。その結果、人と人とのつながりが生まれ、子どもたちの地域への意識を高めることができています。今後もあいさつ運動を継続することにより、地域のつながりを深め、子どもたちの地域行事への参加率向上につなげていく。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	学校・家庭・地域において、子どもたち自らの意思で、あいさつができるようになる事を目標に、今後も学校・家庭・地域が連携したあいさつ運動・見守り活動等を実施し、子どもたちの地域行事等への参加率向上に取り組む。 また、子どもたちが、地域行事の企画運営等に参画できる機会を設けるなど、子どもたちが主体的に地域行事に関わることができる環境づくりに取り組む。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第1節 みんなで取り組む連携・協働のまちづくり												
重点施策	32 地域で地域課題を解決する支えあいの仕組みづくり												
成果指標 (KPI)	3204	青少年を非行から守る月間事業に参加している市民の数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	100			中間年度の目標値(R2)	250		最終年度の目標値(R7)	350		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	303	200	200	200								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	生涯学習課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 青少年を非行から守る市民大会開催事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	地域の働きかけによる青少年の非行防止を推進するため、非行防止に関する講演会を開催し、市民意識の高揚を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	【第38回青少年を非行から守る市民大会の開催実績】 日時:平成30年7月14日(土) 場所:和泉市コミュニティセンター3階多目的ホール 参加者:200人 講演:矯正教育の現場からの提言 講師:大阪少年鑑別所次長 伊藤 達也 氏					
(事前評価) 【P】事業の内容	毎年7月5日近くの土曜日又は日曜日に「青少年を非行から守る市民大会」を開催する。 【大会概要】 ・青少年の非行防止に向けた大会宣言の提唱 ・青少年の非行防止に向けた内容の基調講演等										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①市民大会の講演について、学校教育部とも連携し情報交換することで、今求められている講演内容を設定する。 ②保護者のみならず、市内学校園の教職員にも情報提供を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①保護者や学校関係者、青少年健全育成団体関係者などへ大会の開催周知を行い、参加を得たことで、非行防止の巡回を行っている世代の方々と、子ども達を取り巻く現状と問題を共有することができた。 ②「非行から守る育て方」について、矯正教育の第一線で活躍する講師による公演を企画し、事業効果を高めると共に、参加者にとって魅力ある企画づくりに努めた。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	大会の開催周知を行っている学校園数			校	30	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	報償費	40,000				報償費	20,000				
	需用費	194,000				需用費	148,500				
	使用料	58,000				使用料	49,270				
	計	292,000				計	217,770				
備考					備考						

(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	③変化なし	昨年度からテーマを変え、少年鑑別所職員による矯正教育というテーマで講演を行い、ほぼ同数の参加者を得ることができたが、参加者数を増加させるまでには至らなかった。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	テーマを変えて講演を開催することで、保護者や学校関係者、青少年健全育成団体関係者などへ大会の開催周知を行い、一定の参加者数を確保することができた。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	青少年を非行から守る市民大会に興味を持ってもらえる講演のテーマを検討するとともに、青少年健全育成団体、学校関係者、各種団体に協力をいただき、広報活動に取り組む。

第4章 支えあい・協働の促進

第2節 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり

33 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第2節 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり												
重点施策	33 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり												
成果指標 (KPI)	3301	人権啓発講座等への年間参加者数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	1,719			中間年度の目標値(R2)	1,900		最終年度の目標値(R7)	2,200		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	1,648	1,724	1,314	1,912								達成状況	
達成率		13.8%	0.0%	47.8%									
備考													
担当課	人権・男女参画室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 人権啓発講座事業		地方創生関連交付金事業該当	-								
			和泉躍進プラン(案)該当	-								
(事前評価)	一人ひとりがかげがえのない平等な存在として尊重され、多様性を認め合う差別のない社会や、誰もが個性や能力を發揮できる社会の実現に向け、NPOや民間団体等と連携し、人権意識の高揚を図る。			(事後評価)	①「いのち・愛・人権」市民の集い 平成30年12月1日(土) 「明るく、楽しく、あきらめない～才能の見つけ方、伸ばし方～」 講師：辻井いつ子氏 定員300人 参加者 210名							
(事前評価)	和泉市人権啓発推進協議会や和泉市人権協会等の民間団体等と連携・協働し、人権に関する講演会や映画上映会、校区別に人権研修会等を行う。			(事後評価)	②人権啓発映画上映会 平成31年2月3日(日) 映画:「キセキの葉書」 午前・午後2回上映 各定員300人 (午前)参加者139人 (午後)参加者121人 合計260人							
(事前評価)	和泉市人権啓発推進協議会や和泉市人権協会等の民間団体等と連携・協働し、人権に関する講演会や映画上映会、校区別に人権研修会等を行う。			(事後評価)	③校区人権研修会 平成30年6月～平成31年3月 小学校区単位での地域に根ざした人権研修会 21校区 参加者合計1,442人							
(事前評価)	①広報活動 ・広報、HP、庁内放送、いずみメール、地域の新聞を通じた広報活動を実施する。また、市内の各種団体の会議などでちらしの配布や説明を行う。 ②企画内容の充実 ・市民の関心のあるテーマや内容について、情報収集を行い、ひとりでも多くの市民に参加してもらえるように企画する。 ③人権相談会の設置 ・会場ロビーに人権擁護委員による人権相談窓口を設置する。			(事後評価)	①広報活動 ・市民の集いと映画上映会については、広報、HP、庁内放送だけでなく地域の新聞やSNSを通じて広報した。(泉北コミュニティ、いずみメール) また他のイベントや講座でちらしを配ってもらったり、関係団体に電話で案内をした。 ・校区研修会については、市広報へ掲載した。また、町会連合会会議で広報し、町会でちらしを回覧してもらった。 ②企画内容の充実 ・市民の集いについては、子育て世代にターゲットを絞り積極的に参加してもらえるような企画にした。 ・校区人権研修については、地域役員や関係団体との協議により、地域の実情に応じた課題や関心の高いものを情報収集し、協働ですすめた。(高齢化社会の中でのお年寄りの人権や子ども虐待の問題など) ・映画上映会については、新しい作品かつ障がい者の人権をテーマに知名度のある作品を選定した。 ③人権相談会の設置 当初は人権相談窓口の設置を予定していたが、効果的な開催場所や時期などを精査した結果、設置を見送った。							
(事前評価)	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値							
【P】活動指標	市民の集い講演会の定員に対する参加者の割合		%	65	H28	H29	H30	R1	R2			
	人権啓発映画上映会の定員に対する参加者の割合		%	60	66	40	43					
	校区研修の目標人数に対する参加者の割合		%	100	121	90	159					
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	報償費	818,000	委託料	378,000		報償費	636,000	委託料	248,400			
	食糧費	5,000	使用料	112,000		食糧費	2,000	使用料	90,560			
	印刷費	164,000	補助金	1,596,000		印刷費	76,800	補助金	1,488,000			
	計			3,073,000		計			2,541,760			
備考					備考							

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	<p>①市民の集い参加者 210名 子育て世代にターゲットを絞り、市PTA総会でちらしを配布するなど広報活動を行った。</p> <p>②校区人権研修会参加者 1,442名 地域役員や関係団体との協議により、地域の実情に応じた課題や関心の高いものを情報収集したが、各校区での動員が少ないところがあった。しかし、8校区の地域の合同研修会で知名度のある蓮池薫氏の講演を行い、多数の参加者を動員することができたことが指標達成の要因になった。(8校区研修会参加者 700名)</p> <p>③映画上映会 260名 年明けすぐではなく2月に日程変更したため、昨年より参加者が若干増えた。</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>・市民の集い、人権啓発映画上映会、校区人権研修会のすべてにおいて、前年より参加者が増加し、テーマ設定や広報活動に効果があった。</p> <p>・校区人権研修会については、前年度と比較し大幅に参加者が増加したが、校区ごとの参加者数に差があった点が課題である。</p>
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>・地域の役員との協議・連携を密にして地域ごとのニーズに応じた研修を企画し、ちらしの作成や回覧など広報のノウハウを伝えていく。</p> <p>・いずみメールなどのSNSを利用したPRをして若い世代の参加を促進していく。</p> <p>・アンケートで評価のよかった研修を他の校区にも情報提供し、企画の選択肢を増やす</p> <p>・国や府、関係団体と連携を深め、情報収集し、さまざまな課題について幅広い研修や啓発ができるようしていく。 ・他部署、地域の役員との連携を密にして事業の開催日は他の行事と重ならないようにする。また、長期休日の前後は避けるようにする</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第2節 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり												
重点施策	33 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり												
成果指標 (KPI)	3302	多言語版和泉市生活ガイド							指標の単位	言語	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	0			中間年度の目標値(R2)	3		最終年度の目標値(R7)	3		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	-	3	3	3								達成状況	
達成率	100.0%		100.0%	100.0%									
備考													
担当課	人権・男女参画室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 多言語版生活ガイド整備事業							地方創生関連交付金事業該当	-				
								和泉躍進プラン(案)該当	-				
(事前評価) 【P】事業の目的	行政・生活情報を多言語で発信し、外国人市民の地域社会における暮らしを支える。				(事後評価) 【D】事業実績	【作成部数】各言語200部 【配架場所】7箇所 市民室、シティプラザ出張所、市役所情報コーナー、南部リージョンセンター、北部リージョンセンター、日本語サロン、桃山学院大学 【作成言語】英語、中国語、韓国・朝鮮語 【内容】行政手続き、行政サービス、相談窓口等 ・ガイドブックの配布のほか、市ホームページにも掲載した。							
(事前評価) 【P】事業の内容	外国人市民が地域社会の中で生活する上で必要なルールや慣習、行政手続きなどについてまとめた生活ガイドブックを英語、韓国語・朝鮮語、中国語の3言語で整備する。					(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	・国際交流ニュースへの掲載や市民室窓口でのチラシ配架により、ガイドブックを市ホームページに掲載していることの周知を図るほか、希望者には冊子を配布した。						
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	・国際交流ニュースへの掲載や市民室窓口でのチラシ配架により、ガイドブックを市ホームページに掲載していることの周知を図るほか、希望者には冊子を配布する。				(事後評価) 【D】実績値		・国際交流ニュースへの掲載や市民室窓口でのチラシ配架により、ガイドブックを市ホームページに掲載していることの周知を図った。 ・希望者には冊子を配布した。						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値						
	配布箇所			箇所	4	H28	H29	H30	R1	R2			
						-	-	7					
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)				
	計			0		計				0			
	備考												

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成 3言語のガイドブックを市内7箇所に配布し、市ホームページにも載せた。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった 外国人市民が生活に必要な情報を得やすくなり、地域で安心して暮らすための環境を整える一助となった。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	⑤廃止 ・引き続き市広報や国際交流協会ニュース、チラシなどでガイドブックについて周知し、特に外国人市民がアクセスしやすいホームページへの掲載についても周知に努める。 ・本事業については、目標の3言語を達成できたことから、廃止する。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進											
節	第2節 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり											
重点施策	33 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり											
成果指標 (KPI)	3303	「女と男のフォーラム」「男女共同参画週間事業」の定員に対する参加率(平均)							指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	72.4			中間年度の目標値(R2)	100.0		最終年度の目標値(R7)	100.0		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	106.0	101.0	78.0	67.5								達成状況
達成率		100.0%	0.0%	0.0%								
備考												
担当課	人権・男女参画室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 男女共同参画社会づくりフォーラム事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	性別にかかわらず、一人ひとりの人権が尊重され、あらゆる分野ですべての人が個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現をめざし、男女共同参画に関するフォーラムを開催する。				(事後評価) 【D】事業実績	①男女共同参画週間事業(ミニフォーラム) 開催日:平成30年6月16日(土) 内容:映画「オケ老人!」上映 定員:600人 参加人数:464人 参加率:77%(平成29年度 57%) ②女と男のフォーラム 開催日:平成30年10月13日(土) 講師:はるな愛さん 内容:一人ひとりの個性があつて、ええねんで 定員:660人 参加人数:380人 参加率:58%(平成29年度 99%)				
(事前評価) 【P】事業の内容	①男女共同参画社会基本法に対する理解を深めるため国が主催する「男女共同参画週間」の事業として「ミニフォーラム」を実施する。 内容:映画「オケ老人!」上映 定員:600人 対象:市民 ②本市における男女共同参画社会づくりのため、「女と男のフォーラム(講演会)」を実施する。 定員:660人 対象:大阪府民									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①内容が分かりやすく、興味を持ってもらいやすい企画の検討(他市事例を調査・問い合わせを行い、成果が高かった事例を企画(案)の発掘を行う。) ②広報活動 広報紙、モアいずみ通信、HP、庁内メール、SNSを通じた広報活動及び、市内公共機関へのちらしの配架を実施する。 ③アンケート結果をふまえた企画内容の充実 満足度や要望等を測り、今後の内容検討の参考とする。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①男女共同参画センター登録団体と協働で、他市での実施内容も検討材料にし、性別や年齢に関係なく努力し、一人ひとりの個性と能力を発揮する姿をとって参加者がエンパワメントされる内容として実施した。 ②広報紙及びモアいずみ通信への掲載、HP、庁内メール等SNSを通じた広報活動を行った。また、市内公共機関(北部リージョン、南部リージョン、シティプラザ図書館、和泉コミュニティセンター、人権文化センターなど)へのちらしの配架や他の市内のイベント等へのちらしの挟み込みを実施した。 ③アンケート回収率 「ミニフォーラム」回収率79% 「女と男のフォーラム」回収率74% おおむね満足度は良好であった。令和元年度企画内容検討時の参考とする。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	アンケート回収率			%	90	H28	H29	H30	R1	R2
	ポスターの設置箇所数			ヶ所	10	-	-	5		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	419,000				報償費	458,850			
	使用料及び賃借料	383,000				使用料及び賃借料	260,390			
	計			802,000		計			719,240	
	備考				備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	男女共同参画週間(ミニフォーラム)については、前年度より参加率が上昇した。平成29年度の映画の分類が、洋画のドキュメンタリーに対し、平成30年度は邦画のコメディであり、多くの人が親しみやすい音楽をテーマとした内容の映画で、参加者が増加したと考えられる。 女と男のフォーラムについては、大阪府との共催事業により著名な講師を招いたが、参加率は減少した。市民の方にはまだまだ浸透していない内容であったため、参加率が減少したと考える。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	③あまり効果的でなかった	フォーラムについて、「多様性を認め、自分らしく輝く生き方」など男女共同参画社会の実現の観点から、大阪府との協議のうえ「はるな愛:一人ひとりの個性があって、ええねんで」を選定した。女と男のフォーラムにおいては、適正な作品であったと考えるが、参加者数が減少した結果を踏まえると、市民の方には浸透していないテーマであったと思われる。 今後についても、男女共同参画の視点を取り入れつつ参加者を確保できる作品選びや広報の方法など工夫し成果指標の向上に取り組む必要がある。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	引き続き、アンケート結果を踏まえながら、令和元年度に向けて、市民にとって役立つ、魅力的な内容を企画していく。 また、周知方法として、わかりやすく興味を引くチラシの作成、広報での表現方法を工夫する。 更に、「いずみメール」や「和泉市公式LINE」などSNSを活用し、広報の強化を図る。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第4章 支えあい・協働の促進												
節	第2節 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり												
重点施策	33 多様性を認め合う人権尊重のまちづくり												
成果指標 (KPI)	3304	和泉市審議会等への女性委員の参画率							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	34.8			中間年度の目標値(R2)	35.0		最終年度の目標値(R7)	40.0		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	32.8	32.1	29.5	29.8								達成状況	
達成率	0.0%		0.0%	0.0%									
備考													
担当課	人権・男女参画室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 女性委員参画推進事業							地方創生関連交付金事業該当	-			
								和泉躍進プラン(案)該当	-			
(事前評価) 【P】事業の目的	男女共同参画社会の実現に向けて、あらゆる分野における政策・方針決定について、女性の視点を反映することを目的に、市の審議会等における女性委員参画の向上を図る。				(事後評価) 【D】事業実績	平成30年度(平成30年4月1日現在) ・審議会等への女性委員の参画率 29.8% 54機関 委員560人(うち女性委員167人) ・事前協議件数37件						
(事前評価) 【P】事業の内容	各部署で所管する審議会等の委員を選考しようとする場合は、総務部長あてに審議会等委員の選考事前協議書の提出を受け、女性委員比率40%以上をめざし、事前協議を行う。											
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①女性委員の登用についての方策を示し、庁内周知を行う。 ②事前協議の強化 ③包括連携協定を締結する大学への審議会等の委員委嘱手続きの強化				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①女性委員の登用についての庁内周知 平成30年4月に全庁に向け、女性委員の登用について通知を行った。(通知回数1回) ②事前協議の強化 和泉市審議会等への女性委員登用促進要綱について、事前協議を6月前に行うよう期限を設け、一部改正を行うことにより、事前協議の強化を図った。 ③政策企画室と連携し、包括連携協定を締結する大学への審議会等の委員委嘱手続きにおける「連携・交流申込書」に女性委員の登用について追記を行い、女性委員の登用促進を行った。						
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値					
	事前協議実施率			%	100	H28	H29	H30	R1	R2		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)			
	計			0		計			0			
	備考					備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>前年度より向上したものの、分野(人事、環境、まちづくり、福祉、健康等)によっては、女性委員の人材が少なく、女性委員の確保が難しい現状である。</p> <p>【審議会等の委員の状況(4月1日時点)】 平成29年度 49機関 委員535人(うち女性委員158人) 平成30年度 54機関 委員560人(うち女性委員167人)</p> <p>【機関の増減数】 ・1機関減少(40%未満1機関) ・6機関増加(40%未満3機関、40%以上3機関)</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>職員への女性参画の必要性についての周知や目標達成に向け各部署と事前協議を実施したが、40%を達成することができなかった。和泉市審議会等への女性委員登用促進要綱の改正や包括連携協定を締結する大学への審議会等の委員委嘱における女性委員の登用促進の取組みにより、平成29年度実績を上回ることができた。</p>
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>(各部署への働きかけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前協議を6月前に行うよう期限を設け、特に女性委員の登用率40%を達成できない機関において、要因を事前協議の中で見極め、解消策を検討し、各部署と連携を図りながら適切なフォローアップを行う。 ・参画率が低い機関を抽出し、設置している関係部署に対しヒアリングを行う。その際には、各関係機関に対し、推薦依頼を行う際、女性委員登用の促進について働きかけを行い、格段の協力を要請してもらうよう依頼する。また、条例、規則、要綱等で定める委員構成については、男女があらゆる分野に参加・参画する新たな仕組みづくりが必要という観点に立って、女性委員が選出できるよう見直しを依頼する。 ・引き続き、庁内に向けて、女性の参画の必要性についての意識向上に努めるとともに、登用率向上に向けた方策を研究し、全部署に向け発信する。

第5章 都市経営の促進

第1節 都市経営の促進

34 既存ストックの適正管理の促進

35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進												
節	第1節 都市経営の促進												
重点施策	34 既存ストックの適正管理の促進												
成果指標 (KPI)	3401	道路橋の延べ修繕補修箇所数							指標の単位	箇所	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	23			中間年度の目標値(R2)	36		最終年度の目標値(R7)	46		総合戦略の目標値(R1)	34	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	25	27	30	31								達成状況	
達成率	9.5%		23.8%	28.6%									
備考													
担当課	土木維持管理室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 道路橋長寿命化修繕事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	今後、老朽化する道路橋の増加に対応し、道路橋の長寿命化・修繕・架け替えにかかる費用の縮減を図りつつ、和泉市道路網の安全性・信頼性を確保する必要がある。				(事後評価) 【D】事業実績	【補修工事】 いぶき野南大橋補修工事(平成31年3月竣工)				
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉市道路橋長寿命化修繕計画に基づき、道路橋79箇所の補修等に取り組む。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	緊急交通路に架かる道路橋等は耐震化を含めた修繕補修を行い、一般道路に架かる道路橋等は修繕補修を行う。平成30年度は、国の交付金を活用し、いぶき野南大橋の工事発注を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	いぶき野南大橋補修工事 工事概要:伸縮装置取替え工、橋面防水・舗装補修工				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値				
	当該年度の修繕補修箇所数		箇所	1	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	工事費	90,000,000				工事費	41,806,800			
	計		90,000,000			計		41,806,800		
	備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	今年度は、和泉市道路橋長寿命化修繕計画に基づき、国の交付金を活用して1箇所(いぶき野南大橋)の工事を発注し、計画通り、年度内に竣工することができた。 このことにより、成果指標である「道路橋の延べ修繕補修箇所数」を1箇所増加させることができた。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	工事発注した道路橋については、修繕・架け替えにかかる費用の縮減を図りつつ、道路橋に応じた工法で長寿命化による安全性を確保することができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	国の交付金を活用しながら、計画的に整備を進める。 また、発注箇所は緊急交通路に架かる道路橋、及びその他道路橋の優先順位を勘案して工事発注を行っていく。 なお、令和元年度は八王子橋補修工事を発注予定である。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進												
節	第1節 都市経営の促進												
重点施策	34 既存ストックの適正管理の促進												
成果指標 (KPI)	3402	道路の延べ舗装修繕補修箇所数							指標の単位	箇所	総合戦略該当	○	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	10		最終年度の目標値(R7)	20		総合戦略の目標値(R1)	8	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	0	2	6	10								達成状況	
達成率	10.0%		30.0%		50.0%								
備考													
担当課	土木維持管理室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 道路舗装修繕事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価) 【P】事業の目的	道路舗装の劣化は年々進行していることから、その路面状態により、事故などの発生に直結する。このことから、舗装管理のトータルコストを縮減し維持管理を効率的に行う。				(事後評価) 【D】事業実績	【道路舗装工事路線】 ・和泉中央線(平成31年2月竣工) ・光明池春木線(平成30年12月竣工) ・唐国久井線【あゆみ野工区】(平成30年12月竣工) ・唐国久井線【テクノステージ工区】(平成31年3月竣工)					
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉市道路舗装修繕計画に基づき、緊急交通路24路線の舗装の補修等に取り組む。										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	緊急交通路である和泉市道24路線について、舗装補修工事を行う。 平成30年度は、公共施設等適正管理推進事業債を活用し、和泉中央線、光明池春木線、唐国久井線(2区間)の工事発注を行う。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	公共施設等適正管理推進事業債活用工事 ・和泉中央線道路舗装工事 工事概要:表層打換え工(切削オーバーレイ) 約2,100㎡ ・光明池春木線道路舗装工事 工事概要:表層打換え工(切削オーバーレイ) 約2,372㎡ ・唐国久井線道路舗装工事【あゆみ野工区】 工事概要:表層打換え工(切削オーバーレイ) 約4,200㎡ ・唐国久井線道路舗装工事【テクノステージ工区】 工事概要:表層打換え工(切削オーバーレイ) 約4,500㎡					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位			当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	当該年度の舗装修繕補修箇所数		箇所		4	H28	H29	H30	R1	R2	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
	工事費	70,000,000				工事費	66,840,120				
	計		70,000,000			計		66,840,120			
	備考				備考						

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	①R2目標を達成	和泉市道路舗装修繕計画に基づき、公共施設等適正管理推進事業債を活用して、4箇所の工事を発注し、年度内に竣工することができた。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	工事発注した道路舗装については、費用を縮減しつつ、道路の状況に応じた舗装管理の工法で工事を実施するとともに、公共施設等適正管理推進事業債を活用して効率的に工事を実施することができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<ul style="list-style-type: none"> ○国の交付金または公共施設等適正管理推進事業債を活用しながら整備を推進する。 ○和泉市道の緊急交通路については、優先度の高い順に「2箇所(区間)／年あたり」の工事発注を行っていく。 ○令和元年度は、光明池春木線道路舗装工事と唐国久井線道路舗装工事【あゆみ野工区】を発注予定である。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進											
節	第1節 都市経営の促進											
重点施策	34 既存ストックの適正管理の促進											
成果指標 (KPI)	3403	未利用の普通財産(土地)における、未利用状態の解消割合							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	現状値(H26)	-			中間年度の目標値(H32)	50.0		最終年度の目標値(H37)	70.0		総合戦略の目標値(H31)	50.0
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	-8	5	25	10								達成状況
達成率		16.7%	42.3%	23.1%								
備考												
担当課	総務管財室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 未利用地解消事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	○					
(事前評価) 【P】事業の目的	普通財産の行政財産としての活用及び貸付、処分を行うことで、未利用の財産を適切に使用・運用し、円滑な行政運営を推進する。		(事後評価) 【D】事業実績	○普通財産の処分(未利用地解消場所・面積) ・旧道路財産(室堂町):573.77㎡ 他 計16件 1,614.91㎡					
(事前評価) 【P】事業の内容	普通財産について、行政財産としての活用を図り、活用できないものについては、公募又は、相手方からの申請に基づき、売買契約、貸付契約を締結する。		(事後評価) 【D】事業実績	○普通財産の新規貸付 平成30年度の新規貸付はなし。					
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①未利用地の解消のため、未利用の普通財産を入札等で積極的に処分する。 ②処分できない普通財産を貸付等できるよう調査研究する。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	○平成30年度の普通財産処分実績 1,614.91㎡ 29,123,240円 過去から処分困難だった旧道路財産(室堂町)について、関係者と協議を重ね、一般競争入札により売却することができた。 ○貸付等の手法について、調査研究を実施した。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
	普通財産の入札実施件数		件	2	H28	H29	H30	H31	H32
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	財産評価審査委員会委員報酬	256,000				財産評価審査委員会委員報酬	176,000		
	計		256,000			計		176,000	
	備考					備考			

成果指標の達成状況		成果指標の達成状況の要因分析																												
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	④前年度より減少	<p>OKPI(未利用の普通財産における、未利用状態の解消割合(平成26年度比))は、次の算式で表される。 $KPI = 1 - \text{平成30年度普通財産未利用地} \div \text{平成26年度普通財産未利用地}$ ※未利用地は、普通財産面積から、貸付している普通財産の面積を控除したもの。 ※普通財産の推移については、行政財産を移管されてから処分までの間は、一時的に増加することがある。</p> <p>【普通財産の面積(m²)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>対前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①普通財産</td> <td>32542.12</td> <td>34695.50</td> <td>31161.67</td> <td>25991.94</td> <td>29789.87</td> <td>3797.93</td> </tr> <tr> <td>②貸付財産</td> <td>5928.73</td> <td>5928.73</td> <td>5928.73</td> <td>5928.73</td> <td>5928.73</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>③未利用普通財産</td> <td>26613.39</td> <td>28766.77</td> <td>25232.94</td> <td>20063.21</td> <td>23861.14</td> <td>3797.93</td> </tr> </tbody> </table>		H26	H27	H28	H29	H30	対前年度	①普通財産	32542.12	34695.50	31161.67	25991.94	29789.87	3797.93	②貸付財産	5928.73	5928.73	5928.73	5928.73	5928.73	0.00	③未利用普通財産	26613.39	28766.77	25232.94	20063.21	23861.14	3797.93
	H26	H27	H28	H29	H30	対前年度																								
①普通財産	32542.12	34695.50	31161.67	25991.94	29789.87	3797.93																								
②貸付財産	5928.73	5928.73	5928.73	5928.73	5928.73	0.00																								
③未利用普通財産	26613.39	28766.77	25232.94	20063.21	23861.14	3797.93																								
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>○普通財産として一般競争入札等により売却ができており、適切な財産処分ができた。 ・平成30年度一般競争入札案件 旧道路財産(室堂町):573.77m² 落札</p>																												
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>○引き続き、未利用財産(普通財産)の処分を積極的に推進していく。 ・単独利用が可能な物件については、関係課と協議のうえ、一般競争入札にて処分を実施する。 ・単独利用が困難な物件については、隣接土地所有者と協議を実施し、買受要望があれば、処分を実施していく。 ○資産マネジメント担当と連携しながら、普通財産の新規貸付を検討していく。</p>																												
	事業の方向性	今後の事業展開																												

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進											
節	第1節 都市経営の促進											
重点施策	34 既存ストックの適正管理の促進											
成果指標 (KPI)	3404	老朽化木造住宅及び耐震基準を満たさない市営住宅の建替による改修率							指標の単位	%	総合戦略該当	○
	参考値(H26)	59.7			中間年度の目標値(R2)	65.2		最終年度の目標値(R7)	100.0		総合戦略の目標値(R1)	65.2
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	59.7	59.7	59.7	65.2								達成状況
達成率		0.0%	0.0%	13.6%								
備考												
担当課	建築住宅課											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 市営住宅改修事業							地方創生関連交付金事業該当	-		
								和泉躍進プラン(案)該当	-		
(事前評価)	住宅に困窮する低額所得の人に低廉な家賃で賃貸する市営住宅について、入居者が安全に、かつ安心して生活できる住環境を確保するための整備を行う。				(事後評価)						
(事前評価)	○老朽化木造住宅及び耐震基準を満たさない市営住宅の建替整備を進める。 ・平成31年度までに、唐国住宅建替事業として、市内6箇所に点在する老朽化した市営住宅(133戸※)を唐国住宅敷地に集約する建替整備(95戸)を行う。 ※集約する住宅133戸の内訳 横山住宅(5戸)、松尾寺住宅(9戸)、春木住宅(10戸)、池上住宅(20戸)、唐国住宅(68戸)、伯太第二住宅(21戸)					(事後評価)	○平成28年12月から建替工事に着工し、平成31年3月に1期工事(RC造10階95戸)が完了して、市営和泉中央住宅が竣工した。 ○横山、松尾寺、春木、池上、唐国、伯太第二住宅の入居者が4月から順次入居する予定である。				
(事前評価)	○唐国住宅の建替えにおいて、住宅棟工事(第一期工事)を完了する。 (スケジュール) 平成30年10月に躯体工事完了。 平成31年2月に住宅棟工事を完了。 ○唐国住宅の建替えに係る地元への説明会を実施する。					(事後評価)	○計画どおり平成30年度中に住宅棟工事(第一期工事)が完了した。 ○建替えに係る地元説明会を平成30年6月と9月に行い、移転先の部屋決めや提出書類などの説明を行った。				
(事前評価)	指標の名称				単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値				
(P)活動指標	老朽化木造住宅及び耐震基準を満たさない市営住宅の建替整備戸数(唐国住宅建替事業)				戸	133	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
【P】予算	委託料	35,377,000				委託料	19,195,880				
	工事費	1,586,000,000				工事費	1,382,824,080				
	負担金・補償費	48,046,000				負担金・補償費	45,166,280				
	計		1,669,423,000			計		1,447,186,240			
備考					備考						

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	平成31年3月に市営和泉中央住宅95戸が竣工したため、改修率が向上した。 ・耐震に課題のない住宅1,415戸／市営住宅管理戸数2,171戸≒65.2%
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	市営和泉中央住宅を計画通り、竣工することができた。 また、地元説明会の開催により、後の入居者の移転をスムーズに進めることができる。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	平成31年3月に市営和泉中央住宅が竣工し、集約建替対象となっていた住宅の入居者が順次入居予定となっている。また、市営和泉中央住宅(第2期)工事については、令和元年7月から令和2年7月にかけて、集会所や駐車場など附帯施設の整備をおこなっていく予定である。その他市営住宅の今後の整備方針については、和泉市営住宅長寿命化計画に基づき、入居者の安全安心を確保するため、耐震性に課題のある住宅の解消を優先し建替整備を進めていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進												
節	第1節 都市経営の促進												
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営												
成果指標 (KPI)	3501	経常収支比率							指標の単位	%	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	98.9			中間年度の目標値(R2)	96.0		最終年度の目標値(R7)	95.0		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	95.3	96.6	97.2	96.8								達成状況	
達成率		0.0%	0.0%	0.0%									
備考													
担当課	財政課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 経常的経費抑制事業		地方創生関連交付金事業該当	-																		
			和泉躍進プラン(案)該当	○																		
(事前評価) 【P】事業の目的	将来にわたって健全な財政運営を維持するため、事業の選択と集中を図りながら経常的経費の抑制や市税をはじめとする自主財源の確保、市が保有する資産の有効活用に努める。		(事後評価) 【D】事業実績	【平成30年度決算の状況】 (千円)																		
(事前評価) 【P】事業の内容	和泉躍進プラン(案)に掲げる財政健全化への取り組み項目を着実に実施することにより、経常的経費の抑制に努める。			<table border="1"> <tr><th></th><th>平成30年度</th><th>平成29年度</th></tr> <tr><td>歳入(A)</td><td>63,309,668</td><td>64,202,882</td></tr> <tr><td>歳出(B)</td><td>62,964,647</td><td>64,007,837</td></tr> <tr><td>収支(C) (A-B)</td><td>345,021</td><td>195,045</td></tr> <tr><td>翌年度へ繰越すべき財源(D)</td><td>254,945</td><td>66,778</td></tr> <tr><td>実質収支(E) (C-D)</td><td>90,076</td><td>128,267</td></tr> </table>			平成30年度	平成29年度	歳入(A)	63,309,668	64,202,882	歳出(B)	62,964,647	64,007,837	収支(C) (A-B)	345,021	195,045	翌年度へ繰越すべき財源(D)	254,945	66,778	実質収支(E) (C-D)	90,076
	平成30年度	平成29年度																				
歳入(A)	63,309,668	64,202,882																				
歳出(B)	62,964,647	64,007,837																				
収支(C) (A-B)	345,021	195,045																				
翌年度へ繰越すべき財源(D)	254,945	66,778																				
実質収支(E) (C-D)	90,076	128,267																				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○職員厚生会補助金の見直し ○使用料の見直し ○合併処理浄化槽維持管理費補助金の廃止 ○再資源化事業推進奨励金の見直し ○特別会計繰出金の見直し 		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	<table border="1"> <tr><th></th><th>平成30年度</th><th>平成29年度</th></tr> <tr><td>歳入経常一般財源(F)</td><td>35,519,846</td><td>35,383,242</td></tr> <tr><td>歳出経常経費充当一般財源(G)</td><td>34,375,021</td><td>34,383,297</td></tr> <tr><td>経常収支比率(H) (G/F)</td><td>0.968</td><td>0.972</td></tr> </table> <p>※(F)には、臨時財政対策債を含む。</p> <p>Fのうち 市税:21,802,527千円(+141,187千円) 地方交付税:6,640,477千円(+27,213千円) Gのうち 人件費:8,699,701千円(+265,775千円) 扶助費:6,051,496千円(▲111,695千円)</p>			平成30年度	平成29年度	歳入経常一般財源(F)	35,519,846	35,383,242	歳出経常経費充当一般財源(G)	34,375,021	34,383,297	経常収支比率(H) (G/F)	0.968	0.972					
	平成30年度	平成29年度																				
歳入経常一般財源(F)	35,519,846	35,383,242																				
歳出経常経費充当一般財源(G)	34,375,021	34,383,297																				
経常収支比率(H) (G/F)	0.968	0.972																				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																	
	和泉躍進プラン(案)に掲げる取組項目数		個	5	H28: 4, H29: 0, H30: 4, R1: , R2:																	
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算																	
					内訳: , 金額(円): , 内訳: , 金額(円):																	
	計			0	計: , 0																	
	備考				備考:																	

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>【歳入】 減少要因として、固定資産税(▲約0.6億円)などの項目があったものの、増加要因として、個人市民税(+約1.1億円)、普通交付税(+約0.3億円)などの項目があったことにより、経常一般財源は、対前年度で約1.2億円(※)増加した。 ※臨時財政対策債を含めると、約1.4億円の増加。</p> <p>【歳出】 減少要因として、扶助費(▲約1.1億円)や物件費(▲約1.1億円)、補助費(▲約0.7億円)などの項目があったものの、増加要因として、人件費(+約2.7億円)などの項目があったことにより、経常一般財源は、対前年度とほぼ同額となった。</p> <p>上記のことから、経常一般財源の比較では歳入が歳出を上回る増額となり、経常収支比率が前年度より0.4ポイント改善した。</p>
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	事業の評価	評価理由
	②効果的だった	和泉躍進プラン(案)に掲げる健全化取組項目について、平成30年度の取組項目5項目のうち、4項目が概ね計画どおり達成でき、残りの1項目についても令和元年度から実施予定となっているため、「効果的だった」と評価した。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性	今後の事業展開
	①継続	和泉躍進プラン(案)に掲げる健全化取組項目について、計画期間である令和元年度までには概ね計画どおり達成見込みとなっている。 今後策定する和泉躍進プラン(案)の後継計画においても、新たな健全化取組項目に取り組み、引き続き経常的経費の抑制に努める。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進													
節	第1節 都市経営の促進													
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営													
成果指標 (KPI)	3502	市税の徴収率							指標の単位	%	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)		95.77		中間年度の目標値(R2)		97.62		最終年度の目標値(R7)		97.64		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	96.44	97.10	97.54	97.90									達成状況	
達成率		55.0%	91.7%	100.0%										
備考														
担当課	税務室													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 納付推進事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	市税収入を確保し、負担の公平性を確保するため、市税の納期内納付を推進する。				(事後評価) 【D】事業実績	【現年度の徴収実績(平成30年度)】 ・徴収率 : 99.42%(対前年度+0.13%) ・収納額 : 23,493,005,887円(対前年度+164,061,287円) ・調定額 : 23,629,638,235円(対前年度+134,709,630円)				
(事前評価) 【P】事業の内容	納付環境の整備及び周知により、市税の納付漏れを防ぐ。 ・納付漏れが発生しづらい口座振替への切替を促進する。 ・納税者の利便性が高いコンビニ納付・クレジットカード納付を周知する。					【事業実績】 ・広報紙、ホームページにより、口座振替への切替とコンビニ納付を周知した。 ・固定資産税に係る新築家屋調査時に、口座振替及びクレジットカード納付案内を配布した。 配布件数:787件				
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①当初納税通知書に口座振替・クレジットカード納付のチラシを同封し、利用者に勧奨する。 ②特別徴収未実施事業者へ文書、架電、訪問等により特別徴収への切り替えを勧奨する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	① ・口座振替未加入者に対して口座振替の案内を送付した。 対象税目: 固定資産税、市・府民税、軽自動車税 送付件数: 96,508件 ・クレジットカード納付の開始について案内を送付し、周知した。 対象税目: 固定資産税、市・府民税、軽自動車税 送付件数: 129,333件 ② ・一斉指定された特別徴収事業者のうち未納事業所に対し、督促状送付前に特別徴収制度について周知文書を送付した。				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値			
	口座振替収納率			%	33.0	H28	H29	H30	R1	R2
	コンビニ収納率			%	8.7	8.4	8.6	8.1		
	特別徴収実施率			%	84.0	80.7	82.1	88.3		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	印刷製本費	378,000				印刷製本費	82,174			
	役務費	3,026,000				役務費	2,431,052			
	委託料	3,003,000				委託料	2,995,111			
	計			6,407,000		計			5,508,337	
備考										

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	市税全体の徴収率については前年度実績を0.36%上回る97.90%となり、長期的な上昇傾向となっている。この要因としては、各自治体においても全般的に徴収率は向上しており、社会的背景によるものが影響している部分もあると思われるが、現年度においては口座振替による収納率の向上や特別徴収への転換により納期内納付が徹底されたことにより、徴収率の向上へと繋がっているものと考えられる。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	①十分効果的だった	口座振替収納率については平成28年度32.0%、平成29年度32.9%、平成30年度33.7%と年々増加し、コンビニ収納率については平成28年度8.4%、平成29年度8.6と増加傾向であったが、平成30年度は普通徴収から特別徴収への移行による影響により収納率が減少し、前年度マイナス0.5%で、8.1%となった。クレジットカード納付については収納率が、現年度収入に対し0.86%であるが、納税者の利便性に寄与したものと考えられる。 また、特別徴収実施率については平成28年度80.7%、平成29年度82.1%、平成30年度88.3%、と年々転換が進んでいる。このように、コンビニ収納額が減少するものの、確実に徴収できる特別徴収へ移行することは、結果として全体的に徴収率の向上に繋がっているものと考えられ、十分効果的である。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	適正な市税納付が期待できる口座振替とコンビニ納付に加え、利便性の高いクレジットカードによる納付を促進するための周知啓発については、今後も継続して実施していく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進													
節	第1節 都市経営の促進													
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営													
成果指標 (KPI)	3502	市税の徴収率							指標の単位	%	総合戦略該当	-		
	参考値(H26)		95.77		中間年度の目標値(R2)		97.62		最終年度の目標値(R7)		97.64		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	96.44	97.10	97.54	97.90								達成状況		
達成率		55.0%	91.7%	100.0%										
備考														
担当課	滞納債権整理回収課													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 納税催告事業							地方創生関連交付金事業該当	
								和泉躍進プラン(案)該当	
(事前評価) 【P】事業の目的	市税収入を確保し、負担の公平性を確保するため、納期限までに完納しない納税者に納付催告、滞納処分を実施する。				(事後評価) 【D】事業実績	【過年度の徴収実績(平成30年度)】 ・徴収率 : 33.60%(対前年度-1.32%) ・収納額 : 187,429,449円(対前年度-42,672,010円) ・調定額 : 557,864,747円(対前年度-101,094,489円)			
(事前評価) 【P】事業の内容	催告書等による通知により、滞納者の自主納付を促すとともに、財産処分による徴収を進める。 ・滞納額3万円以上の滞納者の財産調査を金融機関や生命保険会社に依頼する。 ・調査情報等を基に差押を前提とした納付交渉を進め、差押及び換価を行う。					【事業実績】 ・滞納者に対して財産調査を実施した。(件数:3,554件) ・催告書や差押予告通知書を送付し、納付相談や滞納処分を進めた。 ・差押、換価、執行停止処理を行った。(差押件数:1,005件)(差押件数の内訳) 不動産:268件、動産:0件、債権:737件 ・市税現年(平成30年度)分の徴収率99.42%とし、過年への滞納繰越を抑えた。			
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①和泉市市税等納付案内センターを活用し、早期納付を奨励し、滞納事案を減少させる。 ②大阪府域地方税徴収機構と連携し、徴収を強化する。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①納付案内センター架電数 17,795件 ②大阪府域地方税徴収機構への引継数 137件 引継分の徴収率 65.10%(前年度65.07%)			
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値		(事後評価)【D】実績値			
	滞納市税の徴収率		%	32.5	H28	H29	H30	R1	R2
	納付案内センターの着信率		%	23.0	24.37	28.30	26.28		
	徴収機構引継分徴収率		%	46.0	46.29	65.07	65.10		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	役務費	6,341,000				役務費	2,946,375		
	負担金	871,000				負担金	397,700		
	委託料	8,437,000				委託料	8,436,960		
	計			15,649,000		計			11,781,035
備考					備考				

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	市税全体の徴収率については、前年度実績を0.36%上回る97.90%となり、上昇傾向にある。この要因としては、過年度の徴収率は前年度より下落したが、現年度の徴収率については過去最高の99.42%であった。現年度の徴収について、早期着手により滞納繰越分の増加を防ぐことで市税全体の徴収率上昇に繋がった。
	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	和泉市市税等納付案内センターと大阪府域地方税徴収機構と継続して連携を図った。納付案内センターは主に納付期限を経過した現年分を中心に、電話催促及び文書催告を実施した。地方税徴収機構は、過年度分として137件の引継ぎを実施し、前年とほぼ同水準の65.10%の徴収率を達成した。全体として差押件数は1,005件で前年度より30件増加した。前年の徴収率を上回る実績となり、効果的に事業を進めることができた。
	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	市の根幹である市税収入を確保するとともに、納税者の公正・公平性を保ち円滑な納付へと繋げるため、納付催告、納付相談、滞納処分を継続して実施する。今後も、和泉市市税等納付案内センターを活用した納付催告や財産調査、差押による滞納処分に取り組むとともに、大阪府域地方税徴収機構に移管する案件についてより効果的な選定を検討する。また、次年度に向けて新たな差押について検討・実施し、市税徴収の強化を図っていく。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進												
節	第1節 都市経営の促進												
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営												
成果指標 (KPI)	3503	新たに資格を取得した延べ職員数							指標の単位	人	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	60		最終年度の目標値(R7)	100		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	0	20	33	38								達成状況	
達成率		20.0%	33.0%	38.0%									
備考													
担当課	人事課												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 職員資格取得推進事業					地方創生関連交付金事業該当	-																			
						和泉躍進プラン(案)該当	○																			
(事前評価) 【P】事業の目的	和泉躍進プラン(案)の組織・人づくりへの取組の一環である「学び」の促進として、職員の自己啓発を促進し、人材育成を図ることを目的として、職員の自発的な資格取得を報償する。					(事後評価) 【D】事業実績																				
(事前評価) 【P】事業の内容	<p>職員が業務上必要となる資格を取得した場合に、資格の難易度に応じて報償を交付する。対象資格は、新公会計制度に対応した資格と、技術職員の専門技能習得に関する資格としている。</p> <p>【対象資格】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記</td> <td>1~3級</td> </tr> <tr> <td>地方公会計検定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築基準適合判定資格者</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>建築設備士</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>建築士</td> <td rowspan="5">1~2級</td> </tr> <tr> <td>建築施工管理技士</td> </tr> <tr> <td>電気工事施工管理技士</td> </tr> <tr> <td>土木施工管理技士</td> </tr> <tr> <td>管工事施工管理技士</td> </tr> <tr> <td>造園施工管理技士</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※下線は、H30年度に新たに対象とした資格</p>						種類	級	日商簿記	1~3級	地方公会計検定		建築基準適合判定資格者	-	建築設備士	-	建築士	1~2級	建築施工管理技士	電気工事施工管理技士	土木施工管理技士	管工事施工管理技士	造園施工管理技士		<p>【平成30年度の資格取得者実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第148回日商簿記検定 (開催日)平成30年2月25日 (合格者)3級1人 第4回地方公会計検定 (開催日)平成30年2月18日 (合格者)2級1人 第5回地方公会計検定 (開催日)平成30年7月8日 (合格者)3級2人 第6回地方公会計検定 (開催日)平成30年10月28日 (合格者)2級1人 	
種類	級																									
日商簿記	1~3級																									
地方公会計検定																										
建築基準適合判定資格者	-																									
建築設備士	-																									
建築士	1~2級																									
建築施工管理技士																										
電気工事施工管理技士																										
土木施工管理技士																										
管工事施工管理技士																										
造園施工管理技士																										
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	<p>①報償の対象資格の拡充を図る。</p> <p>②試験前に資格報償制度の案内を行うことで、自己啓発を促進し、資格取得を促す。</p>					<p>①技術系の資格8種について、報償の対象資格とした。</p> <p>②所属長を通して、資格取得報償制度の周知を行った。 ・各回の申込受付日に庁内SNSにて申込開始、試験実施日等の案内を行った。</p>																				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位	当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値																				
	報償支給件数			件	26	H28	H29	H30	R1	R2																
						20	13	5																		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)																	
	報償費	250,000				報償費	25,000																			
	計		250,000			計			25,000																	
	備考				備考																					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	<p>成果指標については前年度から増加している。</p> <p>報償対象に8種(技術系の資格)を新たに加え、簿記・公会計の各1級の報償費を増額したが、いずれも対象者がおらず、新たな資格取得者数が前年度実績を下回った。</p> <p>追加した報償対象資格および報償増額対象資格の取得難易度が高いため、今年度の資格取得者が出なかったこと、資格の取得意欲が高い職員が昨年度以前に資格を取得したものの、未取得の職員の取得意欲が上がらなかったことが原因と考えられる。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	<p>資格取得者の数は前年度を下回ったが、日商簿記検定・地方公会計検定資格を5名が取得しており、当該事業により職員の自己啓発を促進したものとして効果があったと考える。</p> <p>また、今年度に新たに追加した対象資格の周知が進み、来年度以降の資格取得者の増加に寄与する可能性がある。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	③拡大	<p>職員の自発的な知識取得を促し、業務レベルの向上・職員の資質向上を図るため、報償対象資格に自治体法務検定や個人情報保護士などの実務面で需要が見込める資格にも拡大する。</p> <p>庁内メールにより、資格試験の案内や申込開始時期の通知と合わせて報償制度の通知を改めて各課へ通知することで、制度の周知及び職員の資格取得の意欲向上を図る。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進												
節	第1節 都市経営の促進												
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営												
成果指標 (KPI)	3504	個人情報の訂正・削除件数(請求に基づくもの)							指標の単位	件	総合戦略該当	-	
	参考値(H26)	0			中間年度の目標値(R2)	0		最終年度の目標値(R7)	0		総合戦略の目標値(R1)	-	
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	0	0	0	0								達成状況	
達成率	100.0%		100.0%	100.0%									
備考													
担当課	総務管財室												

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 個人情報保護事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	-	
(事前評価) 【P】事業の目的	市が保有する個人情報の開示、訂正及び利用の停止を請求する市民の権利を明らかにするとともに、個人情報の適正な取扱いに関し必要な事項を定めることにより、個人の権利利益の保護を図り、もって市民の基本的な人権の擁護と信頼される市政を推進することを目的とする。				(事後評価) 【D】事業実績	市民からの請求に基づく個人情報の訂正及び削除について 【訂正件数】0件 【削除件数】0件				
(事前評価) 【P】事業の内容	何人も、実施機関に対し、当該実施機関が保有している自己に関する個人情報について、事実の誤りがあると認めるときは、当該個人情報の訂正を請求することができ、条例に違反して収集又は提供されたときは削除又は利用停止を求めることができる。請求を受けた実施機関は、内容を審査し、誤り又は違反する事実があれば、訂正及び削除を行う。									
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①実施機関において、適正に市民の個人情報が収集又は提供ができるよう個人情報保護に関する職員研修を実施する。 ②個人情報の適正な取扱いに関する注意喚起のため、通知文を発出することにより職員への周知を図る。				(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①次のとおり、個人情報保護研修を実施した。 ○新規採用職員を対象とした個人情報保護研修 【開催日】平成30年4月4日(水) 【参加人数】27人 ○個人情報保護説明会 【開催日】平成30年10月18日(木) 【参加人数】73人 ○J-LIS eラーニング研修 【受講人数】570人 ②次のとおり、注意喚起の通知文を発出した。 ○職員の綱紀の保持等の通知 【発出日】平成30年12月11日(火)				
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値			
	個人情報の保護に関する研修			回	1	H28	H29	H30	R1	R2
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価) 【D】決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	会場借上料	64,000				会場借上料	12,500			
	計		64,000			計			12,500	
	備考					備考				

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
	【C】 成果指標の達成状況と要因分析 ①R2目標を達成	<p>○前年度から引き続き、訂正・削除件数がないことは、実施機関が保有する市民の自己に関する個人情報適正に取り扱われていることを意味し、市民の基本的な権利が擁護され、信頼される市政が推進されていることを示すものである。</p> <p>○これは、個人情報の保護に関する研修の実施により、職員の個人情報の取り扱いの意識が高まっていることが要因と思われる。</p>
(事後評価)	事業の評価	評価理由
	【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価 ①十分効果的だった	<p>○本市においては、和泉市個人情報保護条例の施行後、一度も市民からの請求に基づく個人情報の訂正又は削除は行っていない。これは個人情報の保護に関する研修の実施により、職員の個人情報の取り扱いの意識が高まっていることが要因と思われる。このことから、本事業は極めて効果的であると評価する。</p>
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
	【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開 ①継続	<p>○今後も実施機関において、適正な個人情報の取扱いが行われるよう職員研修を継続的に実施するとともに平成29年度に導入した個人情報保護に関する内部監査制度により、より一層の個人情報の適正な取扱いが行われるよう組織として取り組む。</p>

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進											
節	第1節 都市経営の促進											
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営											
成果指標 (KPI)	3505	窓口対応の安心感及び満足度							指標の単位	%	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	85.0			中間年度の目標値(R2)	90.0		最終年度の目標値(R7)	91.0		総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	84.8	89.8	88.0	89.0								達成状況
達成率		80.6%	51.6%	67.7%								
備考												
担当課	市民室											

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 窓口サービス向上事業							地方創生関連交付金事業該当	-	
								和泉躍進プラン(案)該当	○	
(事前評価)	証明書の発行や住民異動の届出のため来庁した市民に対し、正確で迅速な対応を行うとともに、市民のライフスタイルに合わせた窓口サービスの充実を図る。				(事後評価)	①マイナンバーカードによる住民票等のコンビニ交付 ・交付件数 2,666件(H29)⇒3,593件(H30)(+34.7%) ・マイナンバーカード発行枚数 3,330枚(H29)⇒2,871枚(H30)(▲13.7%) ②時間外住民票等発行サービス ・日曜開庁利用者数 1,093件(H29)⇒1,033件(H30)(▲5.4%) ※本庁 482件→521件 出張所 611件→512件 ・出張所平日時間延長利用者数 3,402件(H29)⇒3,413件(H30)(+0.3%) ・おもてなし処利用者数 2,328件(H29)⇒2,596件(H30)(+11.5%)				
(事前評価)	①マイナンバーカードによる住民票等のコンビニ交付 ②時間外住民票等発行サービス ・本庁 第4日曜日 午前9時～正午 ・出張所 第2日曜日 午前9時～正午 平日 午後5時15分～午後8時 ・おもてなし処 平日 正午～午後8時					(事後評価)	①コンビニ交付等に係る周知啓発 ・広報誌で、各種サービスに係る周知を行う。 ②コンビニ交付証明書発行店舗の拡充 ・「イオンリテール」を追加。 ③マイナンバーカードの休日交付 ・マイナンバーカードの休日交付を行う。 ④個人番号カード申請特設会場の設置 ・税務署と連携し、「個人番号カード申請特設会場」を設置する。			
(事前評価)	①コンビニ交付等に係る周知啓発 ・広報誌で、各種サービスに係る周知を行う。 ②コンビニ交付証明書発行店舗の拡充 ・「イオンリテール」を追加。 ③マイナンバーカードの休日交付 ・マイナンバーカードの休日交付を行う。 ④個人番号カード申請特設会場の設置 ・税務署と連携し、「個人番号カード申請特設会場」を設置する。				(事後評価)		①コンビニ交付等に係る周知啓発 ・4月号、5月号、7月号、12月号広報誌において、マイナンバー関連について、4月号、7月号、9月号、12月号広報誌において、時間外住民票等発行サービスの周知を行った。 ②コンビニ交付証明書発行店舗の拡充 ・平成30年7月より「イオンリテール」にて新たに交付サービスを開始した。 ・また、8月号広報にて「イオンリテール」にて交付が可能となった周知を行った。 ③マイナンバーカードの休日交付 ・本庁において、毎月第4日曜日の午前9時から正午、平日来庁できない方のために、マイナンバーカードの休日受取窓口を開設した。 (休日交付件数)430件(H29)⇒461件(H30)(+7.2%) ④個人番号カード申請特設会場の設置 ・税務署と連携し、確定申告の時期に、「個人番号カード申請特設会場」を設置した。 【申請受付件数】211件			
(事前評価)	指標の名称			単位		当該年度の目標値	(事後評価)【D】実績値			
(P)活動指標	マイナンバーカードによるコンビニ交付件数			件	3,000	H28	H29	H30	R1	R2
	時間外住民票等発行サービス利用件数			件	6,000	1,368	2,666	3,593		
(事前評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	(事後評価)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	コンビニ交付事業費委託料	428,000				コンビニ交付事業費委託料	413,195			
	おもてなし処光熱水費	198,000				おもてなし処光熱水費	152,059			
	戸籍総合システム使用料	182,000				戸籍総合システム使用料	181,440			
	計		808,000		計			746,694		
備考					備考					

	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況と要因分析	②前年度より向上	マイナンバーカードを活用した住民票等のコンビニ交付件数は、前年比＋34.7%増で、大幅に増加した。 コンビニ交付等にかかる周知啓発やコンビニ交付証明書発行店舗の拡充を図ったことで、件数が増加したと考えられる。一方で、日曜開庁利用者は、前年比▲5.4%であり、コンビニ交付の利用者が増えたことが、日曜開庁利用者の減少の一因と考えられる。 コンビニ交付や時間外住民票等発行サービスにより、来庁者の分散化や平日窓口の混雑緩和につながり、スムーズに窓口業務が行うことができたため、前年度より、市民の安心感及び満足度が向上した。
(事後評価) 【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	事業の評価 評価理由 マイナンバーカードの発行枚数については、制度開始当初の需要が落ち着いたものと考えられ、前年度より大幅に減少しているものの、コンビニ交付件数は増加していることから、広報を活用した制度の周知に効果があった。 マイナンバーカードの発行枚数の減少に対する取組みとして、税務署と連携した「個人番号カード申請特設会場」を設ける等、個人番号カードの普及に関する取組みを強化した。 窓口対応の安心感及び満足度は上昇・向上しているものの、利用者アンケートにおいて、窓口が若干わかりにくいなどのマイナス評価となる意見も一部あったことから、窓口案内や案内方法等について工夫していく余地がある。
(事後評価) 【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	事業の方向性 ①継続	今後の事業展開 引き続き、コンビニ交付等のサービスの更なる周知を図る。また、マイナンバーカードの申請についての相談窓口等を設ける等、マイナンバーカード普及率向上を図る。 窓口改善の取組みについては、出張所において時間延長を継続し、日曜開庁サービスの広報チラシの改善に取り組むほか、前年度に引き続き、桃山学院大学との包括連携事業を進め、より安心してスムーズな窓口対応につなげる。

第5次和泉市総合計画 事業評価シート

(平成30年度)

章	第5章 都市経営の促進													
節	第1節 都市経営の促進													
重点施策	35 市民の信頼にこたえ、都市経営を支える行財政運営													
成果指標 (KPI)	3506										指標の単位	-	総合戦略該当	-
	参考値(H26)	-			中間年度の目標値(R2)	-			最終年度の目標値(R7)	-			総合戦略の目標値(R1)	-
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	-	-	-	-	-	-	新庁舎完成	-	-	-	-	-	達成状況	
達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
備考														
担当課	総務管財室													

成果指標達成に向けた取組事業

取組事業	1 庁舎整備事業		地方創生関連交付金事業該当	-					
			和泉躍進プラン(案)該当	○					
(事前評価) 【P】事業の目的	現庁舎が耐震性能の不足、老朽化、分散化、狭隘化など多くの問題を抱えており、これらを早期に解決し、災害時の防災拠点としての機能を確実に果たすことのできる新庁舎整備を行う。		(事後評価) 【D】事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎整備基本設計の策定を行った。 ・八角棟及び旧市立病院南館等の移転改修工事を実施した。 ・4・5号館の仮移転を行い、除却工事に着手した。 ・立体駐車場及び3号館改修の実施設計に着手した。 					
(事前評価) 【P】事業の内容	新庁舎整備の基本方針として、 ・市民の安全安心を支える庁舎 ・市民にやさしい、利便性の高い庁舎 ・環境にやさしい、ライフサイクルコストに配慮した庁舎 の3つを掲げ、平成33年6月までに新庁舎完成、平成33年度末に事業完了を目指している。 なお、3号館は防災拠点として新庁舎と一体活用を行う。								
(事前評価) 【P】成果指標向上のための具体的な取組	①新庁舎整備にあたり、必要な機能や配置計画をまとめた基本設計の策定に取り組む。 ②4・5号館の除却に伴い、執務室機能等の移転のため、八角棟及び旧市立病院南館の改修工事を実施する。 ③4・5号館は、現在の部署を八角棟及び旧病院南館等に仮移転した後、除却工事に取り組む。		(事後評価) 【D】成果指標向上のための具体的な取組の実績	①新庁舎整備基本設計(H30.4～H31.3) ・市民説明会、パブリックコメント、庁内関係各課ヒアリング等を踏まえ基本設計を作成した。 ②八角棟及び旧市立病院南館等改修(H30.9～H30.10) ・4・5号館の除却に伴い執務室機能等の移転のため改修工事を実施した。 ③4・5号館の仮移転(H30.10～11)及び除却(H30.11～R元.9) ・除却するにあたり、4・5号館で執務している関係部署の移転を行い、除却工事に着工した。 ※除却工事については、設計確定後に予算計上を行う必要があり補正予算として計上したものの。 ④立体駐車場等実施設計(H30.12～R元.9) ・立体駐車場整備等に向け、実施設計に着手した。 ※基本計画が確定した後に、予算計上を行う必要があり補正予算として計上したものの。 ⑤事業者選定委員会の開催 委員会開催に係る委員報酬、食糧費、会場借上料。 ※事業者選定に係り追加で開催する必要が生じたため、補正予算として計上したものの。					
(事前評価) 【P】活動指標	指標の名称		単位	当該年度の目標値	(事後評価) 【D】実績値				
					H28	H29	H30	R1	R2
	新庁舎整備基本設計の完成率		%	100			100		
	新庁舎整備実施設計の完成率		%	0			0		
	新庁舎整備工事の完成率		%	0			0		
(事前評価) 【P】予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償・報酬	0	委託料	47,700,000	報酬・報償	235,260	委託料	61,414,400	
	旅費	12,000	使用料及び賃借料	108,000	旅費	9,000	使用料及び賃借料	113,721	
	需用費	194,000	工事請負費	12,300,000	需用費	195,188	工事請負費	37,659,560	
	計			60,314,000	計			99,627,129	
	備考				備考	補正内容:①立体駐車場・3号館改修における実施設計②4・5号館除却工事③事業者選定委員会の開催に係る関連経費			

(事後評価)	成果指標の達成状況	成果指標の達成状況の要因分析
【C】 成果指標の達成状況と要因分析	③変化なし	令和3年度の新庁舎完成に向けて、計画どおり進捗している。
(事後評価)	事業の評価	評価理由
【C】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の評価	②効果的だった	令和3年度の新庁舎完成に向け、計画どおり、基本設計の策定、4・5号館の仮移転及び除却工事の着手、3号館の耐震補強工事、立体駐車場の基本設計の着手、八角棟及び旧市立病院南館改造工事を実施できた。
(事後評価)	事業の方向性	今後の事業展開
【A】 成果指標の達成状況を踏まえた事業の方向性及び今後の事業展開	①継続	<p>市町村役場機能緊急保全債を活用しながら、契約の相手方であるデザインビルド事業者と共に令和3年度の新庁舎完成に向けて継続的に事業を行う。</p> <p>(事業スケジュール)</p> <p>令和元年 5月～12月 実施設計図作成等作成 令和元年 9月 4・5号館除却工事完了 令和元年 9月 立体駐車場・外構整備・3号館改造に係る設計業務完成 令和元年10月～前面道路交差点改良・5号館基礎撤去・仮設迂回道路整備の各工事に着手 令和元年12月～新庁舎基礎工事着手</p>